

男女平等に関する市民意識調査 結果報告書

令和2年（2020年）3月

日 進 市

目 次

I 調査の概要

1 調査について.....	4
2 結果の概要.....	6
3 回答者の属性.....	12
◆ F1 性別	12
◆ F2 年齢	12
◆ F3 職業形態	13
◆ F3 雇用形態	13
◆ F4 配偶者（パートナー）の有無.....	14
◆ F5 配偶者（パートナー）の働き方.....	14
◆ F5 配偶者（パートナー）の雇用形態.....	14
◆ F6 未婚の子どもの有無.....	15
◆ F7 子どもの年代	15
◆ F8 家族構成	15

II 調査結果

1 結婚、家庭・地域生活に関する意識について.....	18
【問1】家庭における役割分担.....	18
【問2】結婚、離婚などに関する考え方について.....	26
【問3】地域活動への参加.....	32
【問4】地域活動に参加しない理由.....	33
【問5】生活の優先度について.....	35
【問6】男性の家事、子育て等への参加を進めるために重要なこと.....	39
【問7】家事・育児・介護にかかわる時間.....	41
2 社会参加・参画について.....	43
【問8】女性が就業することについて.....	43
【問9】就業する理由	45
【問10】職場での男女平等について	47
【問11】今後の就業希望	59
【問12】希望の就業形態	60
【問13】働くことができなかった経験の有無	61
【問14】働けない理由	63
【問15】育児・介護関連休暇制度の利用状況	65

【問 16】休暇制度を利用しなかった理由	66
【問 17】「性」に関する言葉について	69
3 子どもの教育について	70
【問 18】女の子と男の子の育て方について	70
【問 19】子どもに身につけてほしいと思うこと	72
【問 20】学校教育の場で力を入れるべきこと	76
4 男女平等・人権意識について	78
【問 21】さまざまな場における男女の地位	78
【問 22】ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害にあった際の相談先	87
【問 23】ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害状況	89
【問 24】ドメスティック・バイオレンス（DV）についての相談実態	113
【問 25】誰にも相談しなかった理由	114
【問 26】セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントの経験	115
【問 27】ドメスティック・バイオレンス（DV）、セクシュアル・ハラスメントなどを防止するた めに必要なこと	117
5 行政の取り組みについて	119
【問 28】男女共同参画に関する言葉の認知度	119
【問 29】女性の意見の市政反映について	134
【問 30】意見が反映されていないと思う理由	136
【問 31】男女平等な社会を実現するために行政が力を入れるべきこと	138

Ⅲ 自由回答

【自由意見一覧（抜粋）】	142
--------------------	-----

（資料） アンケート調査票

【調査票】	146
-------------	-----

I 調査の概要

I 調査について

(1) 調査目的

本調査は、男女平等の推進に関して、市内にお住まいの皆様の意識や実態を把握し、令和2年度に策定する第3次日進市男女平等推進プランに反映させるための基礎資料とする目的で実施しました。

(2) 調査項目

具体的な調査項目については、巻末資料の「アンケート調査票」を参照ください。
本調査には以下に示す項目が含まれています。

- ・結婚、家庭・地域生活に関する意識について
- ・社会参加・参画について
- ・子どもの教育について
- ・男女平等・人権意識について
- ・行政の取り組みについて

(3) 調査設計

- ①調査地域：日進市全域
- ②調査対象者：令和元（2019）年10月現在、日進市に居住している満20歳以上の男女各1,250人。無作為抽出により対象者を決定。
- ③調査期間：令和元年10月24日（木）～令和元年11月18日（月）
- ④調査方法：調査票による本人記入方式
郵送配布・郵送回収による郵送調査方法

(4) 回収結果

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
女性	1,250	587	587	47.0%
男性	1,250	489	489	39.1%
その他		5	5	
性別不明		17	17	
無効（白紙）				
合計	2,500	1,098	1,098	43.9%

参考：前回調査（平成26年度）有効回収率 43.6%

(5) 報告書の見方

- 本報告書は、設問ごとに「全体（単純集計）及び性別、年齢別」の集計結果を記載しています。また、設問によっては「雇用形態別」「家族構成別」とのクロス集計や、令和元（2019）年度に内閣府が実施した調査（全国調査）、平成 26（2014）年度に日進市が実施した調査（前回調査）との比較を行っています。
- ・ 回答は各質問の回答者数（N）を基準とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- 本報告書中の表、グラフ等の見出し及び文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合があります。
- ・ 年齢区分を示す際は、「20～29 歳」を 20 歳代と表記し、同じく「30～39 歳」を 30 歳代、「40～49 歳」を 40 歳代、「50～59 歳」を 50 歳代、「60～69 歳」を 60 歳代、「70 歳以上」を 70 歳以上としています。
- ・ クロス集計表において、回答がなかった部分は、件数・割合ともに「－」と表記しています。
- ・ この報告書は、ジェンダー統計報告書です。ジェンダー統計とは、男女間の意識による偏り、格差及び差別の現状並びにその要因や現状が生み出す影響を客観的に把握するための統計です。性別で比較するグラフでは、女性もしくは男性に属さない結果について、グラフ下部に付記する場合があります。
- ・ クロス集計上、人数が極めて少ないカテゴリー層については、誤差が大きくなると考えられるため、分析から除外している場合があります。
- ・ 比較分析において利用した調査名は次のとおりです。
日進市「男女平等に関する市民意識調査」平成 26（2014）年度実施
内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元（2019）年度実施

2 結果の概要

1. 結婚、家庭・地域生活に関する意識について

※※【問1】家庭における役割分担※※（グラフ 18 頁～）

家庭内における役割分担意識について、全体をみると「重要事項の方針決定」は「男女同じ程度に担当し、協力しあう」が最も高いですが、それ以外のすべての項目で『主に女性』が担当する割合が高くなっています。

しかし、前回調査と比較すると、「食事の支度」「掃除・洗濯」「子どもの教育」で、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」の割合が増加しており、徐々にですが、本市の男性の家事参加意識が高まっていることがうかがえます。

ただし、性別で比較すると、家庭での役割分担の度合いに、男女の意識差があることがうかがえます。

※『主に女性』：「いつも女性が担当」「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」の合計

※※【問2】結婚、離婚などに関する考え方について※※（グラフ 26 頁～）

結婚、離婚などに関する考え方について、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」については、全体をみると、今回調査では『否定的』な回答の割合が『肯定的』な回答より高くなり、前回調査と逆転しました。

結婚・離婚の自由、子を持つ持たない自由について、『肯定的』な回答が前回より高くなっています。「夫婦別姓が選択出来るとよい」についても『肯定的』な回答が前回より高くなっていますが、男性をみると『肯定的』と『否定的』が拮抗し、「反対」の割合も高くなっています。

いずれの項目においても結婚・離婚などに関する固定的な意識が、特に 20 歳代～40 歳代の若年層を中心に柔軟化してきていることがうかがえます。

※『肯定的』：「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計、『否定的』：「反対」と「どちらかといえば反対」の合計

※※【問3】地域活動への参加※※（グラフ 32 頁～）

現在行っている活動について、全体をみると「自治会・町内会活動」が約 4 割で最も高くなっています。

性別で比較すると、「PTA・子ども会活動」や「子育て、介護など福祉に関する活動」など子育てや介護に関する項目で、女性の参加割合が男性の約 2 倍となっています。まちづくり活動・防災活動・環境活動などでは、男性の方が女性より参加割合が高くなっています。

※※【問4】地域活動に参加しない理由※※（グラフ 33 頁～）

地域活動に参加しない理由としては、「仕事が忙しい」が最も高くなっています。

次点の理由は、女性で「家事・育児・介護などで忙しい」「自分の健康上の理由から」「地域活動に興味がない」が並び、男性で「地域活動に興味がない」となっています。いずれも前回調査で次点の「団体内の人間関係がわずらわしそう」を上回り、地域活動への興味自体が薄れているものと思われます。

※※【問5】生活の優先度について※※（グラフ 35 頁～）

生活の優先度について、希望としては男女とも、「仕事」と「家庭生活」をともに優先」もしくは「家庭生活」を優先」の割合が高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」となっています。

一方で、現実としては「仕事」を優先」が希望に比べて高く、特に男性で高くなっており、希望との乖離があります。また、『個人の生活』を含む回答の割合も希望と比べて低くなっています。

※※【問6】男性の家事、子育て等への参加を進めるために重要なこと※※（グラフ 39 頁～）

男女がともに家事、子育て、介護、地域活動への参加を進めるために重要と思うことは、全体としては「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が最も高く、次いで「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」となっています。

特に男性は、「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」と回答した割合が女性より高く、男性自身が家事、子育て等の参加に対し、時間面での制約を感じていることがうかがえます。

一方で、女性は「子どもの頃から男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教えること」が最も重要と答えており、時間面の制約解消以外にも、男性の家事等への意識づけが参加促進につながるものと捉えていることがうかがえます。

※※【問7】家事・育児・介護にかかわる時間※※（グラフ 41 頁～）

平日に家事・育児・介護に関わる時間については、男性は「30分未満」が約3割で最も高い一方、女性は家事等に費やす時間は男性より長く、「1時間～3時間未満」と回答した人が3割超と最も高くなっていることに加え、「3時間～5時間未満」「5時間以上」を合わせた「3時間以上」と回答している人が5割超となっています。このことから家庭内での女性の家事・育児・介護の負担が非常に大きいことがうかがえます。

2. 社会参加・参画について

※※【問8】女性が就業することについて※※（グラフ 43 頁～）

女性が就業することについて、全体で「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」が最も高くなっており、前回調査で最も高かった「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」と順位が逆転しました。

ただし全国調査と比較すると、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」の割合は低く、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」の割合が高くなっており、本市における女性の就業に対する考え方は全国的な考え方とは差があります。

※※【問9】就業する理由※※（グラフ 45 頁～）

就業する主たる理由は、「生計の維持のため」が最も高くなっています。特に、男性は「生計維持のため」と回答する割合が女性と比較して高く、一方女性は「経済的なゆとりを得るため」や「社会や人とののかかわりを持つため」などが男性と比較して高くなっており、就業する主たる理由はさまざまとなっています。

※※【問 10】職場での男女平等について※※（グラフ 47 頁～）

職場の男女平等について、「男性と女性で違いはない」と考える人の割合は約 5 割となっており、前回調査よりも増加しています。

常勤の雇用者を性別で見ると、多くの項目で女性の方が性別による不平等さがあると感じている割合が高くなっていますが、「育児休業を取得できない、または取得しにくい」「希望職種につく機会に男女差がある」では、男性の方が性別による不平等さがあると感じている割合が高くなっています。

※※【問 11、問 12】今後の就業希望※※（グラフ 59 頁～）

現在就業していない人に、今後就業したいか聞くと、若い層ほど就業の意向が高くなっています。今後就業したい人の就労形態の希望は、女性は非常勤（パートタイム、アルバイトなど）が約 7 割、男性は常勤（フルタイム）が 7 割台半ばと高くなっています。

※※【問 13、問 14】働くことができなかった経験の有無と理由※※（グラフ 61 頁～）

働き続けたいけれど、働くことができなかった経験がある人の割合は、女性が約 4 割、男性が 1 割台半ばで女性の割合が高くなっており、性別で大きな差がみられます。

また、働けない理由としては、女性は男性と比較して回答が分散しており、働き続けるためのハードルが多いことがうかがえます。

※※【問 15】育児・介護関連休暇制度の利用状況※※（グラフ 65 頁）

育児・介護に関する休暇制度の利用状況については、いずれも前回調査から大きな変化はみられませんでした。「子の看護休暇制度」については、「育児休業制度」ほど認知されていない状況がうかがえます。

※※【問 16】休暇制度を利用しなかった理由※※（グラフ 66 頁～）

育児・介護休業などの制度を使って休業や休暇を取得できなかった理由は、全体では「仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける」が最も高く、次いで「これまでに同じ職場で取得した例がない」となっています。

特に男性でこれらの割合が高く、男性が育児・介護関連の休暇を取得できるようになるには、職場等の体制づくりと男性のロールモデル（手本）が必要になると推察されます。

※※【問 17】「性」に関する言葉について※※（グラフ 69 頁）

「性」に関する言葉について、「正しい避妊の方法」を知っている人の割合が最も高く、次いで「妊娠中の体調不良」、「更年期特有の体調不良」となっています。

「正しい避妊方法」と「世界の HIV（エイズ）感染に関すること」以外の、すべての妊娠・出産に関わる言葉で、男性の認知度が女性を下回っています。

3. 子どもの教育について

※※【問 18】女の子と男の子の育て方について※※（グラフ 70 頁～）

子どもの育て方について、今回調査では「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」が全体として最も高くなり、前回調査で最も高かった「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたほうがよい」を上回りました。

しかし、男性のみをみると、前回よりはずいぶん減少したものの、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたほうがよい」が最も高くなっています。ただし、「どちらともいえない」「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」の3つものの回答割合が拮抗しています。

※※【問 19】子どもに身につけてほしいと思うこと※※（グラフ 72 頁～）

これからの子どもに対し期待することは、女の子に対しては「優しさ・思いやり」が非常に高く、次いで「礼儀・道徳心」「明るさ・素直さ」となっており、女の子は「優しさ・思いやり」について特に期待されていることがうかがえます。一方、男の子に対しては「優しさ・思いやり」「決断力・行動力」「礼儀・道徳心」などの回答が拮抗しているため、さまざまな期待がされていると推察されます。

また、「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」と回答した群の中にも、性別によって期待することに差があります。無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）の存在に気づき、解消していく必要があります。

※無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）：無意識に男女の役割に対する固定的な価値観を与えるとされているもの。

※※【問 20】学校教育の場で力を入れるべきこと※※（グラフ 76 頁～）

男女平等のために学校教育の場で力を入れるべき特に重要と思うこととしては、全体として「関連授業を充実させる」が最も高くなっています。また、「生活指導や進路指導で配慮する」や「性別による固定的な習慣をなくす」が次点となっており、授業だけでなく、性別による固定的な習慣などをなくすことも必要であると推察されます。

4. 男女平等・人権意識について

※※【問 21】さまざまな場における男女の地位※※（グラフ 78 頁～）

「社会全体として」みると、『男性優遇』と思う割合が全体の約8割、また、「平等」と思う割合は全国調査と比較すると非常に低くなっており、市民の意識としては、男女平等とはまだまだ言い難い状況が続いています。

各分野をみると、「学校教育の場」と「地域活動の場」では、「平等」の割合が『男性優遇』を上回っています。しかし、家庭や職場、社会のしきたりなどさまざまな分野で『男性優遇』であると感じている人がまだまだ多いといえます。

また、性別で見ると、男性より女性の方が「平等」と考える割合が低く、反対に『男性優遇』を感じている割合が高いことから、男女の意識差がうかがえます。

※『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

※※【問 22】ドメスティック・バイオレンス (DV) の被害にあった際の相談先※※ (グラフ 87 頁～)

配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口としてどのようなものを知っているかについては、「警察」が全体の約 8 割と最も高く、次いで「市役所」、「愛知県女性相談センター」となっています。

前回調査と比較すると、配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口として「医療機関」の認知が増加しています。

※※【問 23】ドメスティック・バイオレンス (DV) の被害状況※※ (グラフ 89 頁～)

DV の被害状況としては、「命令するような口調でものを言われたりバカにされたりする」「大声で怒鳴られる」「無視される」など精神的暴力の割合が高くなっています。身体的暴力被害もあります。

また、性別で比較すると男性より女性のほうが被害にあっている割合が高く、「性的な行為の強要」や「避妊に協力しない」など性的暴力は、特に女性に被害割合が高くなっています。

※※【問 24】ドメスティック・バイオレンス (DV) についての相談実態※※ (グラフ 113 頁)

DV についての相談実態としては、男女ともに「誰にも相談しなかった」割合が最も高くなっています。また、相談先としては「親や親戚などの身内」「友人・知人」が高くなっており、専門機関等に相談した割合が低くなっています。

性別でみると、男性は「誰にも相談しなかった」割合が女性より高く、「親や親戚などの身内」「友人・知人」などへの相談も女性より低くなっており、被害について男性の方が相談していない傾向にあることがうかがえます。

※※【問 25】誰にも相談しなかった理由※※ (グラフ 114 頁)

被害経験ある人が誰にも相談しなかった理由としては、「相談するほどのことでもないと思った」が全体の約 6 割で最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」が高くなっており、男性は特にこの回答が高くなっています。

また女性では、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「相談しても無駄だと思った」が男性に比べて高くなっています。

※※【問 26】セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントの経験※※ (グラフ 115 頁～)

セクシュアル・ハラスメントを「自分が直接被害を受けたことがある」人の割合は、女性が圧倒的に高くなっています。

また、パワー・ハラスメントを「自分が直接被害を受けたことがある」人は、男女とも約 2 割となっており、前回と比較すると被害割合が高くなっています。

※※【問 27】ドメスティック・バイオレンス (DV)、セクシュアル・ハラスメントなどを防止するために必要なこと※※

(グラフ 117 頁～)

DV、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、買売春などを防止するために必要なものとしては、男女ともに「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」の割合が最も高く、また、他の項目と比較しても非常に高くなっており、法律・制度の面で見直しが強く求められています。

5. 行政の取り組みについて

※※【問 28】男女共同参画に関する言葉の認知度※※ (グラフ 119 頁～)

男女共同参画に関する言葉の認知度について、「ドメスティック・バイオレンス (DV)」が「意味・内容を知っている」割合が最も高くなっています。

また、前回調査と比較して「ジェンダー (社会的性別)」、「ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)」の「意味・内容を知っている」割合が大きく増加しており、用語が浸透してきていることがうかがえます。

「LGBT」については、20～50 歳代で男女とも概ね半数以上の人々が「意味・内容を知っている」と答えており、ある程度用語が認知されていることがうかがえます。

※※【問 29】女性の意見の市政反映について※※ (グラフ 134 頁～)

女性の意見が市政に反映されていると思うかについて、「わからない」が全体の 4 割台半ばで前回同様最も高く、次いで「ある程度反映されている」が 3 割台半ば、「あまり反映されていない」が 1 割台半ばとなっています。

「わからない」を除き、『反映されているか・いないか』についてみると、男女とも『反映されている』割合が高いが、女性では『反映されていない』割合も男性と比べて高くなっており、男女の認識に差がみられます。

※※【問 30】意見が反映されていないと思う理由※※ (グラフ 136 頁～)

女性の意見が市政に反映されていないと回答した理由としては、「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」が最も高く、次いで「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」となっています。

また、前回調査と比較すると、「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」の割合が大きく増加しており、政策方針決定の場への女性の参画が求められています。

※※【問 31】男女平等な社会を実現するために行政が力を入れるべきこと※※

(グラフ 138 頁～)

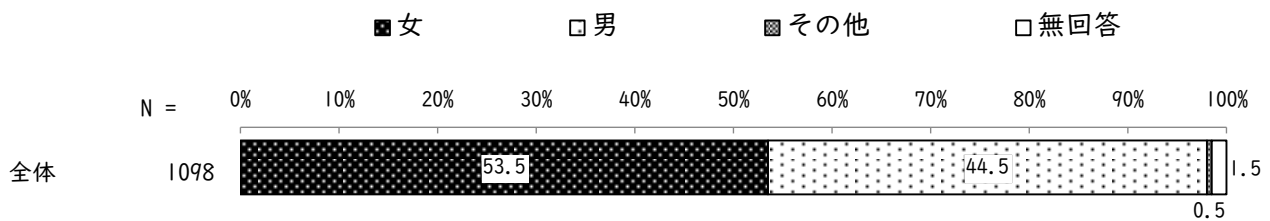
男女平等な社会を実現するために行政が力を入れるべきこととしては、男女ともに「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」が最も高くなっています。また、「法律・制度の見直しを行う」「政策決定の場に、女性を積極的に登用する」も高くなっています。

男女平等な社会を実現するには、政策決定の場への女性の参画を推進し、法律・制度を見直して、仕事や家庭そして自分自身の生活について、一人ひとりが多様な選択をできる環境が求められています。

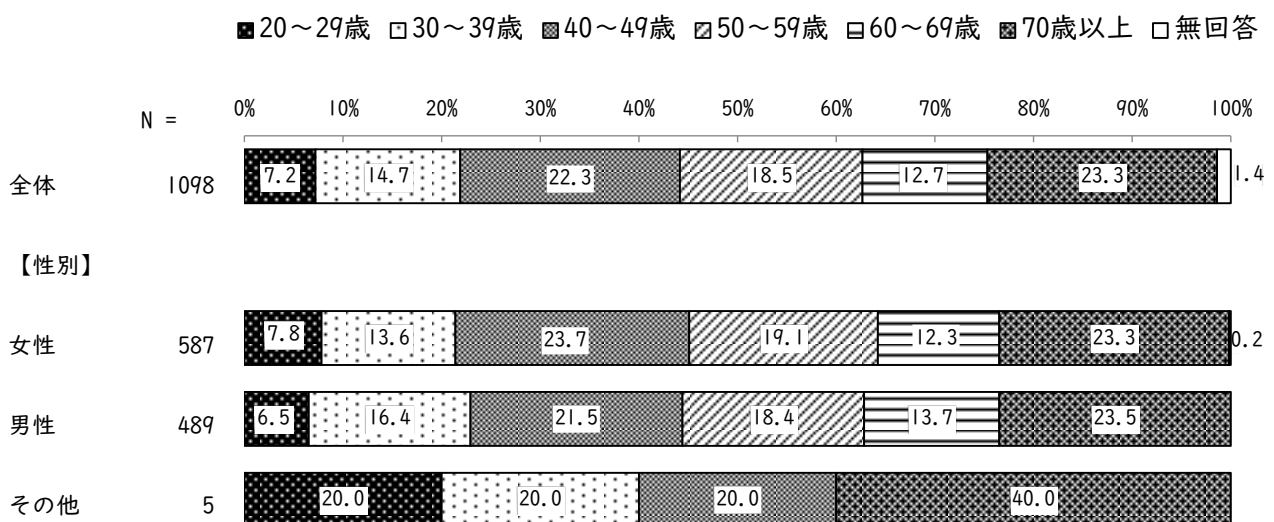
3 回答者の属性

以下の調査結果は、今回の調査票に回答した回答者の「性別」「年齢」「職業」「婚姻状況」「子どもの有無」「家族構成」などといった回答者の属性を示しています。

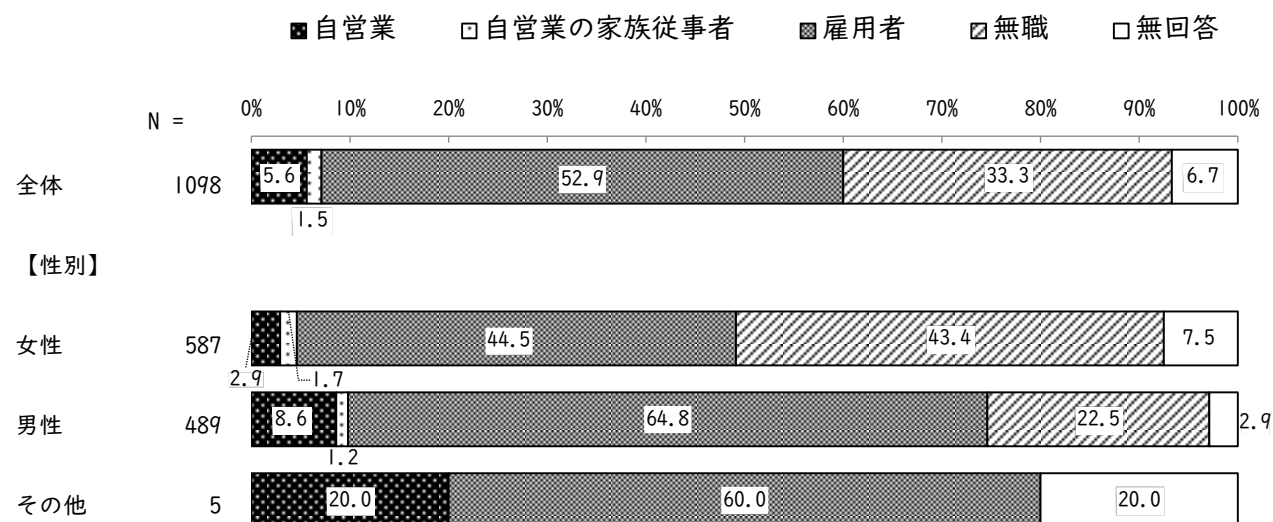
◆ F1 性別



◆ F2 年齢

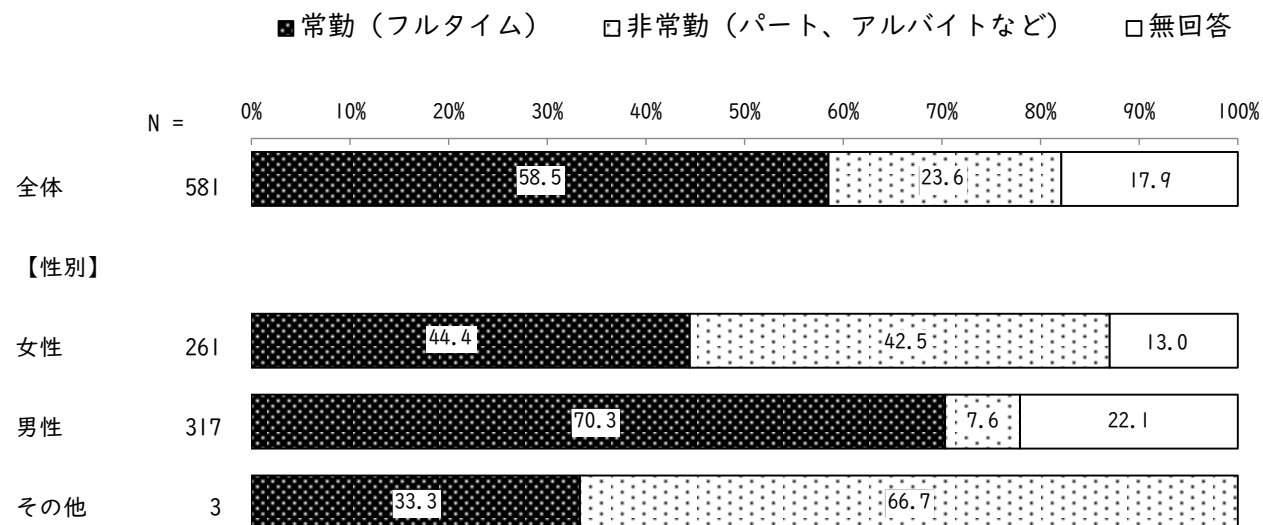


◆ F3 職業形態

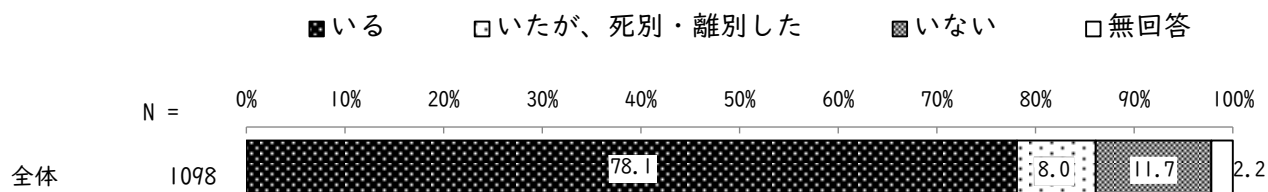


< 「雇用者」と答えた方のみ >

◆ F3 雇用形態

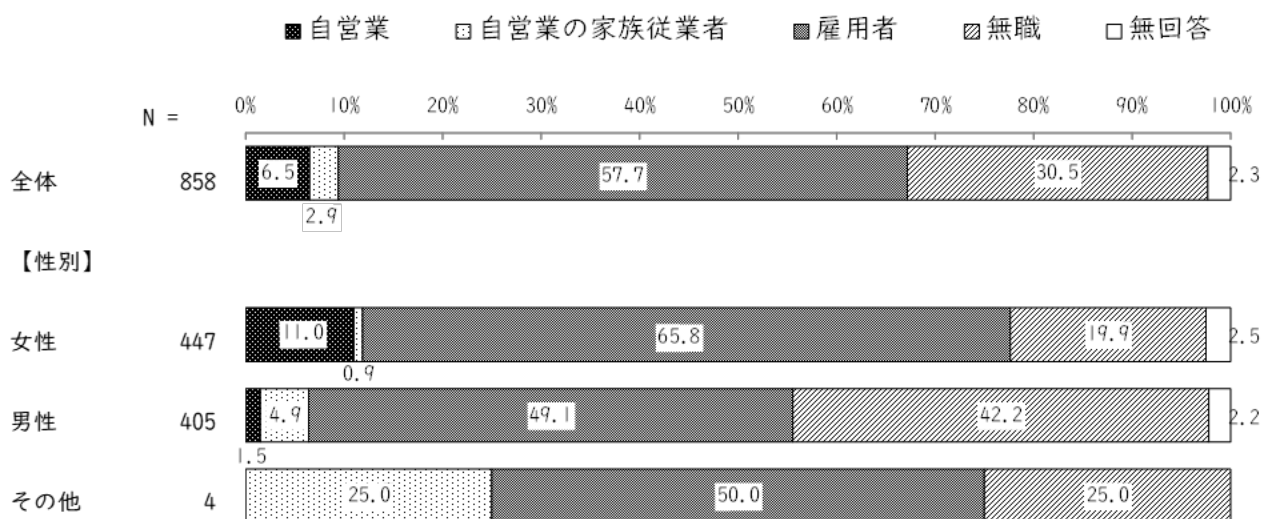


◆ F4 配偶者（パートナー）の有無



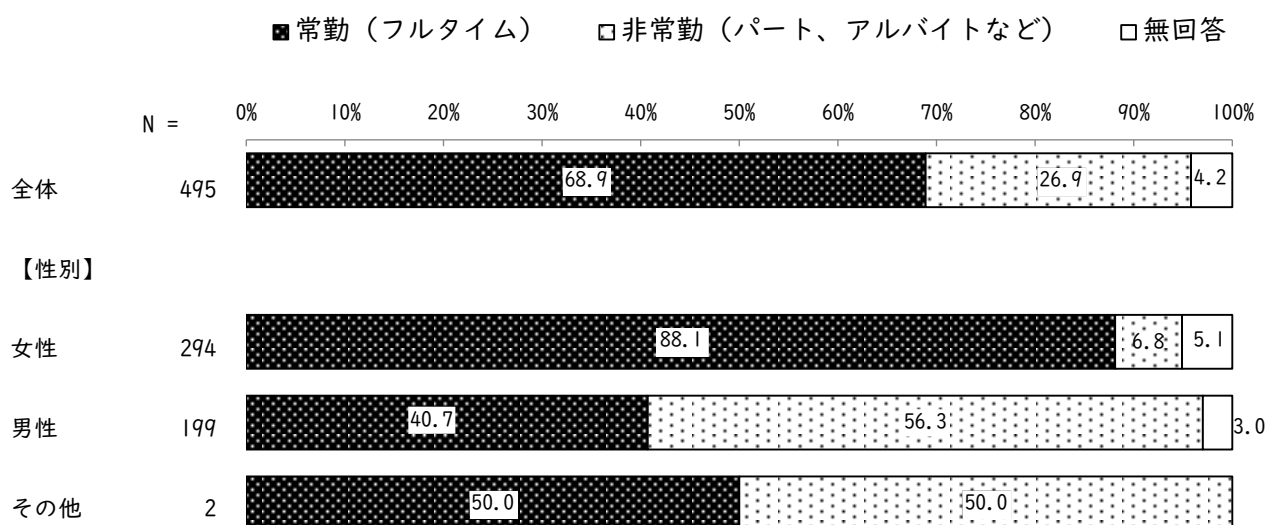
< 「配偶者（パートナー）がいる」と答えた方のみ >

◆ F5 配偶者（パートナー）の働き方

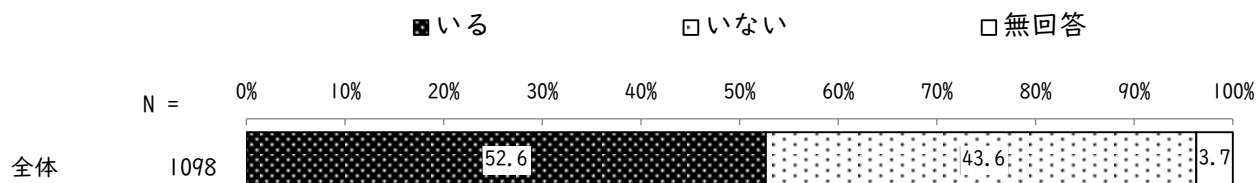


< 「雇用者」と答えた方のみ >

◆ F5 配偶者（パートナー）の雇用形態

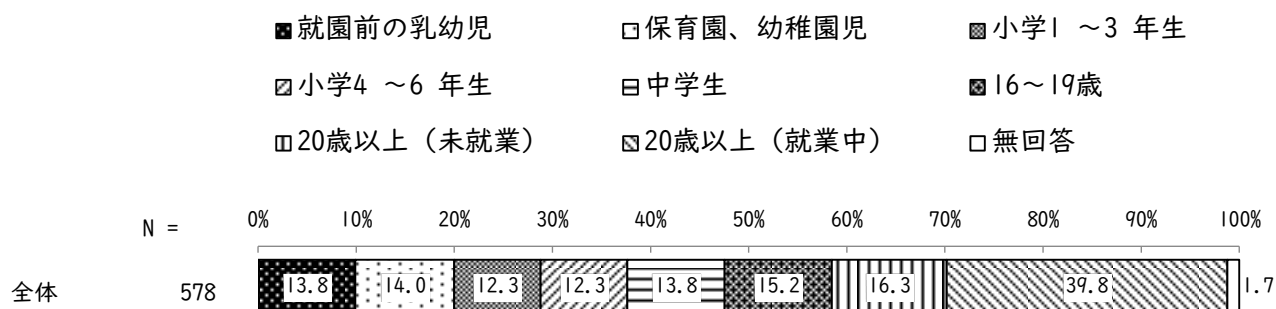


◆ F6 未婚の子どもの有無

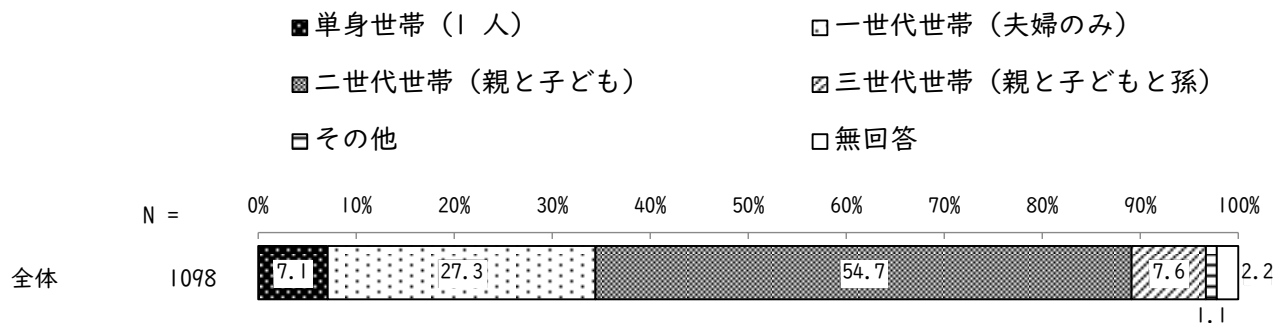


<未婚の子どもが「いる」と答えた方のみ>

◆ F7 子どもの年代



◆ F8 家族構成



Ⅱ 調査結果

Ⅰ 結婚、家庭・地域生活に関する意識について

【問Ⅰ】家庭における役割分担

あなたの家庭では、次にあげる家事は主に女性、男性どちらが分担していますか。

(A～Gの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

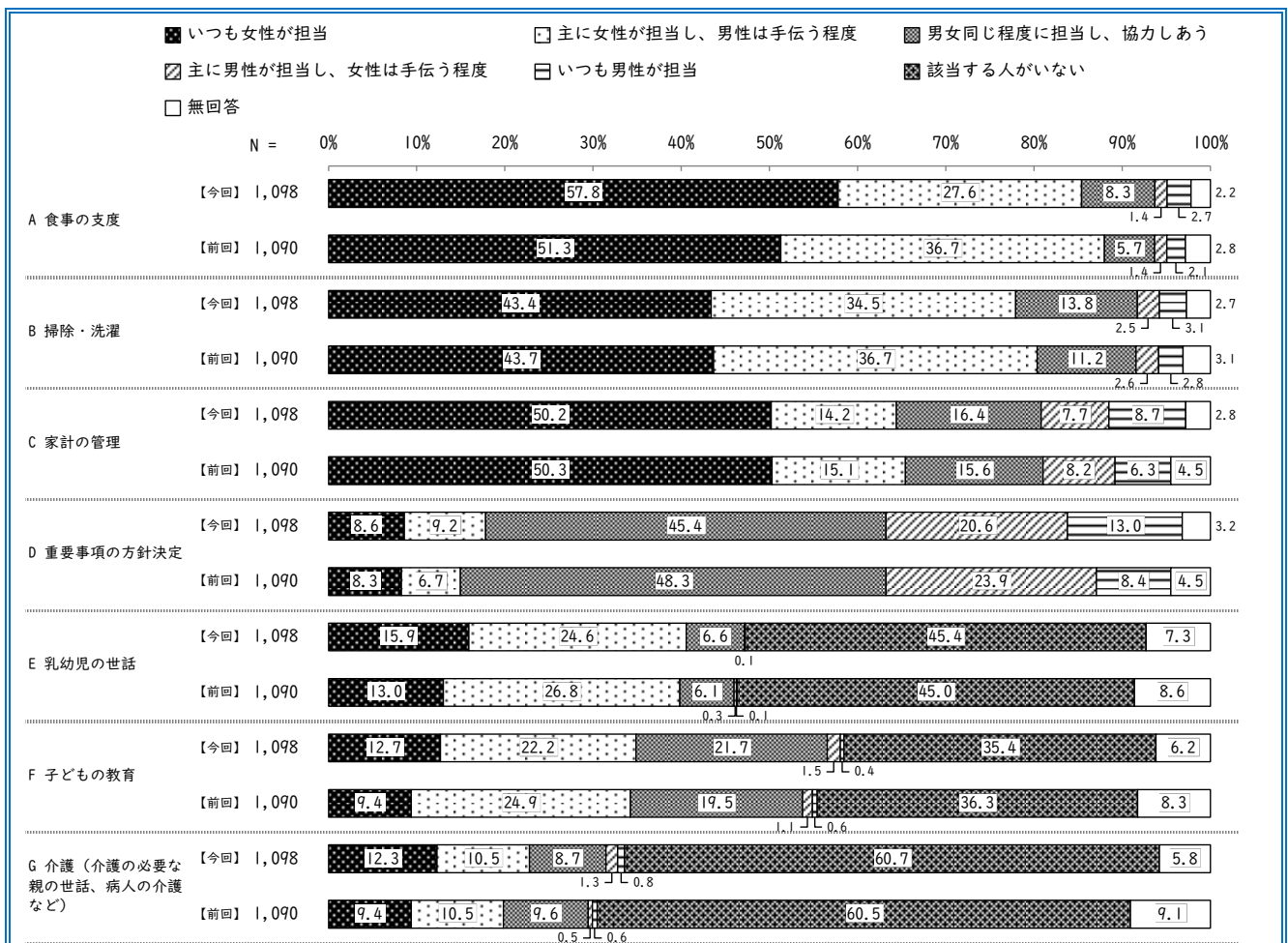
●項目比較（全体、前回調査比較）

「重要事項の方針決定」以外の項目において『主に女性』が担当

前回調査と比較すると、「いつも女性が担当」が増加している項目は「食事の支度」「乳幼児の世話」「子どもの教育」「介護」などとなっており、「いつも男性が担当」が増加している項目は「家計の管理」「重要事項の方針決定」などとなっている。また、「重要事項の方針決定」「介護」以外の項目で「男女同じ程度に担当し、協力しあう」が増加している。

※『主に女性』：「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人

『主に男性』：「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」と答えた人



「いつも女性が担当」全体の半数以上

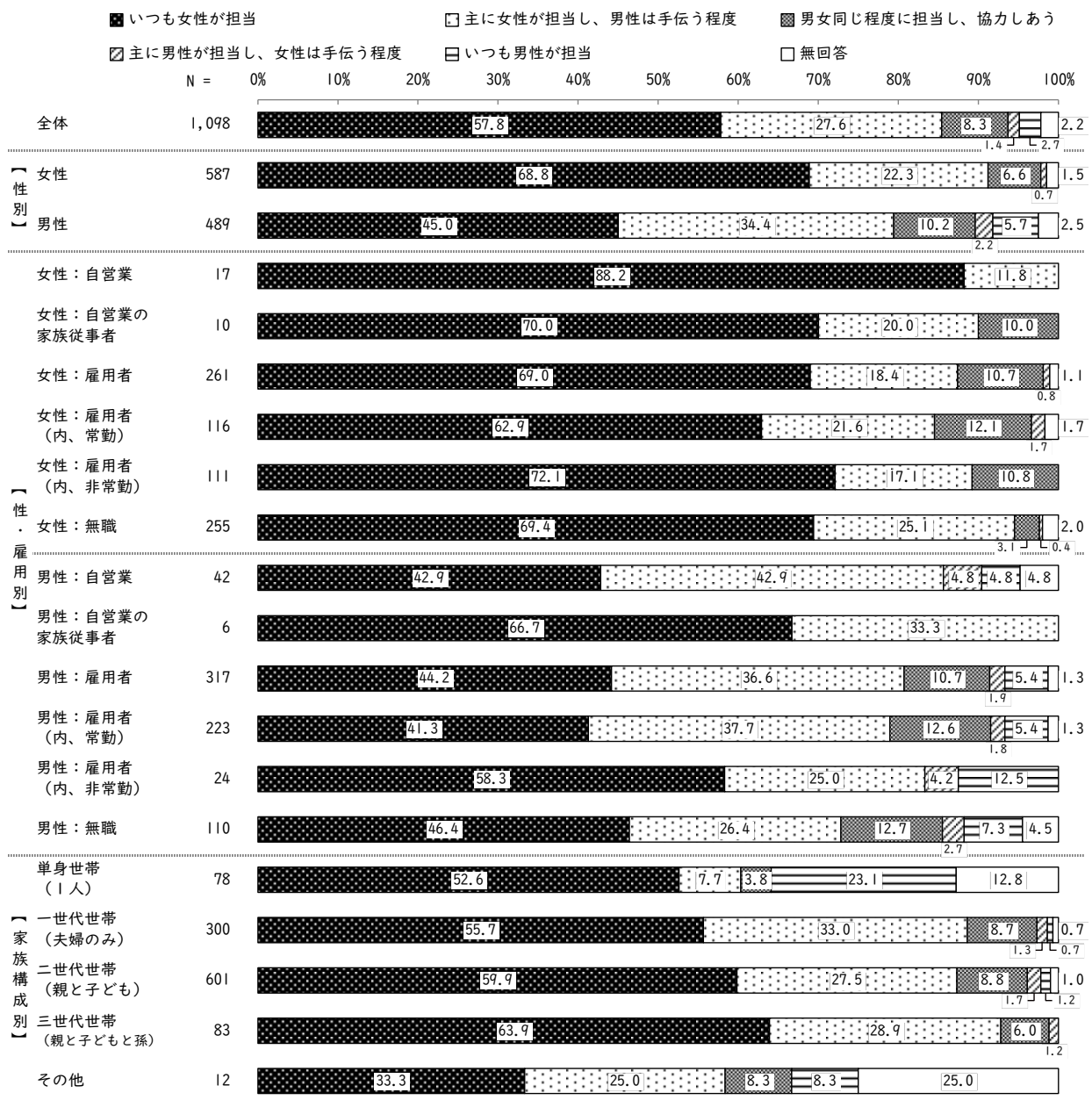
性別で比較すると 女性 68.8%>男性 45% 23.8 ポイントの開きあり

全体では、「いつも女性が担当」が 57.8%と最も高く、次いで「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」(27.6%)、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」(8.3%)の順となっている。

【性・雇用別】で比較すると、女性の内、『主に女性』が担当している割合は、「自営業」が最も高く、「雇用者（内、常勤）」が最も低くなっている。

【家族構成別】で比較すると、「いつも女性が担当」は「三世代世帯」が最も高くなっている。

※『主に女性』：「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
『主に男性』：「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「いつも女性が担当」60.0%、「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」40.0%となっています。

「いつも女性が担当」全体の約半数

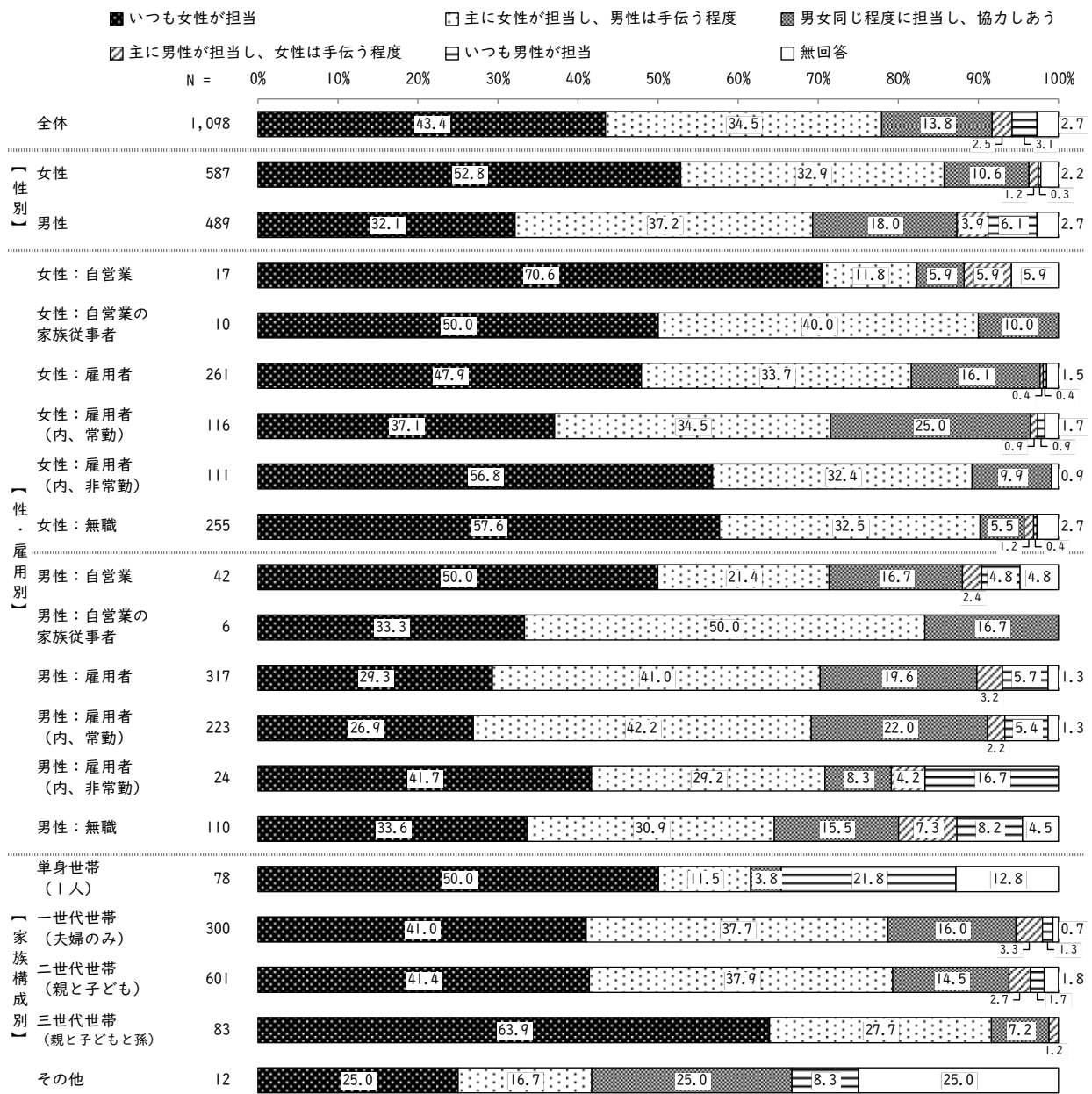
性別で比較すると 女性 52.8%＞男性 32.1% 20.7 ポイントの開きあり

全体では、「いつも女性が担当」が 43.4%と最も高く、次いで「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」(34.5%)、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」(13.8%)の順となっている。

【性・雇用別】で比較すると、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」が「女性の雇用者(内、常勤)」が 25.0%で高く、「男性の雇用者(内、常勤)」も 22.0%となっている。

【家族構成別】で比較すると「男女同じ程度に担当し、協力しあう」が「一世代世帯」「二世世代世帯」で 15%前後となっており、「三世世代世帯」の値の約 2 倍となっている。

※『主に女性』:「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
『主に男性』:「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性を手伝う程度」と答えた人



【性別】その他の回答者数は N=5 で、「いつも女性が担当」40.0%、「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」40.0%、「主に男性が担当し、女性を手伝う程度」20.0%となっています。

「いつも女性が担当」全体の約半数

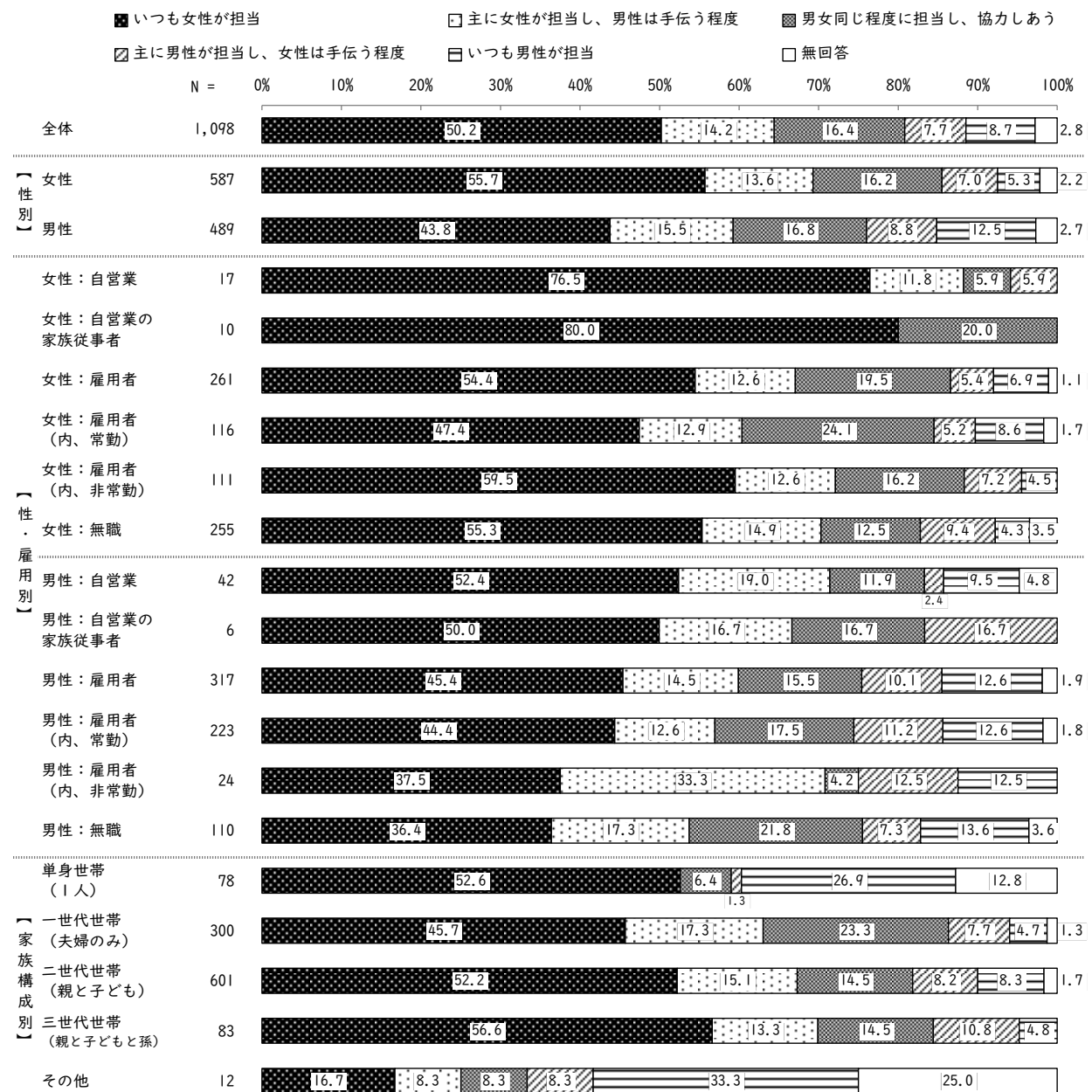
性別で比較すると 女性 55.7%＞男性 43.8% 11.9 ポイントの開きあり

全体では、「いつも女性が担当」が 50.2%と最も高く、次いで「男女同じ程度に担当し、協力しあう」（16.4%）、「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」（14.2%）の順となっている。

【性・雇用別】で比較すると、「女性の雇用者（内、常勤）」は、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」が 24.1%と高くなっている。

【家族構成別】で比較すると、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」は「一世代世帯」で高くなっている。

※『主に女性』：「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
『主に男性』：「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」と答えた人



【性別】その他の回答者数は N=5 で、「いつも女性が担当」60.0%、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」20.0%、「いつも男性が担当」20.0%となっています。

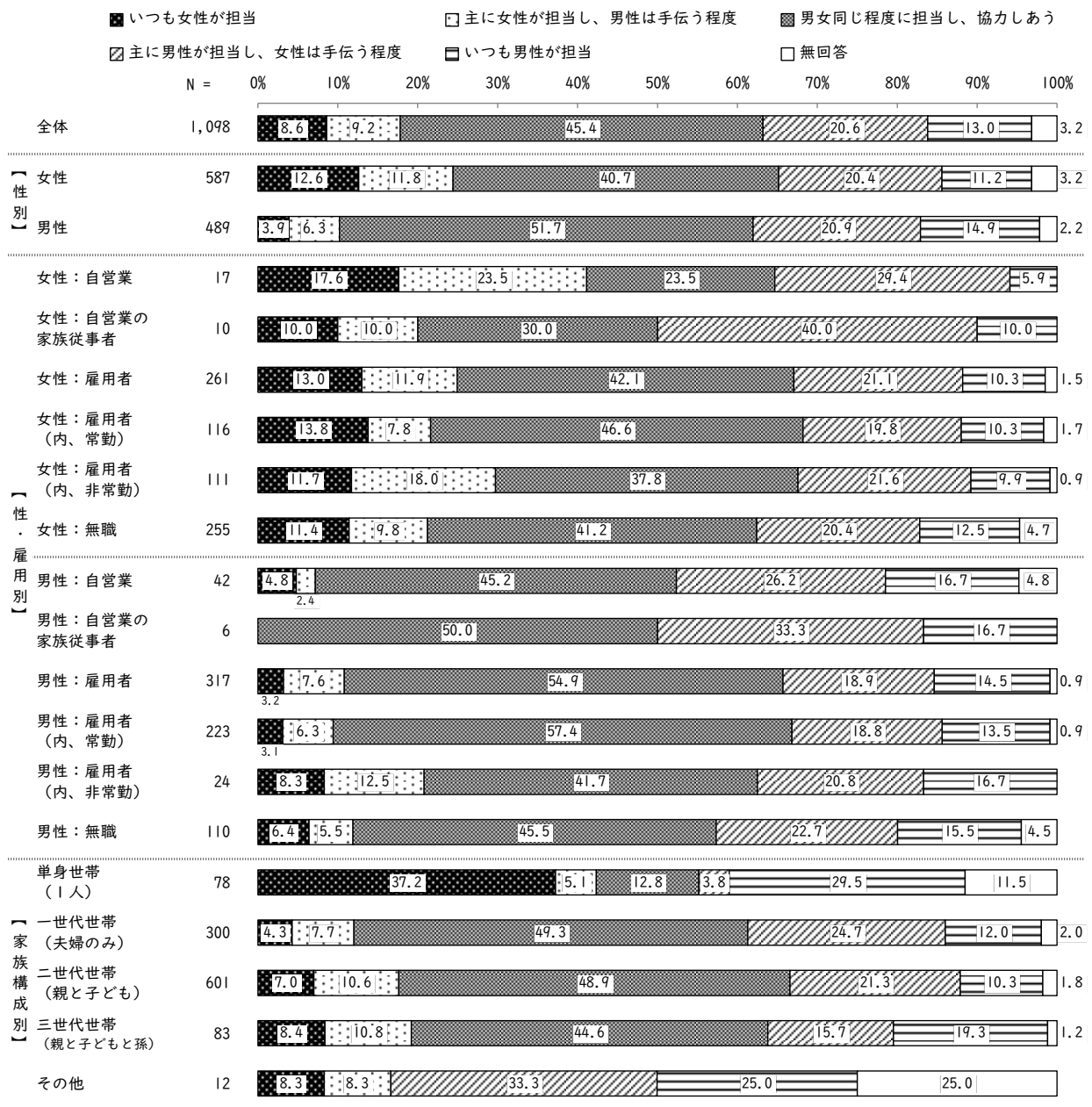
「男女同じ程度に担当し、協力しあう」の割合が最も高い

ただし、性別で比較すると 女性 40.7%＜男性 51.7% 11 ポイントの開きあり

全体では、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」が 45.4%と最も高く、次いで「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」（20.6%）、「いつも男性が担当」（13.0%）の順となっている。

【性・雇用別】で比較すると、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」割合は、男女ともに「雇用者（内、常勤）」が高くなっている。一方で、女性の「自営業」「自営業の家族従事者」は、「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」の割合が高くなっている。

※『主に女性』：「いつも女性が担当」「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
『主に男性』：「いつも男性が担当」「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」20.0%、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」40.0%、「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」20.0%、「いつも男性が担当」20.0%となっています。

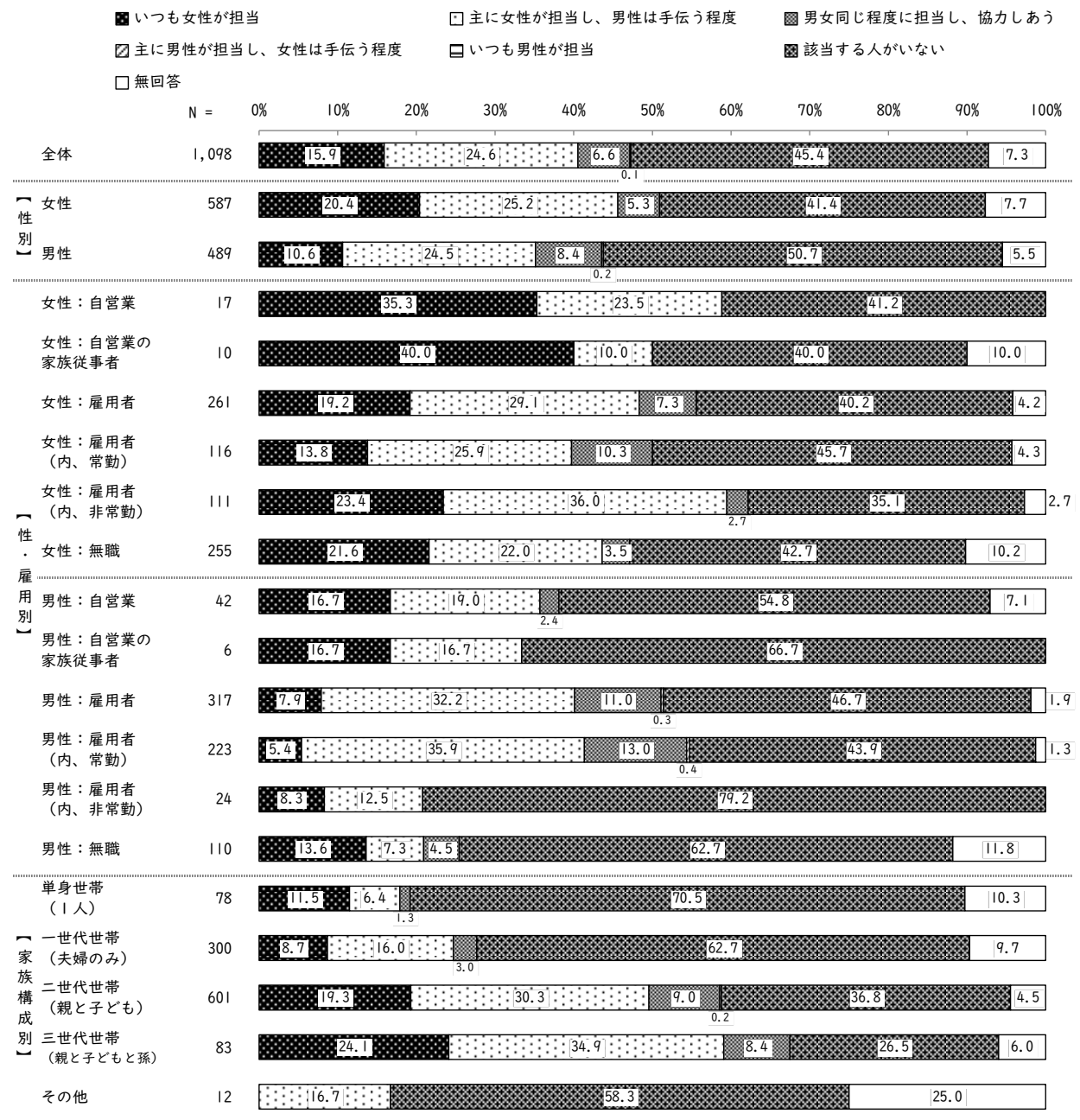
該当 47.2%の内、『主に女性』が担当 40.5%

全体では、「該当する人がいない」が45.4%と最も高く、次いで「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」(24.6%)、「いつも女性が担当」(15.9%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」割合は、男性の方が女性より高くなっている。

【性・雇用別】で比較すると、女性の内、「雇用者(内、常勤)」が「男女同じ程度に担当し、協力しあう」割合が、他の雇用形態と比較して高くなっている。

※『主に女性』:「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
『主に男性』:「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性を手伝う程度」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」20.0%、「該当する人がいない」80.0%となっています。

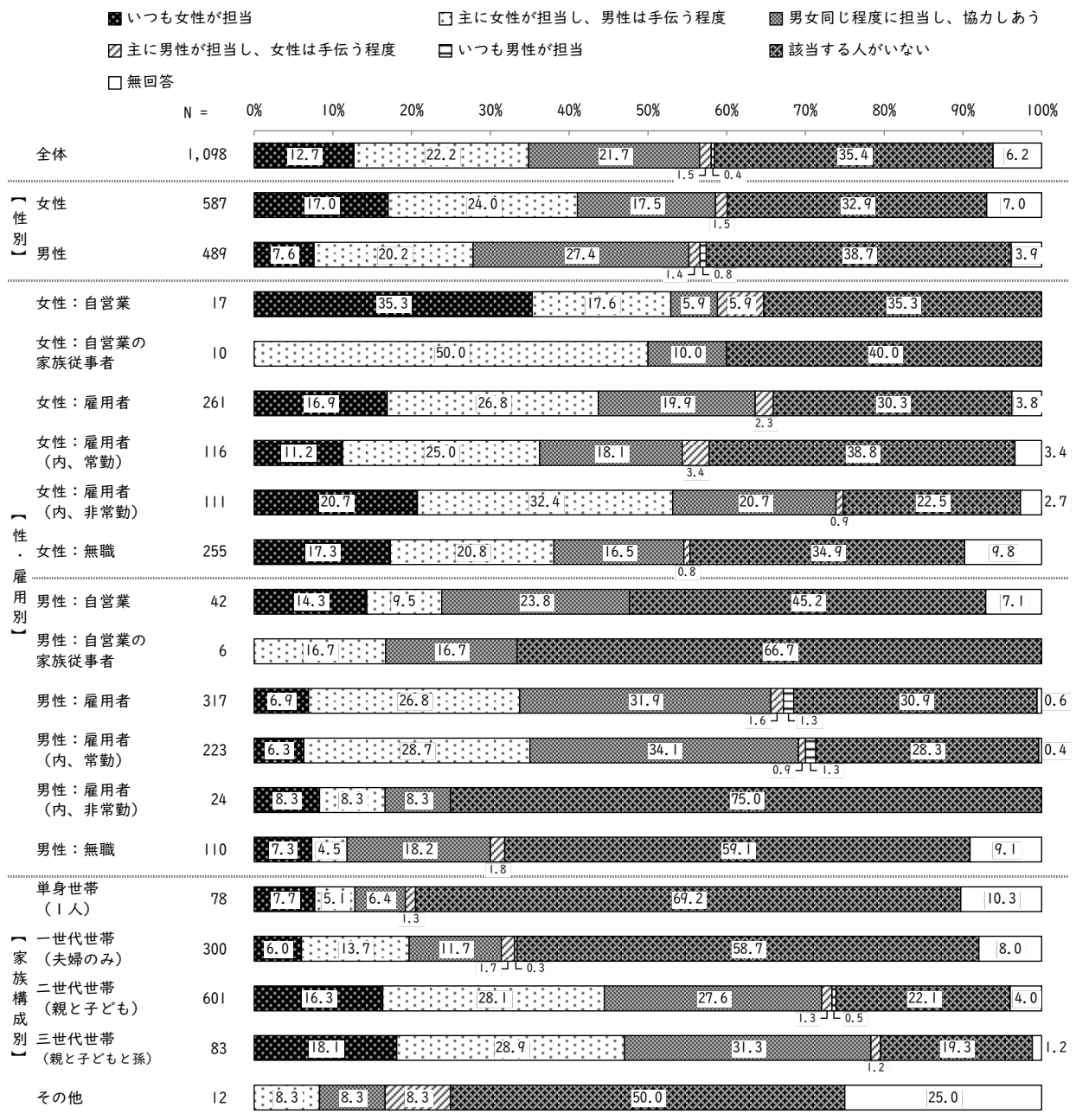
該当 58.5%の内、『主に女性』が担当 34.9%

全体では、「該当する人がいない」が 35.4%と最も高く、次いで「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」(22.2%)、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」(21.7%)の順となっている。

【性別】で比較すると、女性は「いつも女性が担当」の割合が高く、男性は「男女同じ程度に担当し、協力しあう」の割合が高くなっている。

【性・雇用別】で比較すると、「女性の自営業」で「いつも女性が担当」する割合が他の雇用形態と比較して高くなっている。また「男性の雇用者(内、常勤)」で「男女同じ程度に担当し、協力しあう」が高くなっている。

※『主に女性』:「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
『主に男性』:「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性を手伝う程度」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「いつも女性が担当」20.0%、「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」20.0%、「該当する人がいない」60.0%となっています。

問Ⅰ-G 介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）

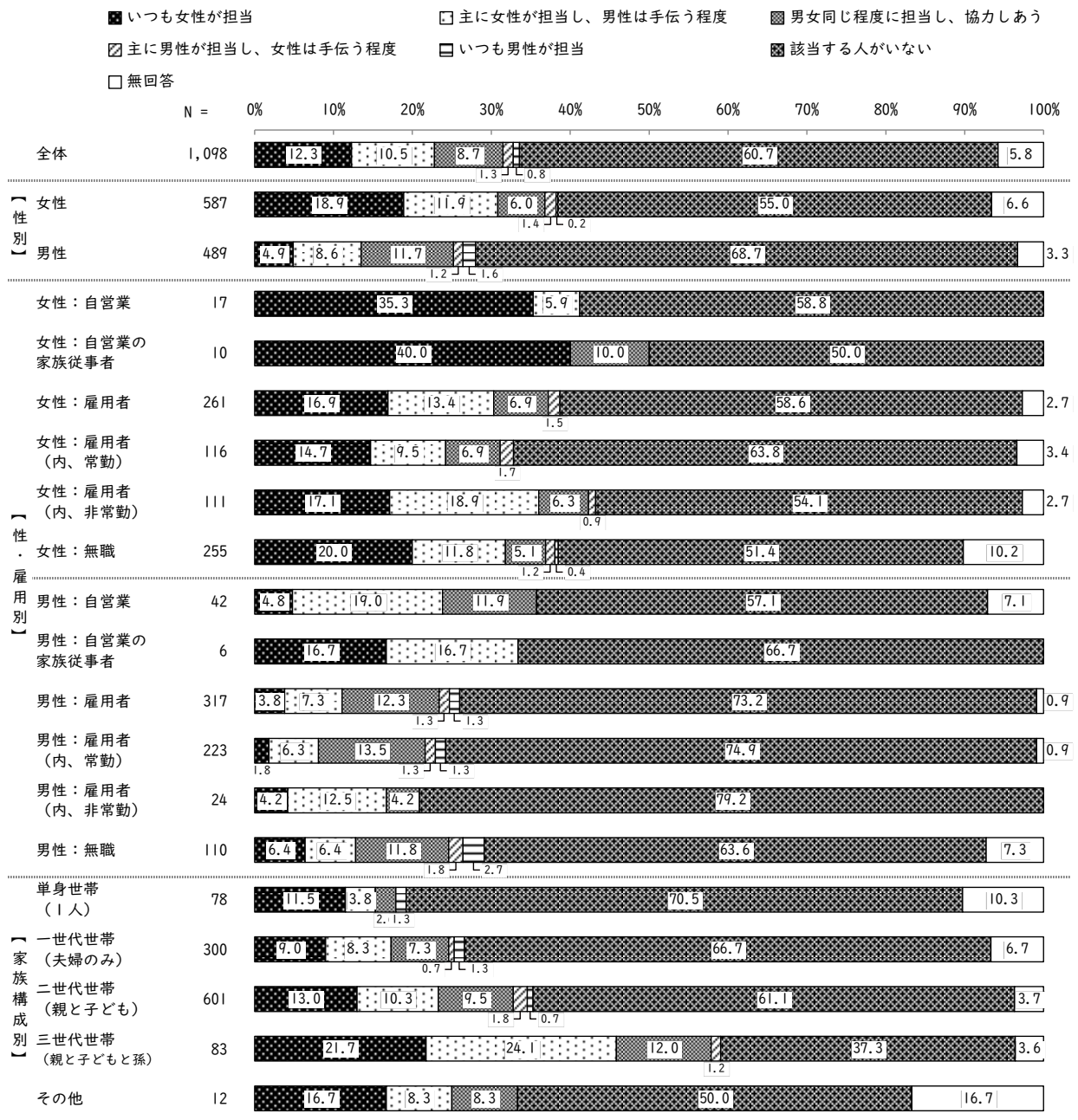
該当 33.6%の内、『主に女性』が担当 22.8%

全体では、「該当する人がいない」が 60.7%と最も高く、次いで「いつも女性が担当」（12.3%）、
「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」（10.5%）の順となっている。

【性別】で比較すると、男性の「男女同じ程度に、協力しあう」割合が高くなっている。

【性・雇用別】で比較すると、「男性の雇用者（内、常勤）」で「男女同じ程度に、協力しあう」が高
くなっている。

※『主に女性』：「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
『主に男性』：「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性を手伝う程度」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN＝5で、「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」20.0%、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」20.0%、「該当する人がいない」60.0%となっています。

【問2】結婚、離婚などに関する考え方について

あなたは、次にあげる結婚、離婚などに関する考え方について、どう思いますか。

(A～Eの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

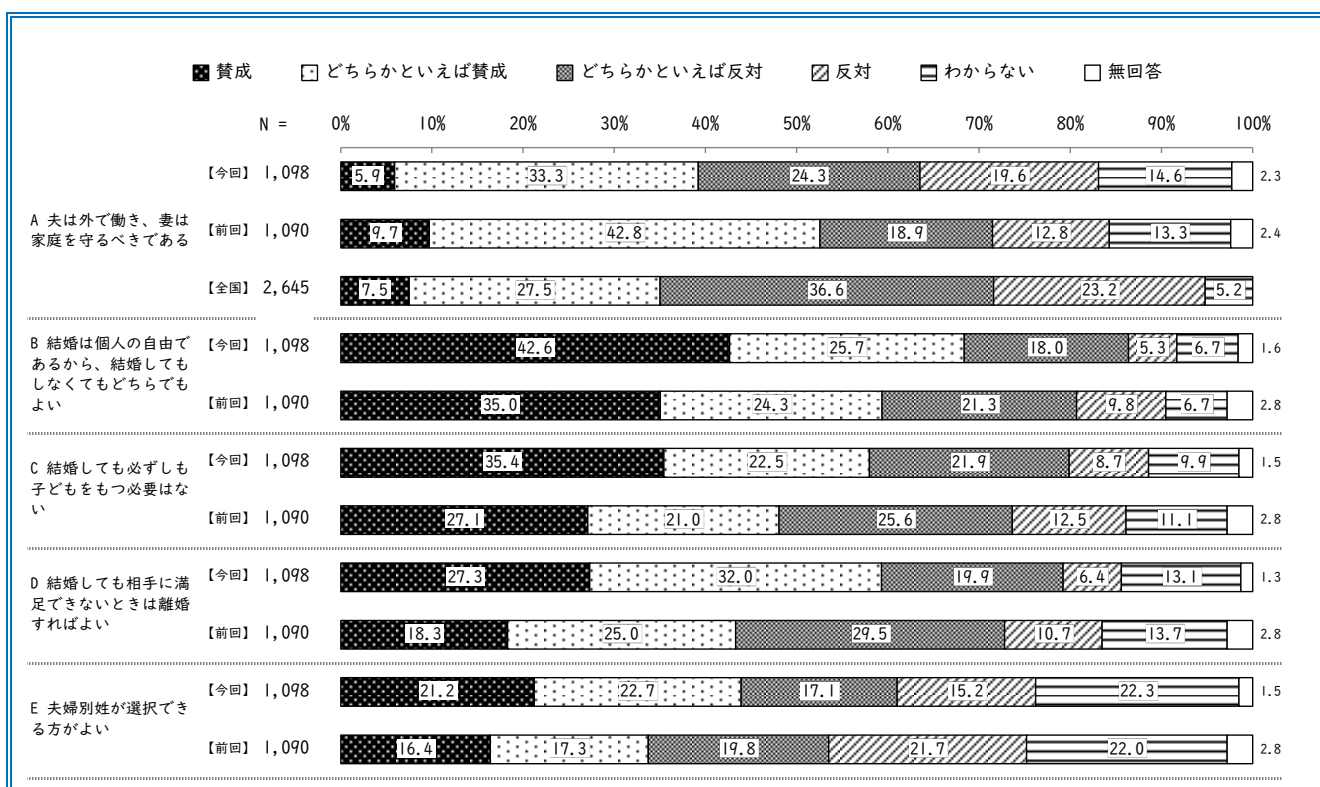
●項目比較（全体、前回・全国調査比較）

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に『否定的』意見が『肯定的』意見を上回った

前回調査と比較すると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」以外の項目で「賛成」「どちらかといえば賛成」が増加している。

全国調査と比較すると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に『肯定的』意見の割合は高くなっている。

※『肯定的』：「賛成」・「どちらかといえば賛成」と答えた人、『否定的』：「反対」・「どちらかといえば反対」と答えた人



問2-A 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

『肯定的』(39.2%) < 『否定的』(43.9%)

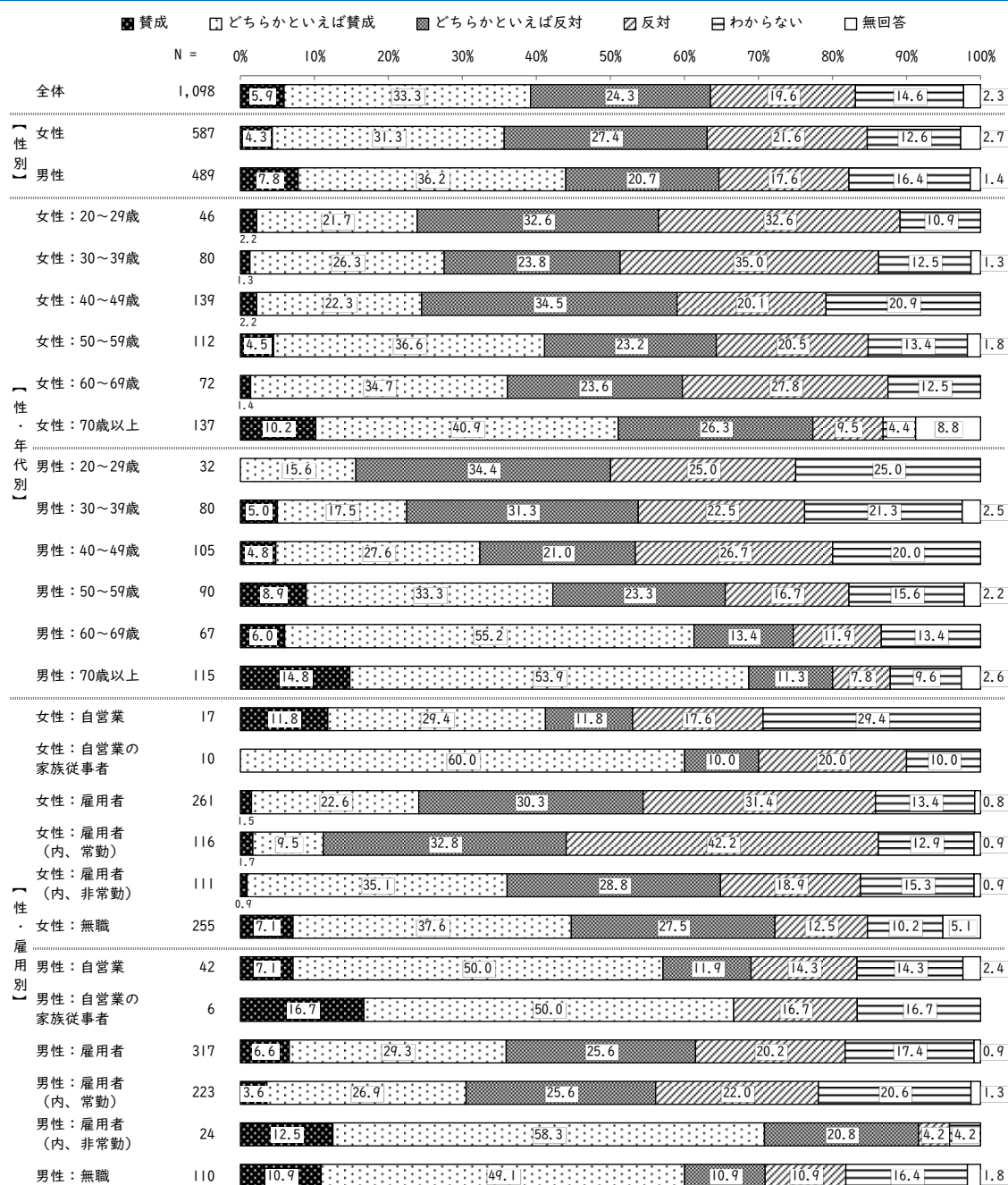
女性は『否定的』男性は『肯定的』、男女とも若いほど『否定的』な意見が多い

全体では、「どちらかといえば賛成」が33.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば反対」(24.3%)、「反対」(19.6%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『肯定的』な割合は、女性35.6%に対し、男性44.0%、『否定的』な割合は、女性49.0%に対し、男性38.3%となっている。

【性別・雇用形態別】で比較すると、「女性の雇用者(内、常勤)」では75.0%が『否定的』となっている。

※『肯定的』:「賛成」・「どちらかといえば賛成」と答えた人、『否定的』:「反対」・「どちらかといえば反対」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「どちらかといえば賛成」20.0%、「どちらかといえば反対」20.0%、「反対」20.0%、「わからない」40.0%となっています。

問2-B 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

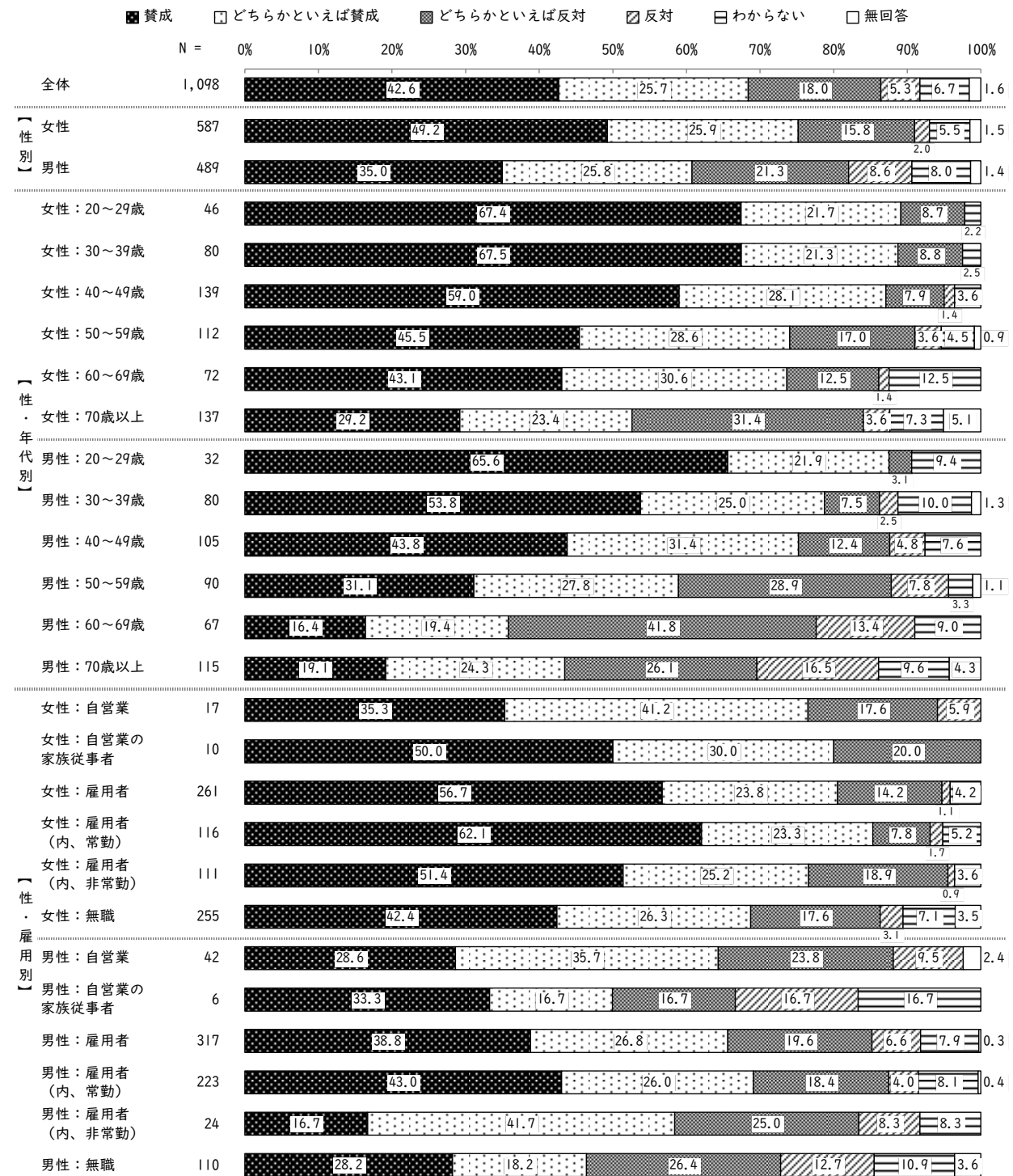
『肯定的』(68.3%) > 『否定的』(23.3%)
男女ともに「賛成」が最も高く、概ね全世代で『肯定的』

全体では、「賛成」が42.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(25.7%)、「どちらかといえば反対」(18.0%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『肯定的』な割合は、女性で75.1%、男性で60.8%と、男女とも高い。

【性・年代別】で比較すると、「男性の60歳代」を除くすべての区分で、『肯定的』な割合が高くなっている。

※『肯定的』：「賛成」・「どちらかといえば賛成」と答えた人、『否定的』：「反対」・「どちらかといえば反対」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「賛成」40.0%、「どちらかといえば賛成」20.0%、「わからない」40.0%となっています。

問2-C 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

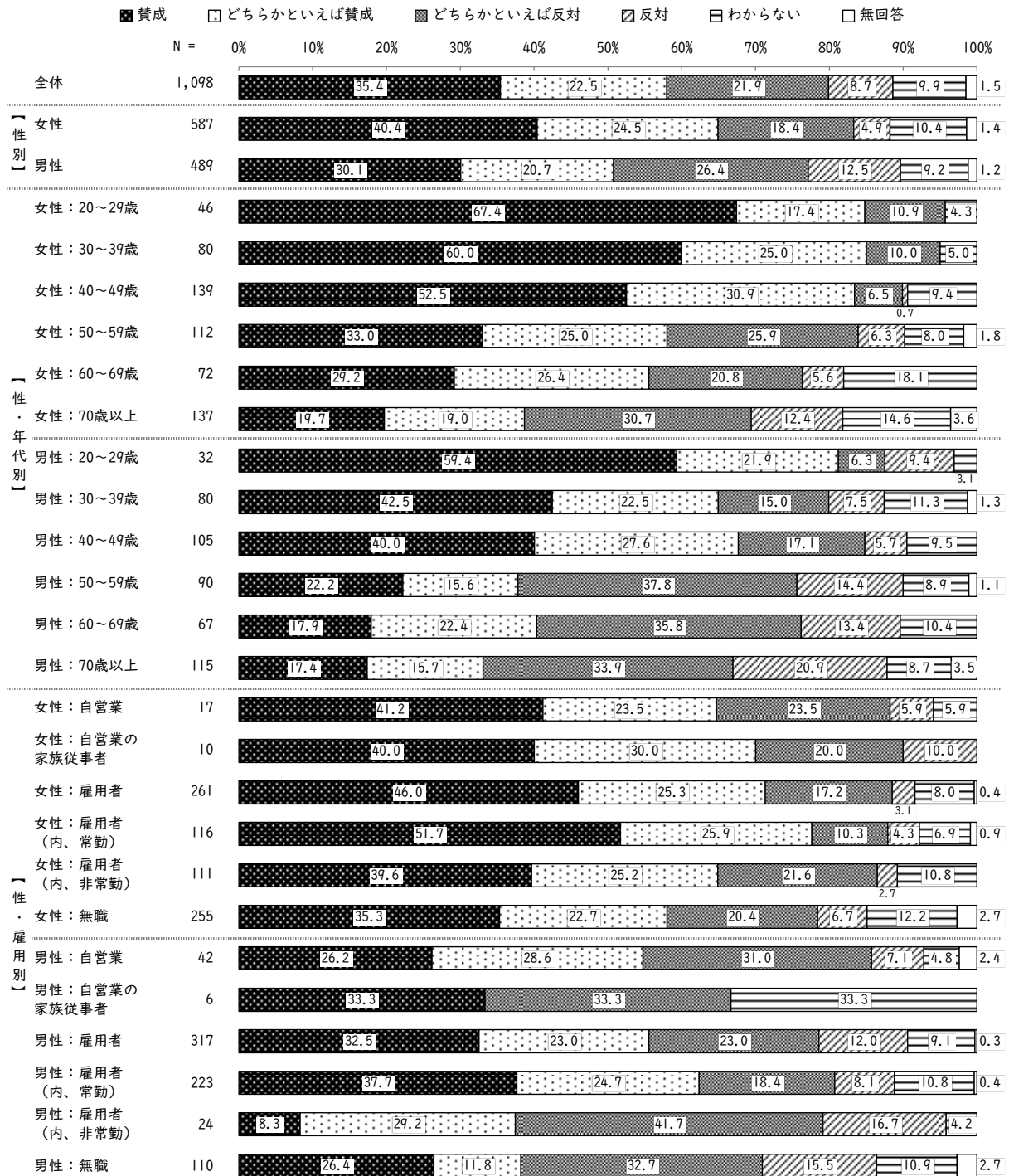
『肯定的』(57.9%) > 『否定的』(30.6%)
女性の方が『肯定的』で、概ね若いほど『肯定的』

全体では、「賛成」が35.4%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(22.5%)、「どちらかといえば反対」(21.9%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『肯定的』な割合は、女性が64.9%、男性が50.8%で、男女とも高い。

【性・年代別】で比較すると、「女性の20～40歳代」「男性の20歳代」で『肯定的』な割合が80%を超え、特に高い。「女性の70歳代以上」「男性の50歳代以上」では『否定的』な割合が高い。

※『肯定的』：「賛成」・「どちらかといえば賛成」と答えた人、『否定的』：「反対」・「どちらかといえば反対」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「賛成」40.0%、「どちらかといえば賛成」20.0%、「反対」20.0%、「わからない」20.0%となっています。

問2-D 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

『肯定的』(59.3%) > 『否定的』(26.3%)

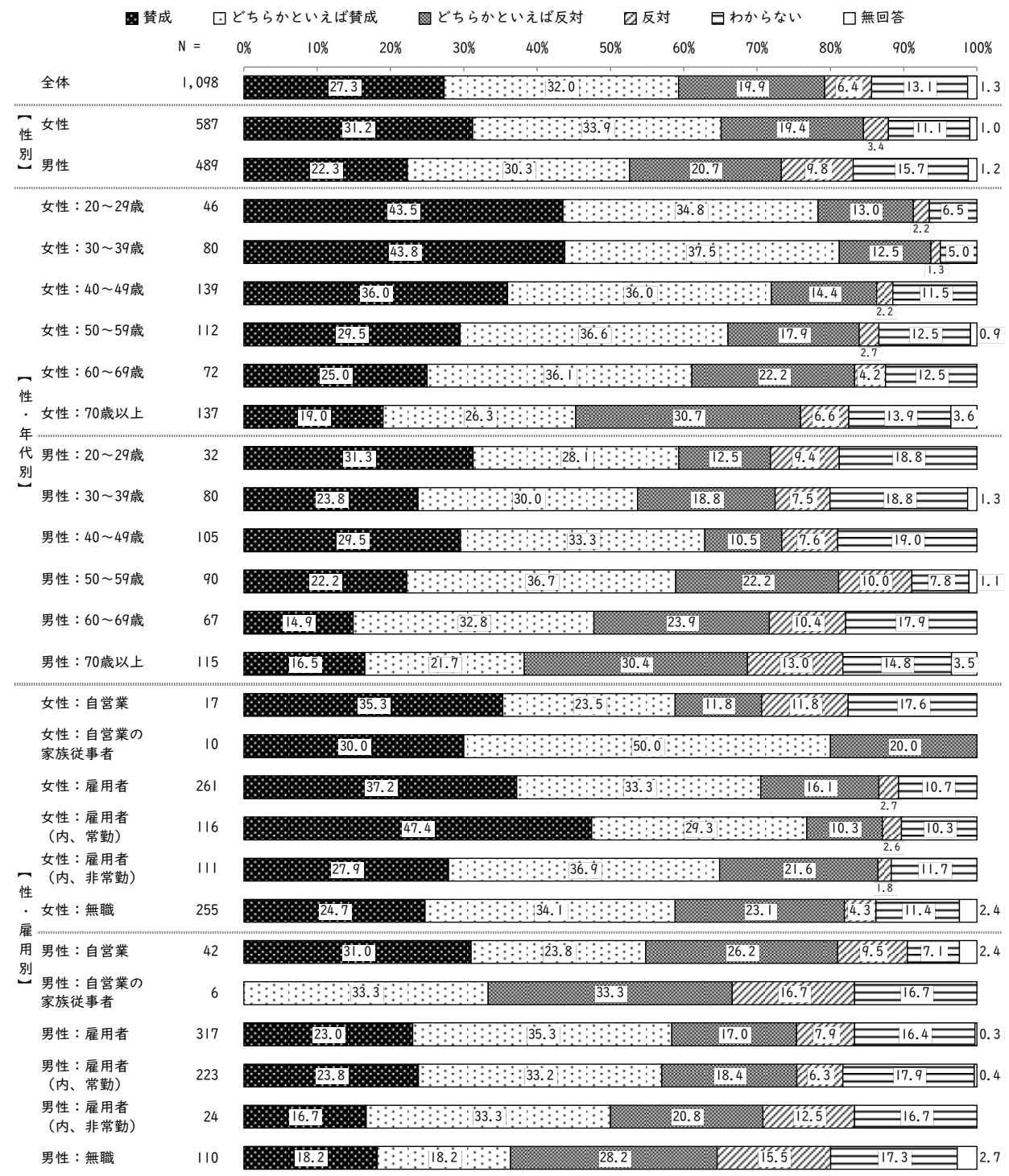
男女ともに「どちらかといえば賛成」が最も高く、女性は概ね若いほど『肯定的』

全体では、「どちらかといえば賛成」が32.0%と最も高く、次いで「賛成」(27.3%)、「どちらかといえば反対」(19.9%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『肯定的』な割合は、女性が65.1%、男性が52.6%と男女とも高い。

【性・年代別】で比較すると、「男性の70歳代」を除くすべての区分で、『肯定的』な割合が高い。

※『肯定的』：「賛成」・「どちらかといえば賛成」と答えた人、『否定的』：「反対」・「どちらかといえば反対」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「賛成」40.0%、「どちらかといえば賛成」20.0%、「反対」20.0%、「わからない」20.0%となっています。

問2-E 夫婦別姓が選択できる方がよい

『肯定的』(43.9%) > 『否定的』(32.3%)

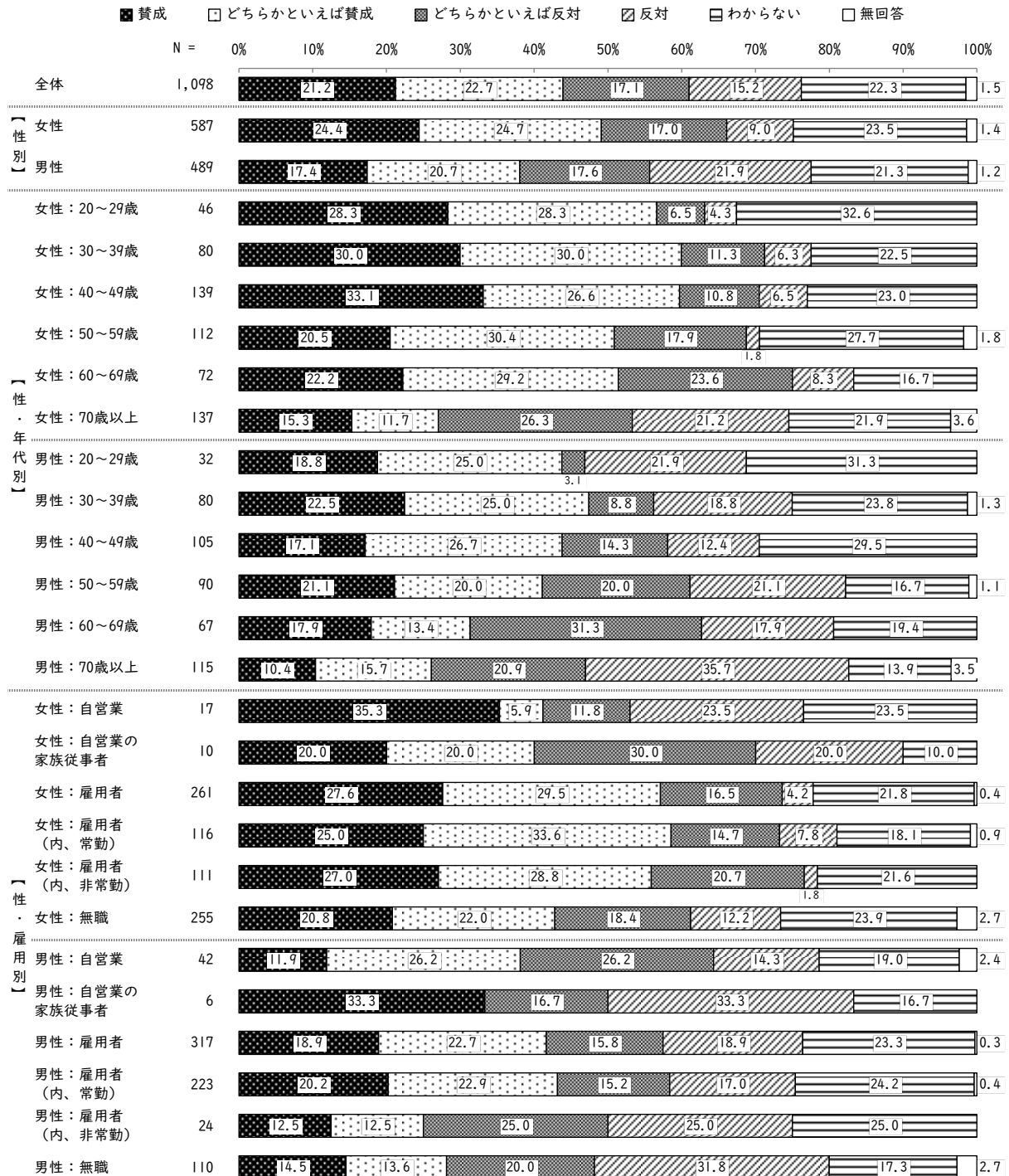
女性は「どちらかといえば賛成」が最も高く、男性は「反対」が最も高い

全体では、「どちらかといえば賛成」が22.7%と最も高く、次いで「わからない」(22.3%)、「賛成」(21.2%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『肯定的』な割合は、女性49.1%に対し、男性38.1%。『否定的』な割合は女性26.0%に対し、男性39.5%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「女性の20～60歳代」で『肯定的』な回答がいずれも半数以上となっている。また、男性は「50歳代」ですべての回答割合が拮抗しており、この年代を境に若年層では『肯定的』、老年層では『否定的』の割合が高くなっている。

※『肯定的』：「賛成」・「どちらかといえば賛成」と答えた人、『否定的』：「反対」・「どちらかといえば反対」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「賛成」60.0%、「どちらかといえば賛成」20.0%、「わからない」20.0%となっています。

【問3】地域活動への参加

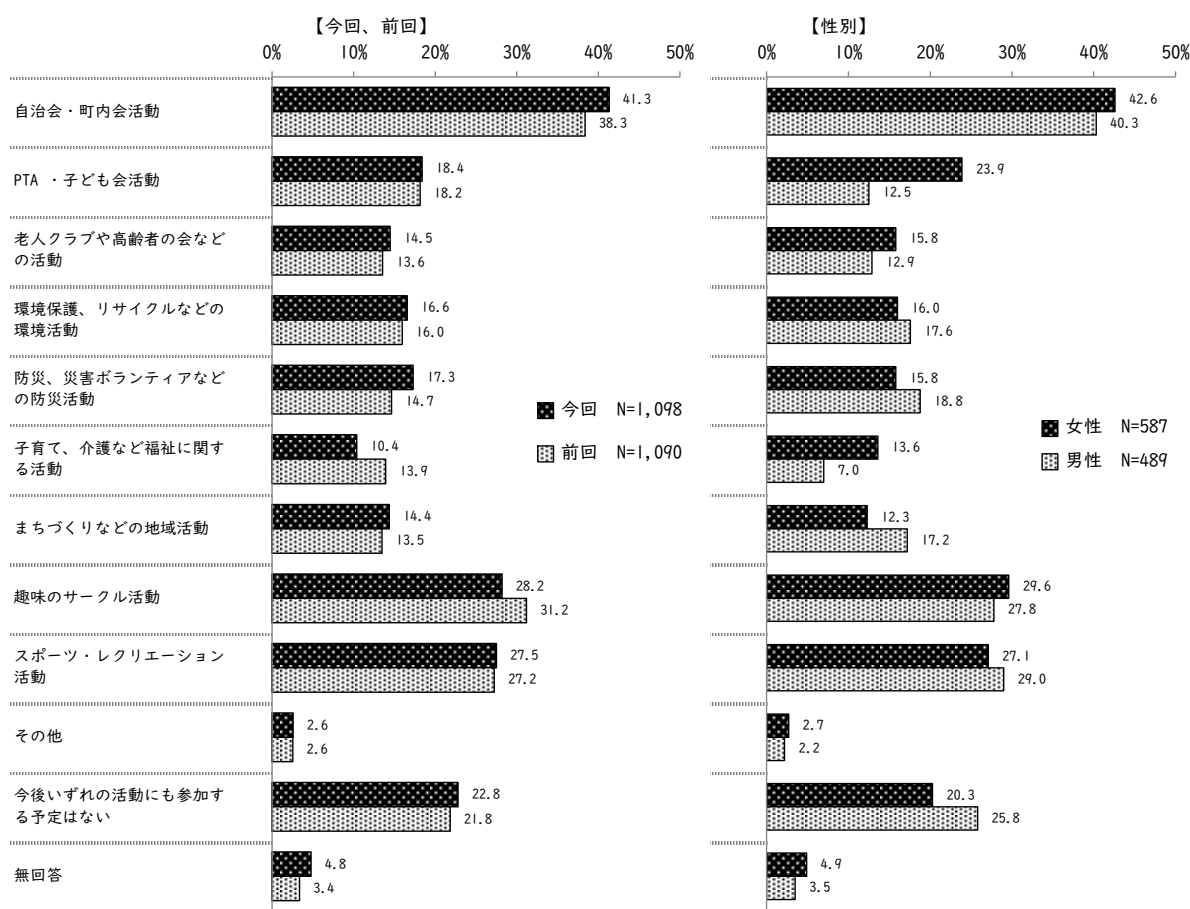
あなたは、次のような地域活動に参加していますか、あるいは今後参加したいと思う地域活動はありますか。
(あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

●項目比較（全体、前回調査比較、性別）

「自治会・町内会活動」の割合が最も高い

「PTA・子ども会活動」「子育て・介護などに福祉に関する活動」は、女性の参加割合が男性の約2倍

全体では、「自治会・町内会活動」が41.3%と最も高く、次いで「趣味のサークル活動」(28.2%)、「スポーツ・レクリエーション活動」(27.5%)の順となっている。



【性別】その他の回答者数はN=5で、「老人クラブや高齢者の会などの活動」20.0%、「環境保護、リサイクルなどの環境活動」20.0%、「防災、災害ボランティアなどの防災活動」20.0%、「今後いずれの活動にも参加する予定はない」60.0%、「無回答」20.0%となっています。

※今後地域活動に参加する予定のない方

【問4】地域活動に参加しない理由

いずれの地域活動にも参加しないのは、なぜですか。

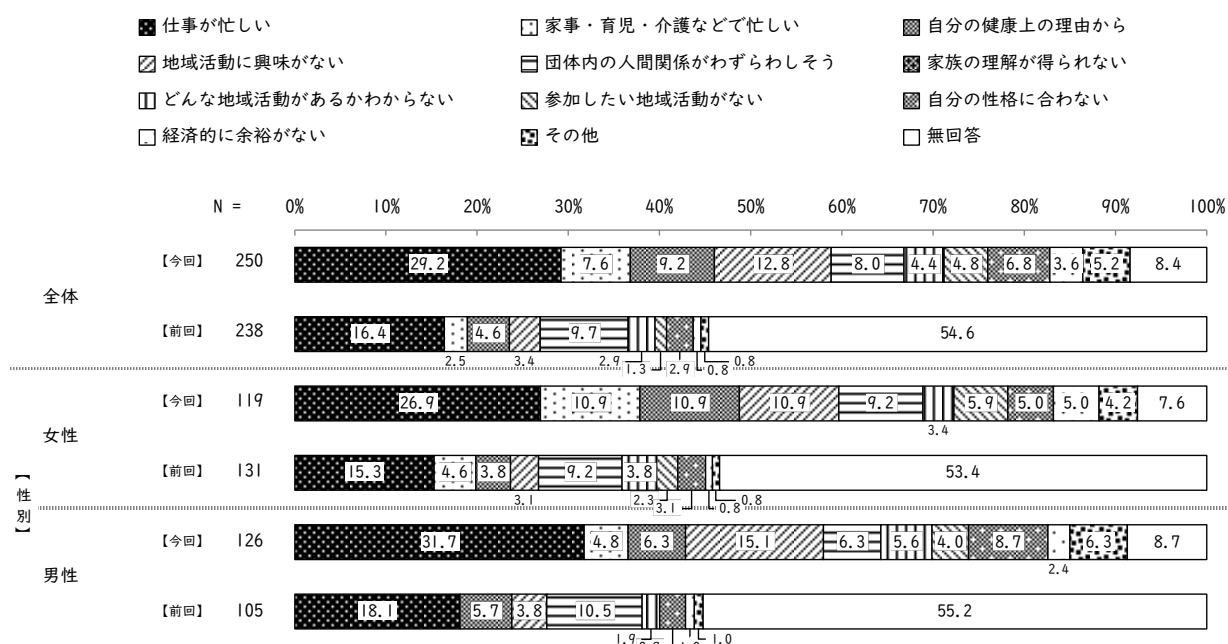
(特に主たる理由1つに◎、あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

●項目比較（主たる理由／全体、性別、前回調査比較）

「仕事が忙しい」の割合が最も高い

全体では、「仕事が忙しい」が29.2%と最も高く、次いで「地域活動に興味がない」(12.8%)、「自分の健康上の理由から」(9.2%)の順となっている。

【性別】で比較すると、次点の理由は男女とも「地域活動に興味がない」であるが、女性は「家事・育児・介護などで忙しい」「自分の健康上の理由から」が10.9%で並んでいる。



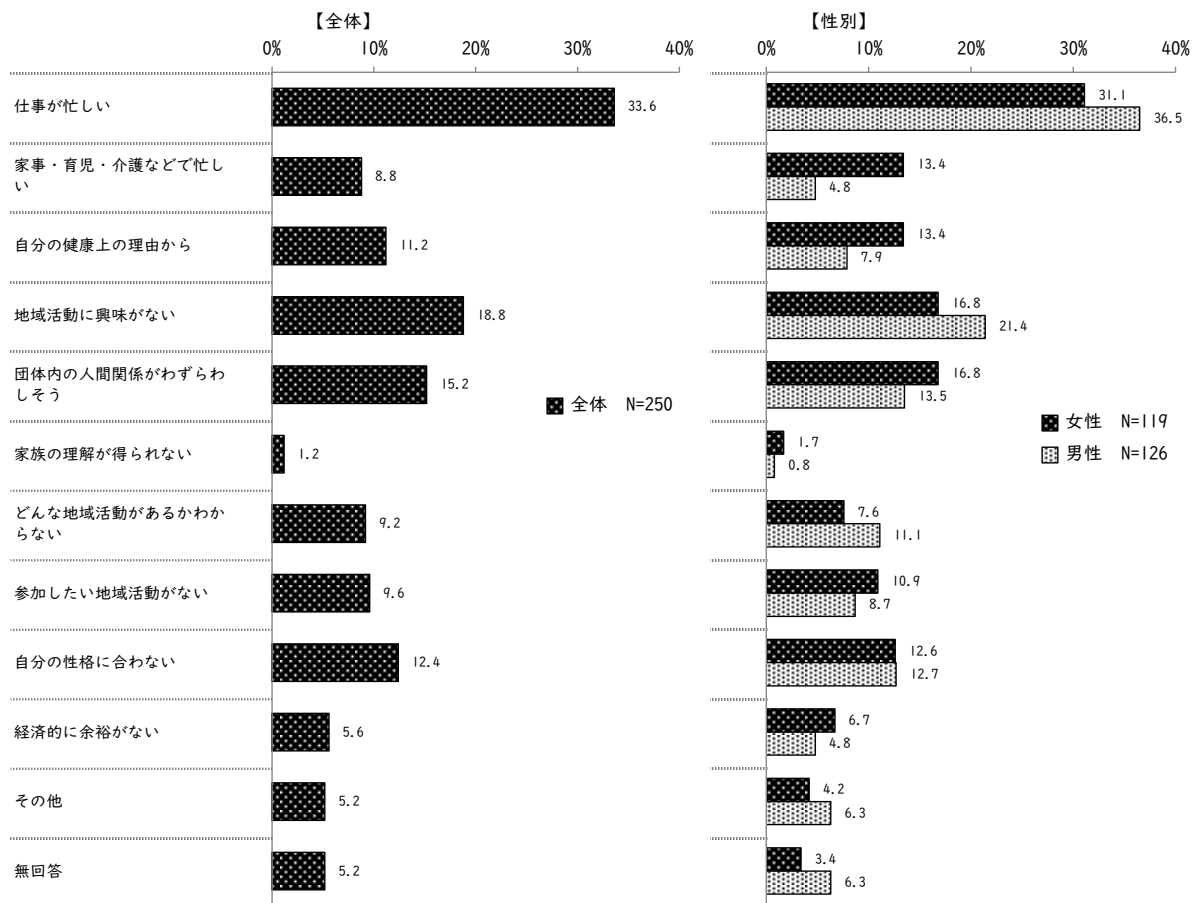
【性別】その他の回答者数はN=3で、「自分の健康上の理由から」66.7%、「団体内の人間関係がわずらわしそう」33.3%となっています。

※無回答数が前回より減少しているのは、調査票の回答記載方法を変更したため。

●項目比較（あてはまるものすべて／全体、性別）

全体では、「仕事が忙しい」が33.6%と最も高く、次いで「地域活動に興味がない」（18.8%）、「団体内の人間関係がわずらわしそう」（15.2%）の順となっている。

【性別】で比較すると、男性の「家事・育児・介護などで忙しい」の割合は、女性に比べて低い。



【性別】その他の回答者数はN=3で、「自分の健康上の理由から」66.7%、「団体内の人間関係がわずらわしそう」33.3%となっています。

【問5】生活の優先度について

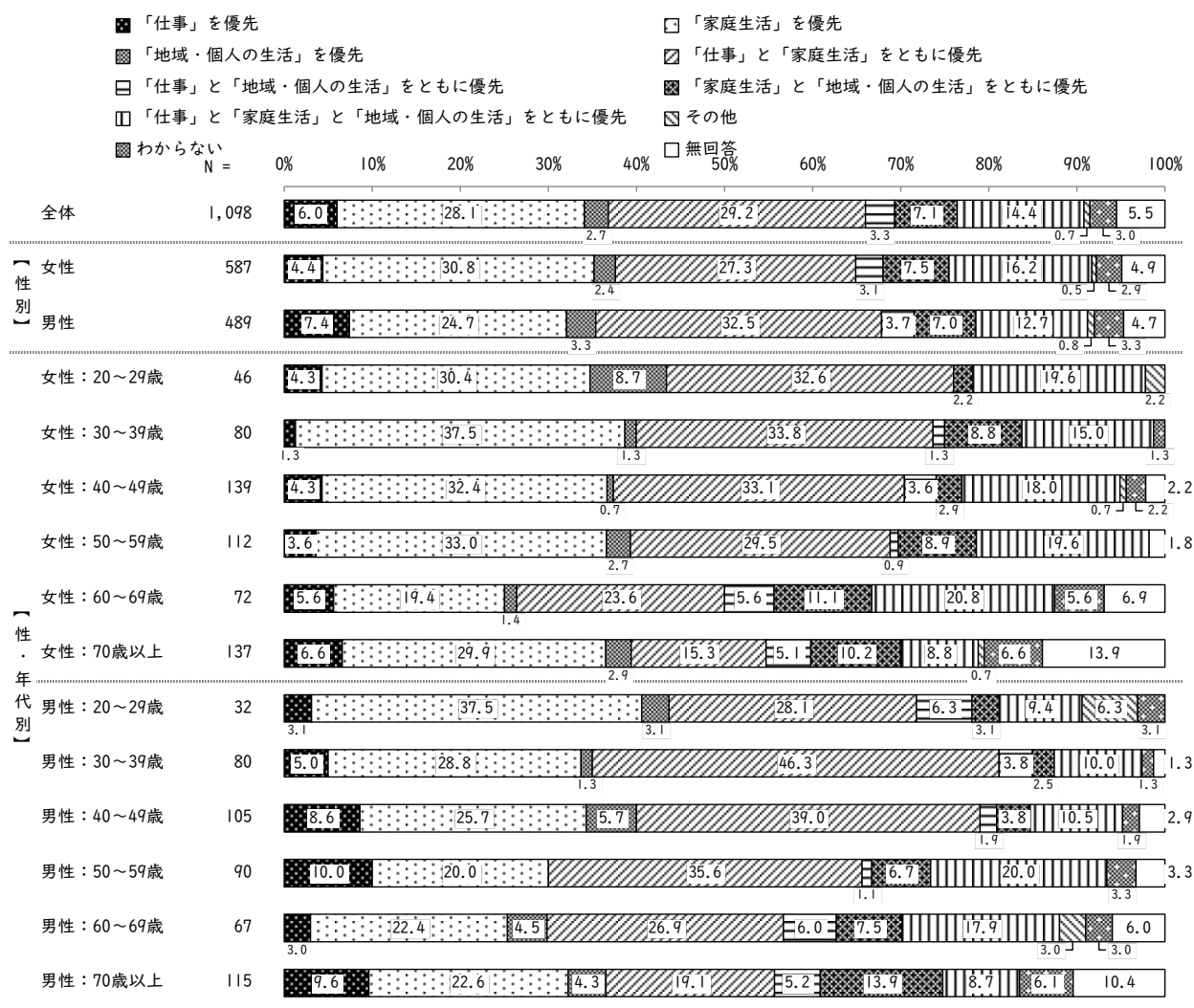
あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先しますか。
(＜①希望として＞＜②現実として＞について、それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（①希望として／全体、性別、性・年代別）

希望としては、男女とも「家庭生活」を優先」「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が高い

全体では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が29.2%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先」(28.1%)、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」(14.4%)の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先」したい割合は、「男性の30歳代」が最も高く、次いで「男性の40歳代」となっている。

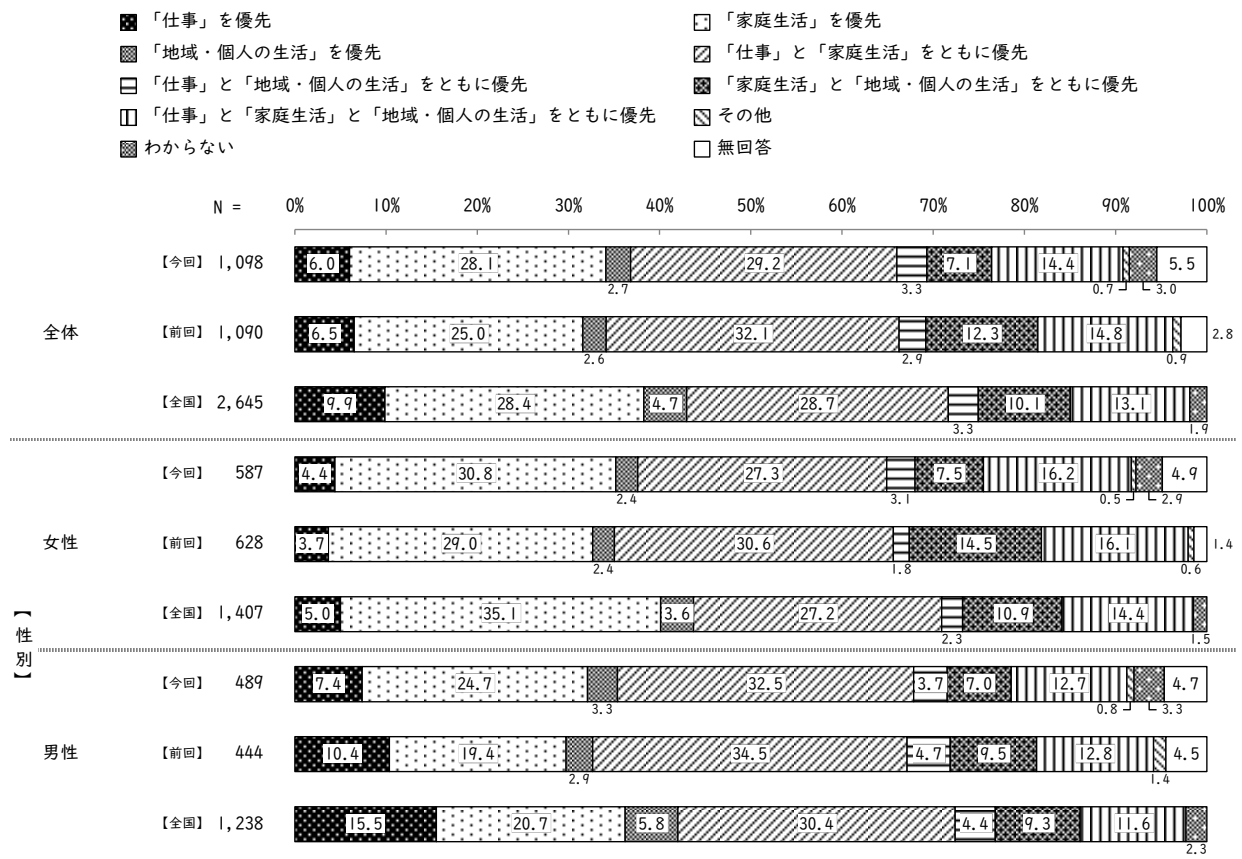


【性別】その他の回答者数はN=5で、「家庭生活」を優先」60.0%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」20.0%、「無回答」20.0%となっています。

●項目比較（前回・全国調査比較）

前回調査と比較すると、男性の「家庭」を優先したい割合が増加した。全体的に「わからない」の割合が増えている。

全国調査と比較すると、「仕事」を優先」の割合は低く、特に男性は全国の半分程度の割合である。

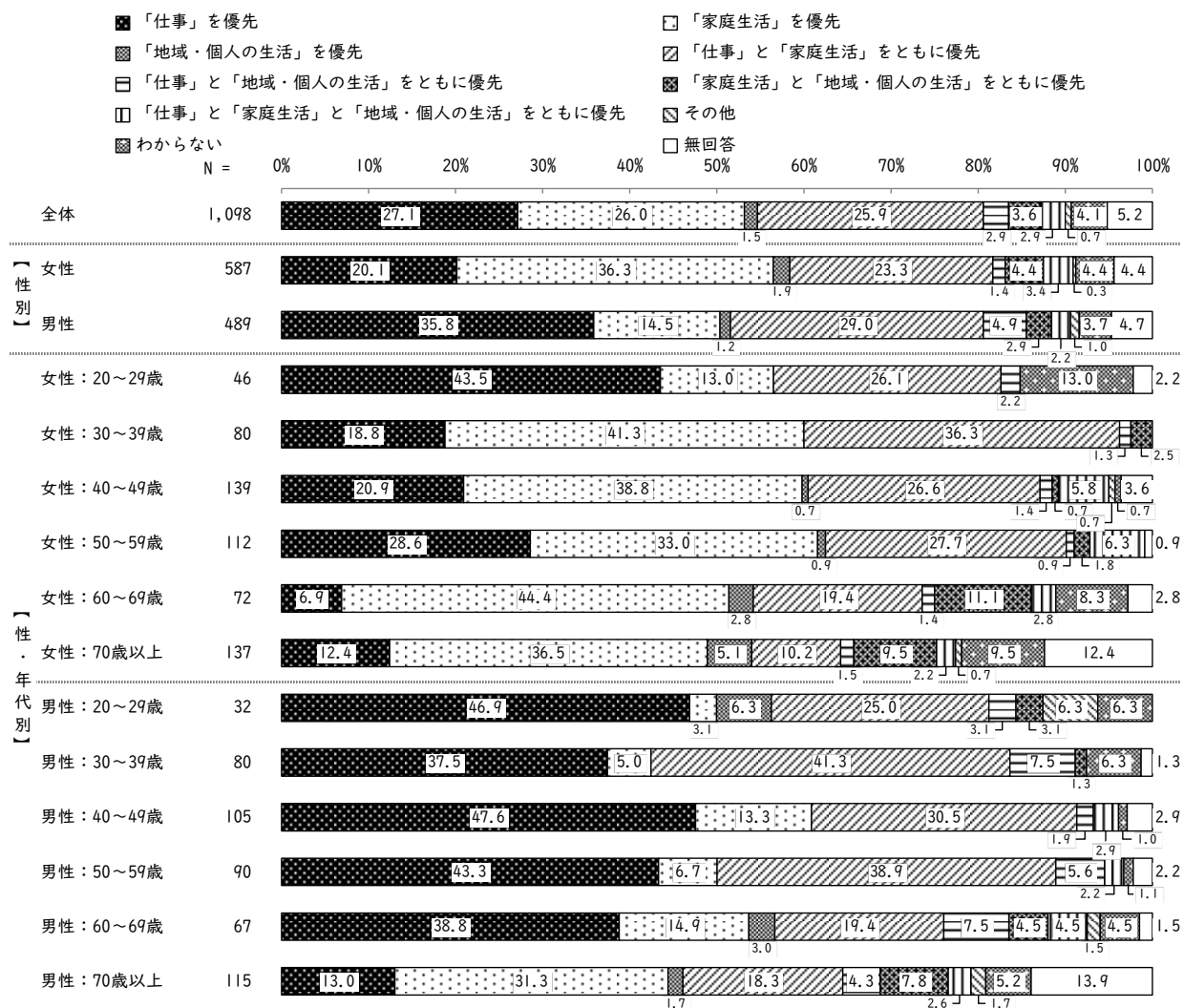


●項目比較（②現実として／全体、性別、性・年代別）

現実とは、男性は「仕事」を優先、女性は「家庭生活」を優先

全体では、「仕事」を優先が27.1%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先（26.0%）、「仕事」と「家庭生活」をともに優先（25.9%）の順となっている。

①希望としてと比較すると、男女とも「仕事」を優先が高くなっており、男性は「家庭生活」を優先が低くなっている。また、「地域・個人の生活」を含む回答が低くなっている。

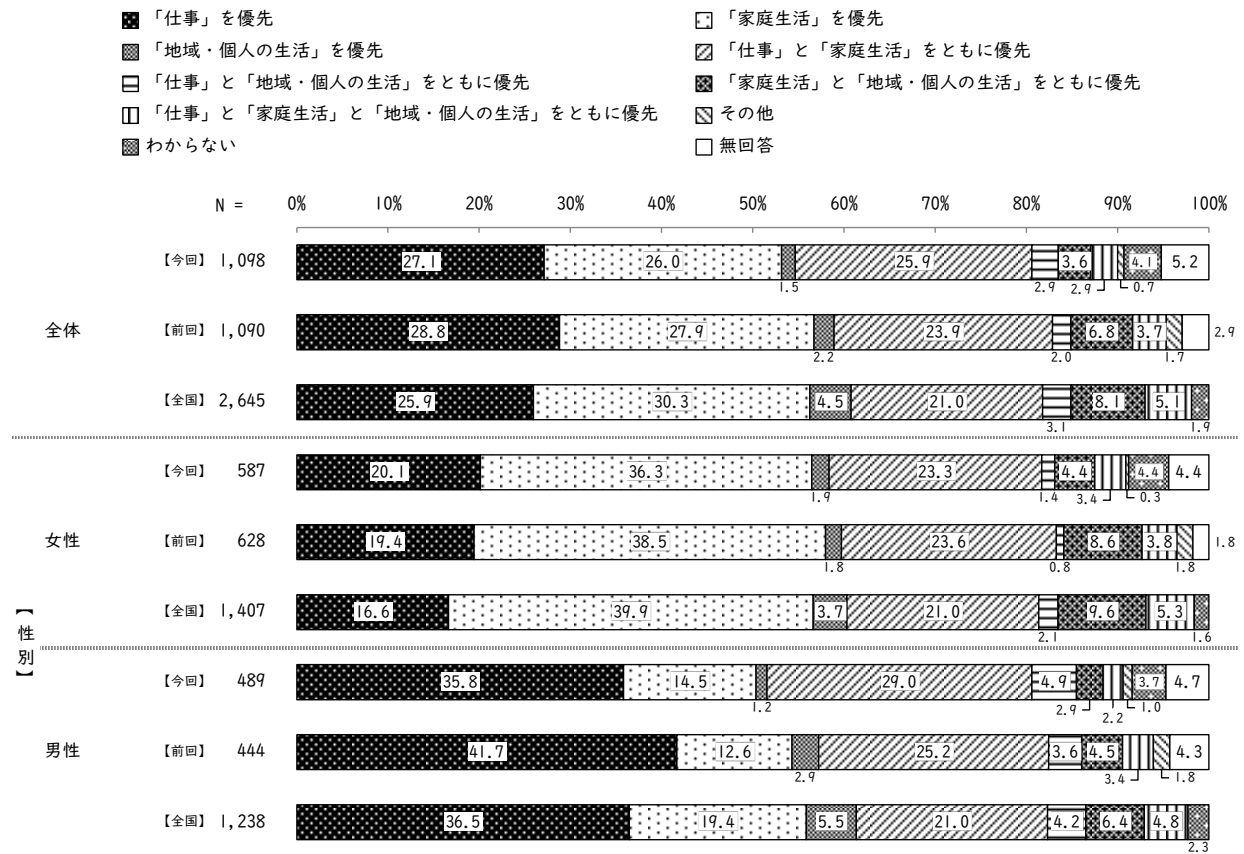


【性別】その他の回答者数はN=5で、「仕事」を優先40.0%、「家庭生活」を優先20.0%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先20.0%、「無回答」20.0%となっています。

●項目比較（前回・全国調査比較）

前回調査と比較すると、男性の「仕事」を優先している割合が減少した。全体的に「わからない」の割合が増えており、「地域・個人の生活」を優先を含む回答が減少している。

全国調査と比較すると、男性の「仕事」と「家庭」をともに優先の割合は高い。



【問6】男性の家事、子育て等への参加を進めるために重要なこと

あなたは、男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を進めるためには、どのようにしていけばいいと思いますか。

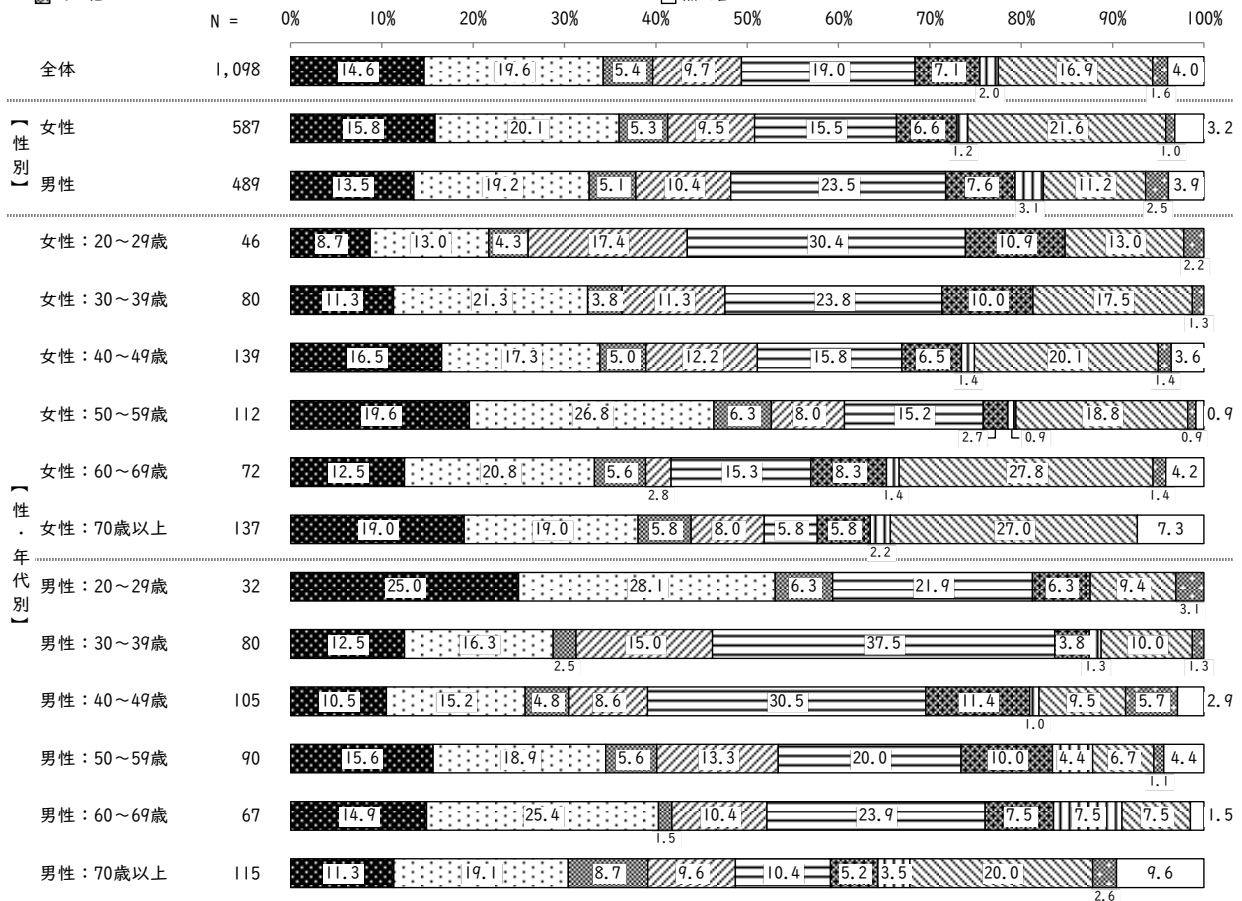
(特に重要と思うもの1つに◎、それ以外にあてはまる番号2つまで○をつけてください。)

●項目比較（特に重要と思うもの／全体、性別、性・年代別）

女性は「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」、男性は「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が最も高い

全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が19.6%と最も高く、次いで「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(19.0%)、「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」(16.9%)の順となっている。

- 男性による家事、子育て、介護、地域活動に対する抵抗感をなくす
- 夫婦の役割分担などについての当事者の考え方をまわりが尊重する
- 働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 家事、子育て、介護講座や情報提供、ネットワークづくりなどの支援を行う
- その他
- 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る
- 男性による家事、子育て、介護、地域活動への社会的評価を高める
- 男性の仕事中心の生き方、女性の男性に経済力や出世を求める考え方を改める
- 子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える
- 無回答

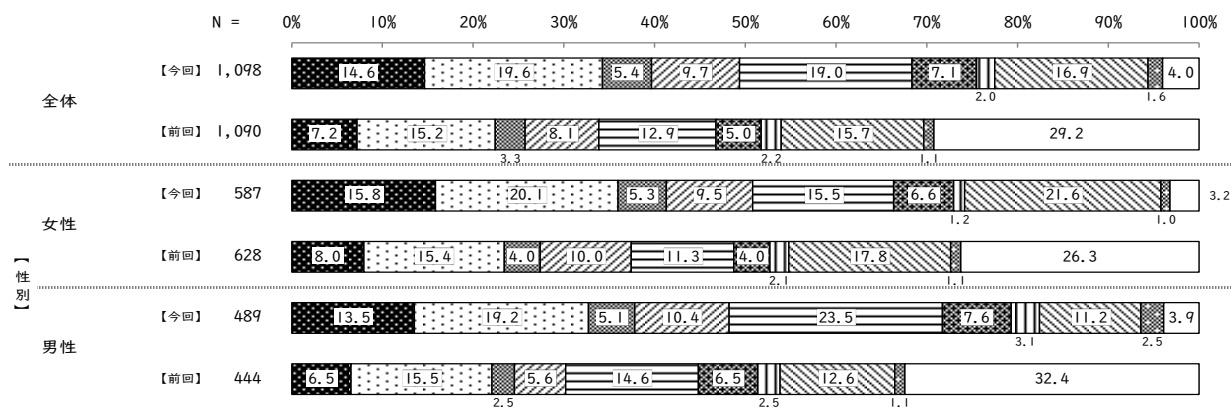


【性別】その他の回答者数はN＝5で、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」40.0%、「夫婦の役割分担などについての当事者の考え方をまわりが尊重する」20.0%、「男性の仕事中心の生き方、女性の男性に経済力や出世を求める考え方を改める」20.0%、「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」20.0%となっています。

●項目比較（特に重要と思うもの／前回調査比較）

前回調査と比較すると、無回答を除く回答の上位は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより持てるようにする」「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」と今回も前回も変わらなかった。

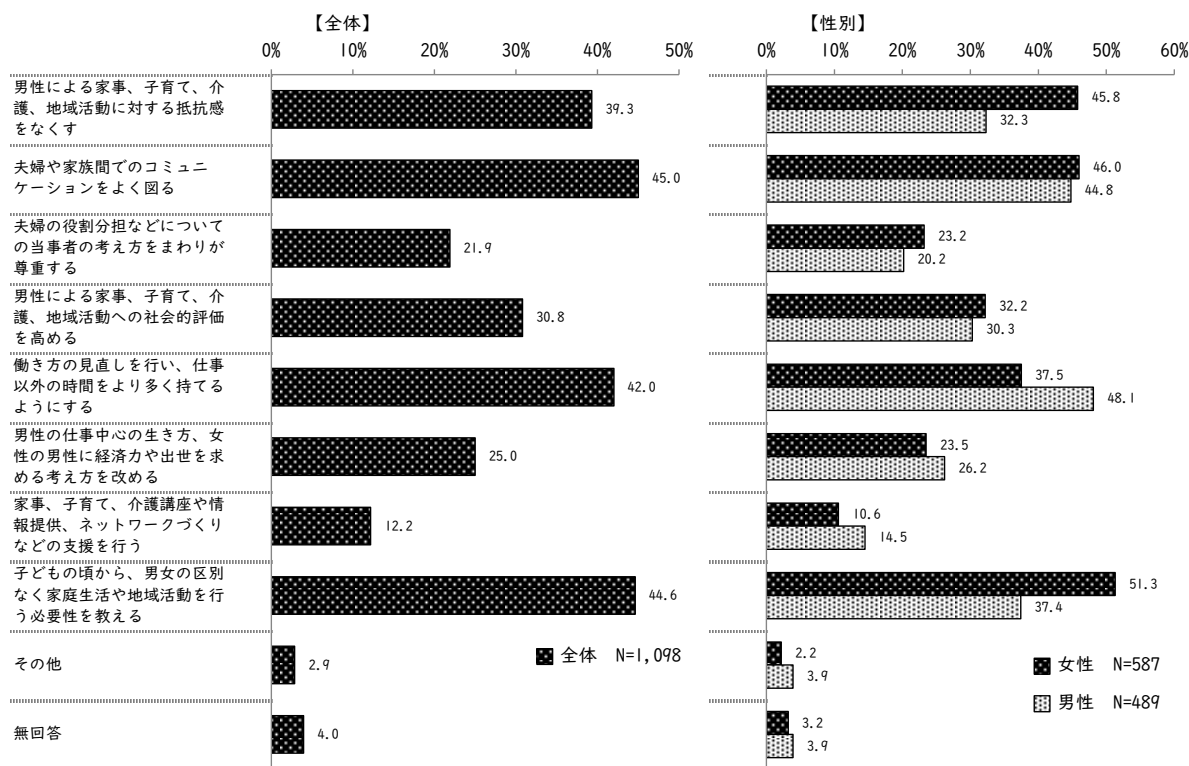
- 男性による家事、子育て、介護、地域活動に対する抵抗感をなくす
- 夫婦の役割分担などについての当事者の考え方をまわりが尊重する
- 働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 家事、子育て、介護講座や情報提供、ネットワークづくりなどの支援を行う
- その他
- 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る
- 男性による家事、子育て、介護、地域活動への社会的評価を高める
- 男性の仕事中心の生き方、女性の男性に経済力や出世を求める考え方を改める
- 子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える
- 無回答



※無回答数が前回より減少しているのは、調査票の回答記載方法を変更したため。

●項目比較（特に重要と思うもの+あてはまるもの2つまで／全体、性別）

【性別】で比較すると、「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」と答えた人は、女性の半数以上で最も高く、男女の差も大きい。



【性別】その他の回答者数はN=5で、「男性による家事、子育て、介護、地域活動に対する抵抗感をなくす」20.0%「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」40.0%、「夫婦の役割分担などについての当事者の考え方をまわりが尊重する」40.0%、「男性による家事、子育て、介護、地域活動への社会的評価を高める」20.0%、「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」40.0%、「男性の仕事中心の生き方、女性の男性に経済力や出世を求める考え方を改める」60.0%、「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」20.0%となっています。

【問7】家事・育児・介護にかかわる時間

あなたが、平日に家事・育児・介護などにかかわる平均的な時間はどのくらいですか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

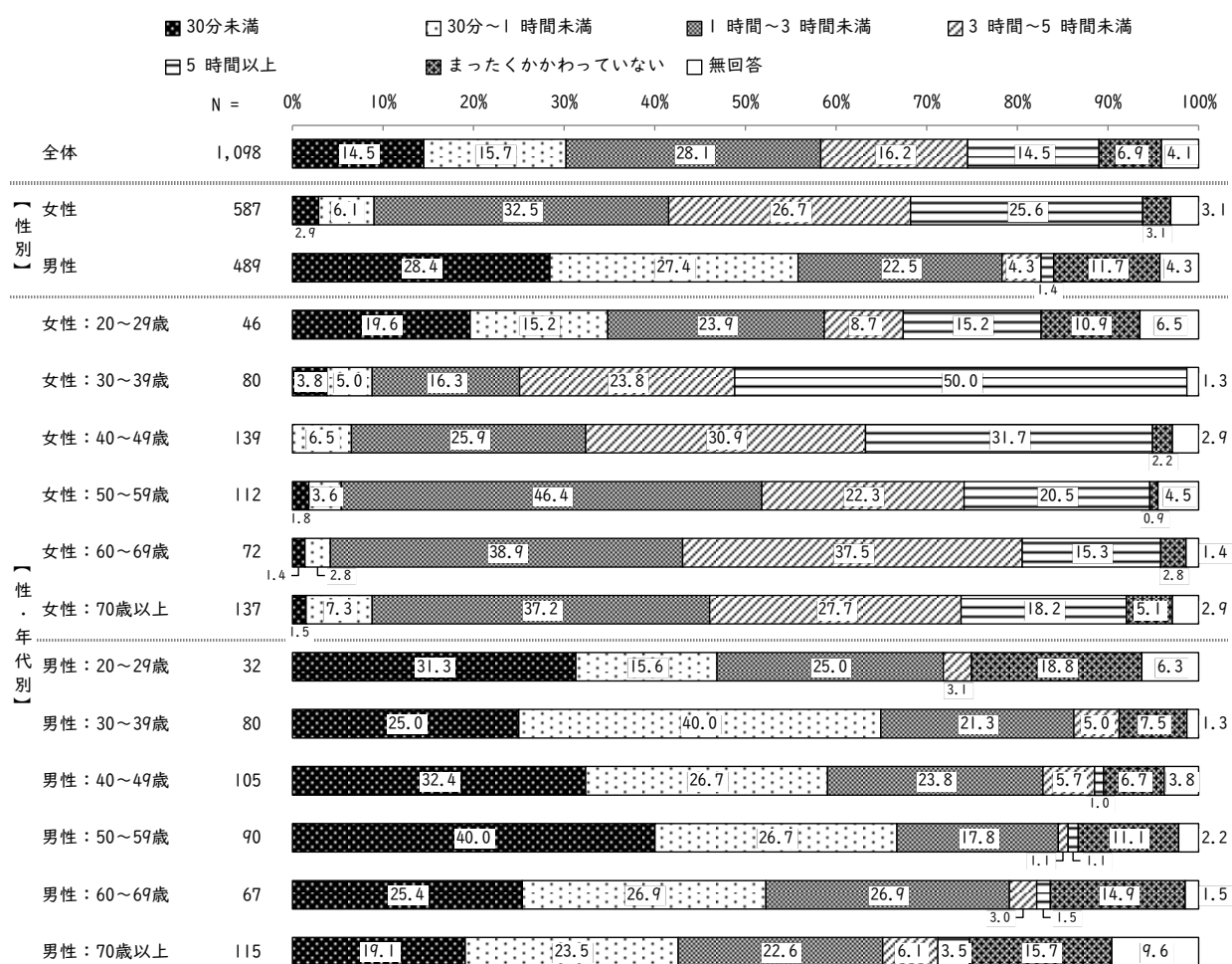
●項目比較（全体、性別、性・年代別）

女性は『3 時間以上』、男性は『30 分未満』

全体では、「1 時間～3 時間未満」が 28.1%と最も高く、次いで「3 時間～5 時間未満」(16.2%)、「30 分～1 時間未満」(15.7%) の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「女性の 30 歳代」の半数は平日 5 時間以上家事・育児・介護に関わっている一方、「男性の 30 歳代」の 4 人に 1 人は、家事・育児・介護に関わる時間が 30 分未満 となっている。

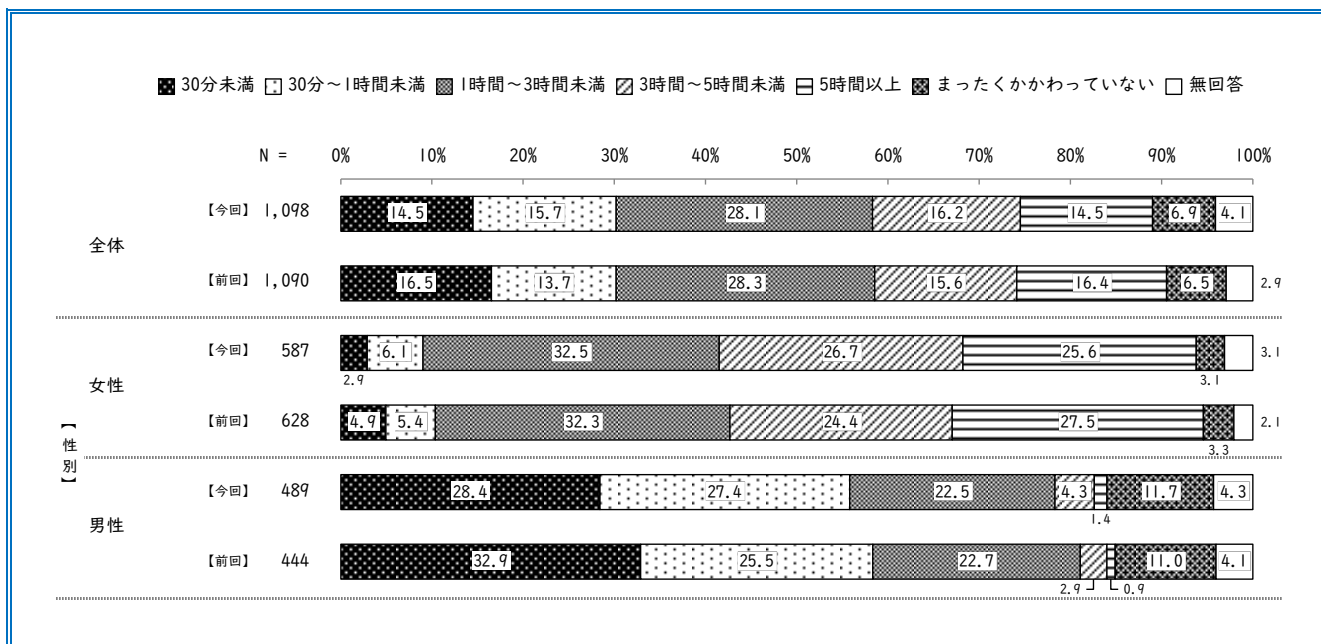
※『3 時間以上』：「3 時間～5 時間未満」「5 時間以上」と答えた人



【性別】その他の回答者数は N=5 で、「30 分未満」20.0%、「30 分～1 時間未満」20.0%、「1 時間～3 時間未満」40.0%、「まったくかかわっていない」20.0% となっています。

●項目比較（前回調査比較）

前回調査と比較すると、今回も前回同様、平日の家事・育児・介護時間は、女性の半数以上で3時間以上、男性の半数以上で1時間未満となっている。



2 社会参加・参画について

【問8】女性が就業することについて

女性が就業することについて、あなたの考え方は次のどれに近いですか。

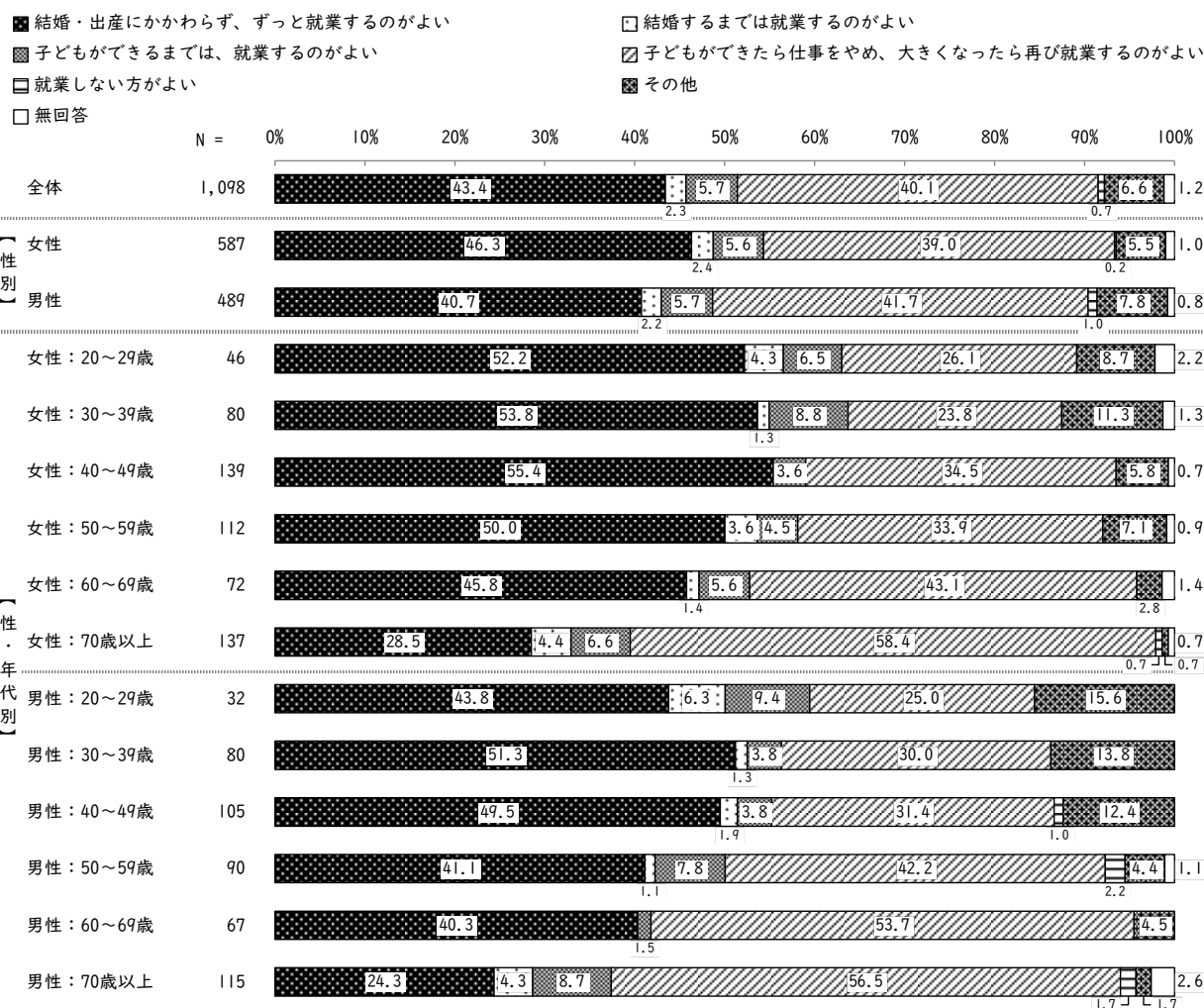
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、性別、性・年代別）

**女性は「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」が最も高いが、
男性は「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」が最も高い**

全体では、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」が43.4%と最も高く、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」(40.1%)、「子どもができるまでは、就業するのがよい」(5.7%)の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「女性の20～50歳代」と「男性の30歳代」の半数以上が、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」と答えた。

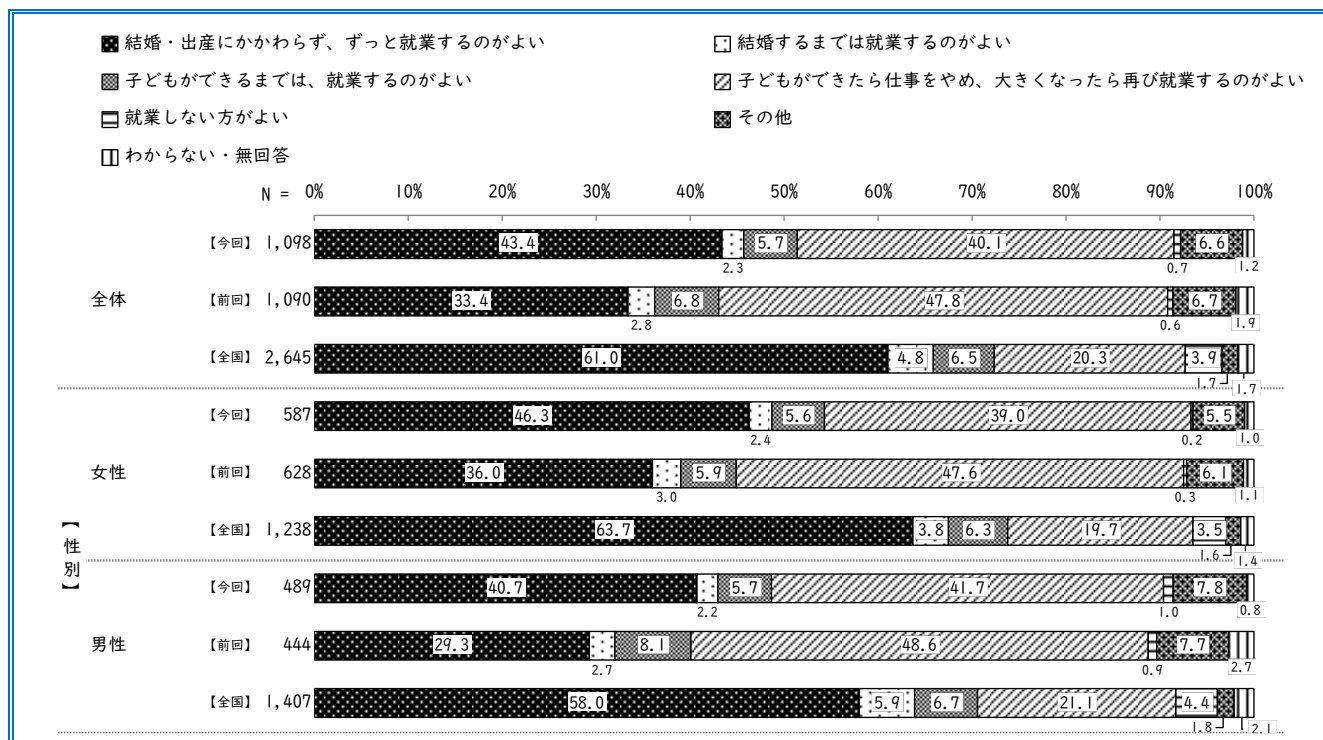


【性別】その他の回答者数はN=5で、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」20.0%、「子どもができるまでは、就業するのがよい」20.0%、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」40.0%、「その他」20.0%となっています。

●項目比較（前回・全国調査比較）

前回調査と比較すると、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」の割合が増加しており、「子どもができるまでは、就業するのがよい」・「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」の割合が減少した。その結果、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」の割合が、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」を上回った。

全国調査と比較すると、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」の割合が全体・女性・男性とも約17ポイント低く、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」の割合が、全体・女性・男性で約20ポイント高くなっている。



※現在、就業している方

【問9】就業する理由

あなたが就業するのは、なぜですか。

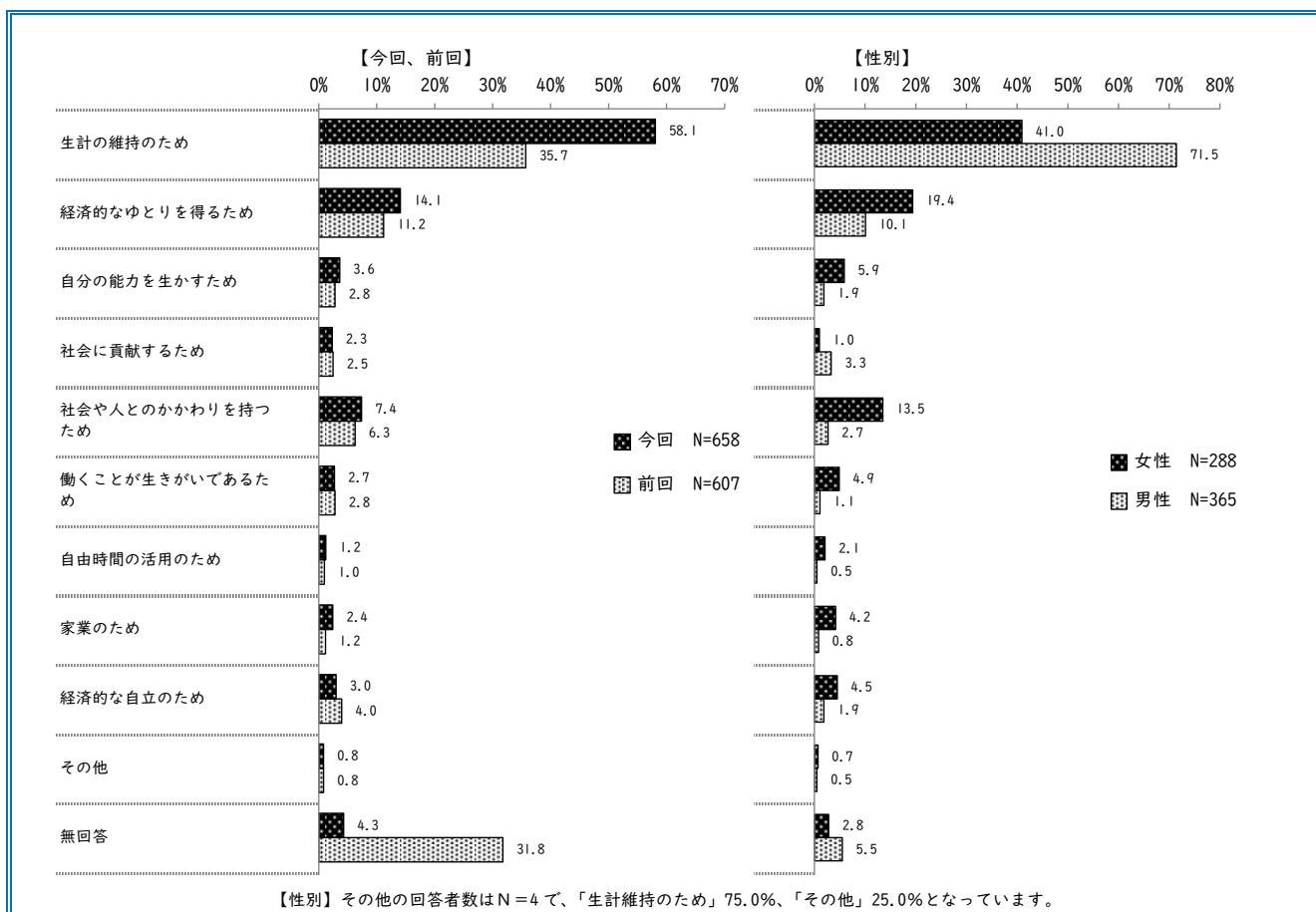
(主たる理由1つに◎、それ以外にあてはまる番号2つまで○をつけてください。)

●項目比較（主たる理由／全体、前回調査比較、性別）

「生計の維持のため」が最も高いが、女性は男性に比べて回答が分散

全体では、「生計の維持のため」が58.1%と最も高く、次いで「経済的なゆとりを得るため」(14.1%)、「社会や人との関わりを持つため」(7.4%)の順となっている。

【性別】で比較すると、女性では「経済的なゆとりを得るため」、「社会や人とのかかわりを持つため」が高く、男性では「生計の維持のため」が高くなっている。

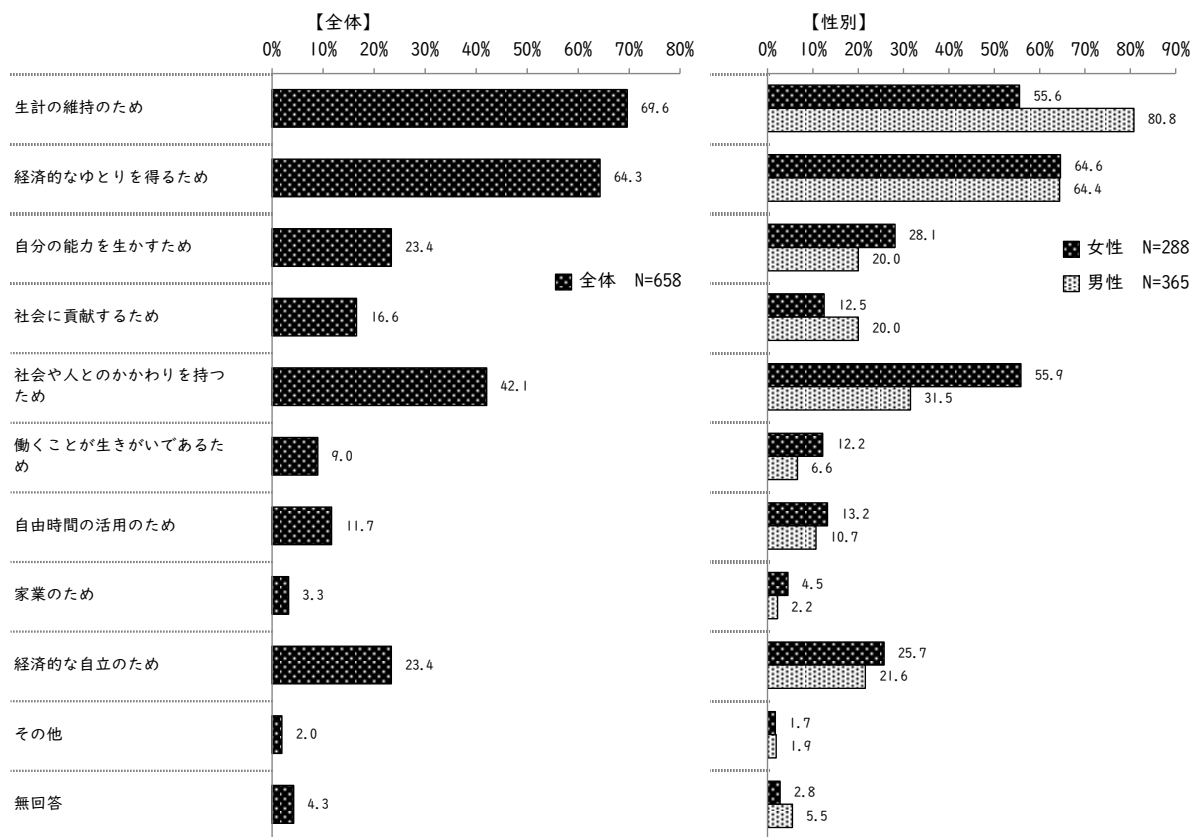


※無回答数が前回より減少しているのは、調査票の回答記載方法を変更したため。

●項目比較（主たる理由+あてはまるもの2つまで／全体、性別）

全体では、「生計の維持のため」が69.6%と最も高く、次いで「経済的なゆとりを得るため」(64.3%)「社会や人との関わりを持つため」(42.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、女性では「社会や人とのかかわりを持つため」、「自分の能力を生かすため」などが高く、男性では「生計の維持のため」、「社会に貢献するため」が高くなっている。



【性別】その他の回答者数はN=4で、「生計維持のため」75.0%、「経済的なゆとりを得るため」50.0%、「社会や人との関わりを持つため」25.0%、「経済的な自立のため」25.0%、「その他」25.0%となっています。

※現在、就業している方

【問 10】職場での男女平等について

あなたの職場では、次のようなことはありますか。

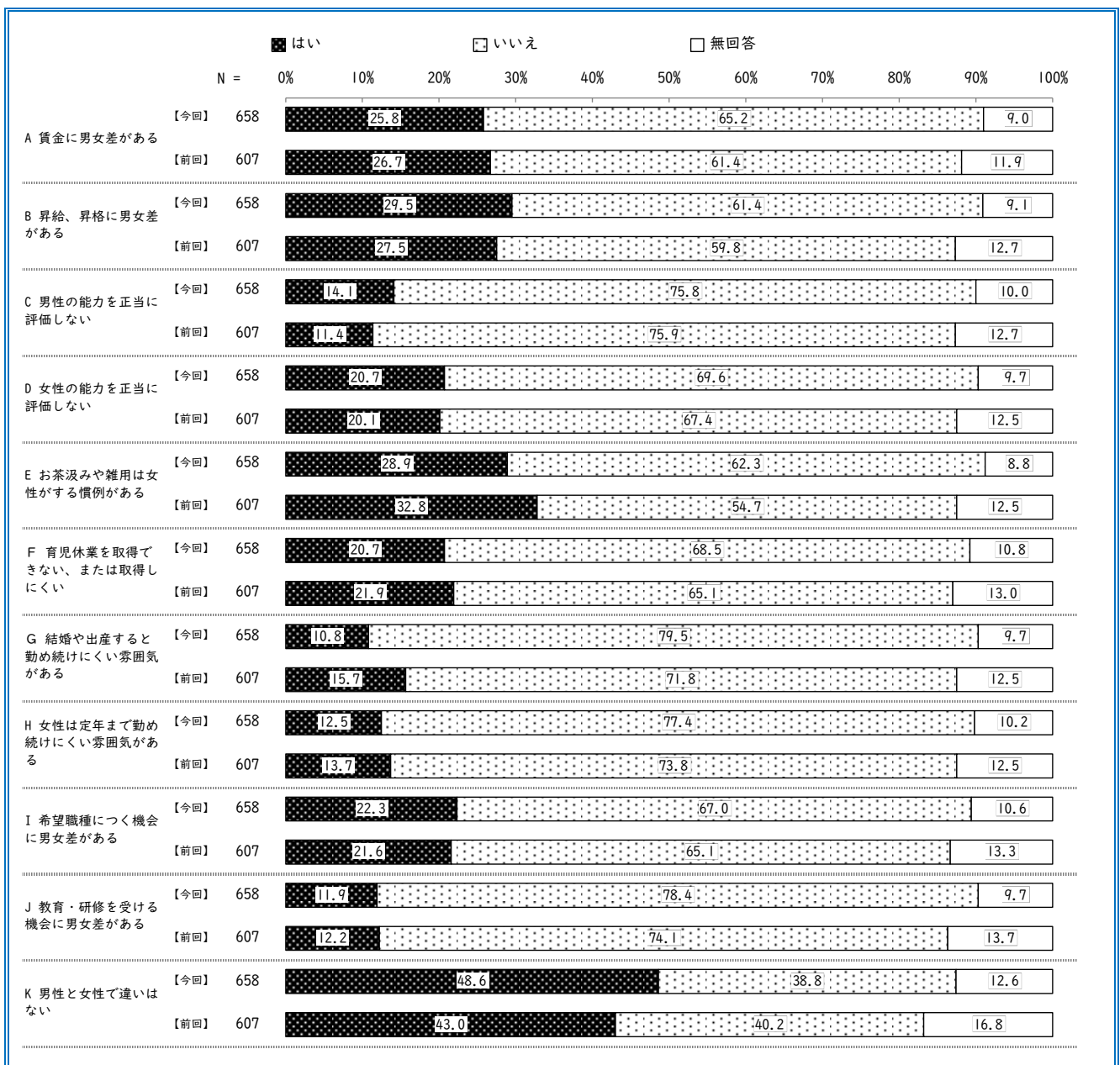
(A～Lの項目ごとにあてはまる方に○をつけてください。)

●項目比較（全体、前回調査比較）

概ね半数の人が「男性と女性で違いはない」と回答

ただし、「昇給、昇格に男女差がある」「お茶汲みや雑用は女性がする慣例がある」が約 3 割

前回調査と比較すると、「はい」と答えた人は、「お茶汲みや雑用は女性がする慣例がある」「結婚や出産すると勤め続けにくい雰囲気がある」など 6 項目で減少した。また、「男性と女性で違いはない」が増加している。

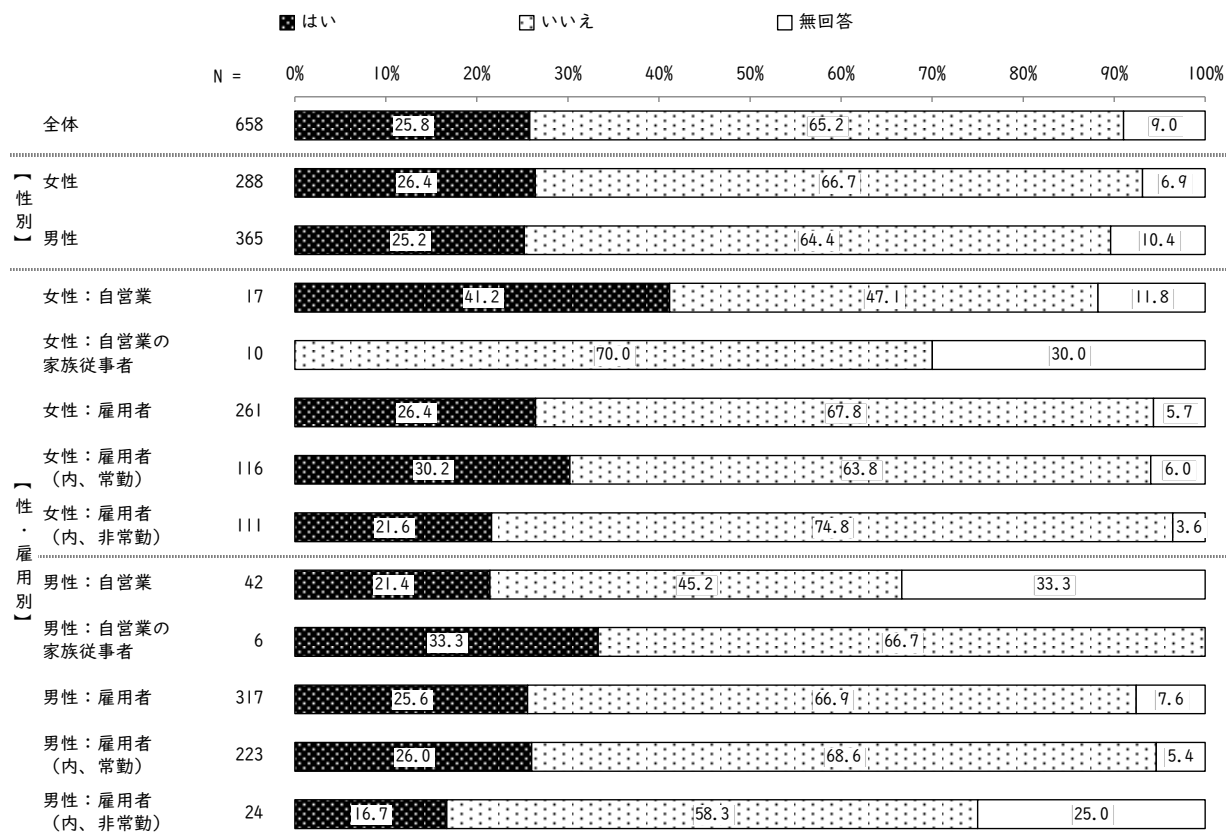


問 10-A 賃金に男女差がある

常勤雇用者を性別で比較すると

女性 30.2% > 男性 26% 4.2 ポイントの開きあり

全体では、「はい」が25.8%、「いいえ」が65.2%となっている。



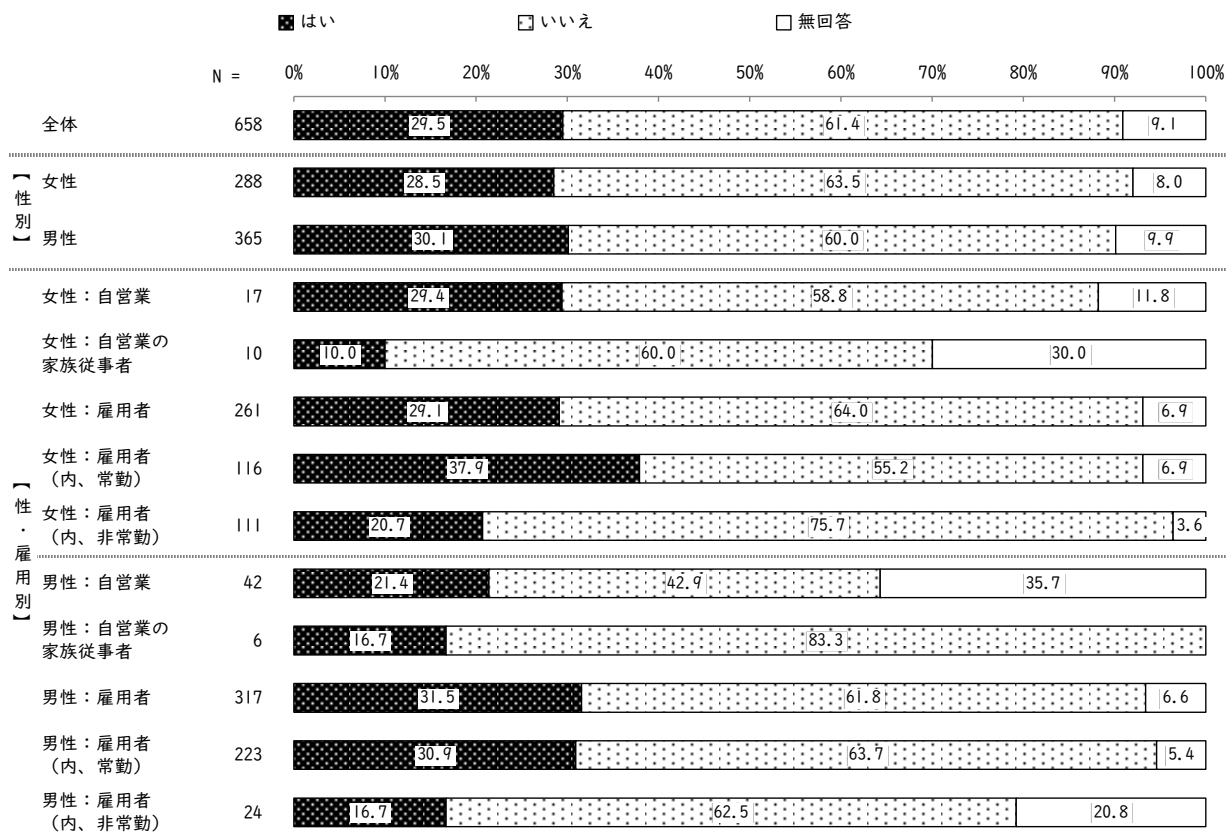
【性別】その他の回答者数はN=4で、「はい」50.0%、「いいえ」50.0%となっています。

問 10-B 昇給、昇格に男女差がある

常勤雇用者を性別で比較すると

女性 37.9% > 男性 30.9% 7ポイントの開きあり

全体では、「はい」が29.5%、「いいえ」が61.4%となっている。



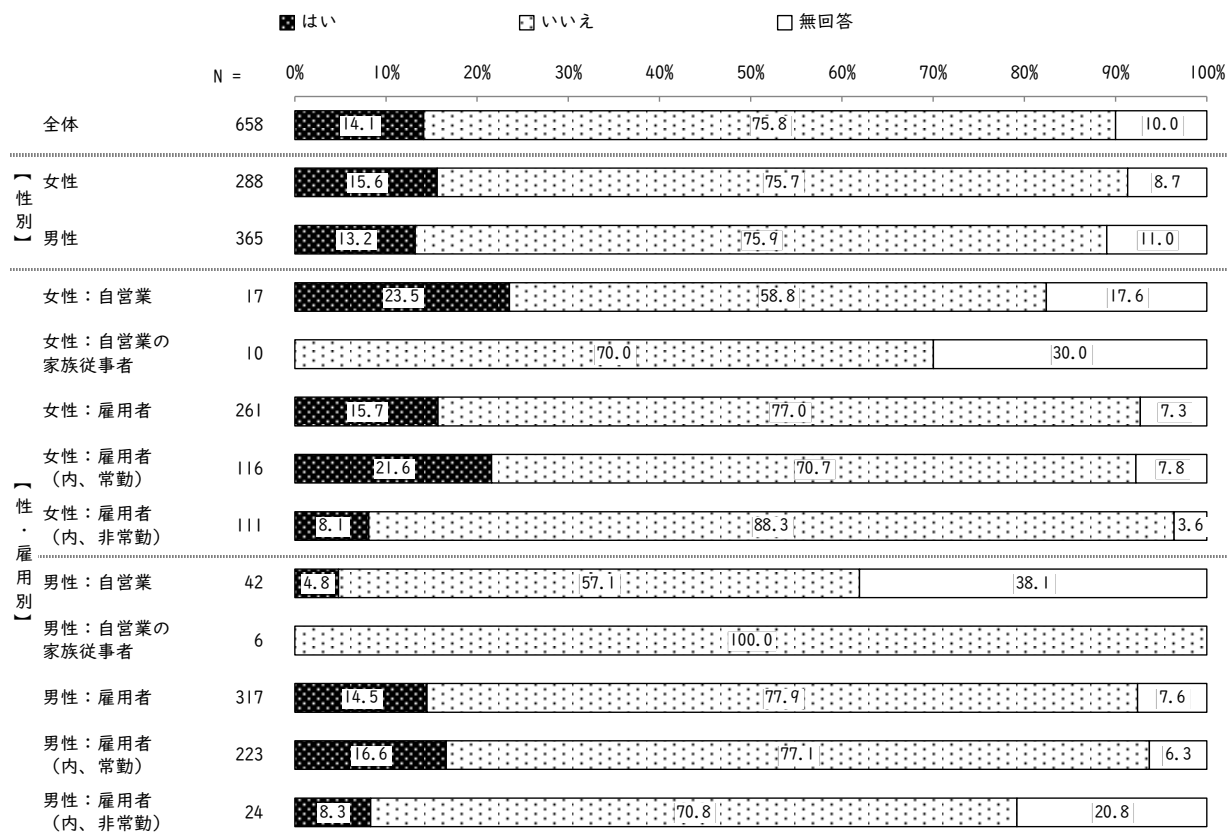
【性別】その他の回答者数はN=4で、「はい」50.0%、「いいえ」50.0%となっています。

問 10-C 男性の能力を正に評価しない

常勤雇用者を性別で比較すると

女性 21.6%>男性 16.6% 5ポイントの開きあり

全体では、「はい」が14.1%、「いいえ」が75.8%となっている。



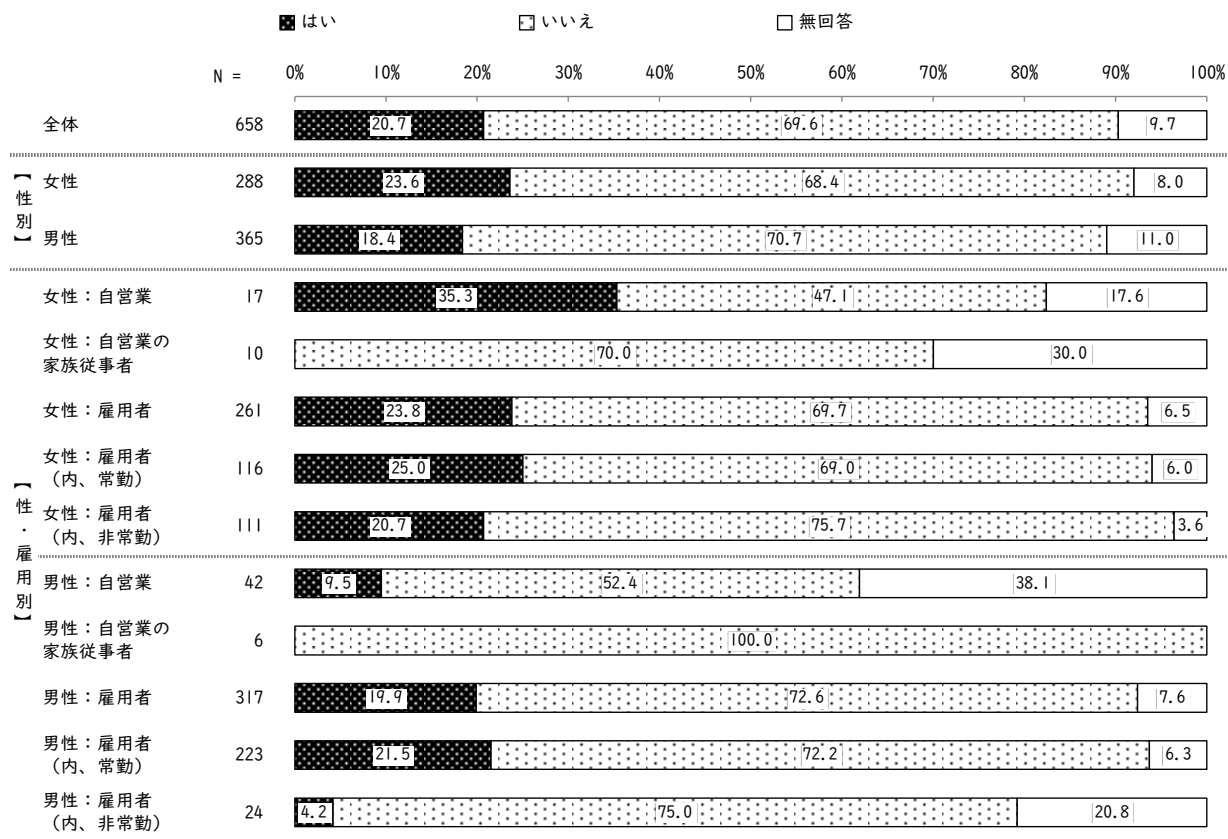
【性別】その他の回答者数はN=4で、「いいえ」100.0%となっています。

問 10 - D 女性の能力を正に評価しない

常勤雇用者を性別で比較すると

女性 25% > 男性 21.5% 3.5 ポイントの開きあり

全体では、「はい」が20.7%、「いいえ」が69.6%となっている。



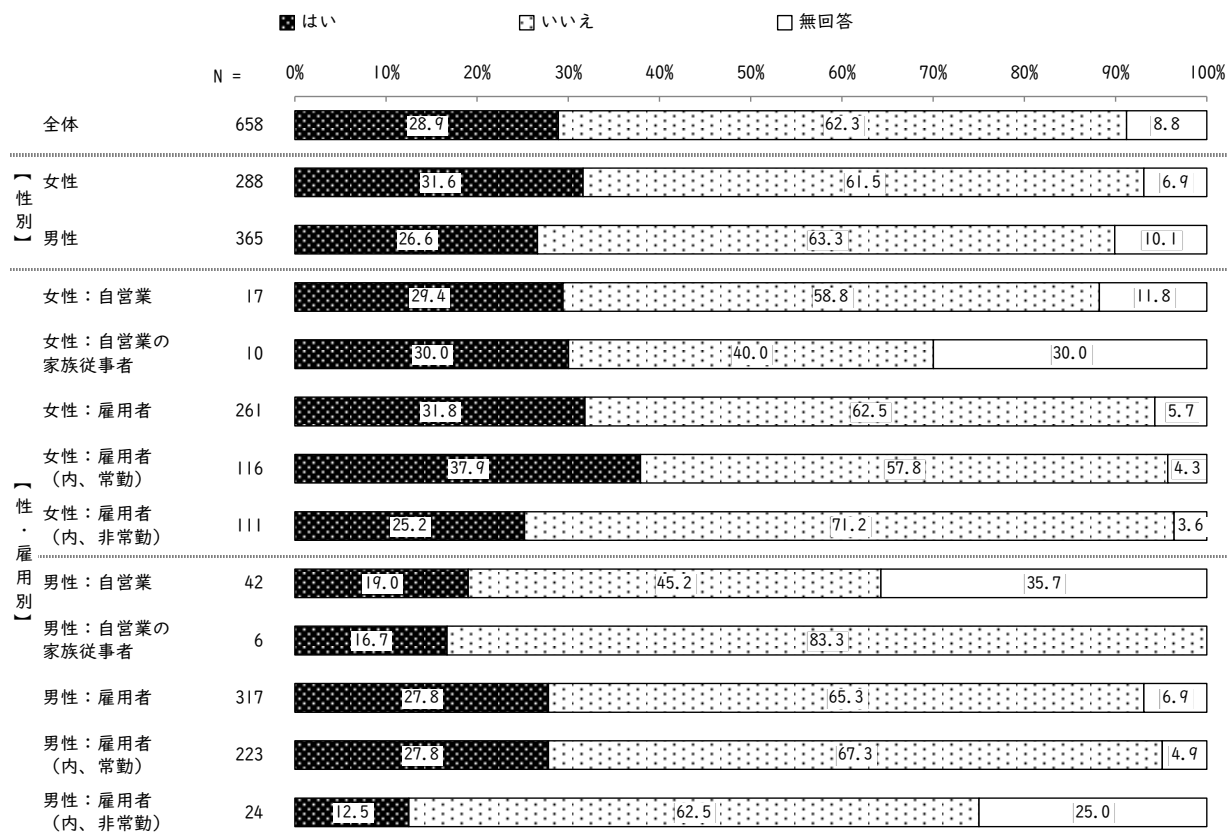
【性別】その他の回答者数はN=4で、「はい」25.0%、「いいえ」75.0%となっています。

問 10-E お茶汲みや雑用は女性がする慣例がある

常勤雇用者を性別で比較すると

女性 37.9% > 男性 27.8% 10.1 ポイントの開きあり

全体では、「はい」が28.9%、「いいえ」が62.3%となっている。



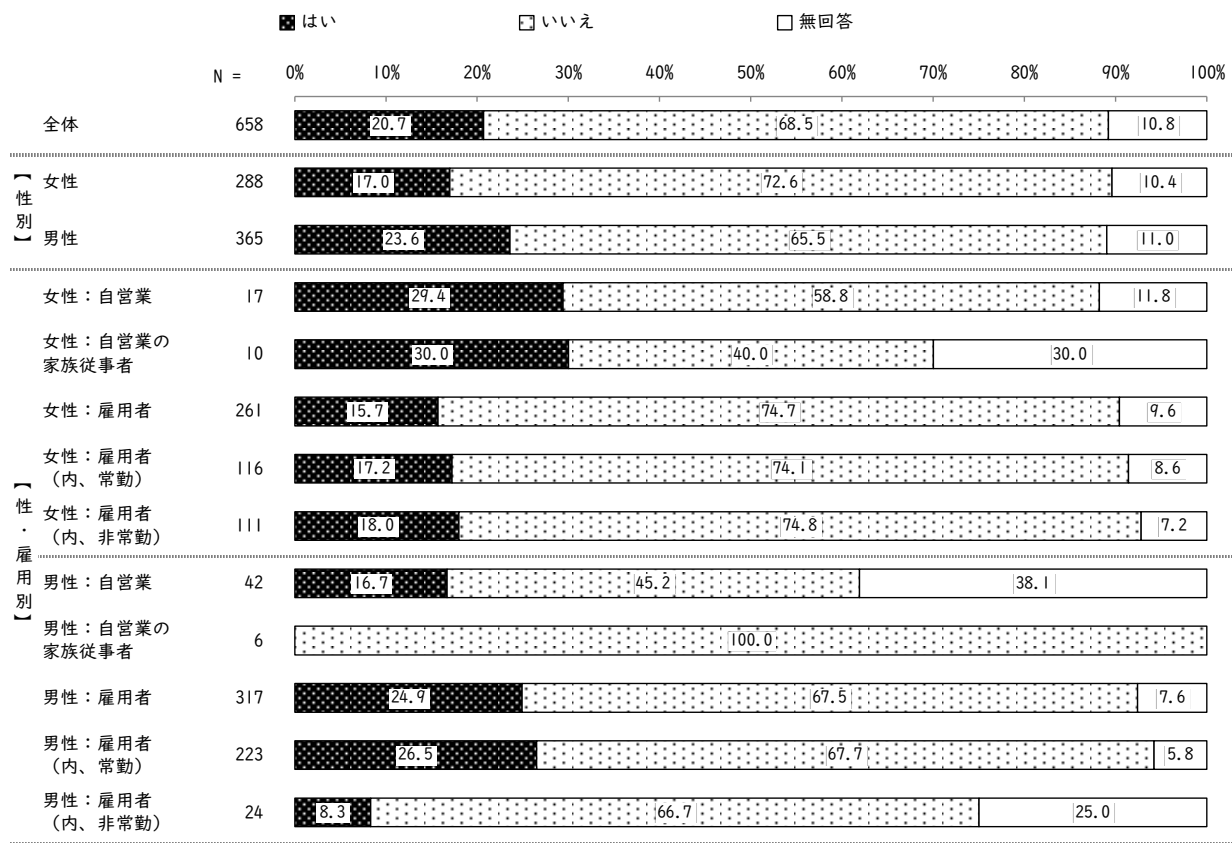
【性別】その他の回答者数はN=4で、「はい」50.0%、「いいえ」50.0%となっています。

問 10-F 育児休業を取得できない、または取得しにくい

常勤雇用者を性別で比較すると

女性 17.2%＜男性 26.5% 9.3 ポイントの開きあり

全体では、「はい」が20.7%、「いいえ」が68.5%となっている。



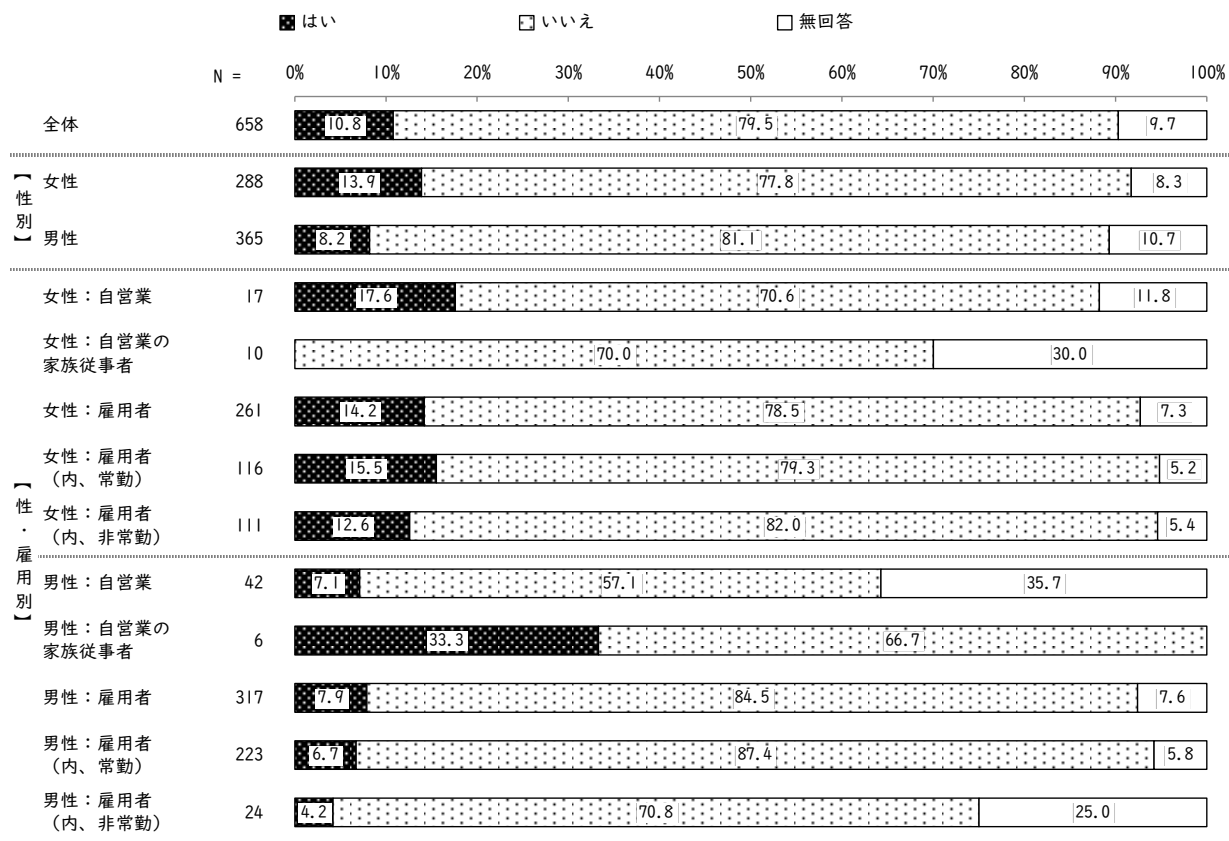
【性別】その他の回答者数はN=4で、「はい」25.0%、「いいえ」75.0%となっています。

問 10-G 結婚や出産すると勤め続けにくい雰囲気がある

常勤雇用者を性別で比較すると

女性 15.5% > 男性 6.7% 8.8ポイントの開きあり

全体では、「はい」が10.8%、「いいえ」が79.5%となっている。



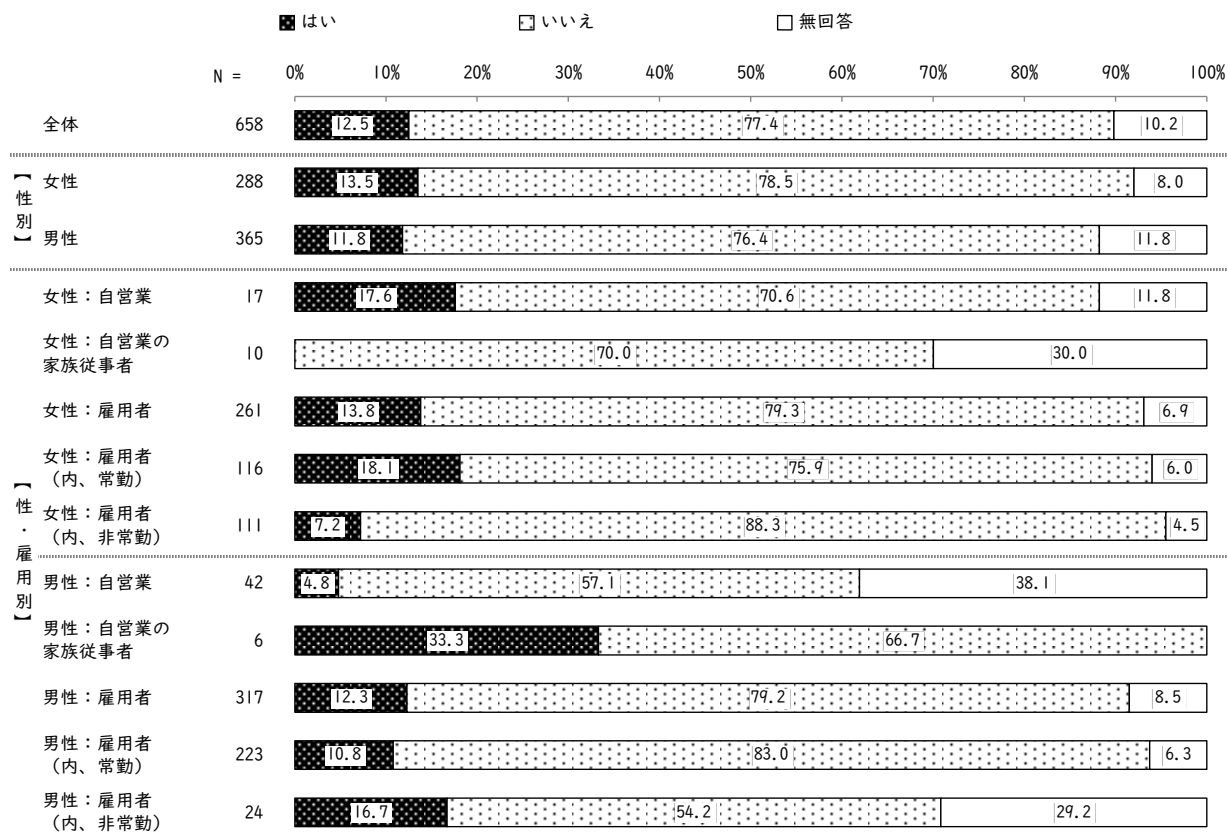
【性別】その他の回答者数はN=4で、「はい」25.0%、「いいえ」75.0%となっています。

問 10-H 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある

常勤雇用者を性別で比較すると

女性 18.1% > 男性 10.8% 7.3 ポイントの開きあり

全体では、「はい」が12.5%、「いいえ」が77.4%となっている。



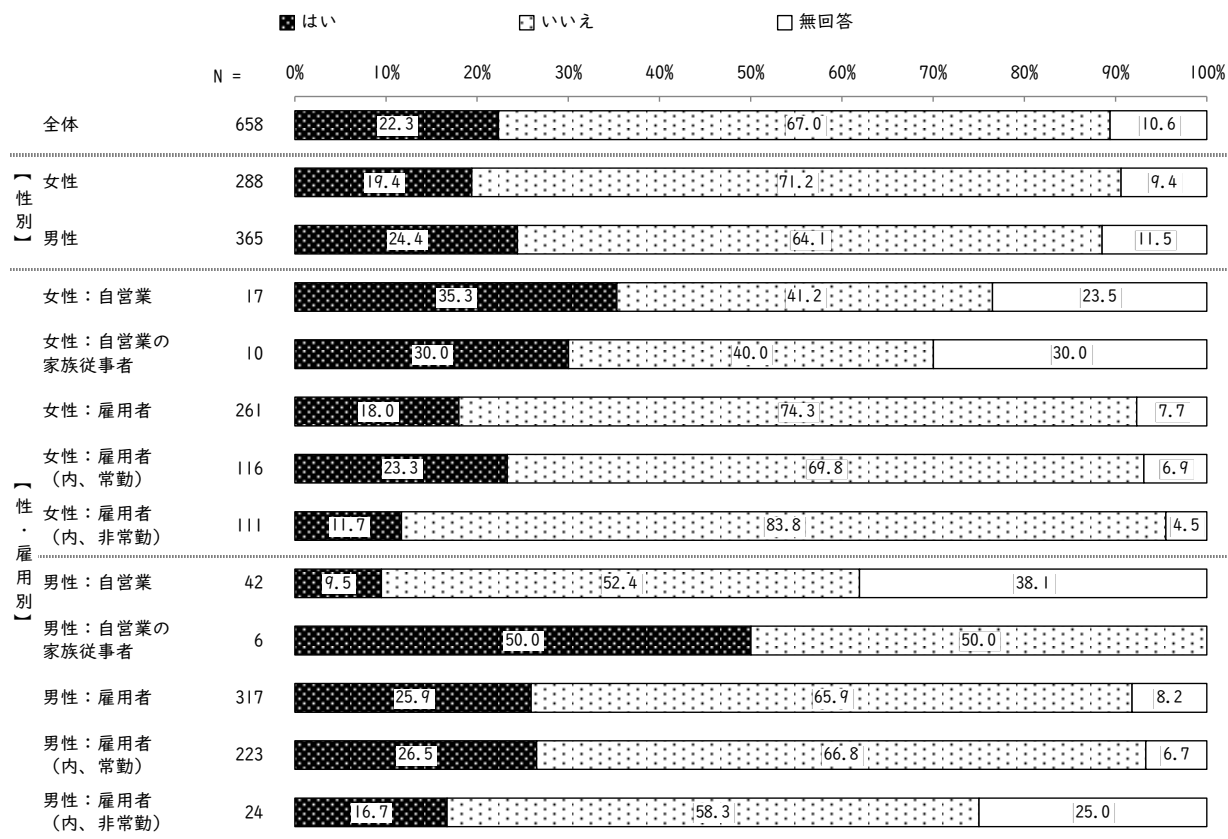
【性別】その他の回答者数はN=4で、「いいえ」100.0%となっています。

問 10-I 希望職種につく機会に男女差がある

常勤雇用者を性別で比較すると

女性 23.3%＜男性 26.5% 3.2 ポイントの開きあり

全体では、「はい」が22.3%、「いいえ」が67.0%となっている。



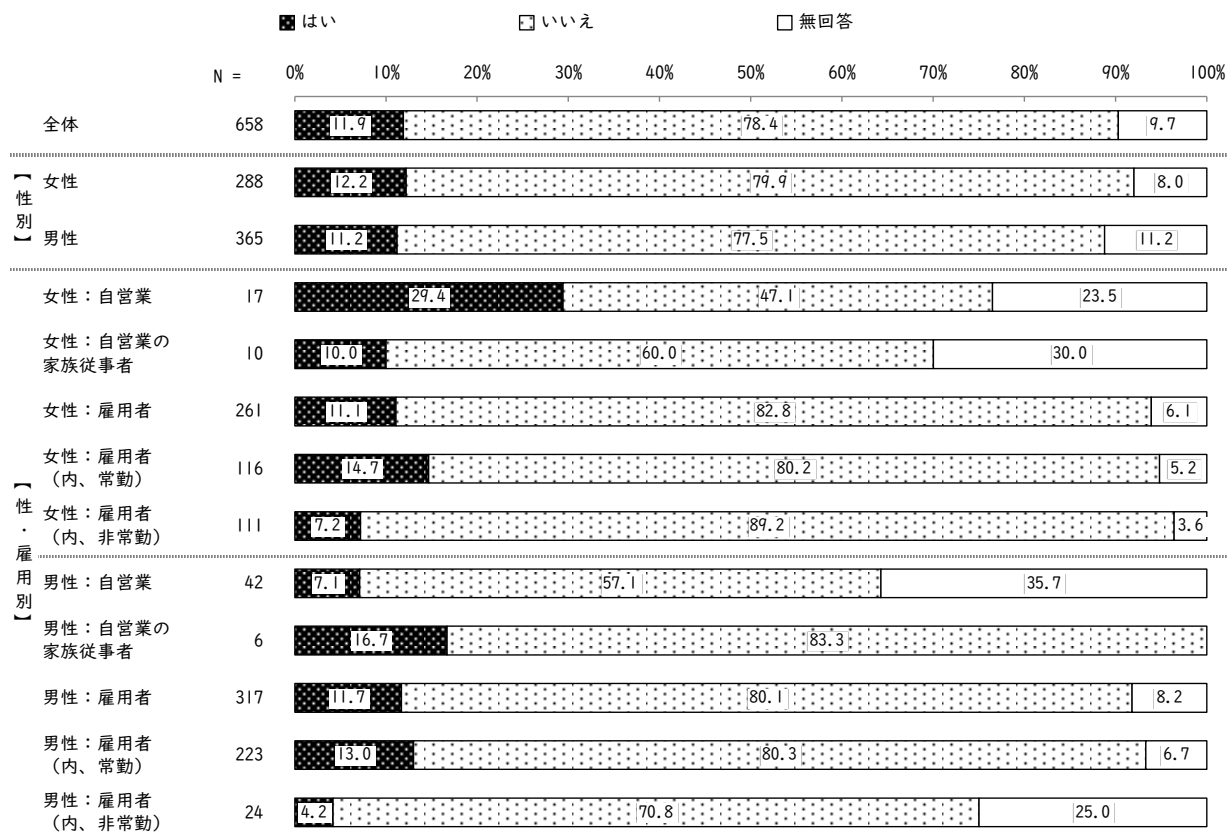
【性別】その他の回答者数はN=4で、「はい」50.0%、「いいえ」50.0%となっています。

問 10-J 教育・研修を受ける機会に男女差がある

常勤雇用者を性別で比較すると

女性 14.7% > 男性 13% 1.7 ポイントの開きあり

全体では、「はい」が11.9%、「いいえ」が78.4%となっている。



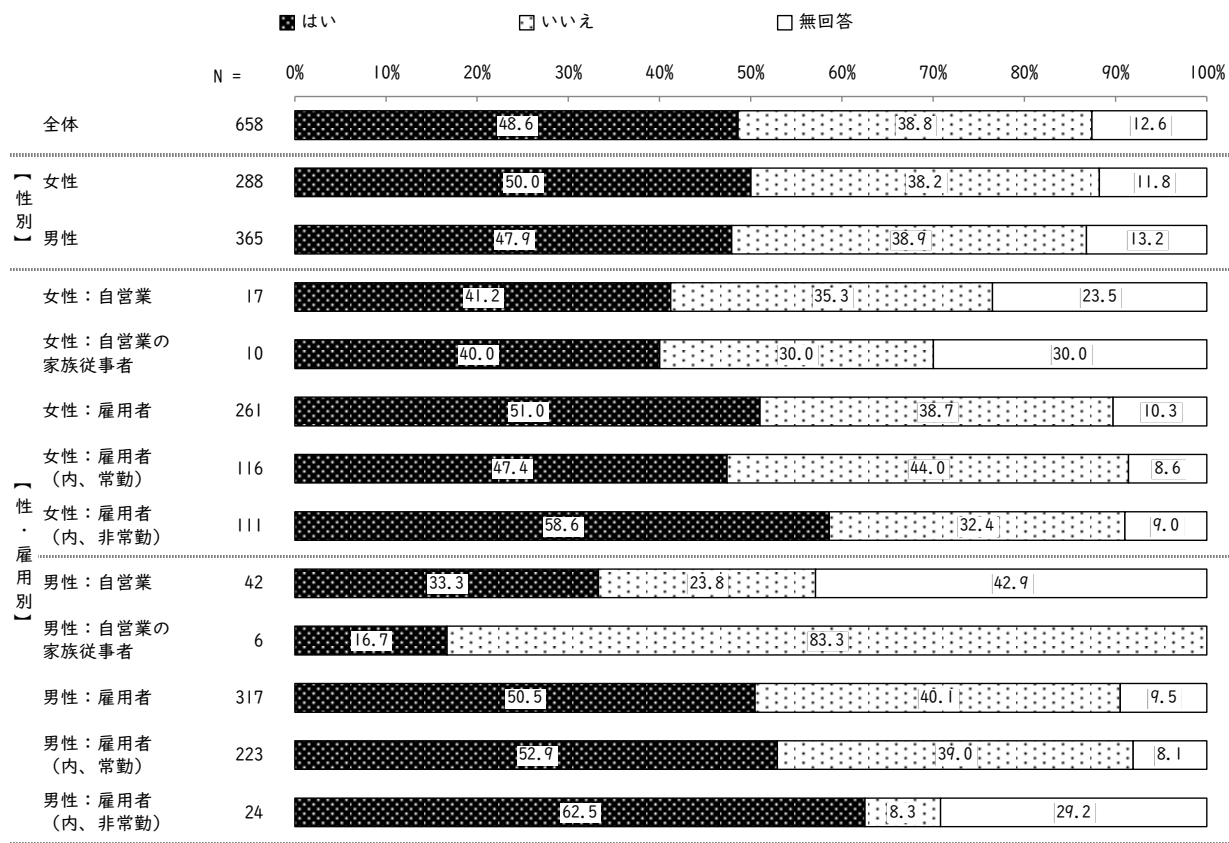
【性別】その他の回答者数はN=4で、「はい」25.0%、「いいえ」75.0%となっています。

問 10-K 男性と女性で違いはない

常勤雇用者を性別で比較すると

女性 47.4%＜男性 52.9% 5.5 ポイントの開きあり

全体では、「はい」が48.6%、「いいえ」が38.8%となっている。



【性別】その他の回答者数はN=4で、「はい」25.0%、「いいえ」75.0%となっています。

※現在、就業していない方

【問 11】今後の就業希望

今後、就業したいと思いますか。

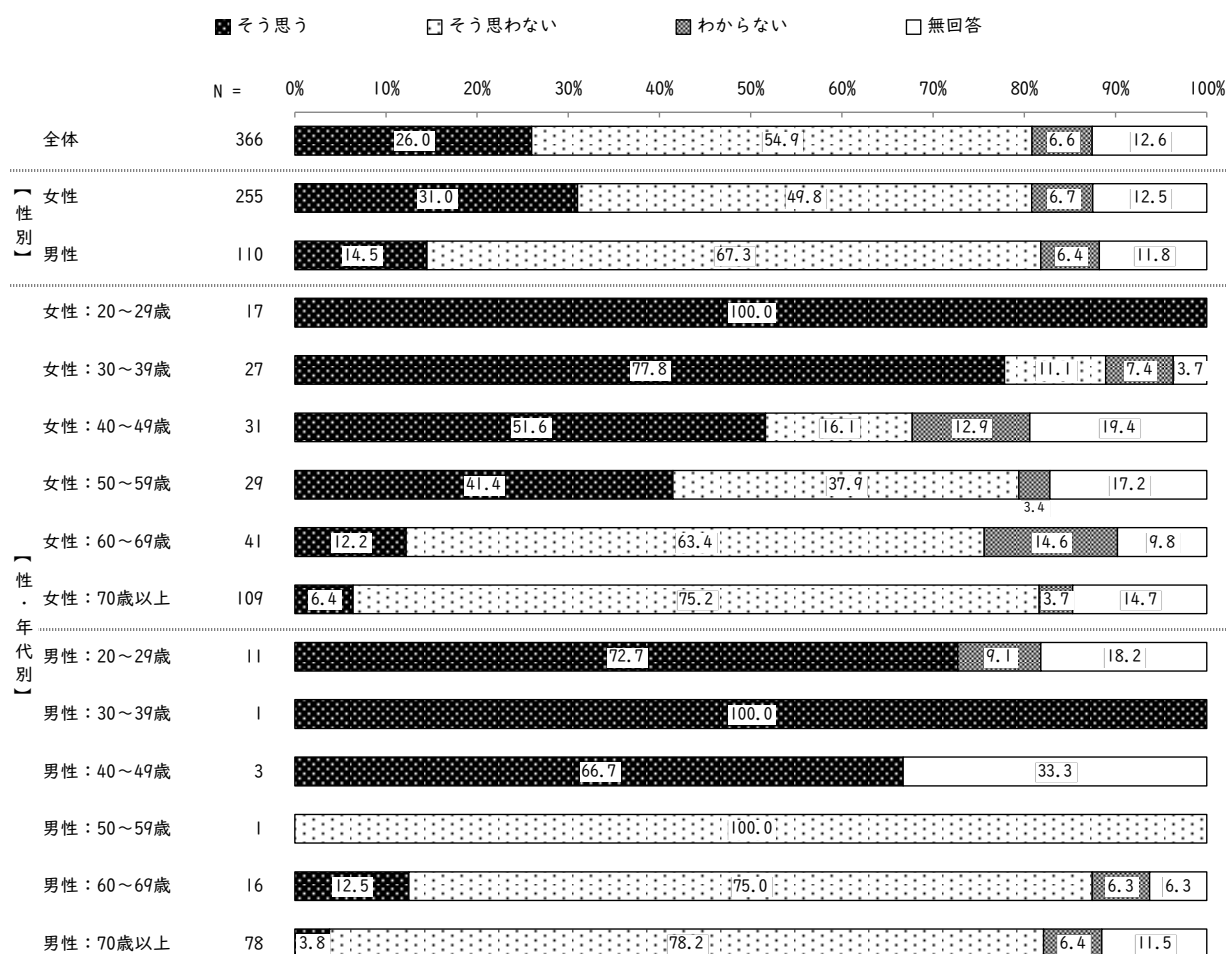
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、性別、性・年代別）

就業意向のある人 女性 31%、男性 14.5%

女性は若いほど就業意向が高い

全体では、「そう思わない」が54.9%と最も高く、次いで「そう思う」(26.0%)の順となっている。



※今後、就業希望の方

【問 12】希望の就業形態

どのような形で働きたいと考えていますか。

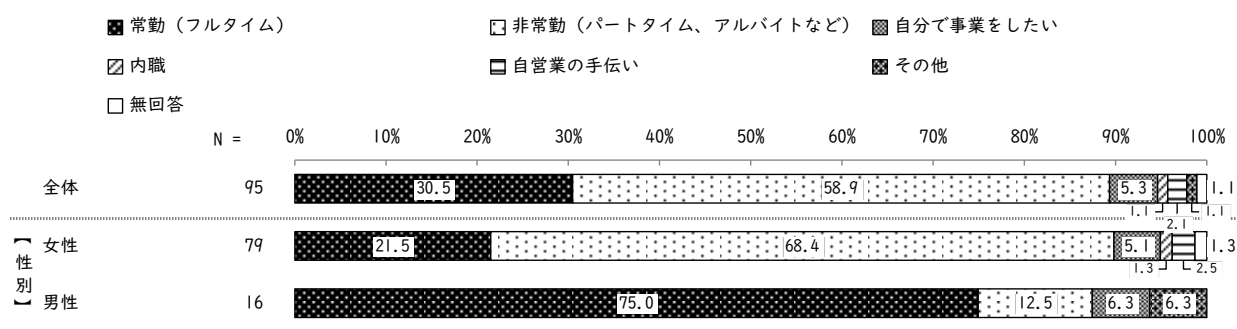
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、性別）

女性は「非常勤（パートタイム、アルバイトなど）」希望が最も高い

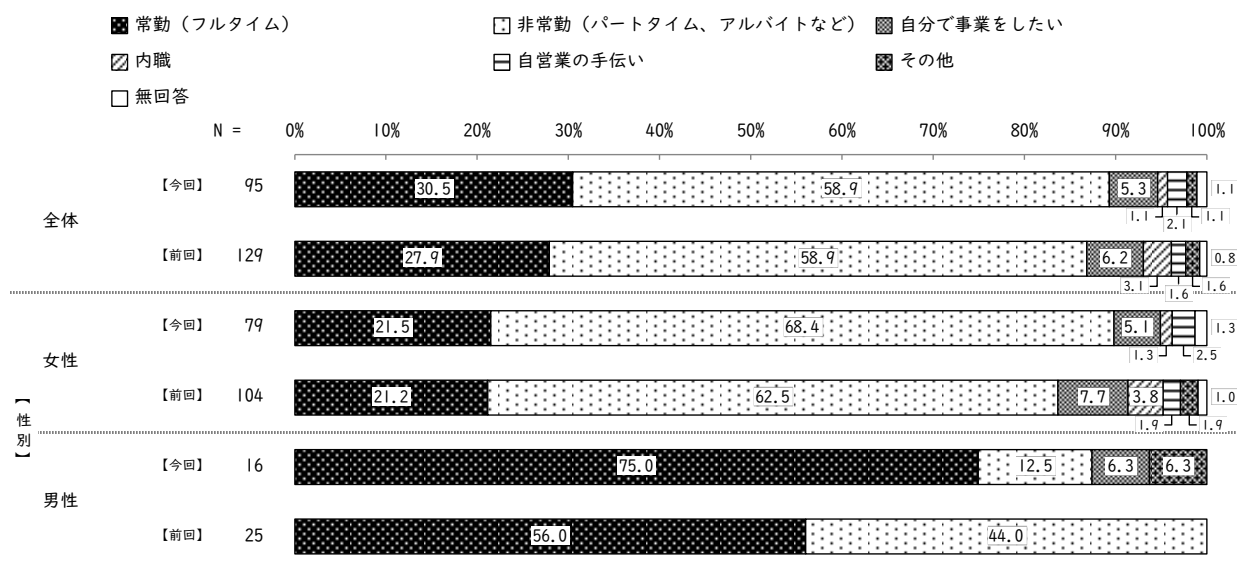
男性は「常勤（フルタイム）」希望が最も高い

【性別】で比較すると、女性では「非常勤（パートタイム、アルバイトなど）」が68.4%、男性では「常勤（フルタイム）」が75.0%となっている。



●項目比較（前回調査比較）

前回調査と比較すると、男性で「常勤（フルタイム）」の割合が前回より高くなったが、概ね前回同様である。



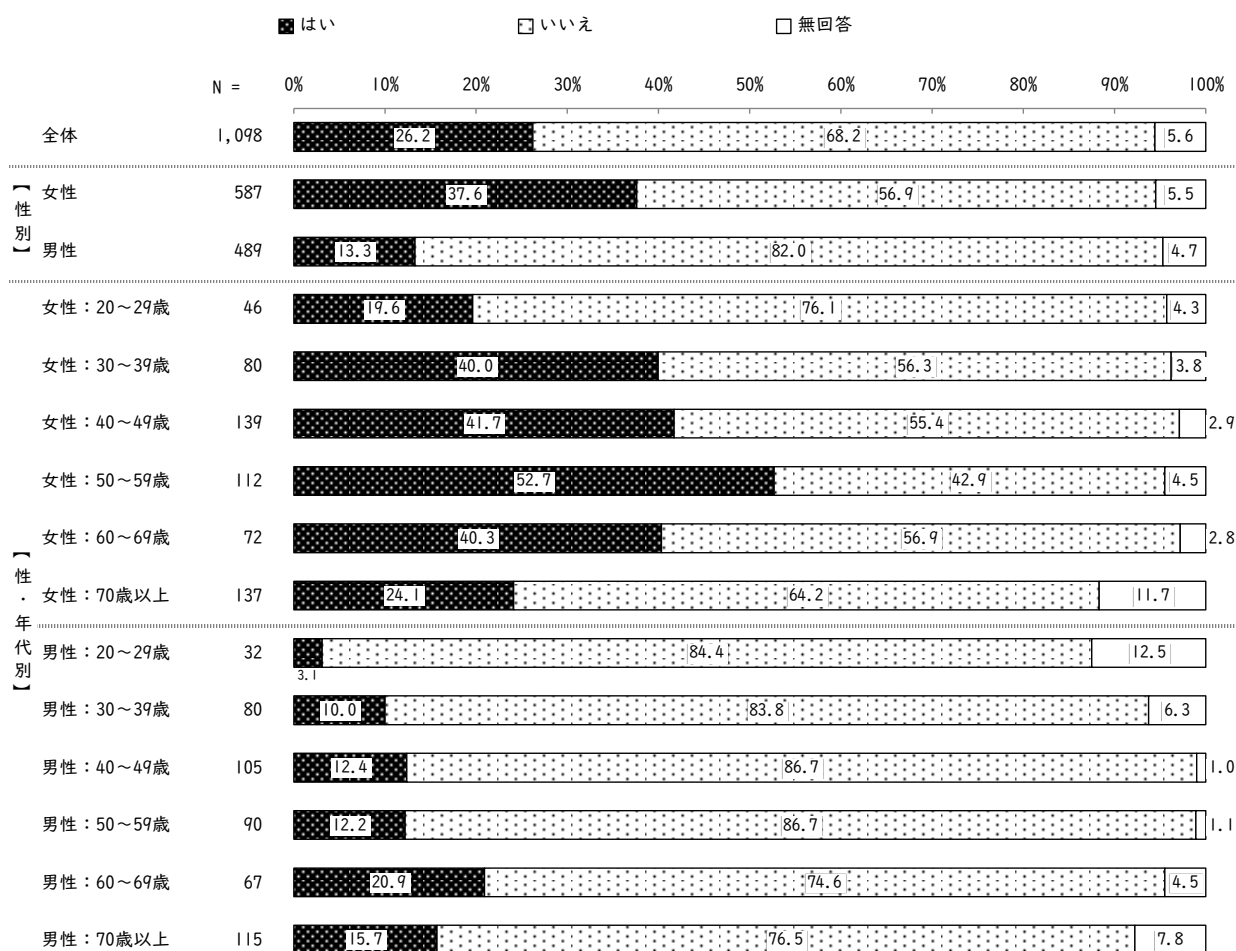
【問 13】働くことができなかった経験の有無

あなたは、これまで（現在を含む）働き続けたいけれど、働くことができなかったことがありますか。
（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

●項目比較（全体、性別、性・年代別）

「働くことができなかった経験」のある人は女性の約4割

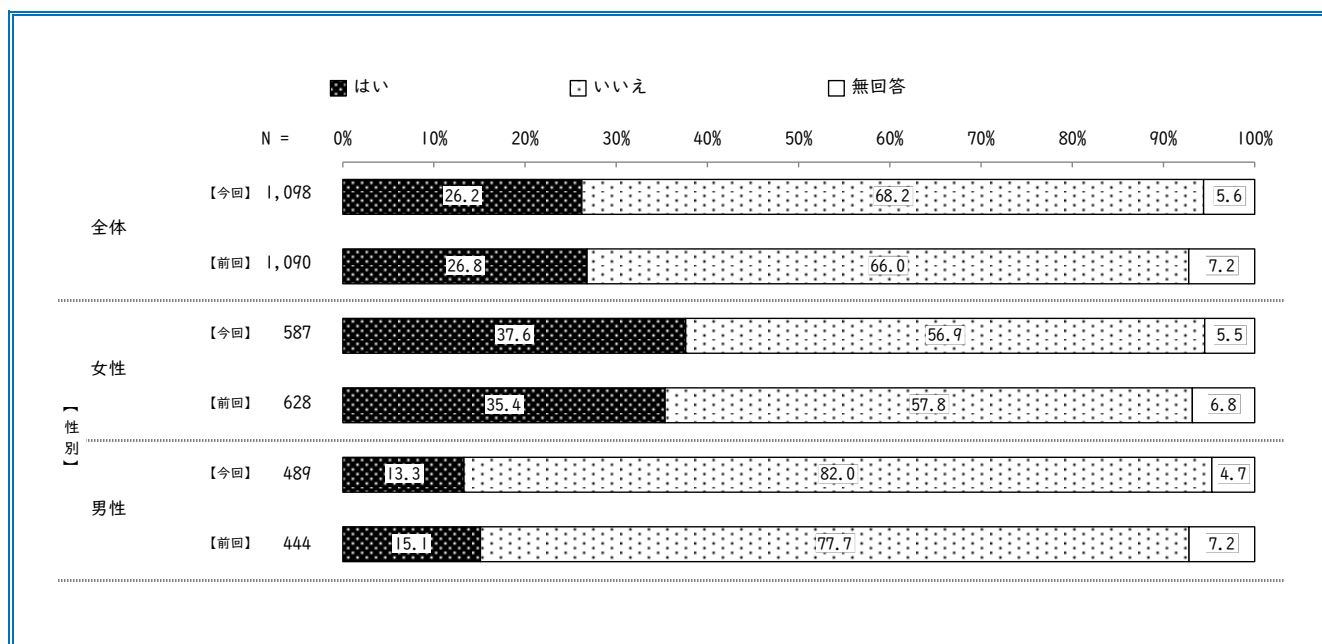
【性別】で比較すると、「はい」と答えた人は、女性で37.6%、男性で13.3%となっている。
【性・年代別】で比較すると、「はい」と答えた人が、「女性の50歳代」で半数を超えている。



【性別】その他の回答者数はN = 5で、「はい」40.0%、「いいえ」60.0%となっています。

●項目比較（前回調査比較）

前回調査と比較すると、今回も前回同様であり、大きな変化はみられない。



※働きたいけれど働くことができなかった方

【問 14】働けない理由

働きたいけれど働くことができなかったのは、なぜですか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、性別、性・年代別）

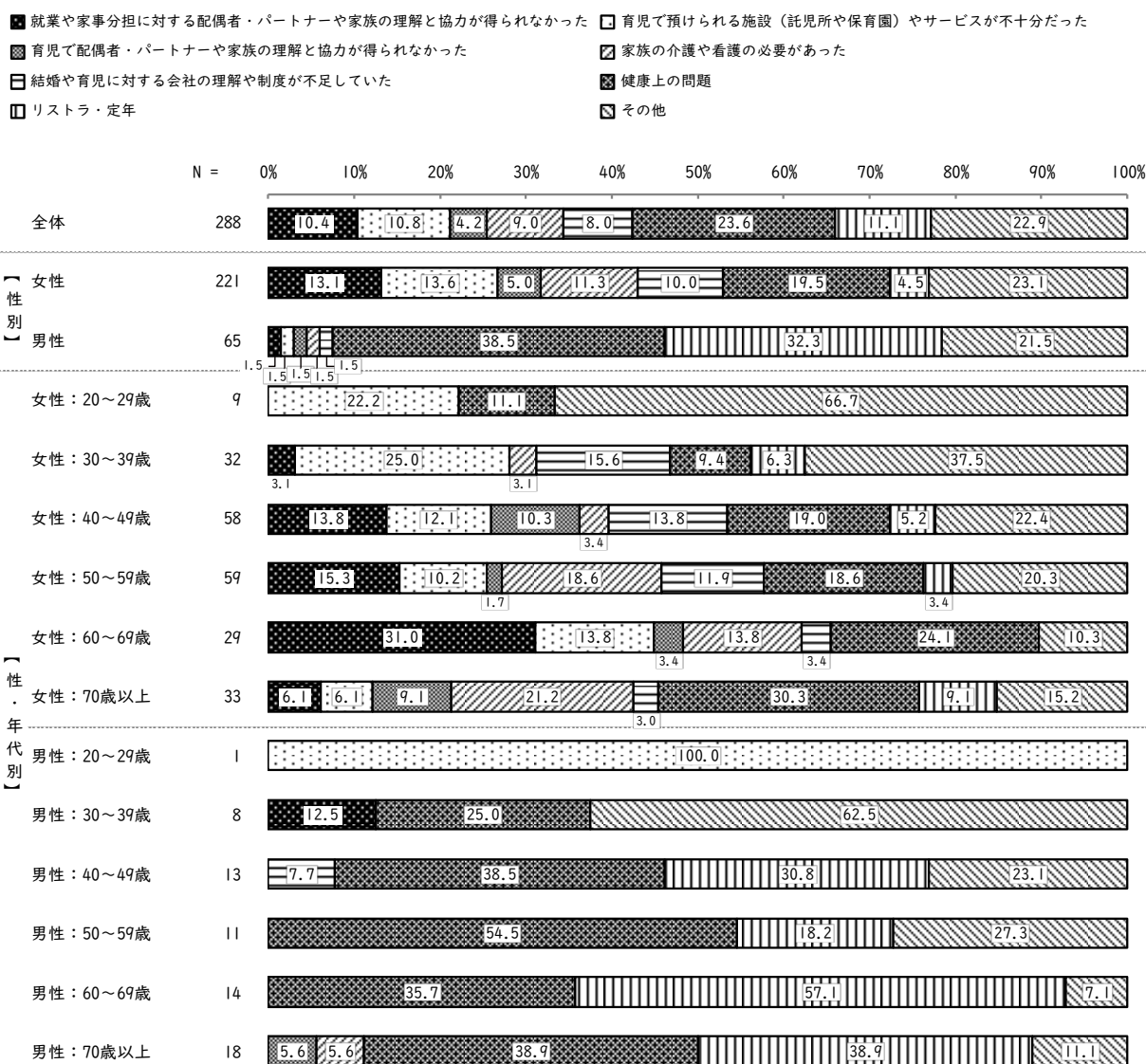
女性の働けない理由はさまざま

男性の理由は「健康上の問題」と「リストラ・定年」で約 7 割

全体では、「健康上の問題」が 23.6%と最も高く、次いで「リストラ・定年」(11.1%)、「育児で預けられる施設（託児所や保育園）やサービスが不十分だった」(10.8%)の順となっている。

【性別】で比較すると、女性は、「健康上の問題」が 19.5%、「育児で預けられる施設やサービスが不十分だった」が 13.6%、「就業や家事分担に対する配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった」が 13.1%と続く。

男性は、「健康上の問題」が 38.5%、「リストラ・定年」が 32.3%となっている。

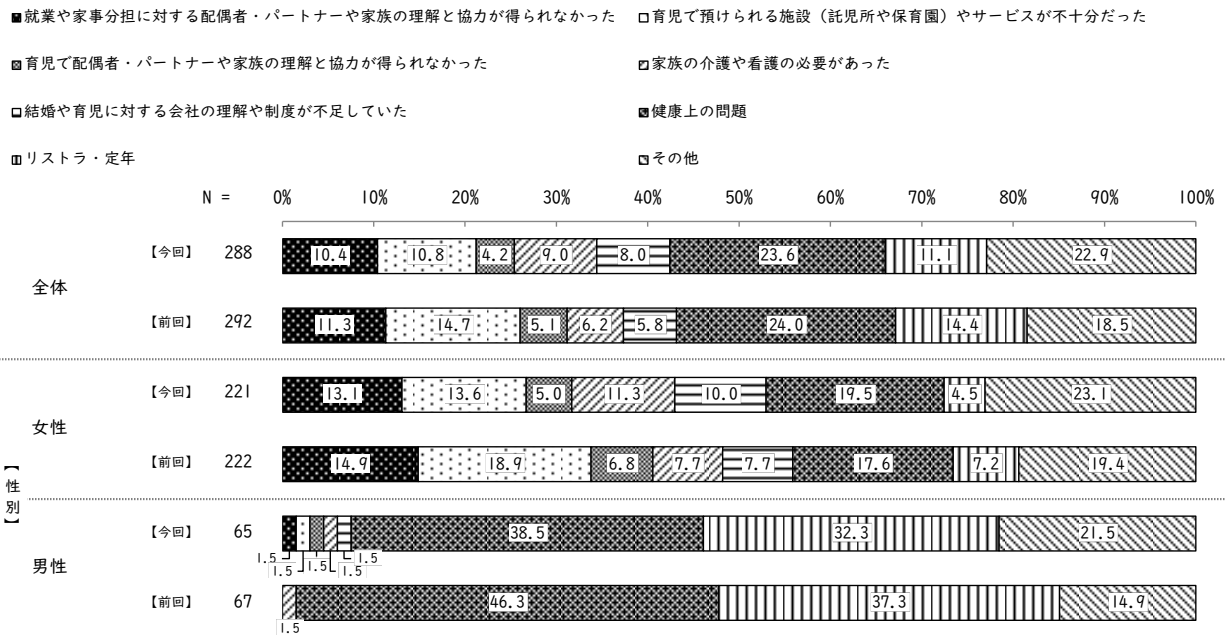


【性別】その他の回答者数はN = 2で、「リストラ・定年」50.0%、「その他」50.0%となっています。

●項目比較（前回調査比較）

前回調査と比較して、増加した項目は「家族の介護や看護の必要があった」「結婚や育児に対する会社の理解や制度が不足していた」となっている。

「育児で預けられる施設（託児所や保育園）やサービスが不十分だった」は減少している。



※現在、就業している方及び以前就業していた方

【問 15】育児・介護関連休暇制度の利用状況

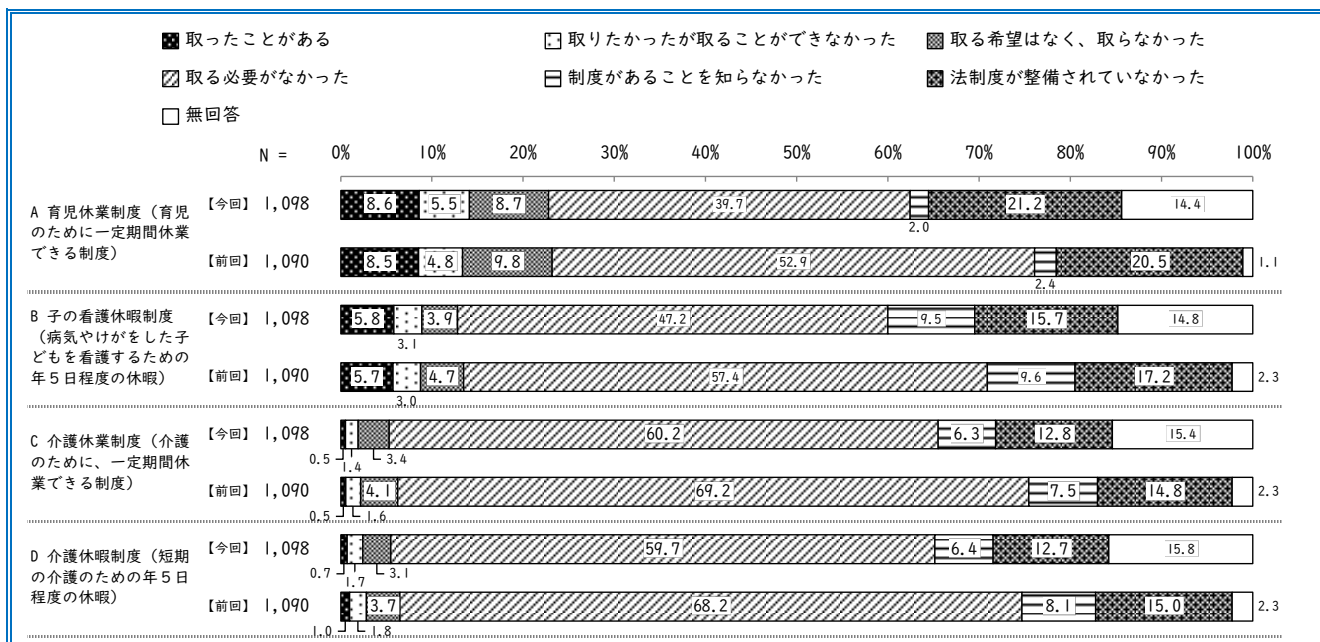
あなたは、職場で以下のような制度を使って休業や休暇を取ったことがありますか。

(A～Dの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、前回調査比較）

前回調査と比較して、大きな変化はなかった

「子の看護休暇制度」で 9.5%の人が、制度があることを知らなかったと答えており、育児休業制度に比べて、制度自体を知らない割合が高くなっている。



※休業や休暇を取らなかった、または取りたかったが取ることができなかった方

【問16】休暇制度を利用しなかった理由

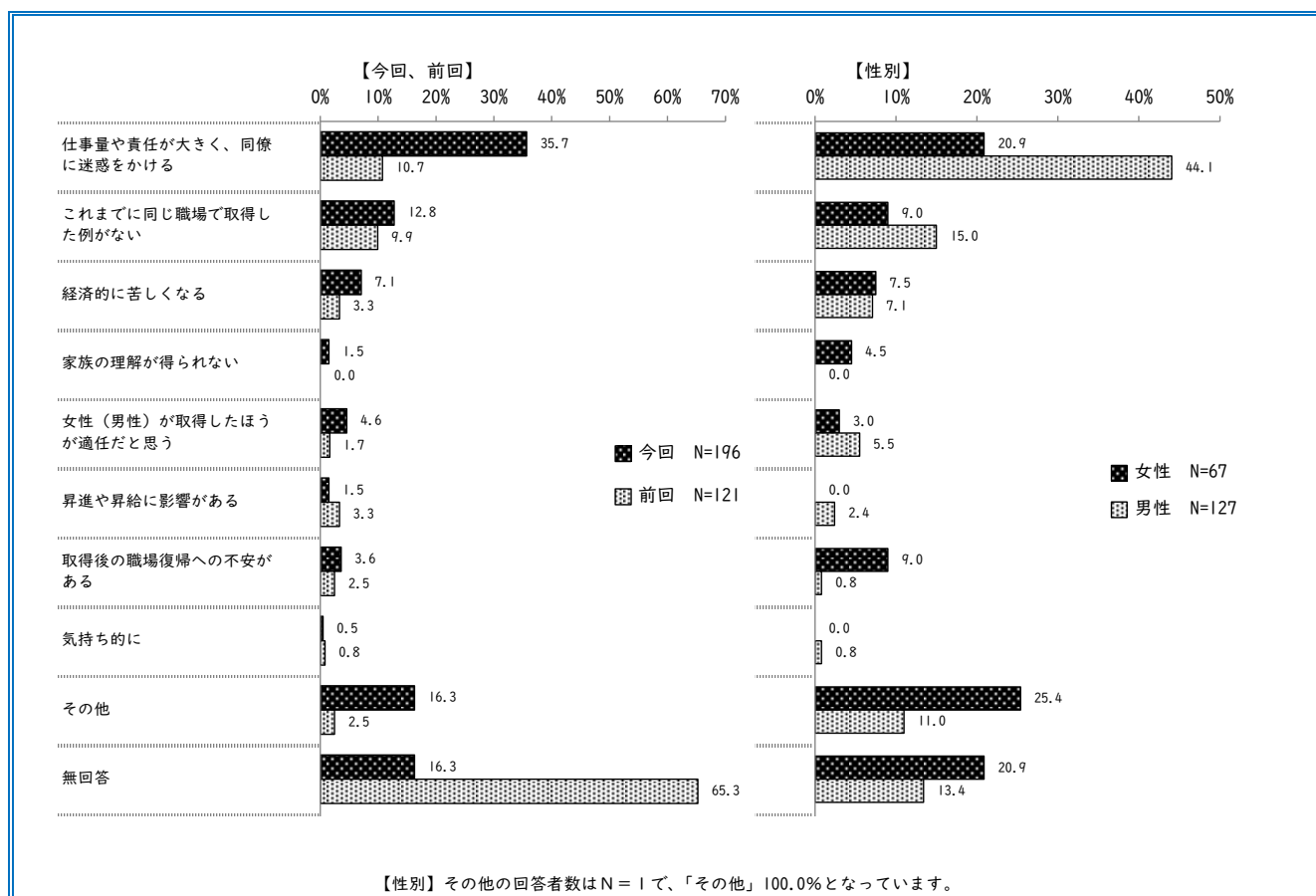
あなたが、育児・介護休業などの制度を使って休業や休暇を取らなかったのは、なぜですか。
(特に主たる理由1つに◎、あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

●項目比較（特に主たる理由／全体、前回調査比較、性別）

「仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける」が最も高い

全体では、「仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける」が35.7%と最も高く、次いで「これまでに同じ職場で取得した例がない」(12.8%)、「経済的に苦しくなる」(7.1%)の順となっている。

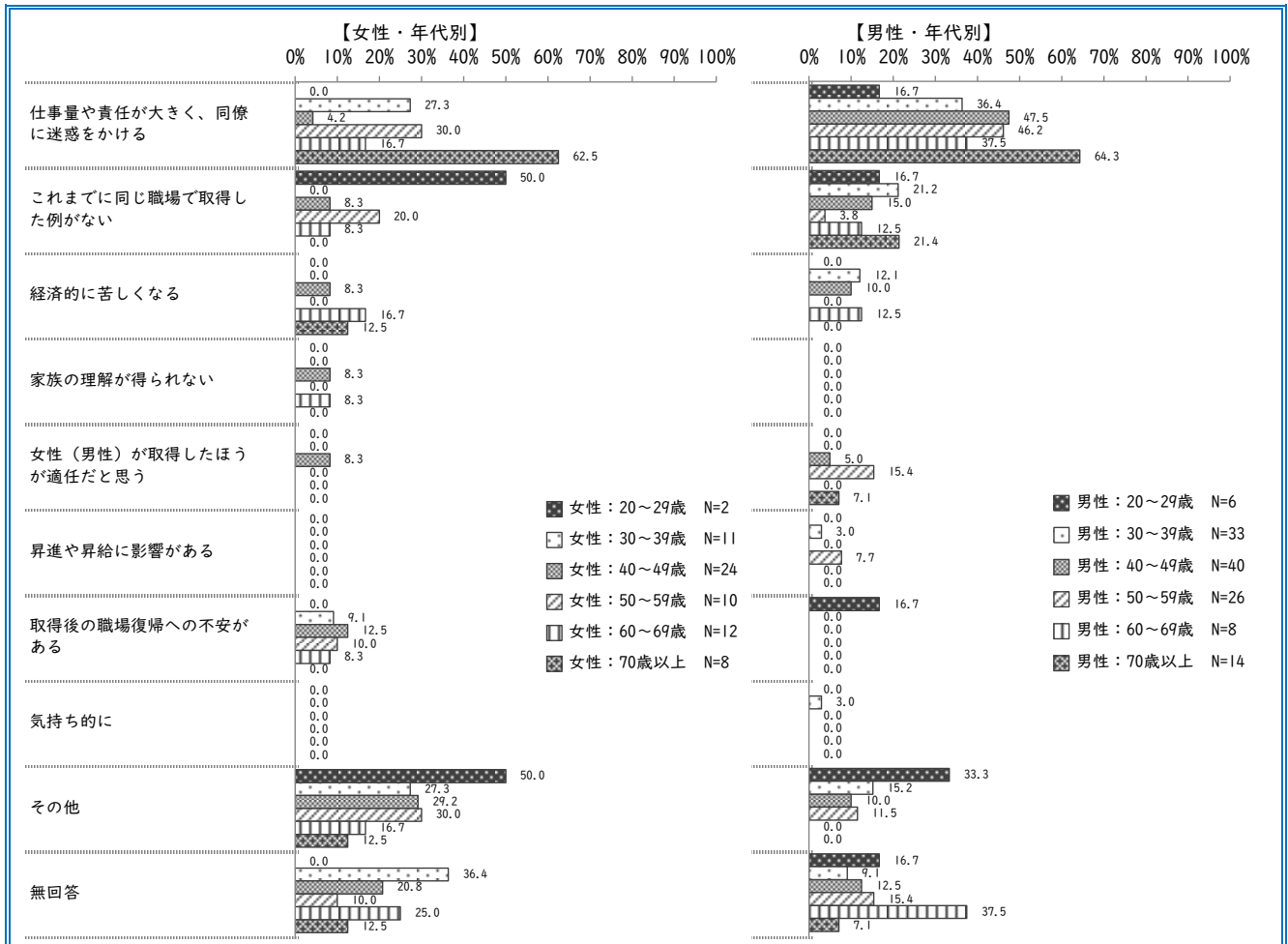
【性別】で比較すると、「仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける」、「これまでに同じ職場で取得した例がない」では男性が高く、「取得後の職場復帰への不安がある」では女性が高くなっている。



※無回答数が前回より減少しているのは、調査票の回答記載方法を変更したため。

●項目比較（特に主たる理由／性・年代別）

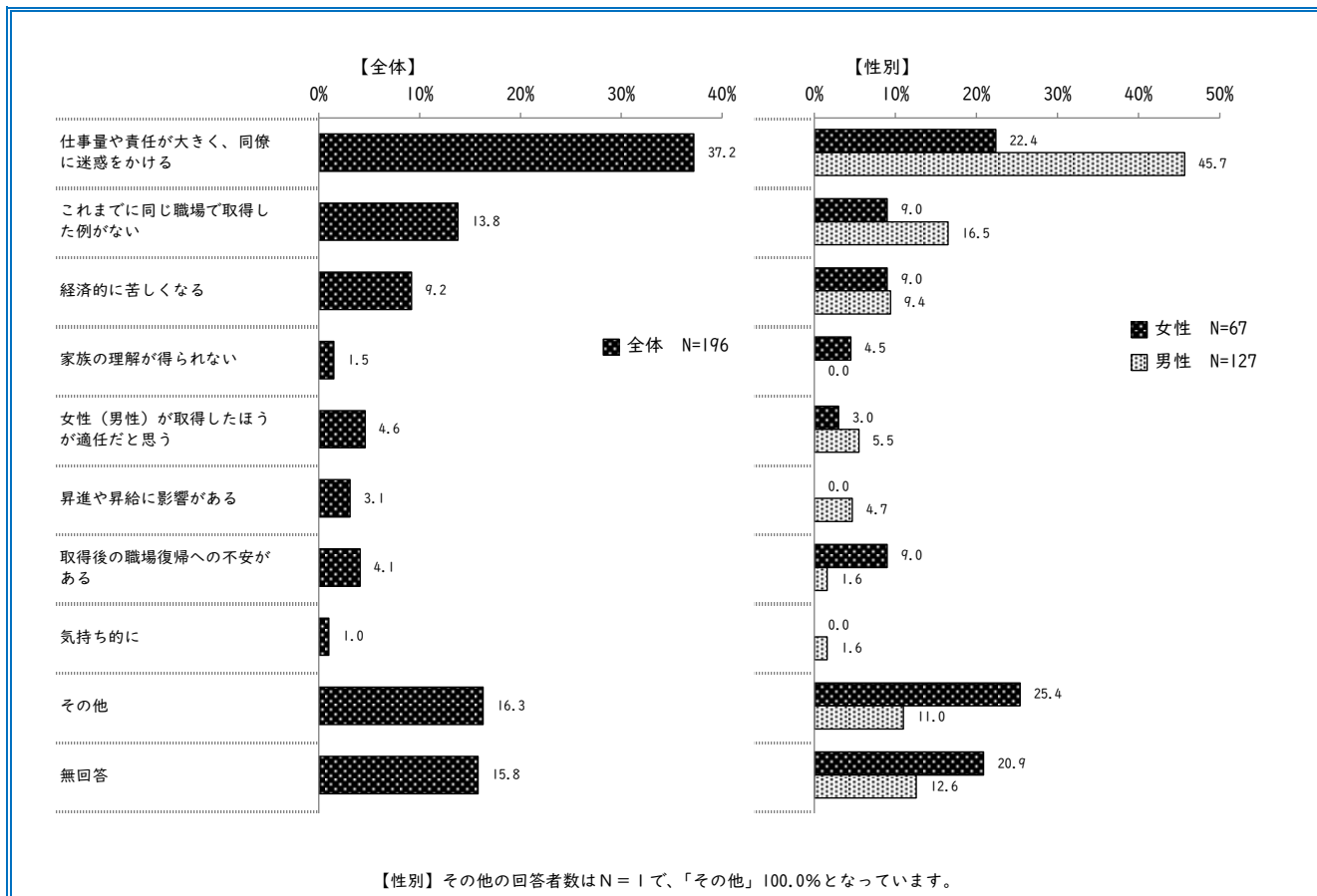
【性・年代別】で比較すると、「仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける」と答えた人は、「男性の70歳以上」で64.3%、「女性の70歳以上」で62.5%、「男性の40歳代」で47.5%、「男性の50歳代」で46.2%、「男性の60歳代」で37.5%となっている。



●項目比較（あてはまるものすべて／全体、性別）

「仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける」が37.2%と最も高く、次いで「これまでに同じ職場で取得した例がない」（13.8%）、「経済的に苦しくなる」（9.2%）の順となっている。

【性別】で比較すると、「仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける」「これまでに同じ職場で取得した例がない」では男性が高く、「取得後の職場復帰への不安がある」では女性が高くなっている。



【問 17】「性」に関する言葉について

あなたは、「性」に関する以下の言葉の内容について知っていますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

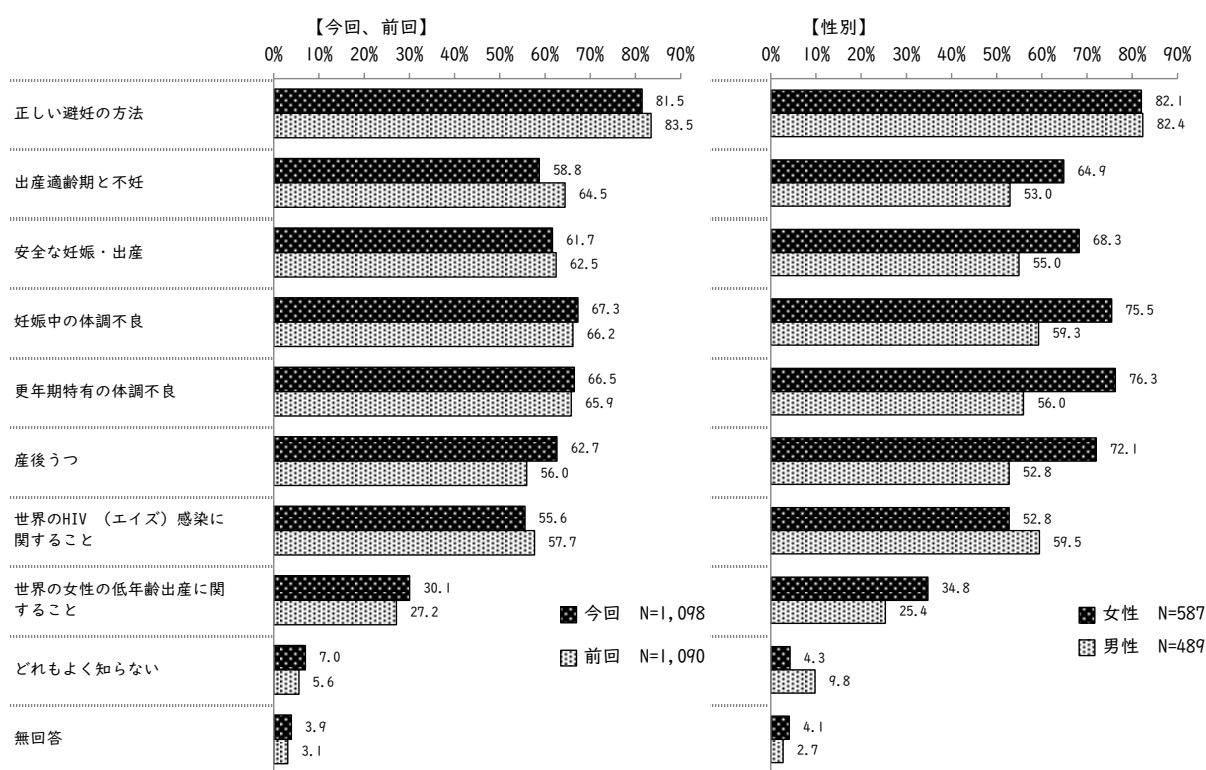
●項目比較（全体、前回調査比較、性別）

多くの項目で、男性の方が女性より知っている割合が低い

全体では、「正しい避妊の方法」が81.5%と最も高く、次いで「妊娠中の体調不良」(67.3%)、「更年期特有の体調不良」(66.5%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「正しい避妊の方法」、「世界の HIV（エイズ）感染に関すること」、「どれもよく知らない」以外の項目で女性の方が高くなっている。

前回調査と比較すると、「産後うつ」の認知度が上がり、「出産適齢期と不妊」の認知度が下がっている。



【性別】その他の回答者数はN=5で、「正しい避妊の方法」80.0%、「出産適齢期と不妊」40.0%、「安全な妊娠・出産」60.0%、「妊娠中の体調不良」60.0%、「更年期特有の体調不良」60.0%、「産後うつ」60.0%、「世界の HIV（エイズ）感染に関すること」40.0%、「世界の女性の低年齢出産に関すること」20.0%、「どれもよく知らない」20.0%となっています。

3 子どもの教育について

【問18】女の子と男の子の育て方について

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方について、あなたはどのように考えますか。
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、性別、性・年代別）

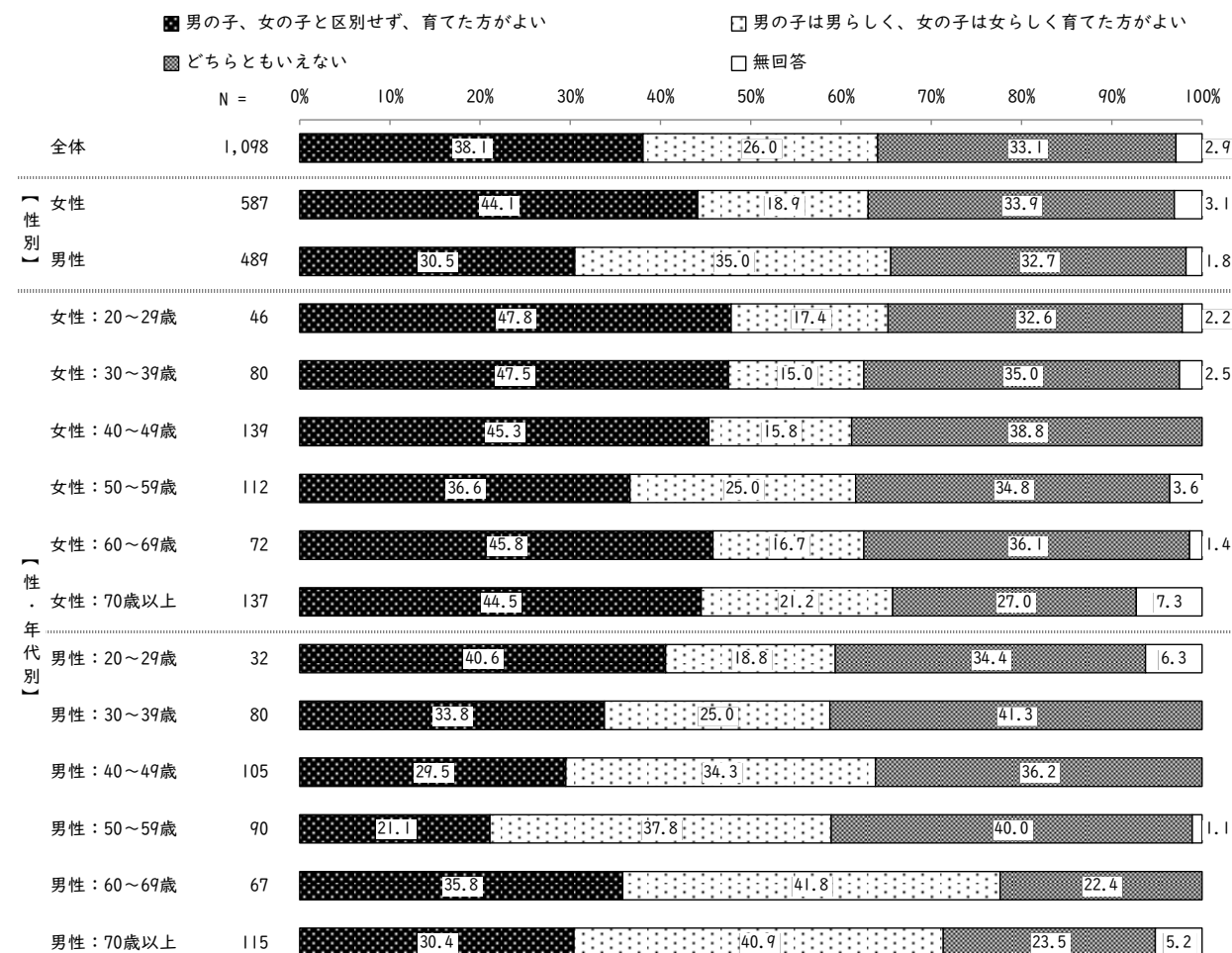
全体と女性は「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」が最も高いが、
男性は「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が最も高い

全体では、「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」が38.1%と最も高く、次いで「どちらともいえない」(33.1%)、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」(26.0%)の順となっている。

【性別】で比較すると、男性は「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」が最も低くなっている。

【性・年代別】で比較すると、「50歳代」を除く女性の40%以上が、「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」と回答している。

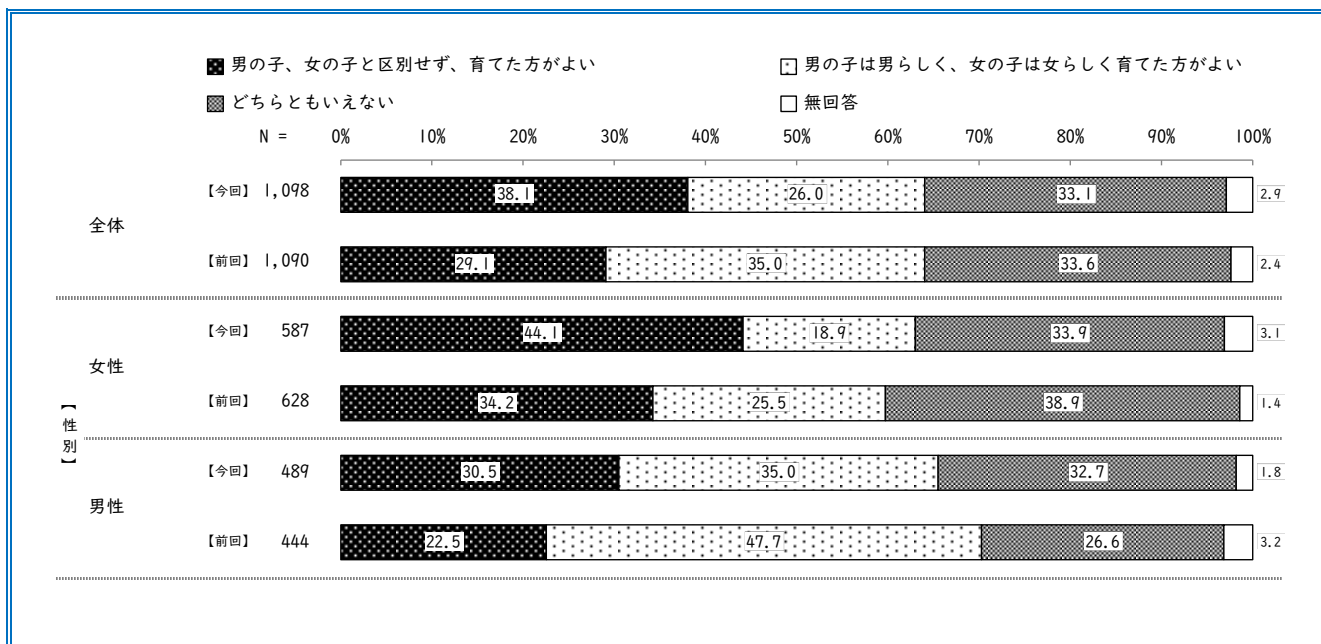
男性では、「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」と回答した男性は「20歳代」が40.6%で最も高くなっているが、「50歳代」では21.1%となっている。



【性別】その他の回答者数はN=5で、「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」80.0%、「どちらともいえない」20.0%となっています。

●項目比較（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、全体・女性・男性とも「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」が増加している。男性は「どちらともいえない」も増加している。



【問 19】子どもに身につけてほしいと思うこと

あなたは、これからの子どもに対し、どのようなことを身につけてほしいと思いますか。

(＜女の子の場合＞＜男の子の場合＞について、

それぞれあてはまる番号3つまで○をつけてください。男女同じ番号を選んでも構いません。)

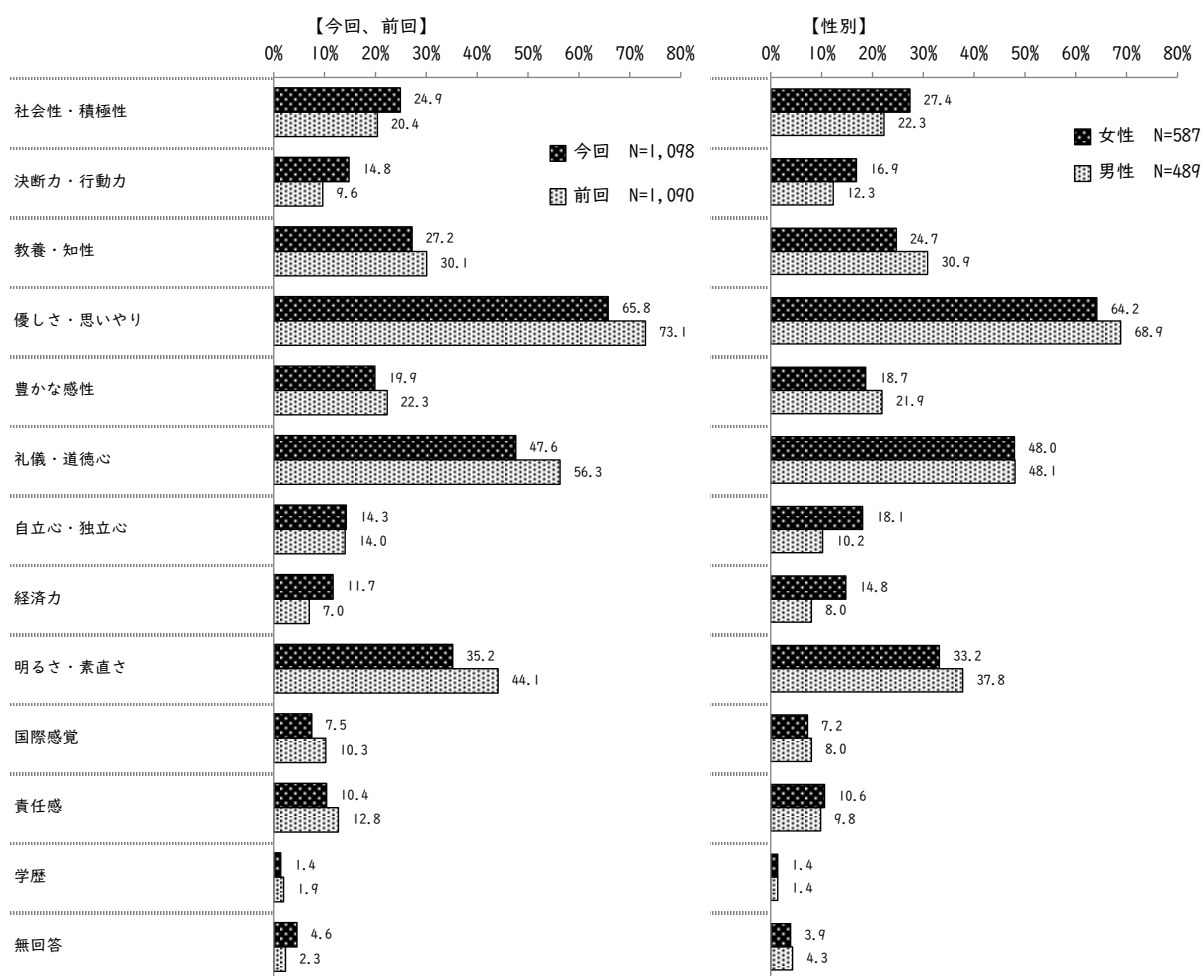
●女の子の場合（全体、前回調査比較、性別）

「優しさ・思いやり」が6割台半ばで最も高いが、前回よりは減少

全体では、「優しさ・思いやり」が65.8%と最も高く、次いで「礼儀・道徳心」(47.6%)、「明るさ・素直さ」(35.2%)の順となっている。

【性別】で比較すると、女性の方が女の子に対し「自立心・独立心」「経済力」などについて期待している割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「決断力・行動力」「経済力」、「社会性・積極性」が増加しており、「優しさ・思いやり」「礼儀・道徳心」「明るさ・素直さ」などが減少している。



【性別】その他の回答者数はN=5で、「教養・知性」40.0%、「優しさ・思いやり」60.0%、「豊かな感性」(40.0%)、「礼儀・道徳心」(60.0%)、「自立心・独立心」20.0%、「経済力」20.0%、「明るさ・素直さ」40.0%、「責任感」20.0%となっています。

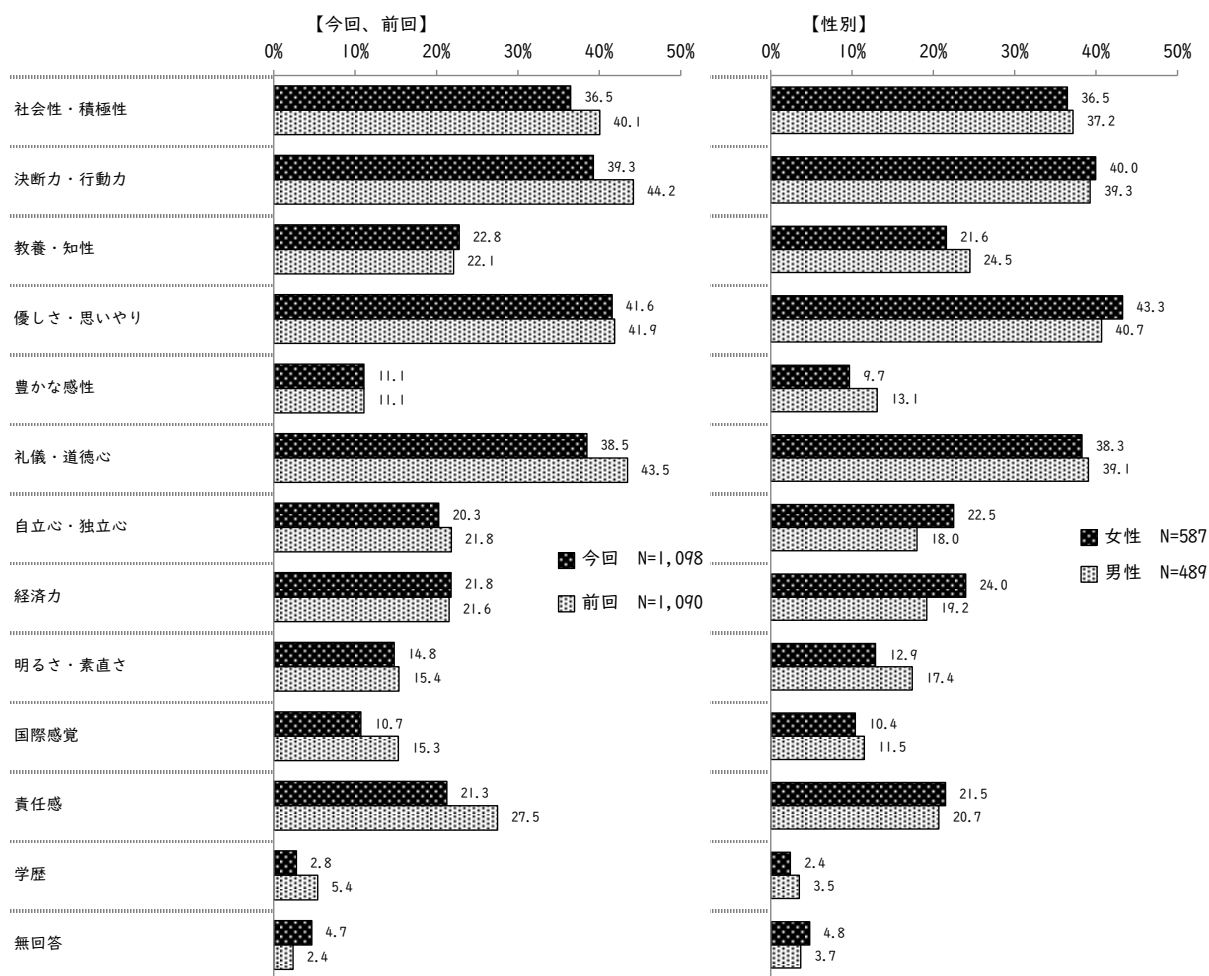
●男の子の場合（全体、前回調査比較、性別）

「優しさ・思いやり」「決断力・行動力」「礼儀・道徳心」が4割前後
次いで「社会性・積極性」が3割台半ば

全体では、「優しさ・思いやり」が41.6%と最も高く、次いで「決断力・行動力」(39.3%)、「礼儀・道徳心」(38.5%)の順となっている。

【性別】で比較すると、男性の方が男の子に対し「豊かな感性」などについて、女性の方が男の子に対し「経済力」などについて期待している割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「社会性・積極性」「決断力・行動力」「礼儀・道徳心」「国際感覚」「責任感」などが減少している。



【性別】その他の回答者数はN=5で、「社会性・積極性」20.0%、「決断力・行動力」20.0%、「教養・知性」40.0%、「優しさ・思いやり」40.0%、「豊かな感性」20.0%、「礼儀・道徳心」60.0%、「自立心・独立心」20.0%、「経済力」20.0%、「明るさ・素直さ」20.0%、「責任感」40.0%となっています。

●項目比較（女の子の場合、男の子の場合）

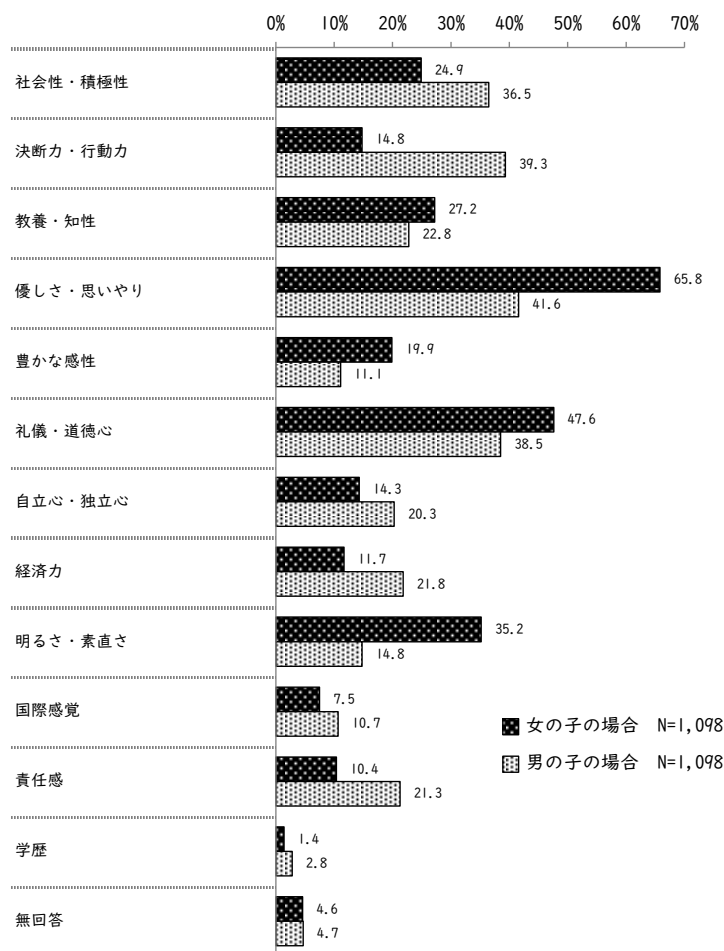
これからの子どもに身につけてほしいと思う項目で女の子と男の子の間で開きが大きいのは

「優しさ・思いやり」「明るさ・素直さ」（女の子への期待が高い）

「決断力・行動力」（男の子への期待が高い）

女の子の場合と男の子の場合を比較すると、女の子の場合には「優しさ・思いやり」が24.2ポイント、「明るさ・素直さ」が20.4ポイント高く、「礼儀・道徳心」「豊かな感性」なども男の子の場合に比べて高くなっている。

男の子の場合には「決断力・行動力」は24.5ポイント高く、「社会性・積極性」「自立心・独立心」「経済力」「責任感」なども女の子の場合に比べて高くなっている。



●項目比較（女の子と男の子の育て方について）

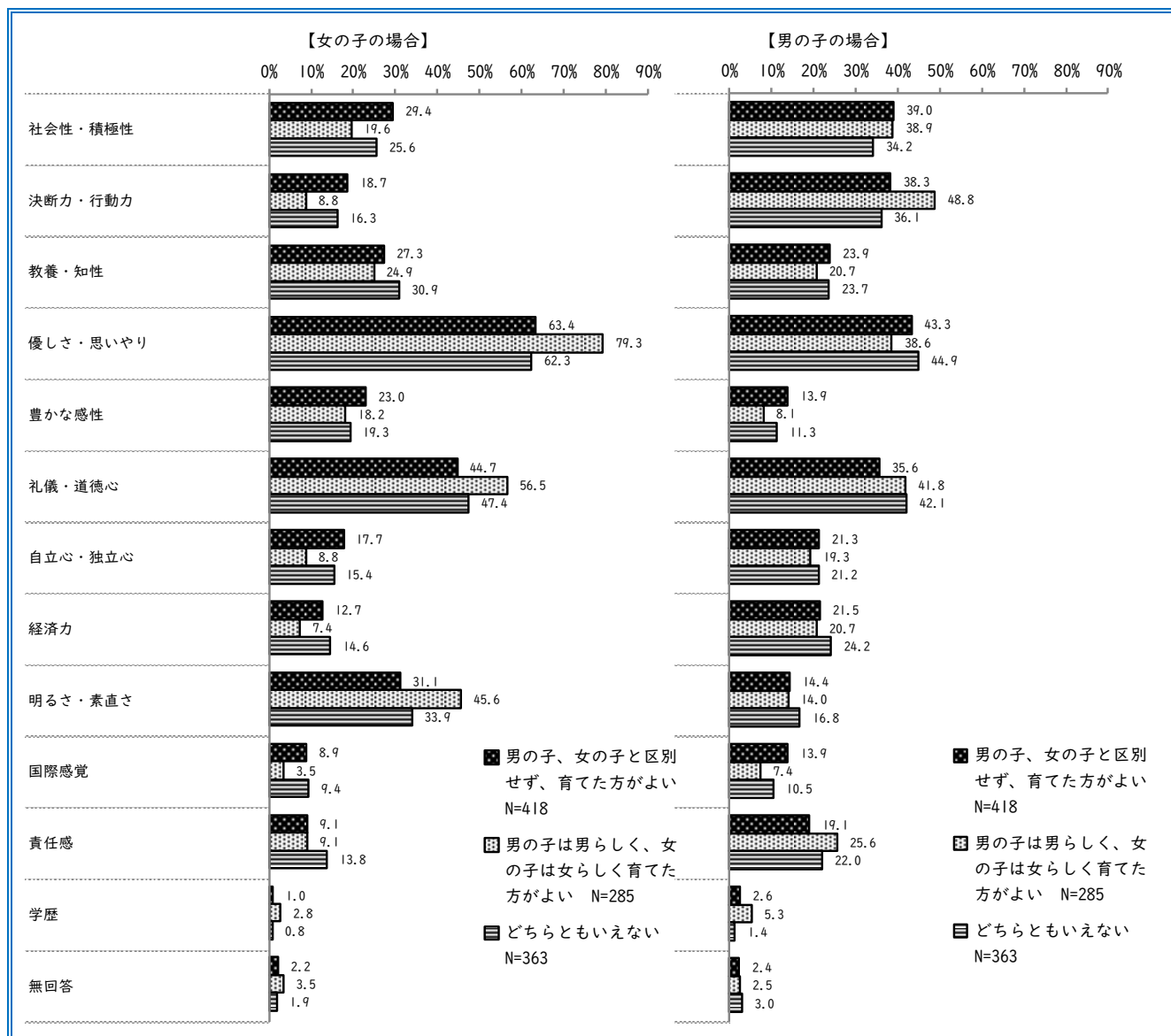
「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」と考える人にも、
性別によって身につけてほしいことに違いがみられる

『区別せず』の回答群の中でも、子どもに身につけてほしいと思う項目について、女の子と男の子の間に違いが見られる。

また、男の子の場合に比べて、女の子の場合の方が、『区別せず』と『らしく』の回答割合の開きが大きい。

※『区別せず』：「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」

『らしく』：「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」



【問 20】学校教育の場で力を入れるべきこと

あなたは、男女に関わりなくお互いを尊重しあえる子どもを育てるために、学校教育の場で力を入れることは何だと思いますか。

(特に重要と思うもの1つに◎、それ以外にあてはまる番号2つまで○をつけてください。)

●項目比較（特に重要と思うもの／全体、性別、性・年代別）

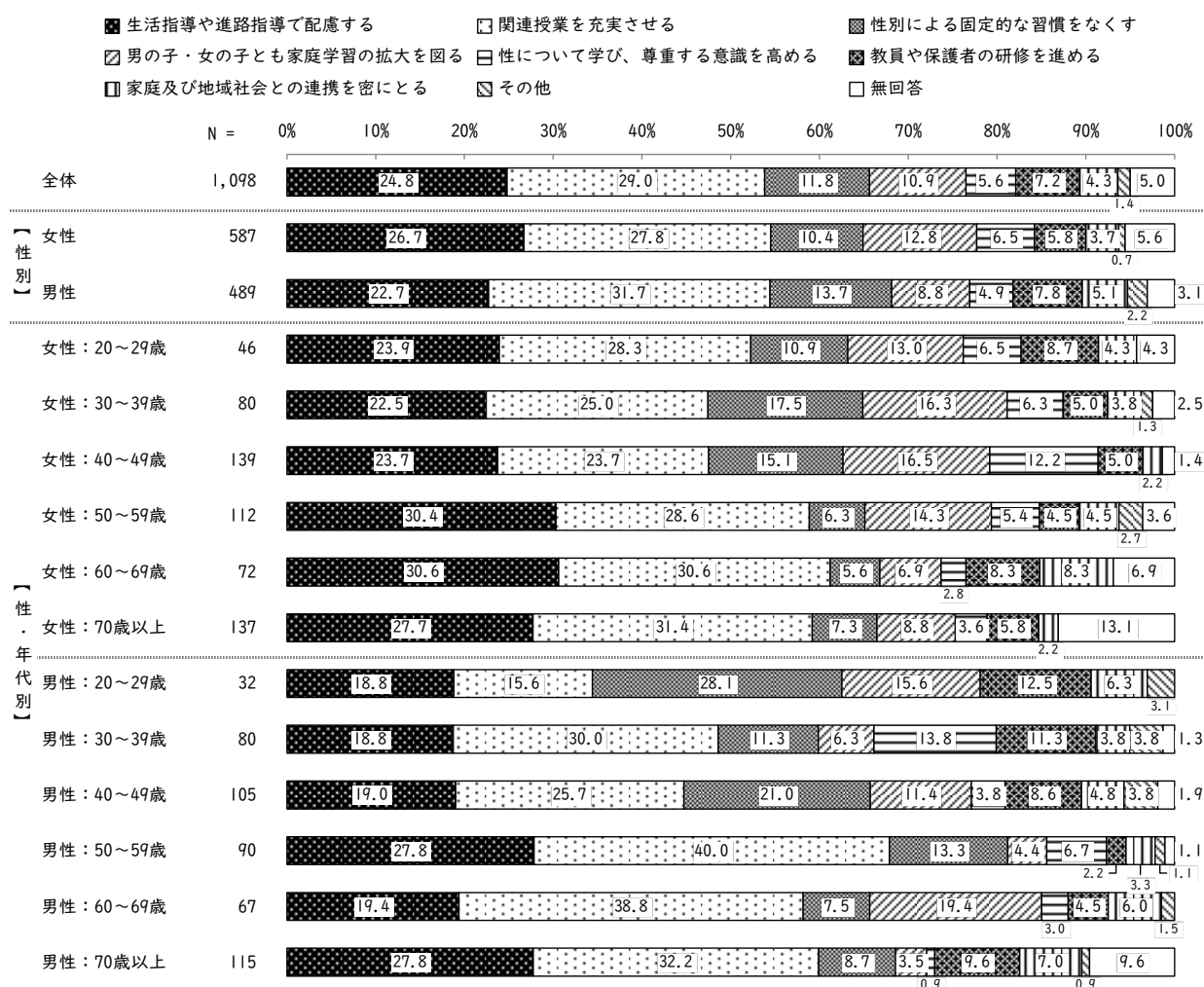
「関連授業を充実させる」の割合が最も高く、

次いで「生活指導や進路指導で配慮する」の割合が高い

全体では、「関連授業を充実させる」が29.0%と最も高く、次いで「生活指導や進路指導で配慮する」(24.8%)、「性別による固定的な習慣をなくす」(11.8%)の順になっている。

【性別】で比較すると、女性では「生活指導や進路指導で配慮する」、「男の子・女の子とも家庭学習の拡大を図る」、男性では「関連授業を充実させる」、「性別による固定的な習慣をなくす」が高くなっている。

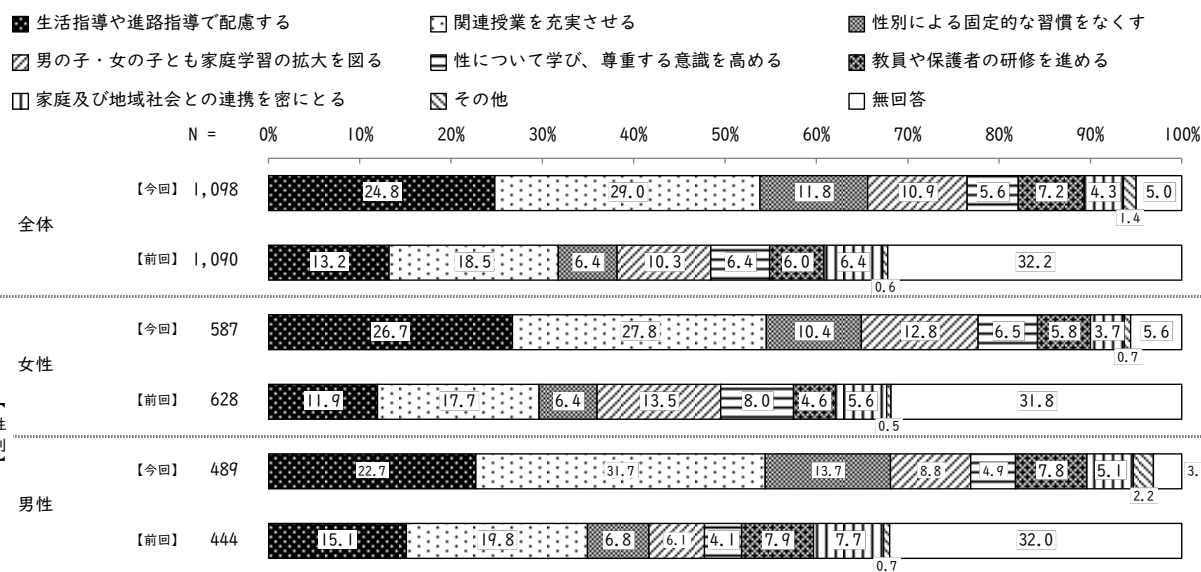
【性・年代別】で比較すると、男性の「20歳代・40歳代」で「性別による固定的な習慣をなくす」が高くなっている。「女性の40歳代」「男性の30歳代」で「性について学び、尊重する意識を高める」が高くなっている。



【性別】その他の回答者数はN＝5で、「生活指導や進路指導で配慮する」20.0%、「性別による固定的な習慣をなくす」20.0%、「男の子・女の子とも家庭学習の拡大を図る」20.0%、「教員や保護者の研修を進める」40.0%となっています。

●項目比較（前回調査比較）

前回調査と比較すると、女性で「生活指導や進路指導で配慮する」が2番目に、男性で「性別による固定的な習慣をなくす」が3番目に、それぞれ順位を上げている。

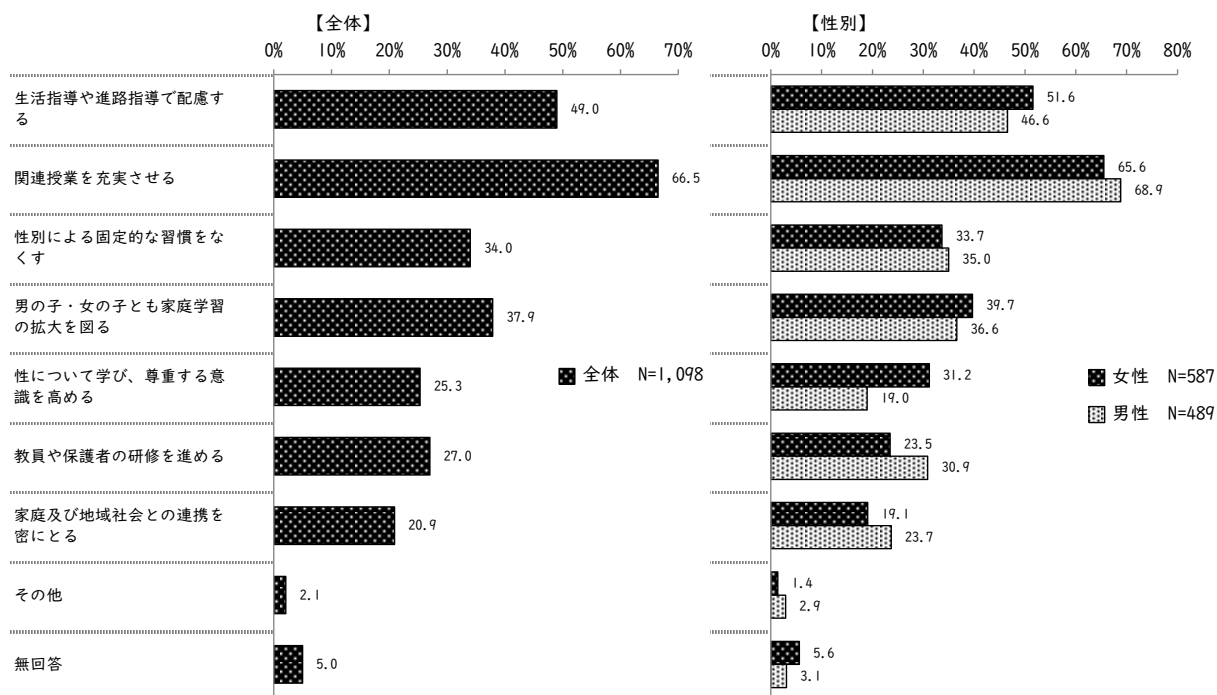


※無回答数が前回より減少しているのは、調査票の回答記載方法を変更したため。

●項目比較（特に重要と思うもの+あてはまるもの2つまで／全体、性別）

全体では、「関連授業を充実させる」が66.5%と最も高く、次いで「生活指導や進路指導で配慮する」（49.0%）、「男の子・女の子とも家庭学習の拡大を図る」（37.9%）、の順となっている。

【性別】で比較すると、女性では「生活指導や進路指導で配慮する」、「男の子・女の子とも家庭学習の拡大を図る」、「性について学び、尊重する意識を高める」、男性では「関連授業を充実させる」「性別による固定的な習慣をなくす」「教員や保護者の研修を進める」が高くなっている。



【性別】その他の回答者数はN=5で、「生活指導や進路指導で配慮する」20.0%、「関連授業を充実させる」40.0%、「性別による固定的な習慣をなくす」40.0%、「男の子・女の子とも家庭学習の拡大を図る」40.0%、「教員や保護者の研修を進める」40.0%、「その他」20.0%となっています。

4 男女平等・人権意識について

【問 21】さまざまな場における男女の地位

あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

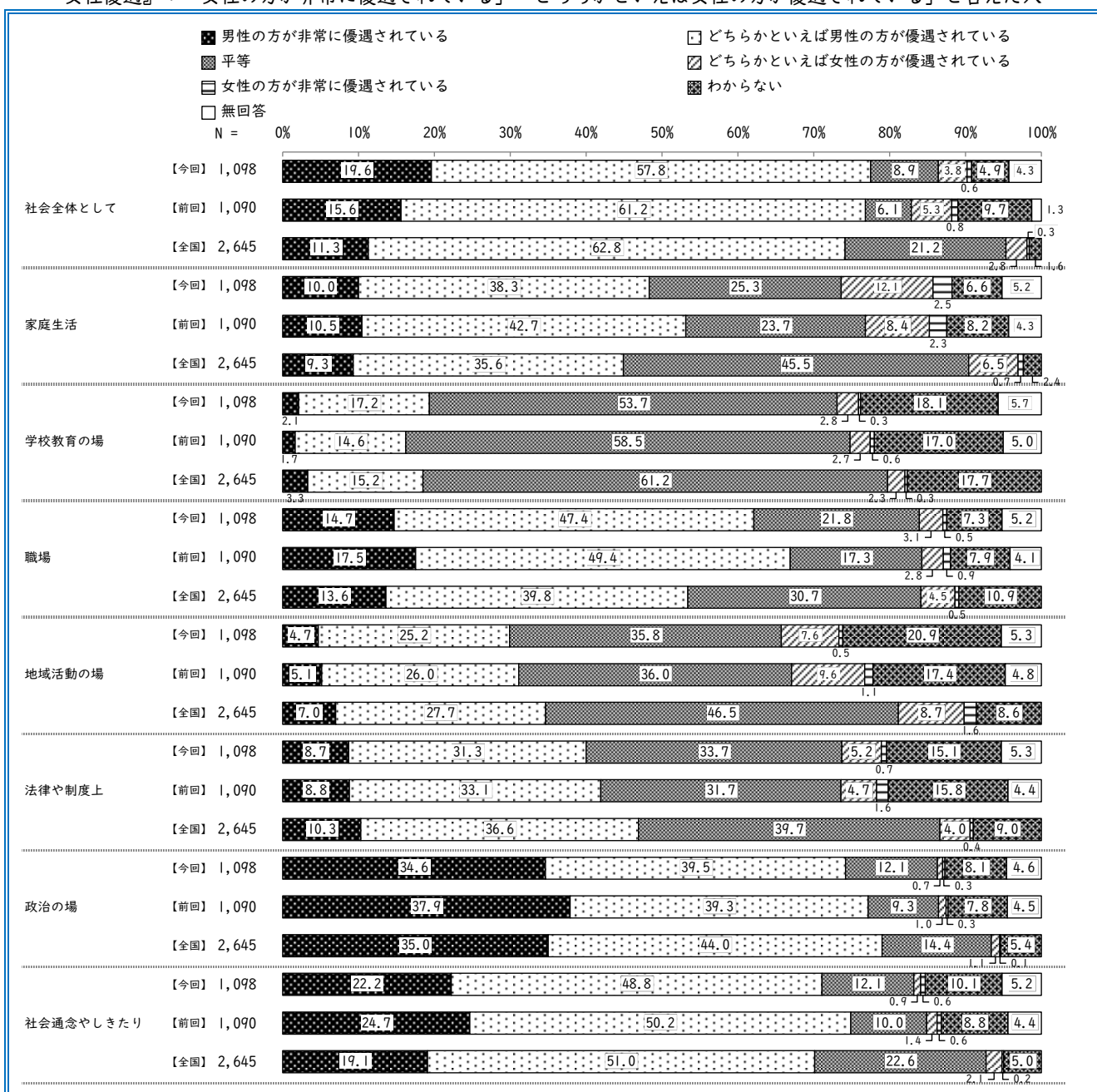
(A～Hの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、前回調査比較）

「学校教育の場」では「平等」が半数以上だが、全体的に『男性優遇』

前回調査と比較すると、「社会全体として」で「男性の方が非常に優遇されている」が増加している。
全国調査と比較すると、「平等」と答えた人の割合は、全国平均よりすべての項目で下回っている。

※『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人



問 21-A 社会全体として

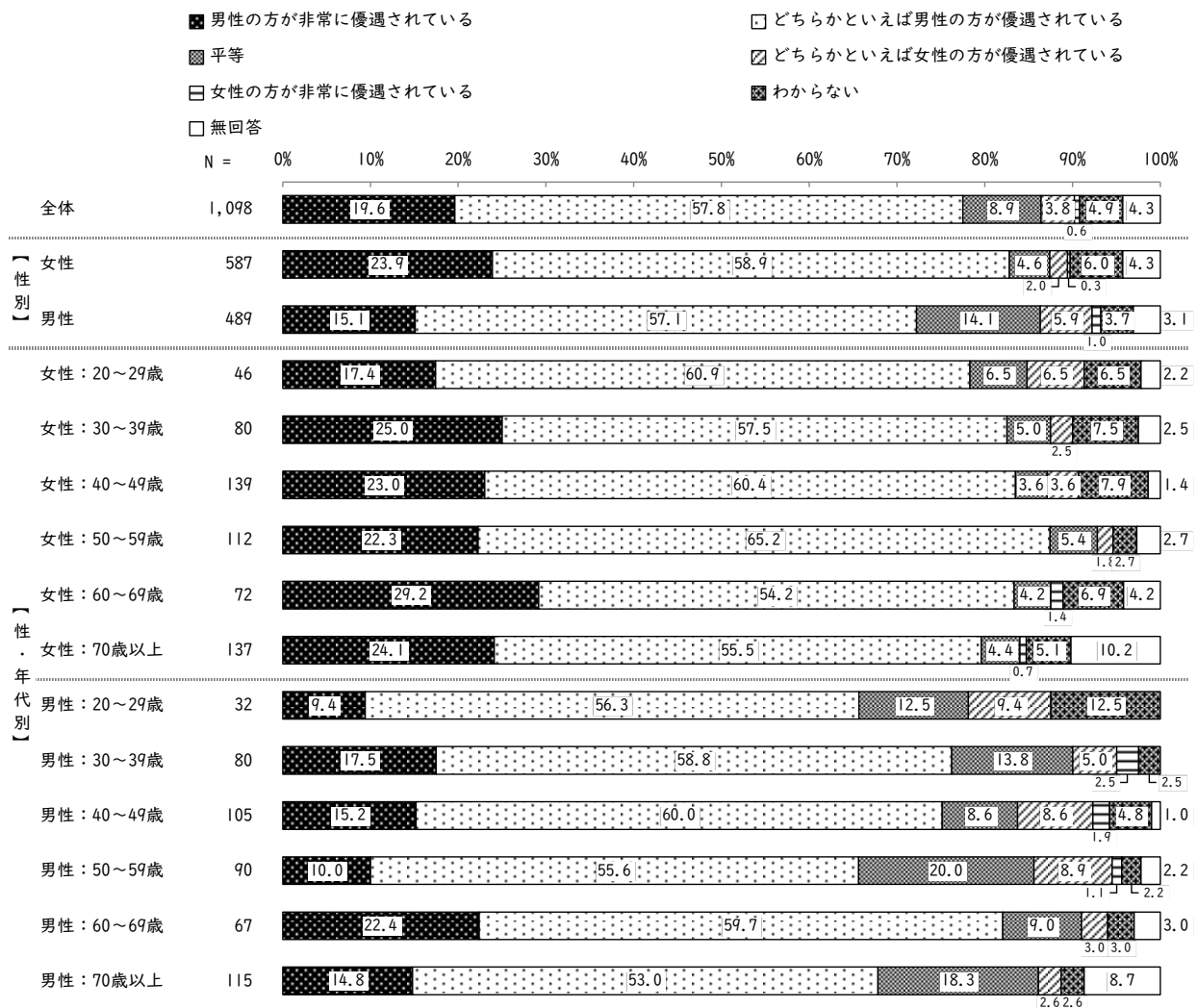
『男性優遇』77.4% > 「平等」8.9% > 『女性優遇』4.4%
 「平等」と答えた人の割合 女性 4.6% < 男性 14.1% 9.5 ポイントの開きあり

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 57.8% と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(19.6%)、「平等」(8.9%) の順となっている。

【性別】で比較すると、『男性優遇』の割合が、女性で 82.8%、男性で 72.2% となっている。

【性・年代別】で比較すると、「女性の 60 歳代」で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高くなっており、「男性の 50 歳代」「男性の 70 歳以上」で「平等」の割合が高くなっている。

※『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
 『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人



【性別】その他の回答者数は N=5 で、「男性の方が非常に優遇されている」20.0%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」40.0%、「平等」20.0%、「わからない」20.0%となっています。

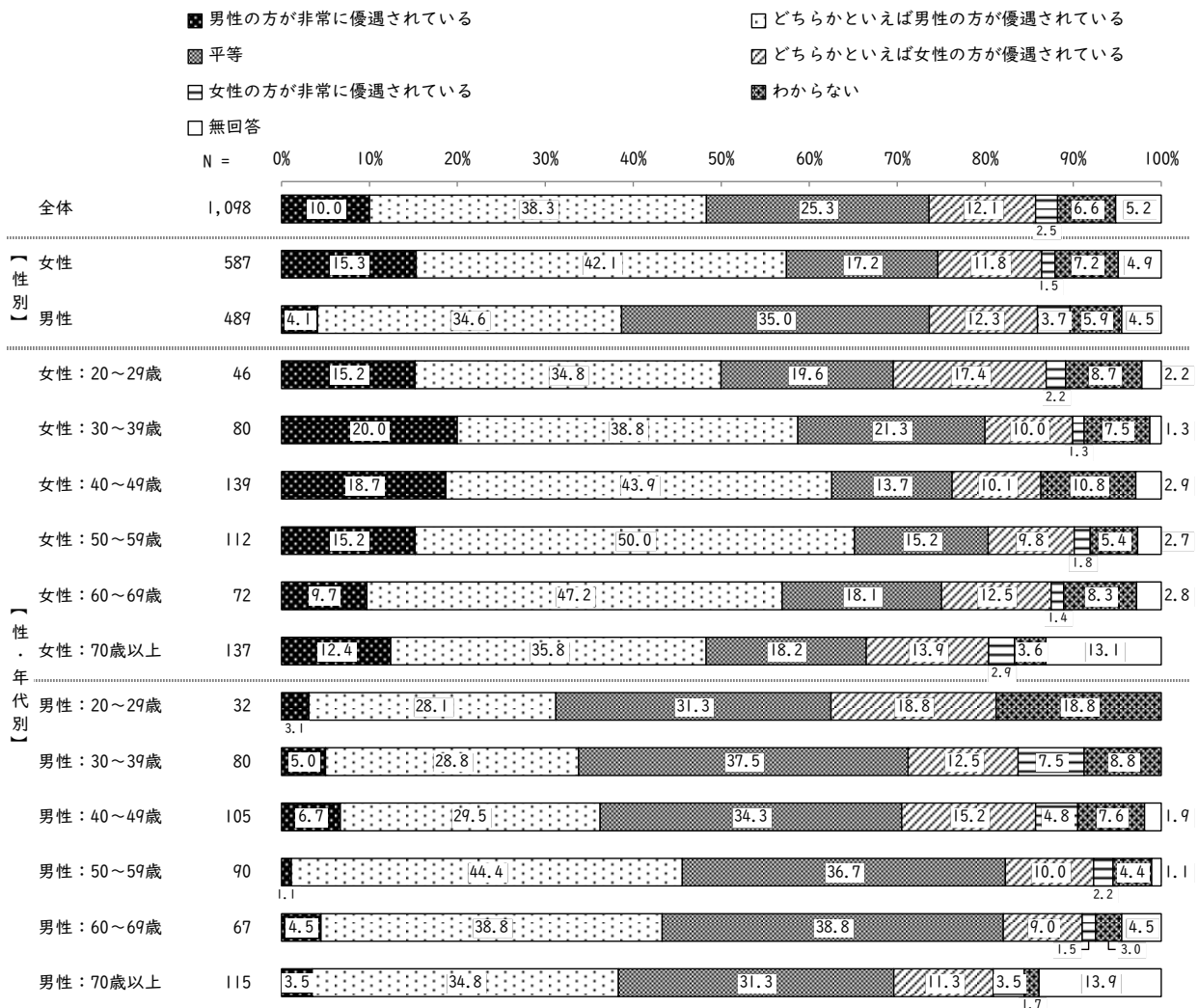
『男性優遇』48.3% > 「平等」25.3% > 『女性優遇』14.6%
「平等」と答えた人の割合 女性 17.2% < 男性 35% 17.8 ポイントの開きあり

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 38.3%と最も高く、次いで「平等」(25.3%)、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(12.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『男性優遇』の割合が、女性で 57.4%、男性で 38.7%となっている。

【性・年代】で比較すると、「女性の 30～40 歳代」で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高くなっており、「男性の 30～60 歳代」で「平等」の割合が高くなっている。

※『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」20.0%、「平等」40.0%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」20.0%、「わからない」20.0%となっています。

問 21 - C 学校教育の場合

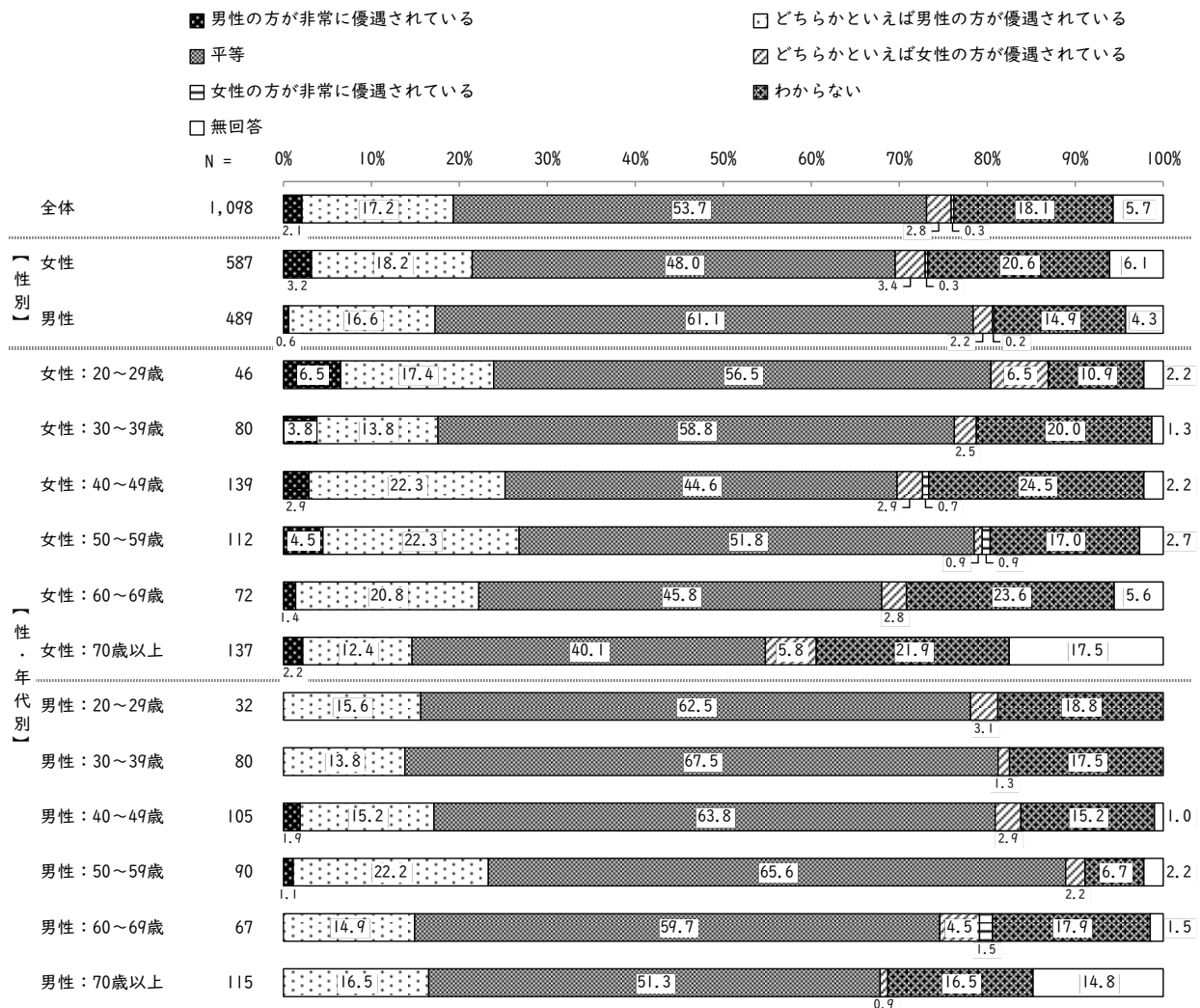
「平等」53.7% > 「男性優遇」19.3% > 「女性優遇」3.1%
「平等」と答えた人の割合 女性 48.0% < 男性 61.1% 13.1 ポイントの開きあり

全体では、「平等」が53.7%と最も高く、次いで「わからない」(18.1%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(17.2%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「平等」の割合が、女性で48.0%、男性で61.1%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「男性の20～50歳代」で「平等」の割合が高くなっている。

※『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「男性の方が非常に優遇されている」20.0%、「平等」20.0%、「わからない」60.0%となっています。

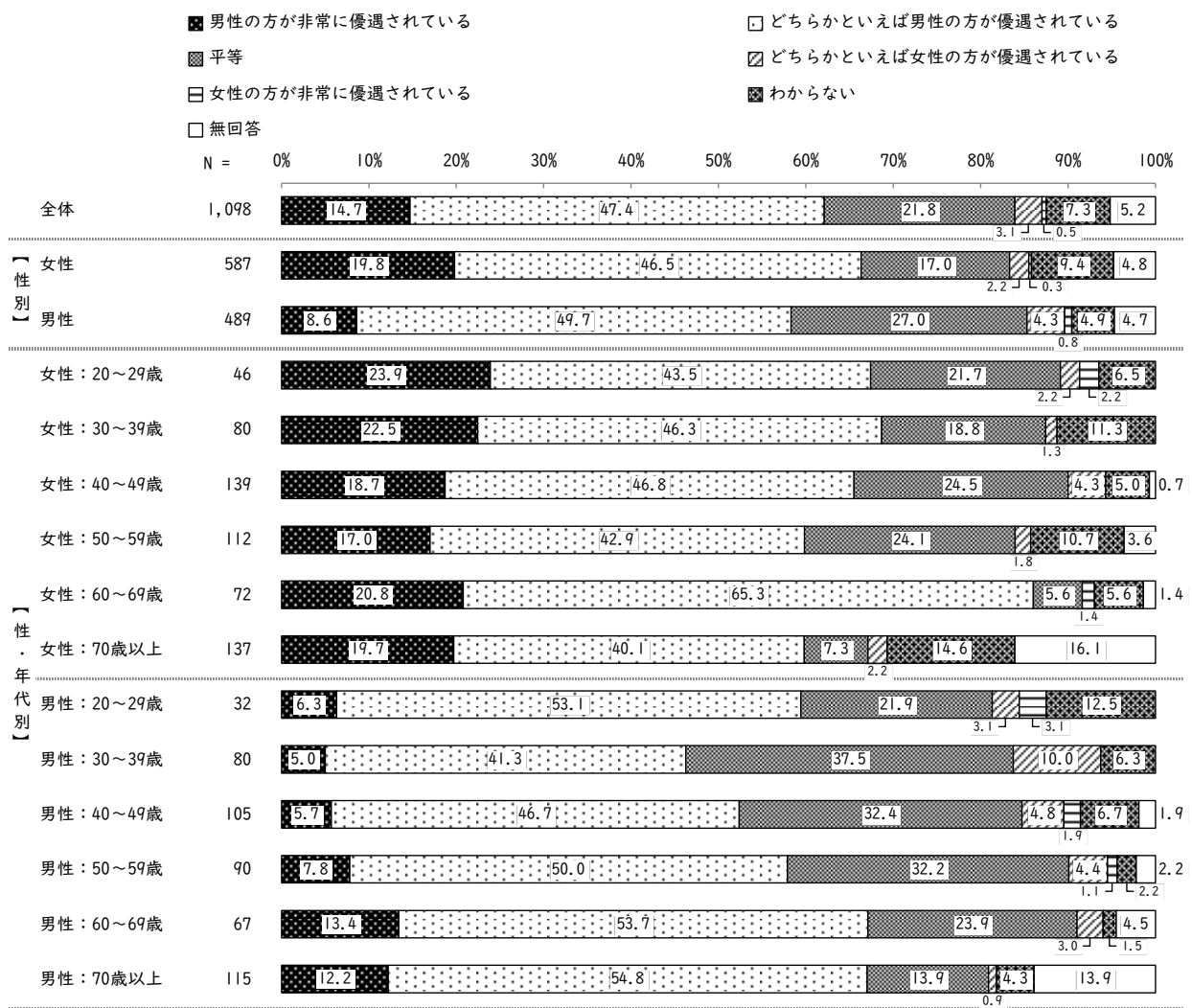
『男性優遇』62.1% > 「平等」21.8% > 『女性優遇』3.6%
 「平等」と答えた人の割合 女性 17% < 男性 27% 10 ポイントの開きあり

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 47.4%と最も高く、次いで「平等」（21.8%）、「男性の方が非常に優遇されている」（14.7%）の順となっている。

【性別】で比較すると、『男性優遇』の割合が、女性で 66.3%、男性で 58.3%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「男性の 30～50 歳代」で「平等」の割合が高くなっている。

※『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
 『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人



【性別】その他の回答者数は N=5 で、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」20.0%、「平等」60.0%、「わからない」20.0%となっています。

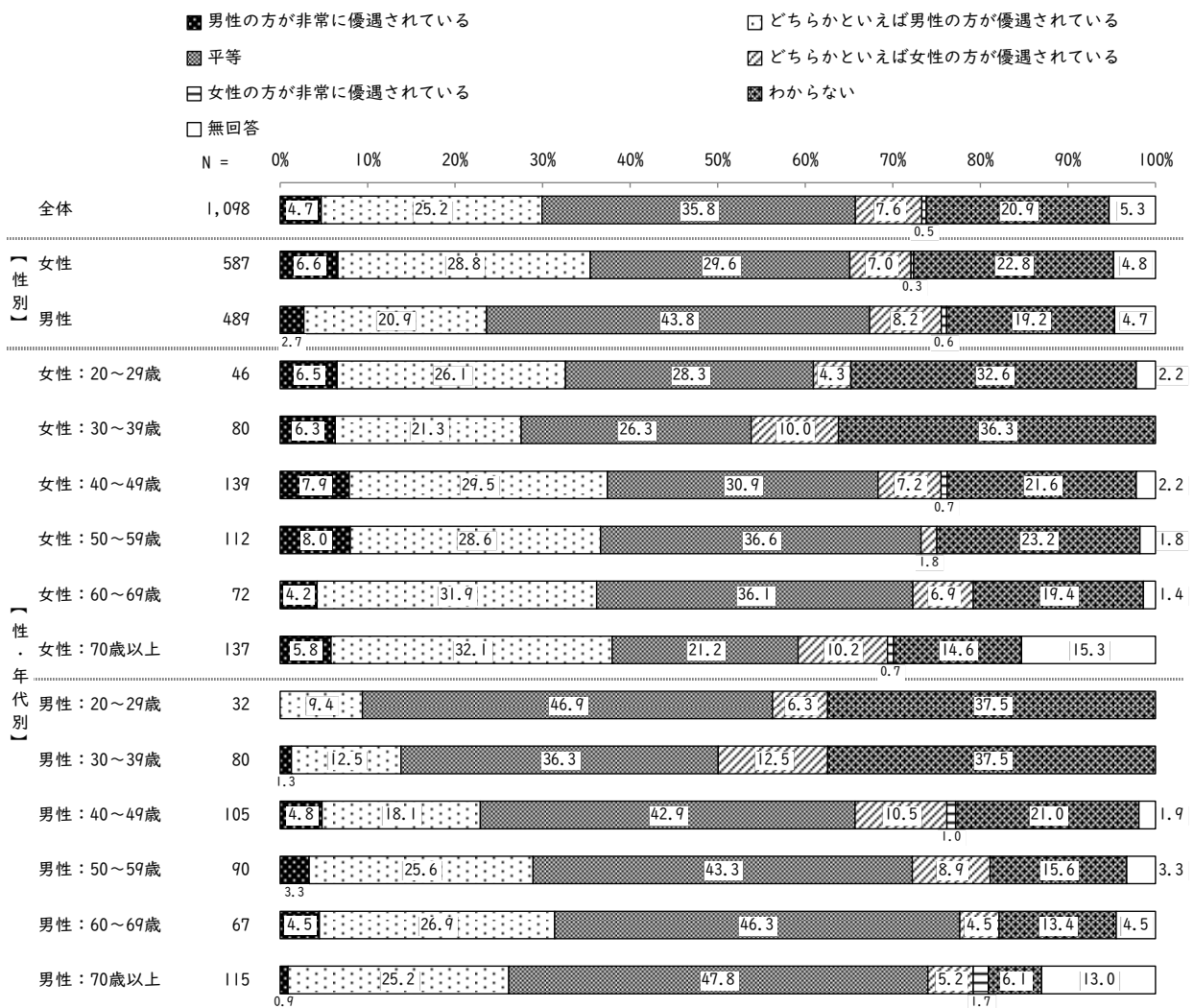
「平等」35.8% > 「男性優遇」29.9% > 「女性優遇」8.1%
 「平等」と答えた人の割合 女性 29.6% < 男性 43.8% 14.2 ポイントの開きあり

全体では、「平等」が 35.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(25.2%)、「わからない」(20.9%)の順となっている。

【性別】で比較すると、女性は『男性優遇』の割合が高く、男性は「平等」の割合が高くなっている。

【性・年代別】で比較すると、「平等」の割合が、「女性 70 歳以上」で低く、「男性の 70 歳以上」は高くなっている。

※『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
 『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」40.0%、「平等」20.0%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」20.0%、「わからない」20.0%となっています。

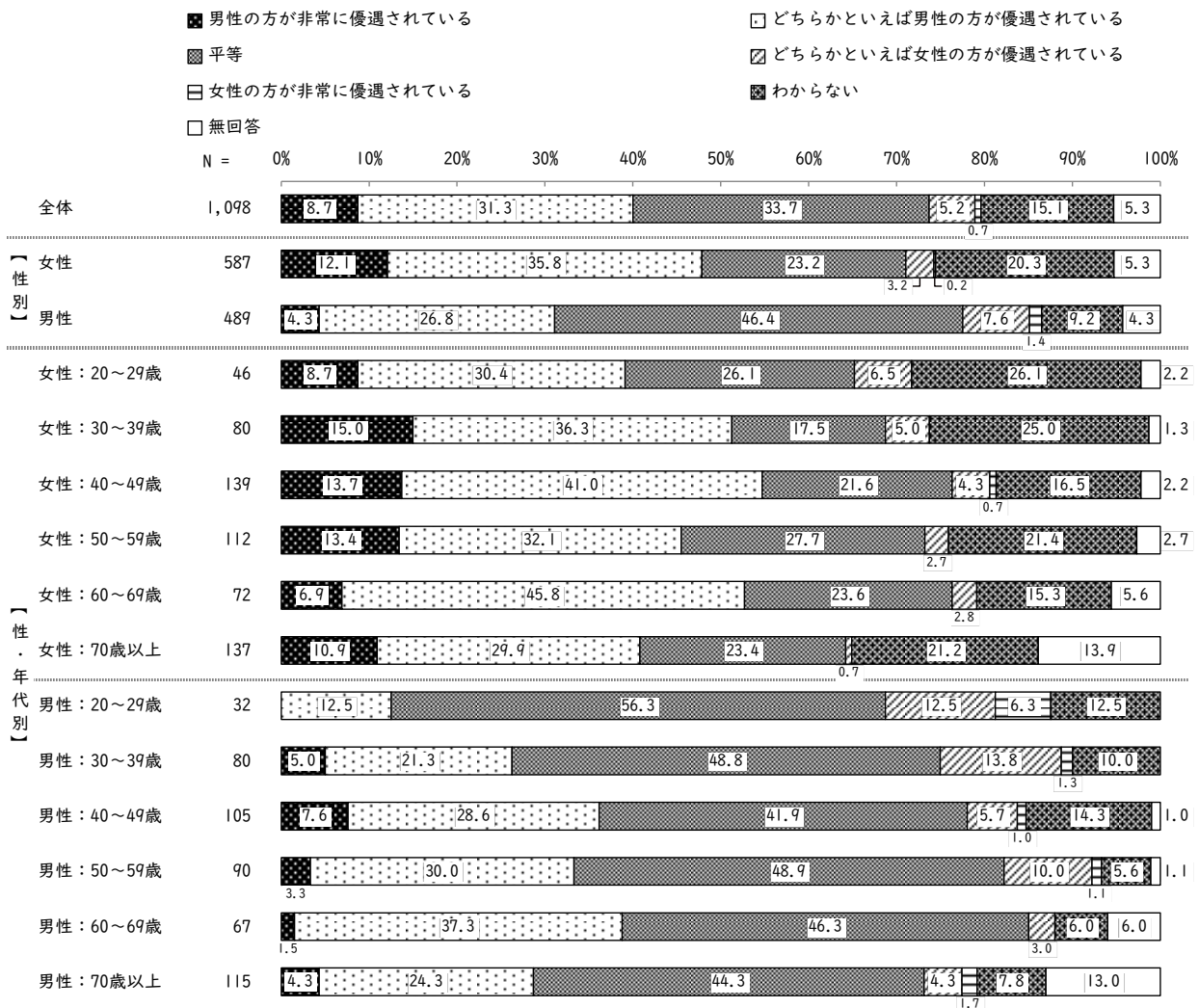
『男性優遇』40% > 「平等」33.7% > 『女性優遇』5.9%
 「平等」と答えた人の割合 女性 23.2% < 男性 46.4% 23.2 ポイントの開きあり

全体では、「平等」が 33.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(31.3%)、「わからない」(15.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、女性は『男性優遇』の割合が高く、男性は「平等」の割合が高くなっている。

【性・年代別】で比較すると、「男性の 20 歳代」のみ、「平等」の割合が 56.3%であるとともに、『女性優遇』の割合が『男性優遇』よりも高くなっている。

※『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
 『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「男性の方が非常に優遇されている」40.0%、「平等」40.0%、「わからない」20.0%となっています。

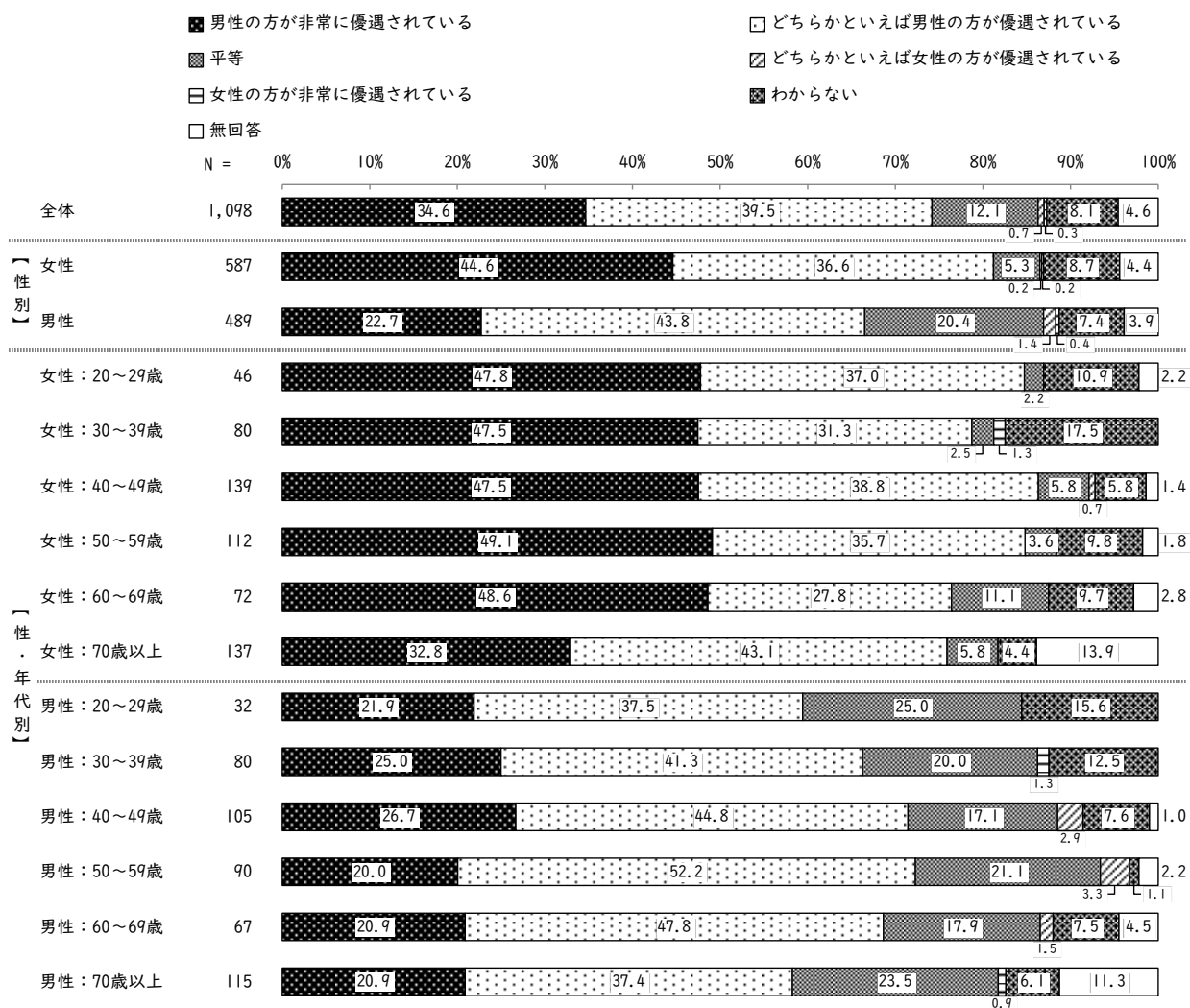
『男性優遇』74.1% > 「平等」12.1% > 『女性優遇』1%
 「平等」と答えた人の割合 女性 5.3% < 男性 20.4% 15.1 ポイントの開きあり

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 39.5%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(34.6%)、「平等」(12.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『男性優遇』の割合が女性で 81.2%、男性で 66.5%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「女性の 20～60 歳代」のいずれも約半数が、「男性の方が非常に優遇されている」と答えている。

※『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
 『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人



【性別】その他の回答者数は N=5 で、「男性の方が非常に優遇されている」40.0%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」20.0%、「平等」20.0%、「わからない」20.0%となっています。

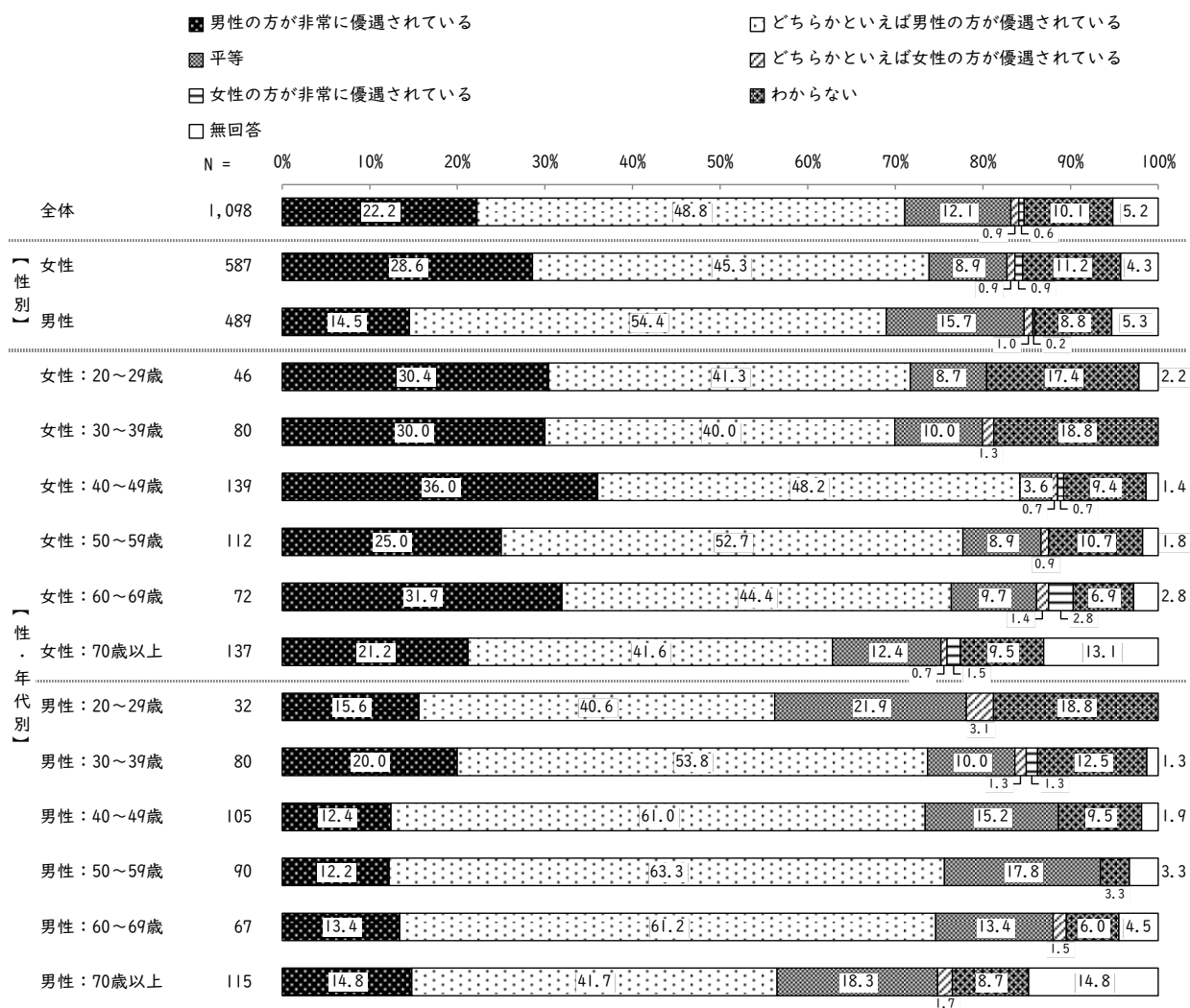
『男性優遇』71% > 「平等」12.1% > 『女性優遇』1.5%
「平等」と答えた人の割合 女性 8.9% < 男性 15.7% 6.8 ポイントの開きあり

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 48.8%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(22.2%)、「平等」(12.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『男性優遇』の割合が、女性で73.9%、男性で68.9%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「女性の40歳代」で『男性優遇』の割合が、他の世代と比較して高くなっている。

※『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「男性の方が非常に優遇されている」40.0%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」20.0%、「平等」20.0%、「わからない」20.0%となっています。

【問 22】ドメスティック・バイオレンス (DV) の被害にあった際の相談先

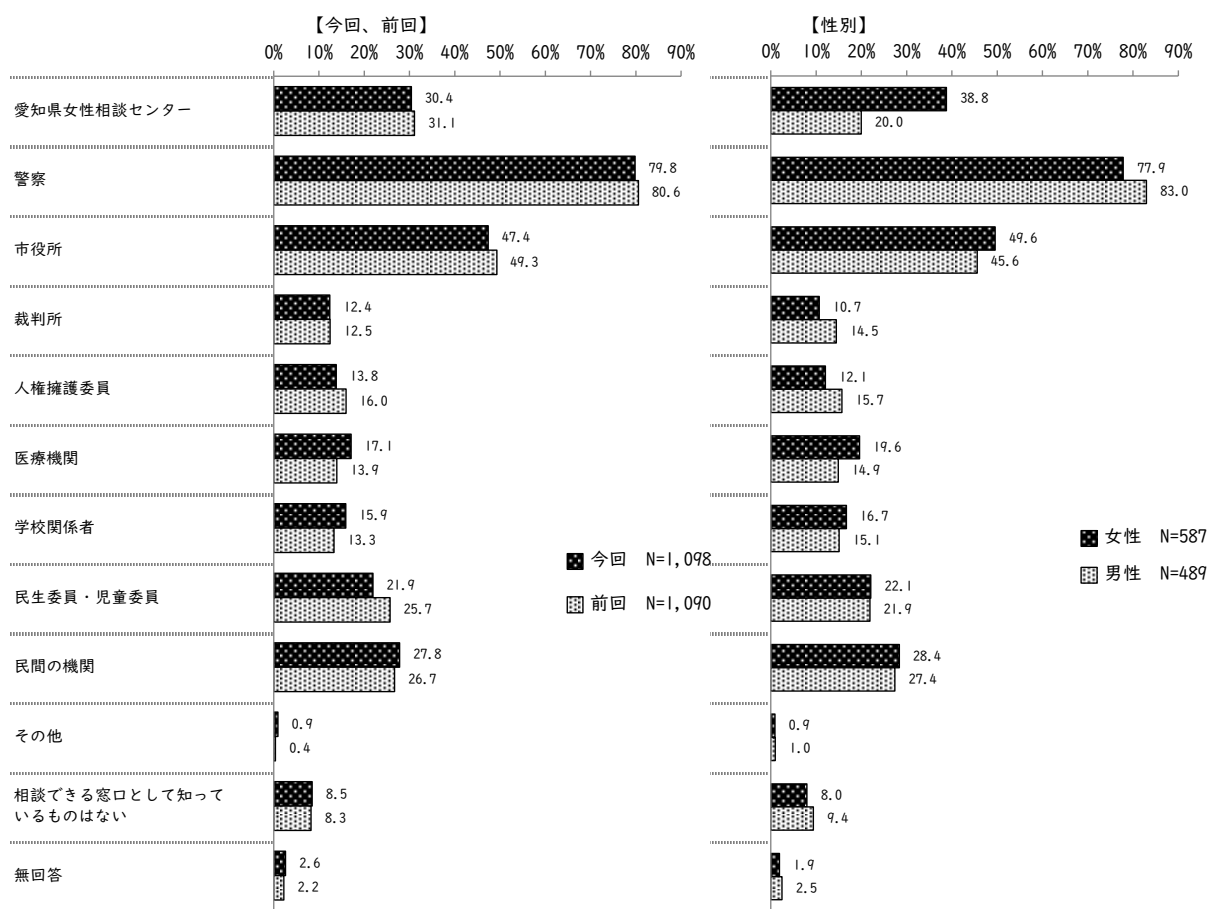
あなたは配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。
(あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

●項目比較（全体、前回調査比較、性別）

「警察」が79.8%と最も高く、
次いで「市役所」(47.4%)、「愛知県女性相談センター」(30.4%)と公共機関が続く

【性別】で比較すると、「愛知県女性相談センター」、「市役所」、「医療機関」、「学校関係者」、「民間の機関」で女性が高くなっている。

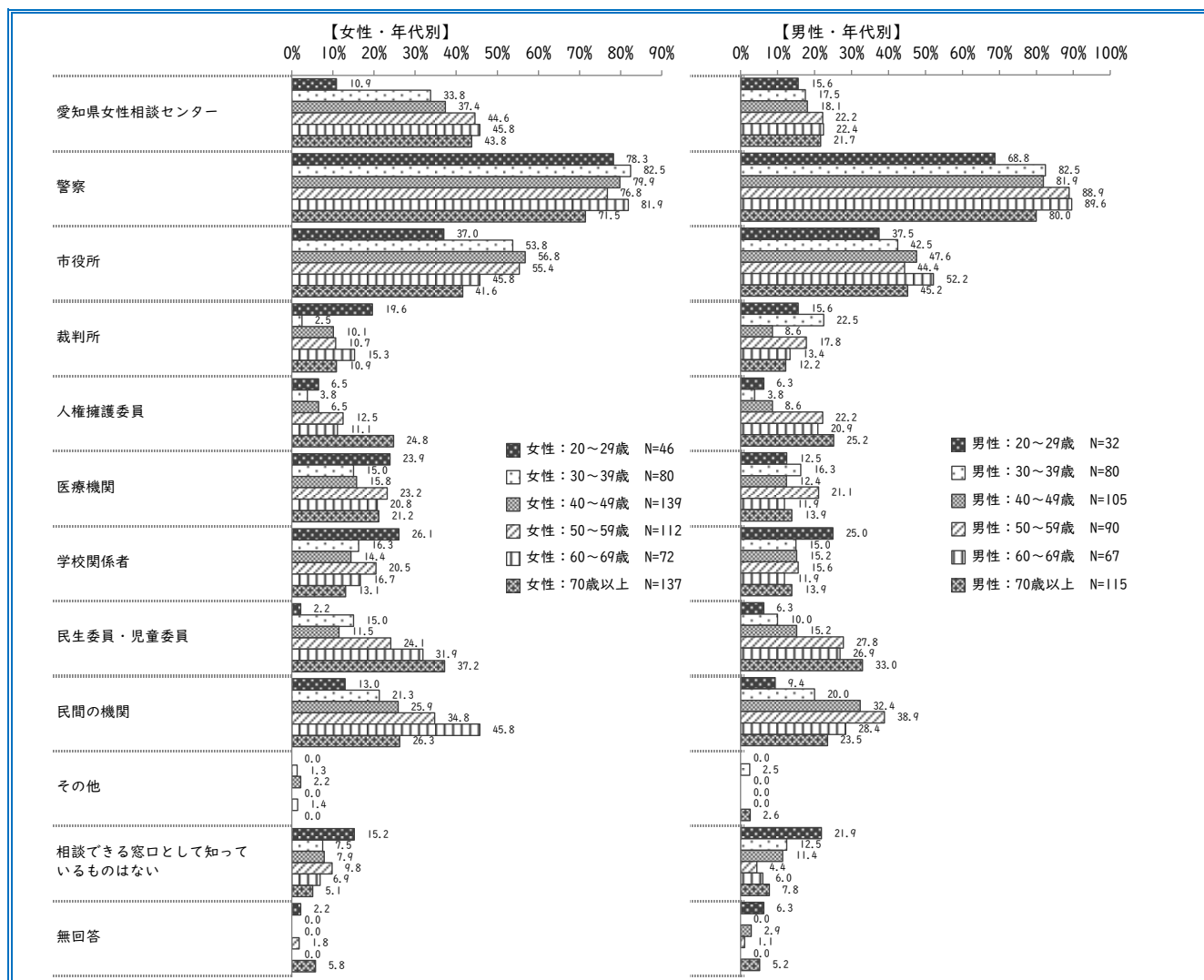
前回調査と比較して、「医療機関」「学校関係者」「民間の機関」が増加している。



【性別】その他の回答者数はN=5で、「愛知県女性相談センター」40.0%、「警察」60.0%、「市役所」80.0%、「裁判所」20.0%、「人権擁護委員」20.0%、「学校関係者」40.0%、「民生委員・児童委員」20.0%、「民間の機関」20.0%となっています。

●項目比較（性・年代別）

【性・年代別】で比較すると、男女ともにいずれの年代でも「警察」の回答が最も高くなっている。また、男女とも「20歳代」で「愛知県女性相談センター」、「市役所」、「民間の機関」などで他の年代よりも認知度が低く、「相談できる窓口として知っているものはない」が高くなっている。「女性の30歳代」で「裁判所」、「人権擁護委員」が他の年代よりも低くなっている。



【問 23】ドメスティック・バイオレンス (DV) の被害状況

あなたは配偶者や恋人にA～Lの行為をされたことがありますか。

(＜配偶者から＞＜恋人から＞について、

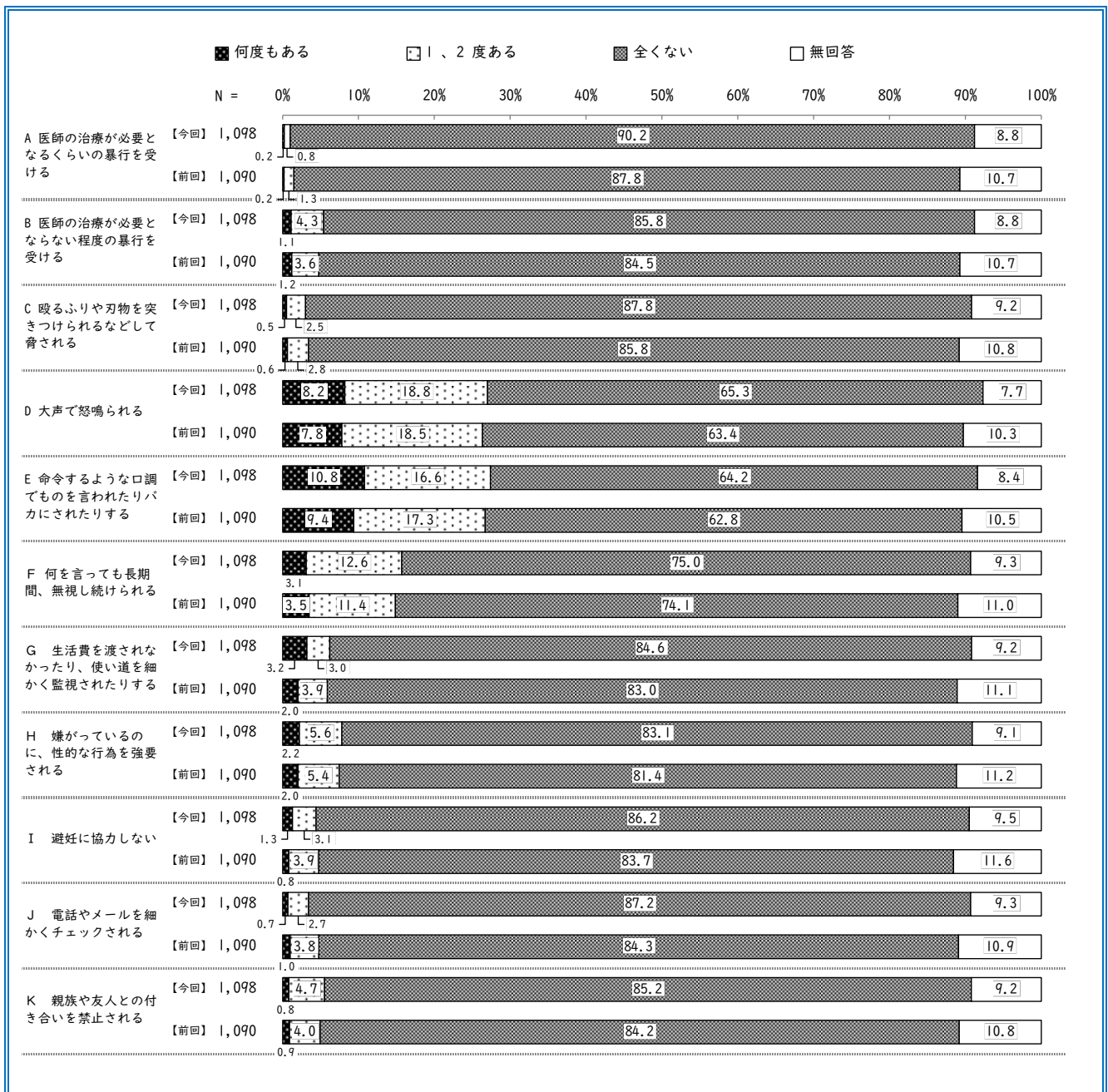
それぞれA～Lの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

＜配偶者から＞

●項目比較（全体、前回調査比較）

配偶者からされたことのある行為 (DV被害) の傾向は、前回調査から変化なし

全体で「何度もある」と答えた割合は、「命令するような口調でものを言われたりバカにされたりする」(精神的暴力) が最も高く、「大声で怒鳴られる」(精神的暴力)、「生活費を渡さなかったり、使い道を細かく監視されたりする」(経済的暴力) の順となっている。



問 23 - A<配偶者から> 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける

女性「1、2度ある」は1.2%、「何度もある」は0.2%

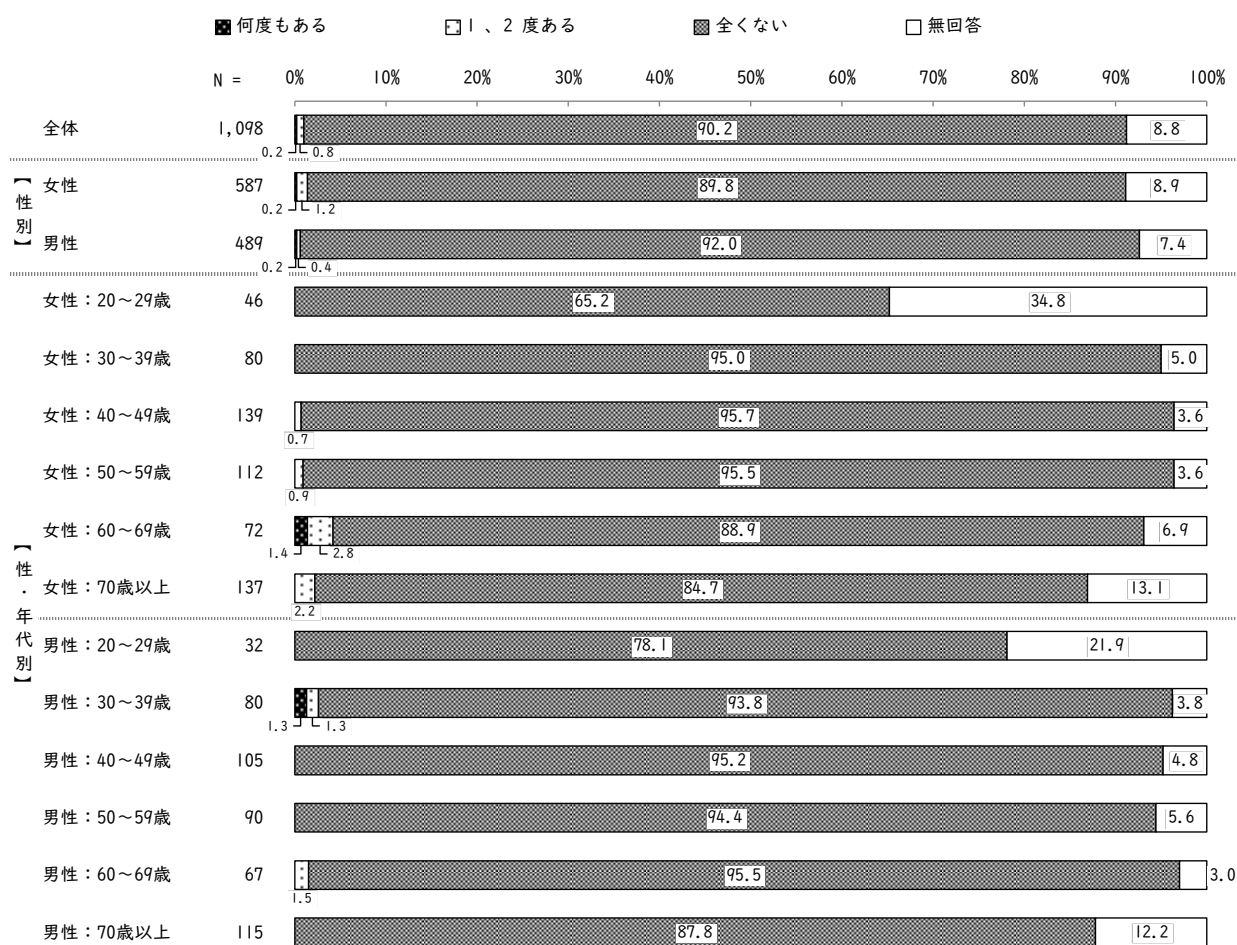
男性「1、2度ある」は0.4%、「何度もある」は0.2%

全体では、「全くない」が90.2%と最も高く、次いで「1、2度ある」(0.8%)、「何度もある」(0.2%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で1.4%、男性で0.6%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「60歳代」、男性では「30歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」100.0%となっています。

問 23 - B <配偶者から> 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける

女性「1、2度ある」は5.8%、「何度もある」は1.4%

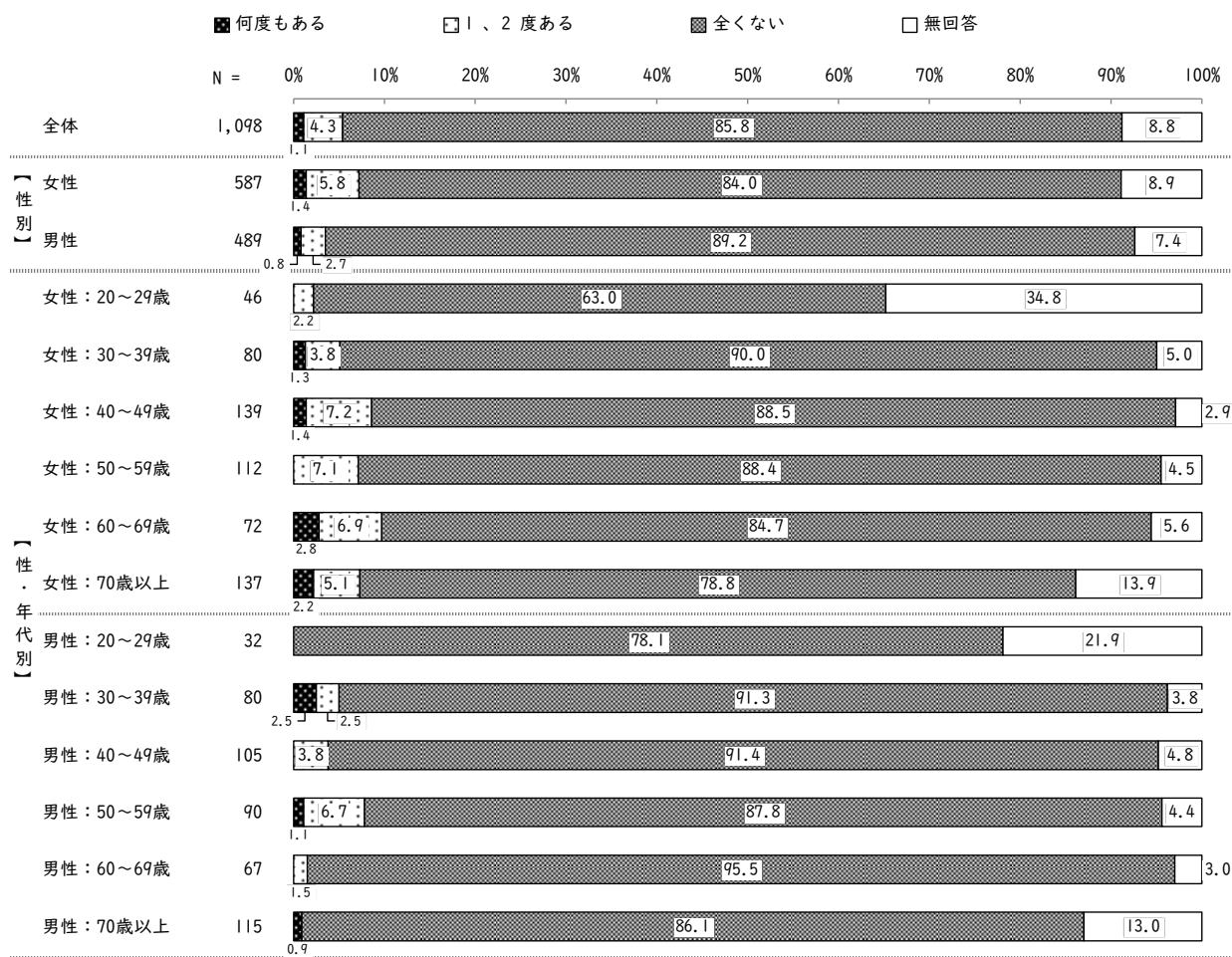
男性「1、2度ある」は2.7%、「何度もある」は0.8%

全体では、「全くない」が85.8%と最も高く、次いで「1、2度ある」(4.3%)、「何度もある」(1.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で7.2%、男性で3.5%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「60歳代」、男性では「50歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」100.0%となっています。

問 23 - C <配偶者から> 殴るふりや刃物を突きつけられるなどして脅される

女性「1、2度ある」は2.7%、「何度もある」は0.7%

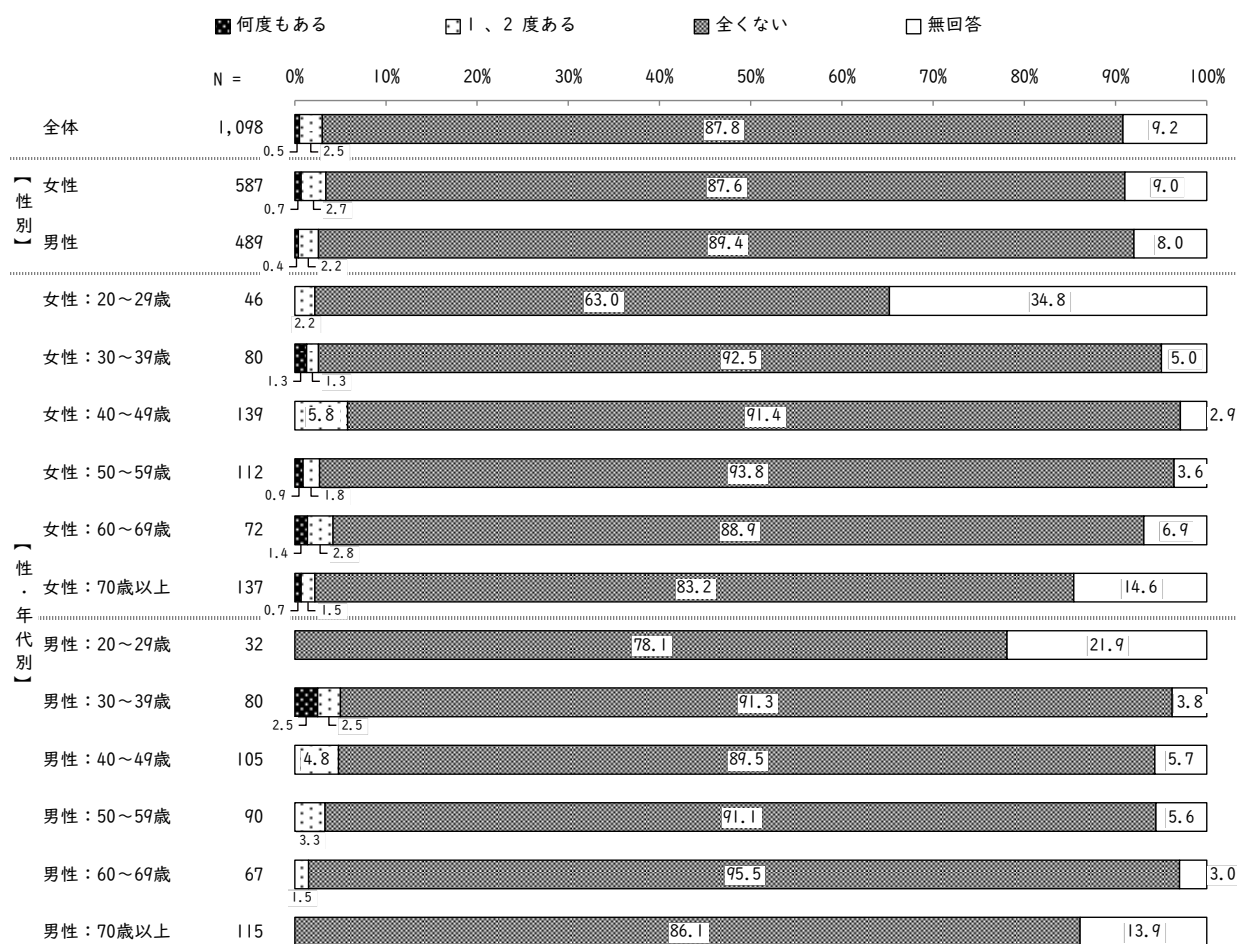
男性「1、2度ある」は2.2%、「何度もある」は0.4%

全体では、「全くない」が87.8%と最も高く、次いで「1、2度ある」(2.5%)、「何度もある」(0.5%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で3.4%、男性で2.6%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「40歳代」、男性では「30歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」100.0%となっています。

問 23 - D <配偶者から> 大声で怒鳴られる

女性 「1、2 度ある」は 21.5%、「何度もある」は 10.1%

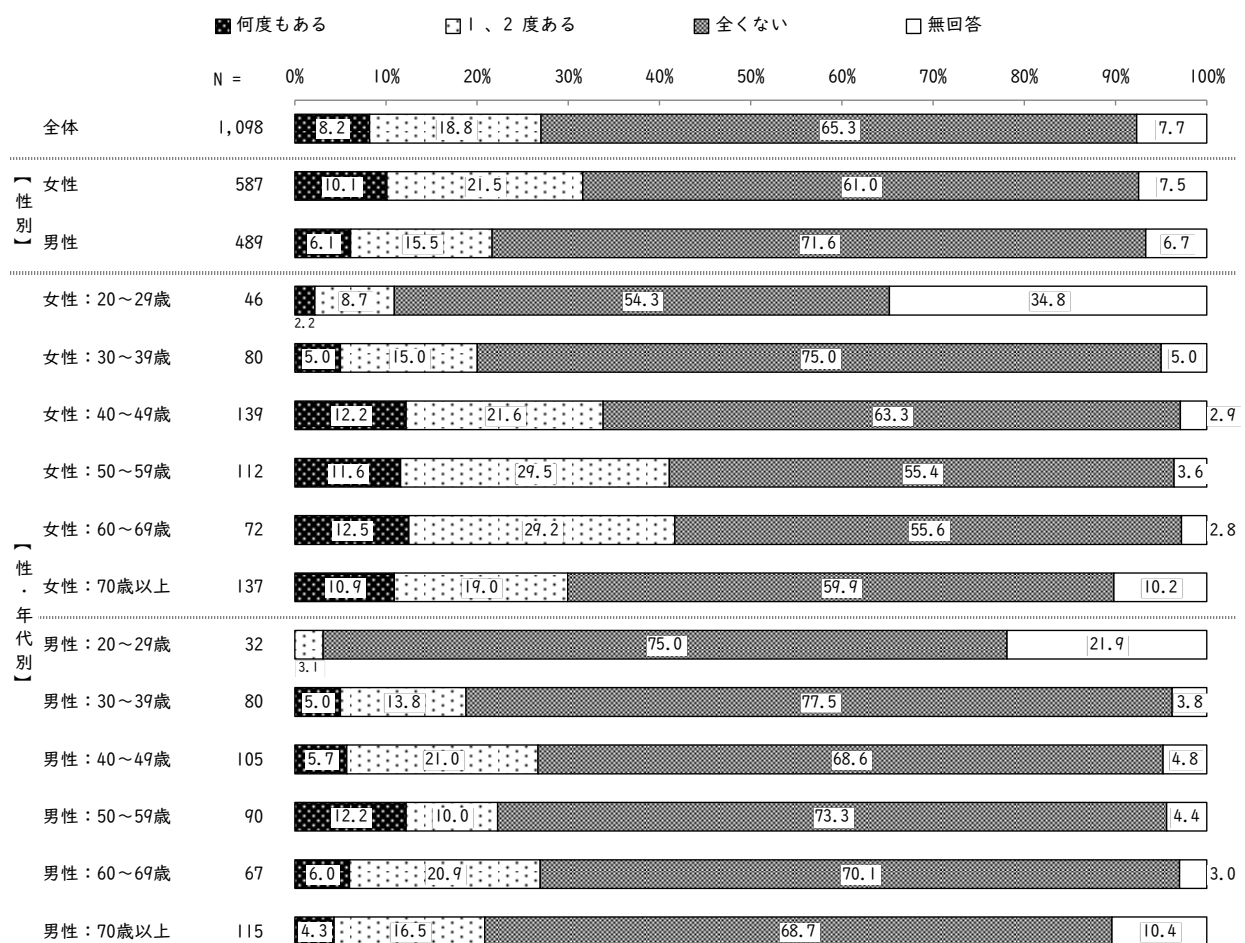
男性 「1、2 度ある」は 15.5%、「何度もある」は 6.1%

全体では、「全くない」が 65.3%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(18.8%)、「何度もある」(8.2%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 31.6%、男性で 21.6%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「60 歳代」、男性も「60 歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2 度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「1、2 度ある」20.0%、「全くない」80.0%となっています。

問 23-E <配偶者から> 命令するような口調でものを言われたりバカにされたりする

女性「1、2度ある」は17.2%、「何度もある」は13.6%

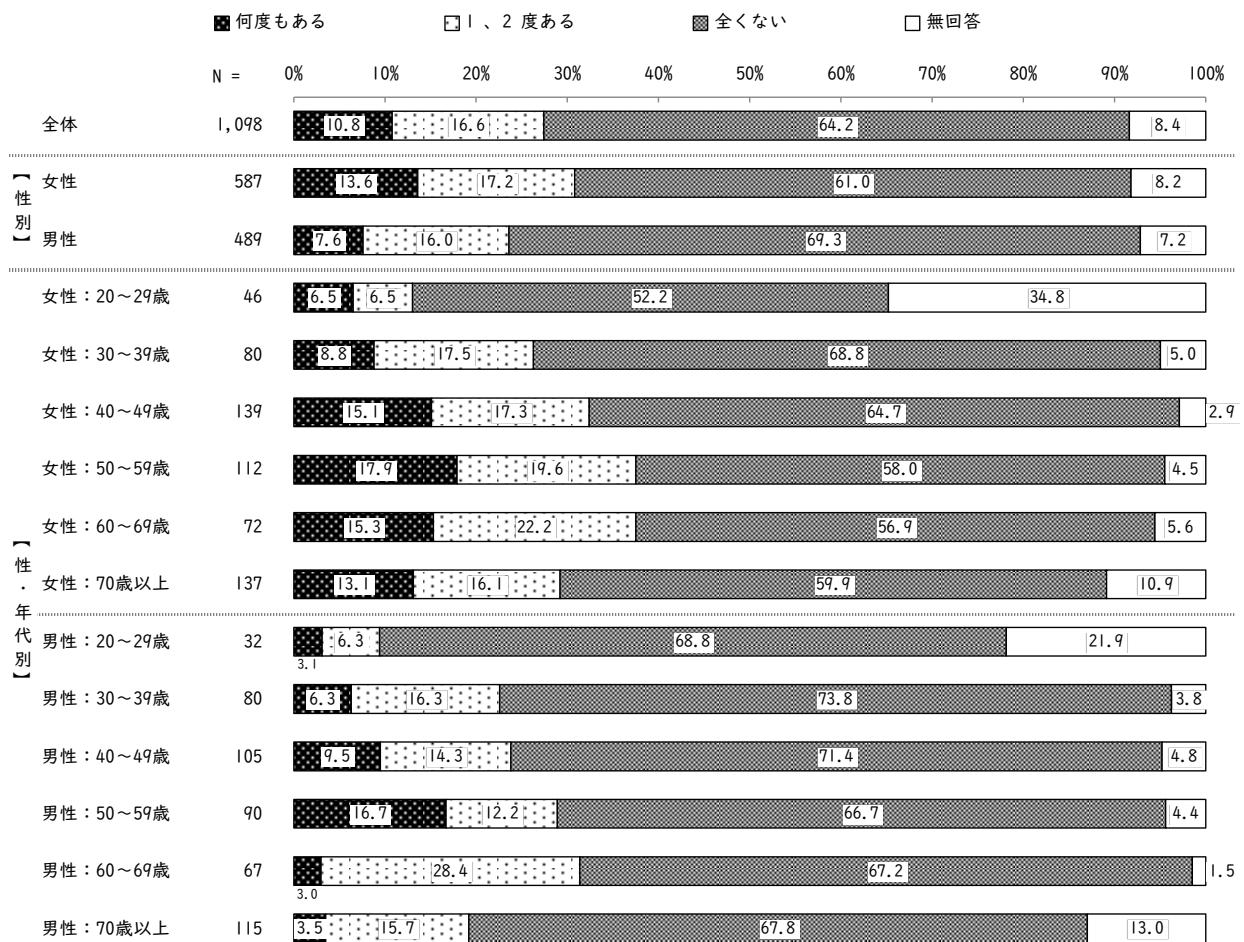
男性「1、2度ある」は16%、「何度もある」は7.6%

全体では、「全くない」が64.2%と最も高く、次いで「1、2度ある」(16.6%)、「何度もある」(10.8%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で30.8%、男性で23.6%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「50～60歳代」、男性では「60歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「1、2度ある」40.0%、「全くない」60.0%となっています。

問 23 - F <配偶者から> 何を言っても長期間、無視し続けられる

女性 「1、2 度ある」は 11.1%、「何でもある」は 3.9%

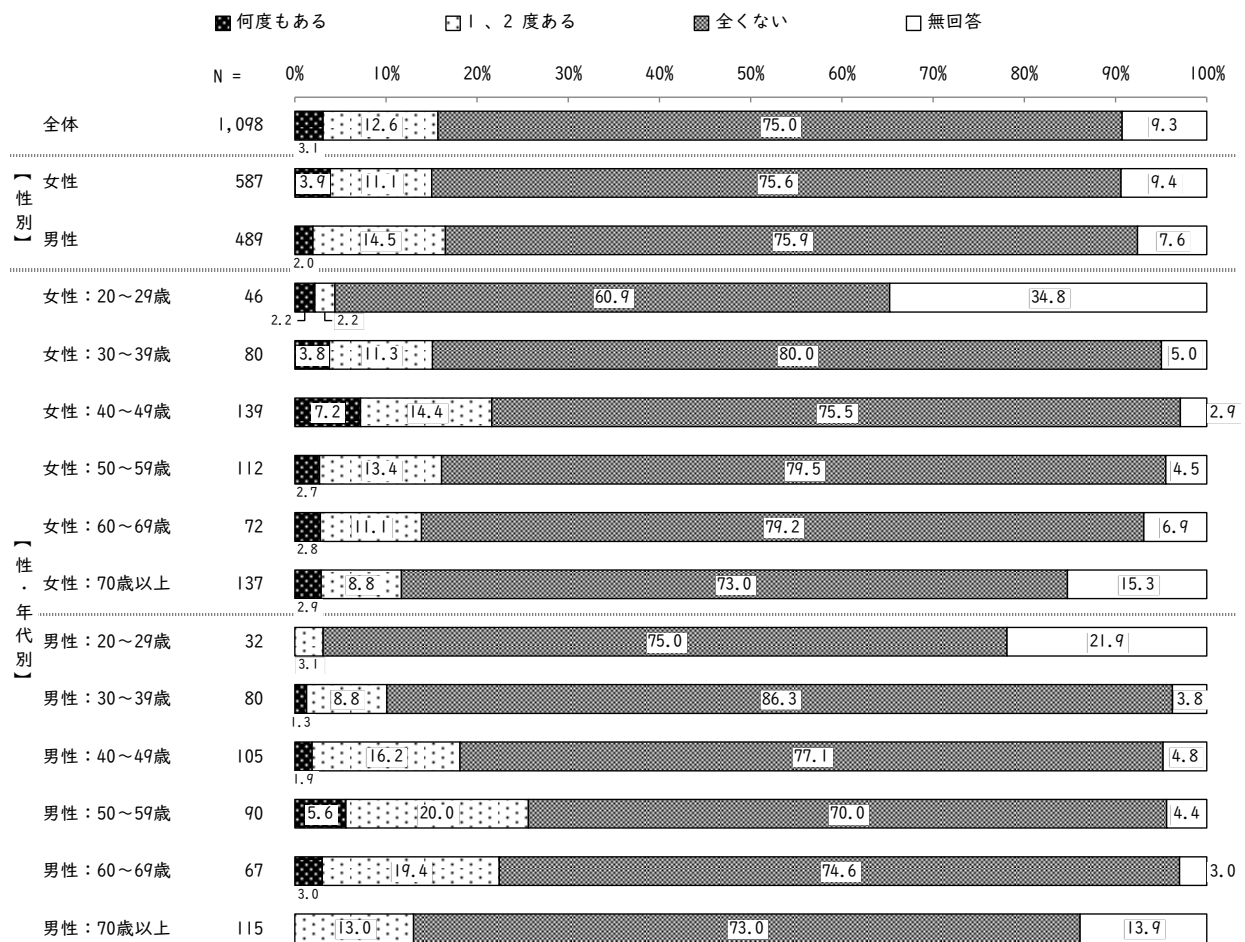
男性 「1、2 度ある」は 14.5%、「何でもある」は 2%

全体では、「全くない」が 75.0%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(12.6%)、「何でもある」(3.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 15.0%、男性で 16.5%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「40 歳代」、男性では「50 歳代」が最も高くなっている。

※ 『一度以上ある』: 「何でもある」・「1、2 度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「1、2 度ある」20.0%、「全くない」80.0%となっています。

問 23 - G <配偶者から> 生活費を渡されなかったり、使い道を細かく監視されたりする

女性「1、2度ある」は2.7%、「何度もある」は4.8%

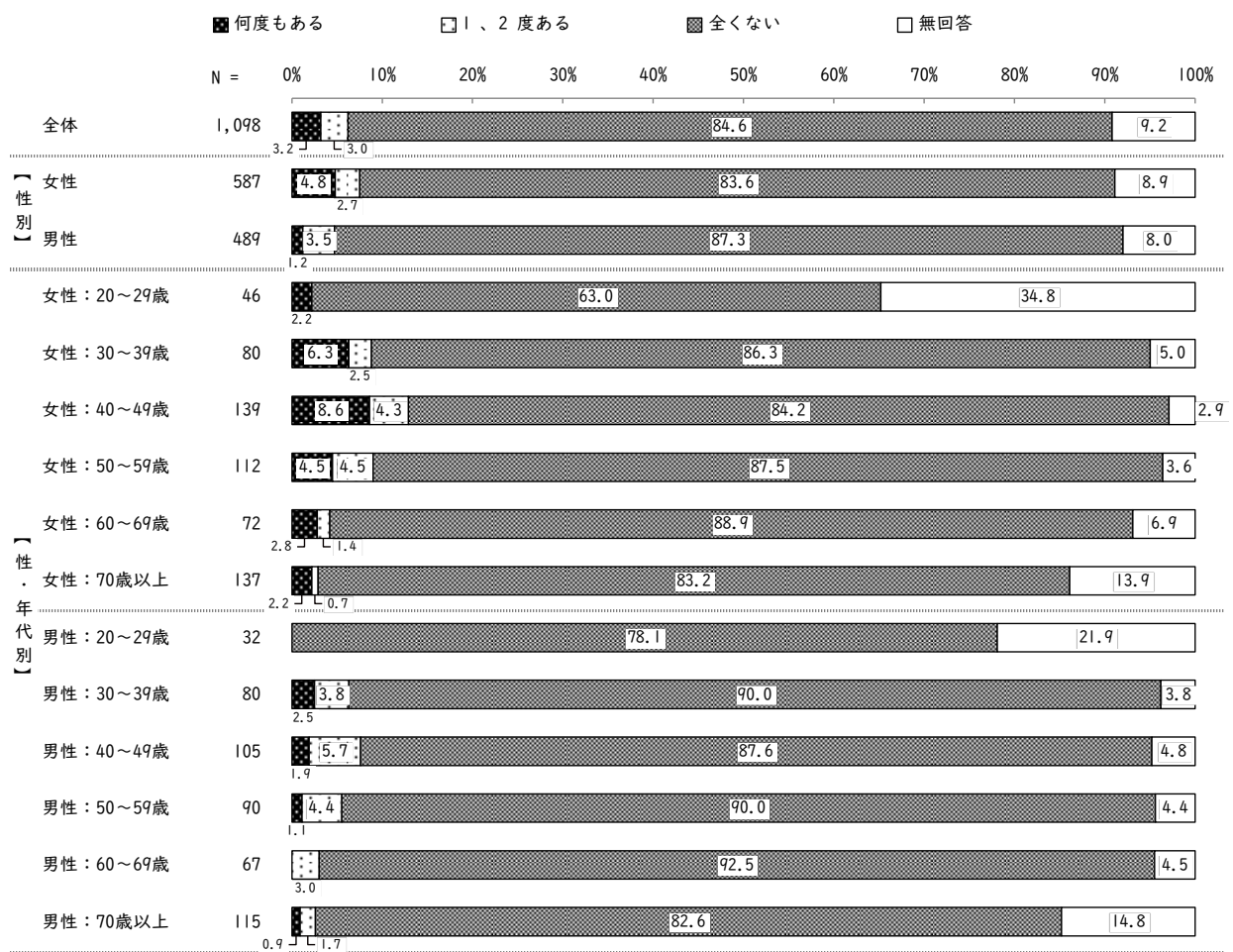
男性「1、2度ある」は3.5%、「何度もある」は1.2%

全体では、「全くない」が84.6%と最も高く、次いで「何度もある」(3.2%)、「1、2度ある」(3.0%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で7.5%、男性で4.7%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「40歳代」、男性も「40歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」100.0%となっています。

問 23-H <配偶者から> 嫌がっているのに、性的な行為を強要される

女性「1、2度ある」は9%、「何度もある」は3.7%

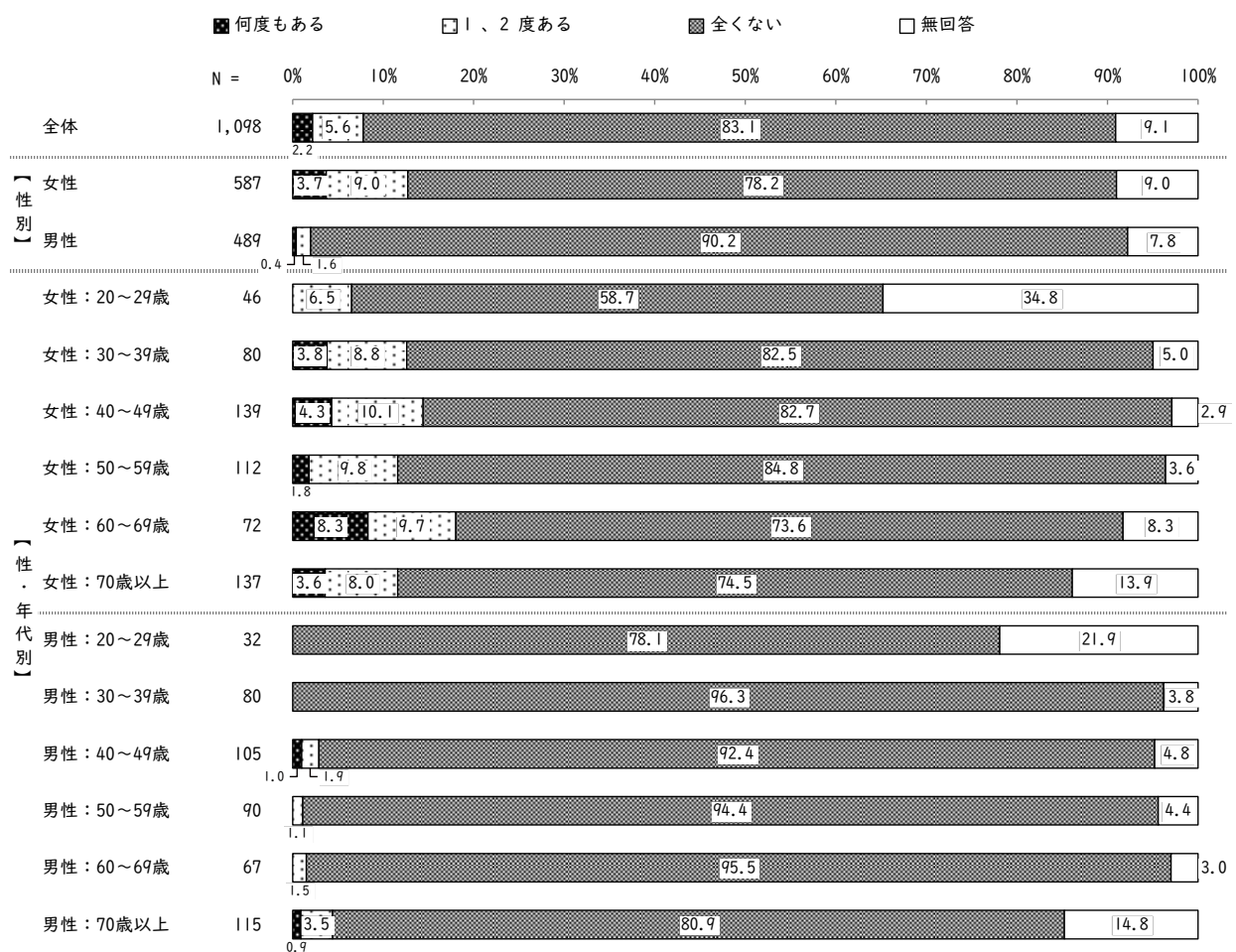
男性「1、2度ある」は1.6%、「何度もある」は0.4%

全体では、「全くない」が83.1%と最も高く、次いで「1、2度ある」(5.6%)、「何度もある」(2.2%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で12.7%、男性で2.0%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「60歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「1、2度ある」20.0%、「全くない」80.0%となっています。

問 23 - I <配偶者から> 避妊に協力しない

女性「1、2度ある」は4.8%、「何度もある」は2.2%

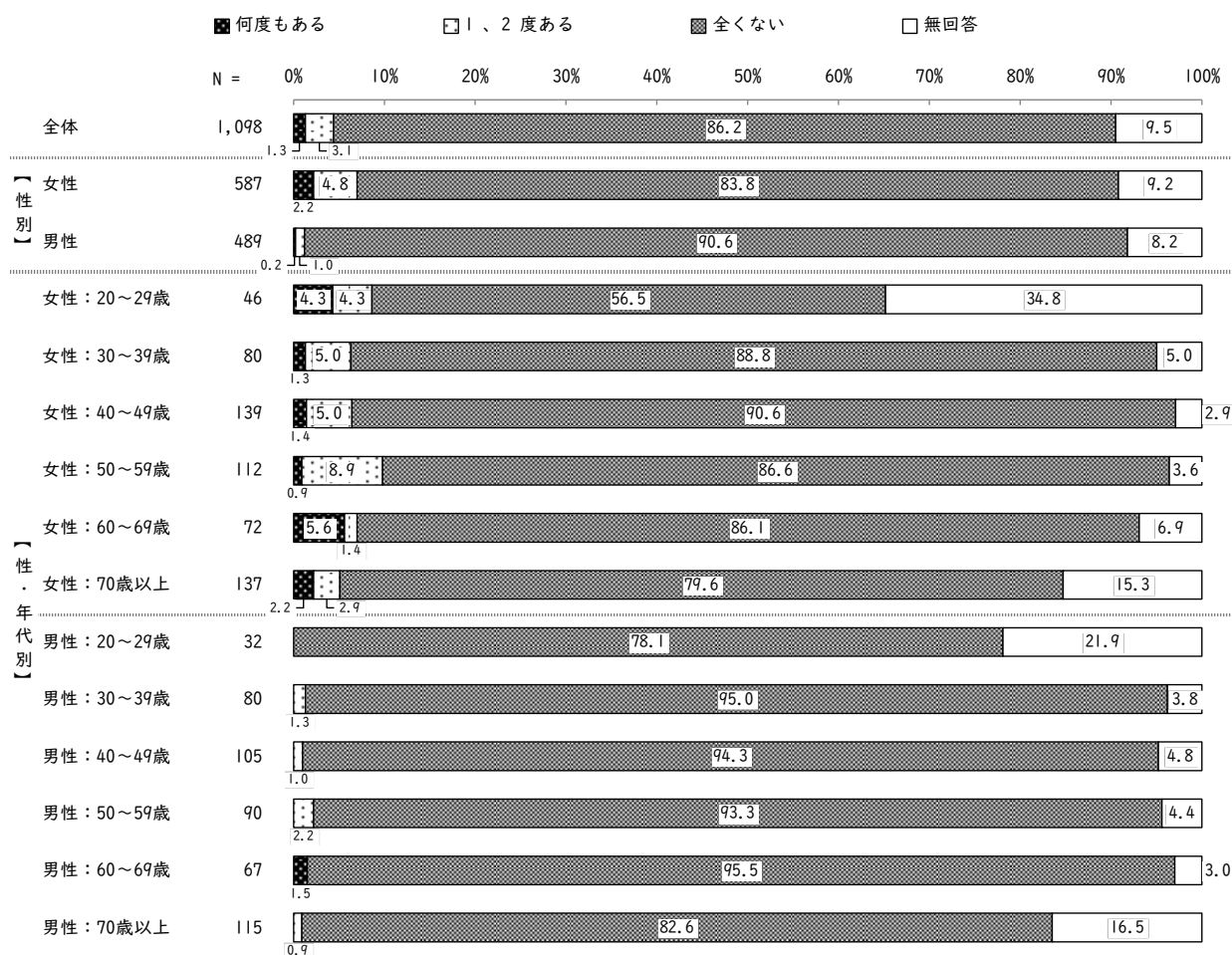
男性「1、2度ある」は1%、「何度もある」は0.2%

全体では、「全くない」が86.2%と最も高く、次いで「1、2度ある」(3.1%)、「何度もある」(1.3%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で7.0%、男性で1.2%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「50歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「1、2度ある」20.0%、「全くない」80.0%となっています。

問 23-J <配偶者から> 電話やメールを細かくチェックされる

女性「1、2度ある」は2.9%、「何度もある」は0.9%

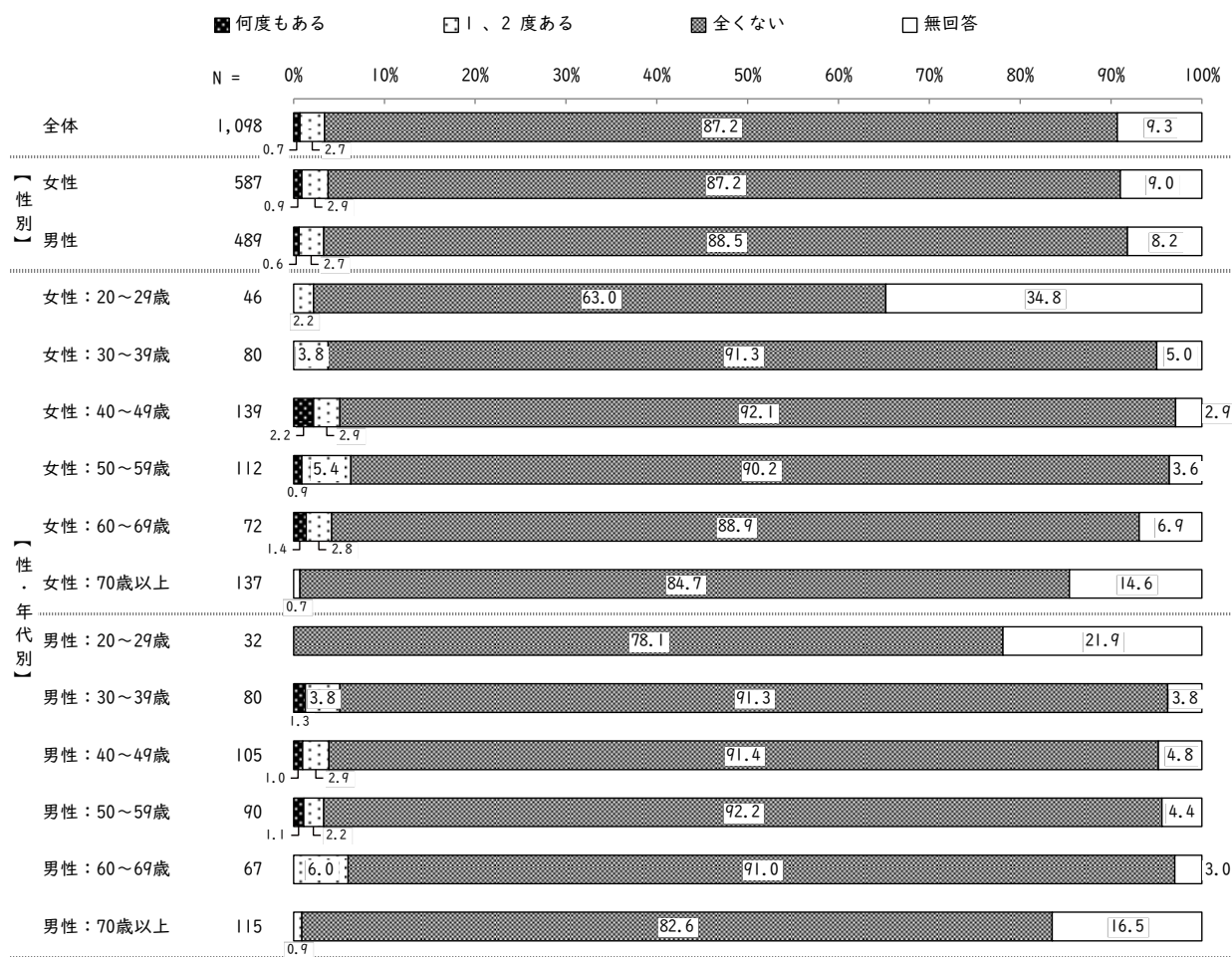
男性「1、2度ある」は2.7%、「何度もある」は0.6%

全体では、「全くない」が87.2%と最も高く、次いで「1、2度ある」(2.7%)、「何度もある」(0.7%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で3.8%、男性で3.3%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「50歳代」、男性では「60歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」100.0%となっています。

問 23-K <配偶者から> 親族や友人との付き合いを禁止される

女性 「1、2 度ある」は 5.8%、「何度もある」は 1%

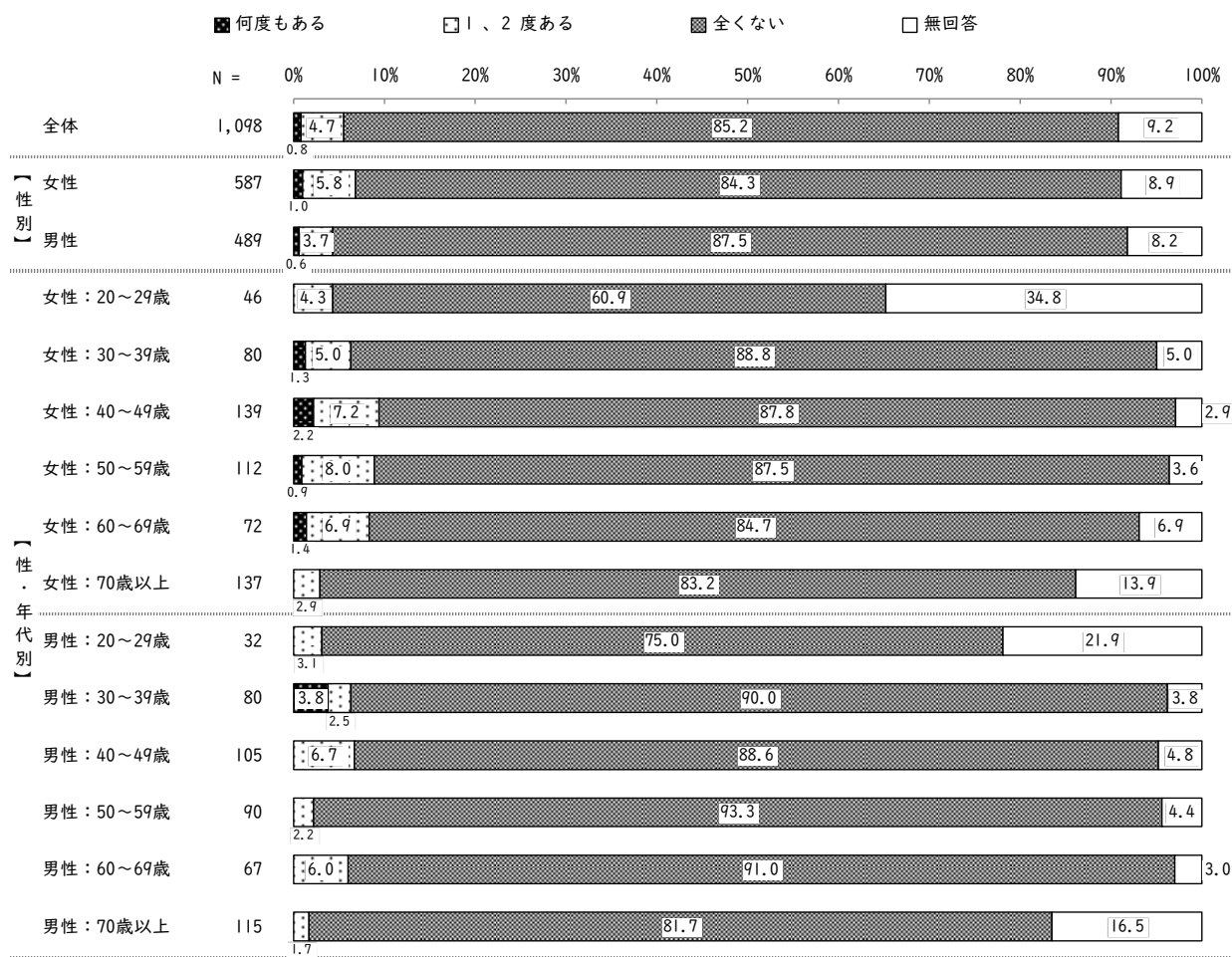
男性 「1、2 度ある」は 3.7%、「何度もある」は 0.6%

全体では、「全くない」が 85.2%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(4.7%)、「何度もある」(0.8%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 6.8%、男性で 4.3%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「40 歳代」、男性も「40 歳代」が最も高くなっている。

※ 『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2 度ある」と答えた人



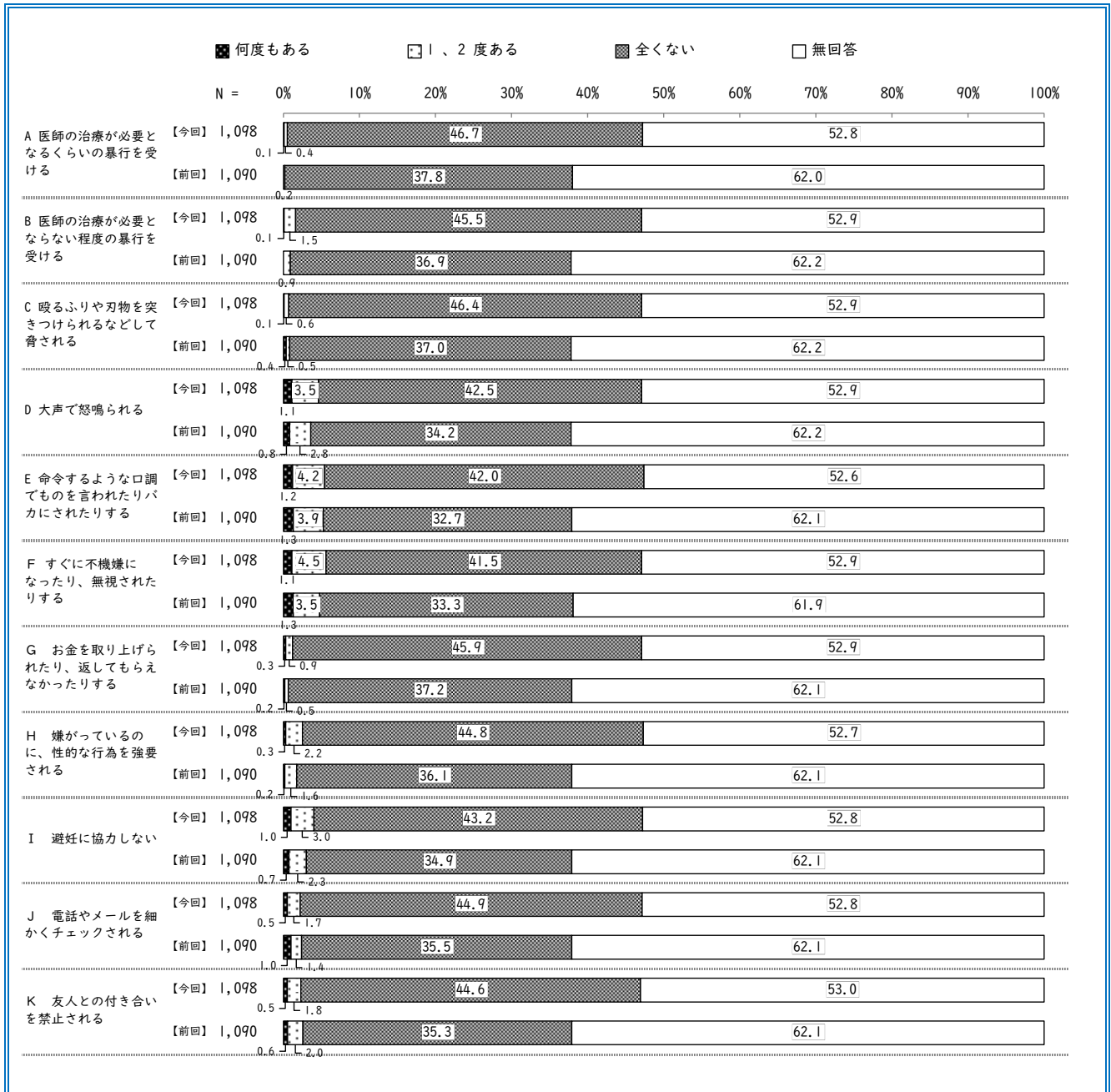
【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」100.0%となっています。

<恋人から>

●項目比較（前回調査比較）

恋人からされたことのある行為（DV被害）の傾向は、前回調査から変化なし

全体で「何度もある」と答えた割合は、「命令するような口調でものを言われたりバカにされたりする」（精神的暴力）が最も高く、「大声で怒鳴られる」（精神的暴力）、「すぐ不機嫌になったり、無視されたりする」（精神的暴力）の順となっている。



問 23 - A<恋人から> 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける

女性「1、2度ある」は0.5%、「何度もある」は0.2%

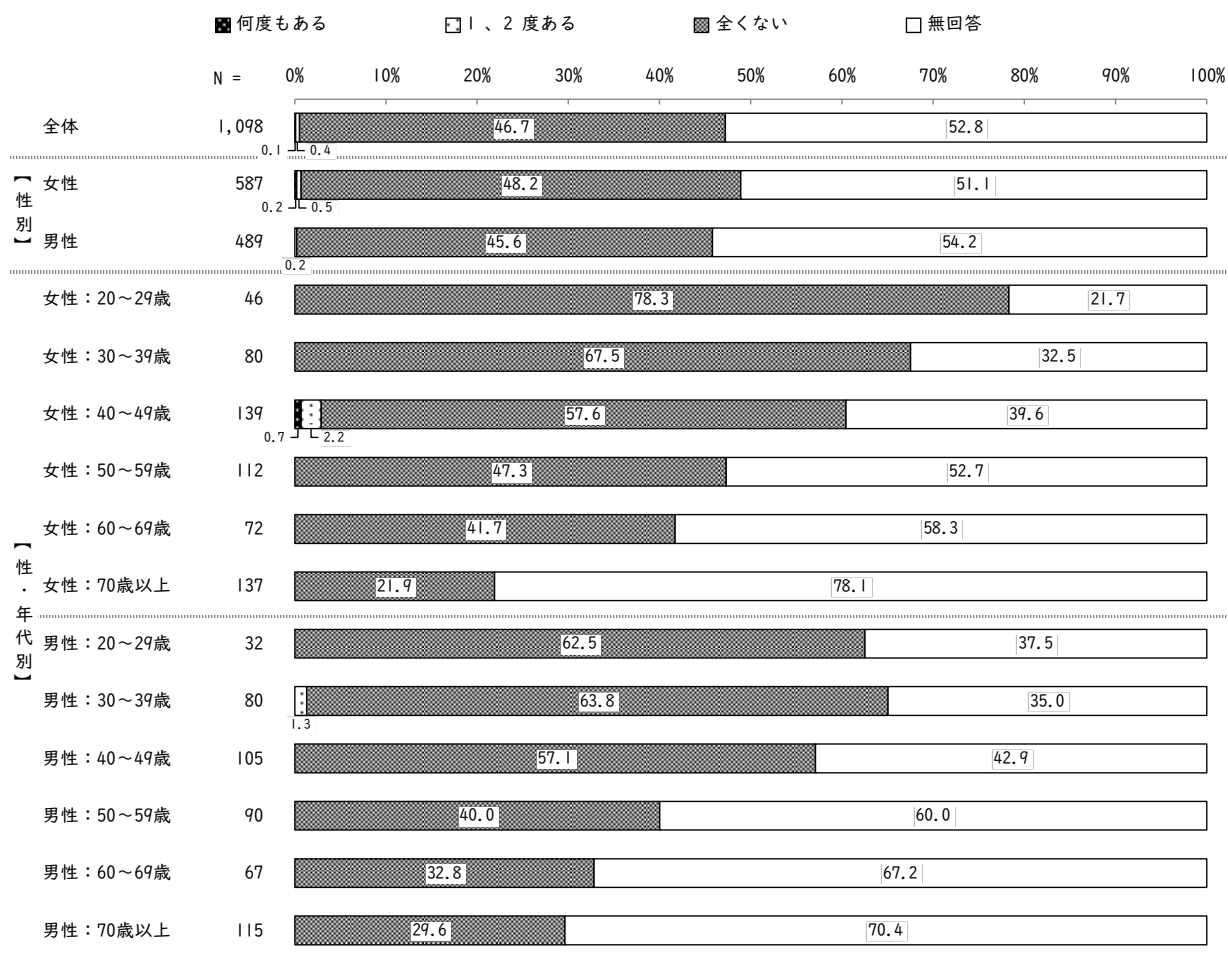
男性「1、2度ある」は0.2%

全体では、「全くない」が46.7%と最も高く、次いで「1、2度ある」(0.4%)、「何度もある」(0.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で0.7%、男性で0.2%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「40歳代」、男性では「30歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」40.0%、「無回答」60.0%となっています。

問 23 - B<恋人から> 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける

女性「1、2度ある」は1.9%、「何度もある」は0.2%

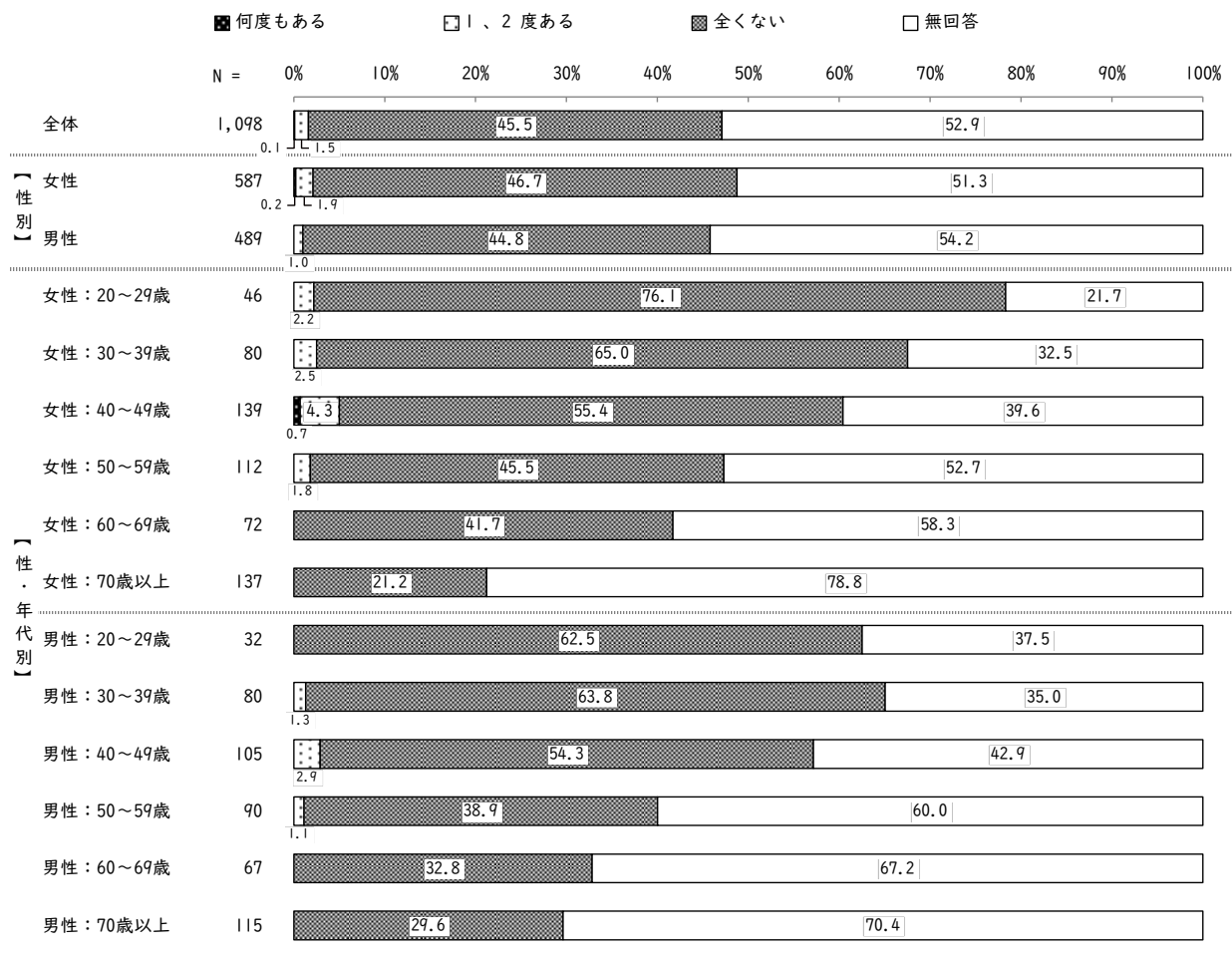
男性「1、2度ある」は1%

全体では、「全くない」が45.5%と最も高く、次いで「1、2度ある」(1.5%)、「何度もある」(0.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で2.1%、男性1.0%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「40歳代」、男性も「40歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」40.0%、「無回答」60.0%となっています。

問 23 - C <恋人から> 殴るふりや刃物を突きつけられるなどして脅される

女性 「1、2 度ある」は 1%、「何度もある」は 0.2%

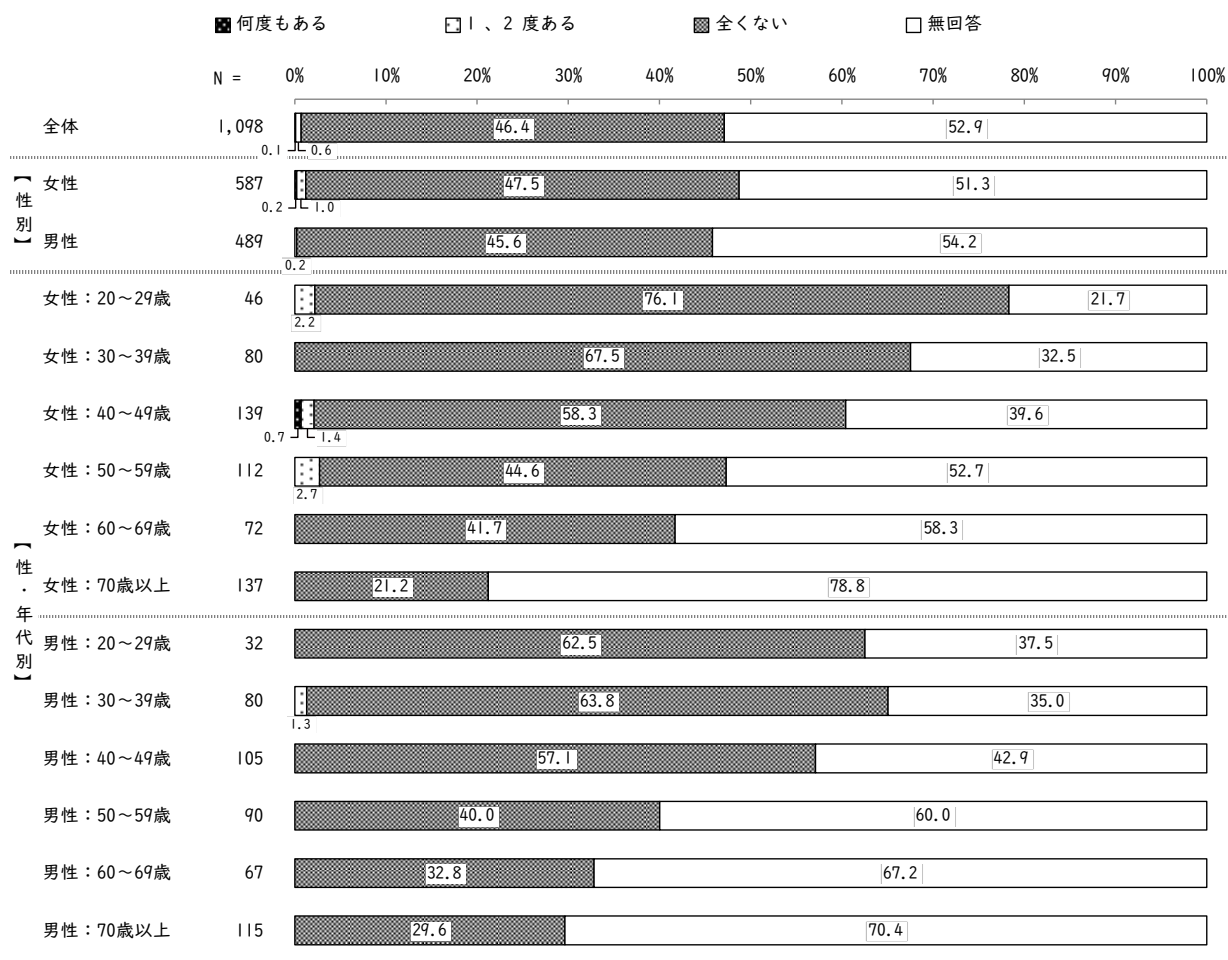
男性 「1、2 度ある」は 0.2%

全体では、「全くない」が 46.4%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(0.6%)、「何度もある」(0.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 1.2%、男性で 0.2%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「50 歳代」が最も高くなっている。

※ 『一度以上ある』: 「何度もある」・「1、2 度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」40.0%、「無回答」60.0%となっています。

問 23 - D <恋人から> 大声で怒鳴られる

女性「1、2度ある」は3.7%、「何度もある」は1.5%

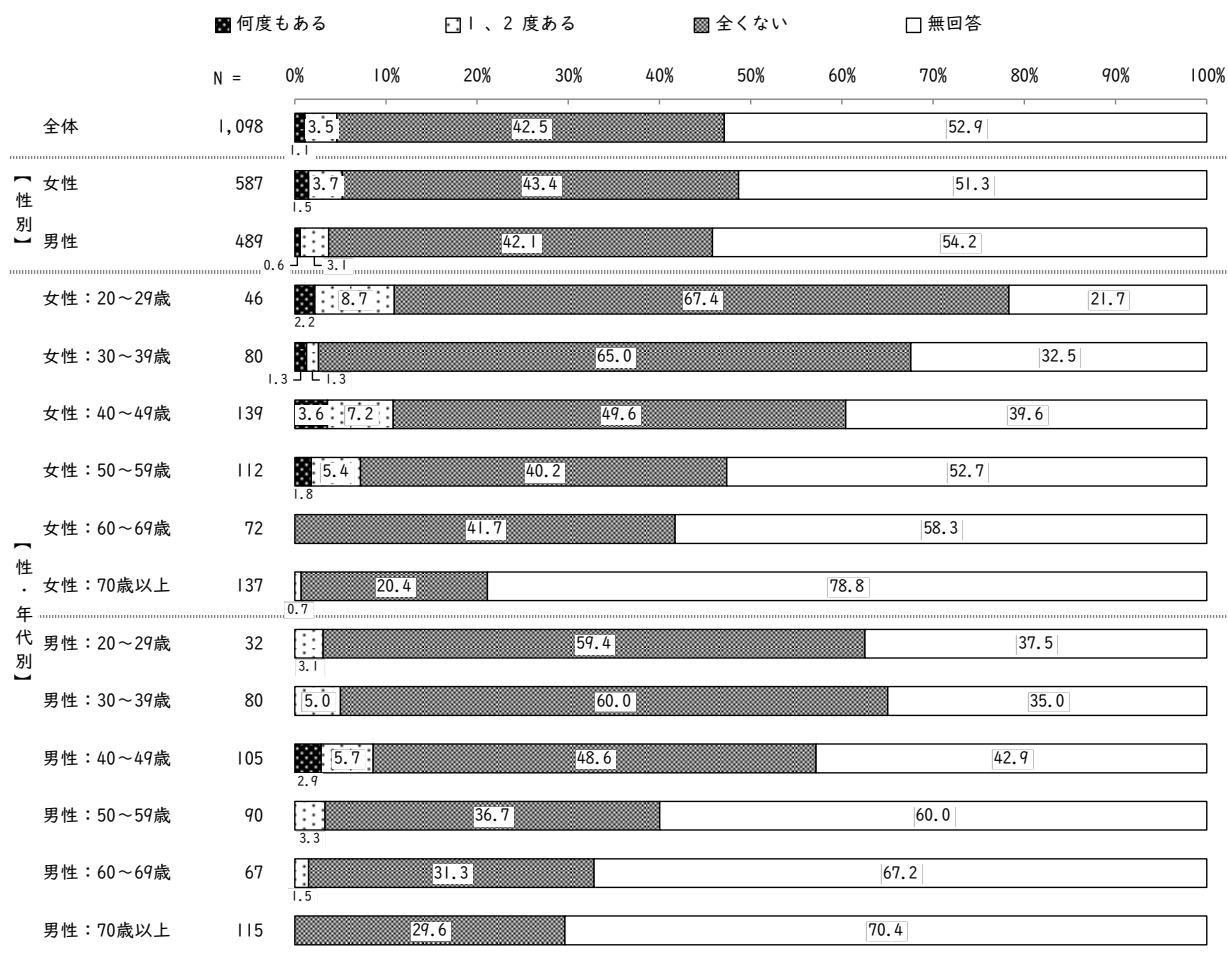
男性「1、2度ある」は3.1%、「何度もある」は0.6%

全体では、「全くない」が42.5%と最も高く、次いで「1、2度ある」(3.5%)、「何度もある」(1.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で5.2%、男性で3.7%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「20歳代」、男性では「40歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」40.0%、「無回答」60.0%となっています。

問 23 - E<恋人から> 命令するような口調でものを言われたりバカにされたりする

女性「1、2度ある」は4.1%、「何度もある」は1.7%

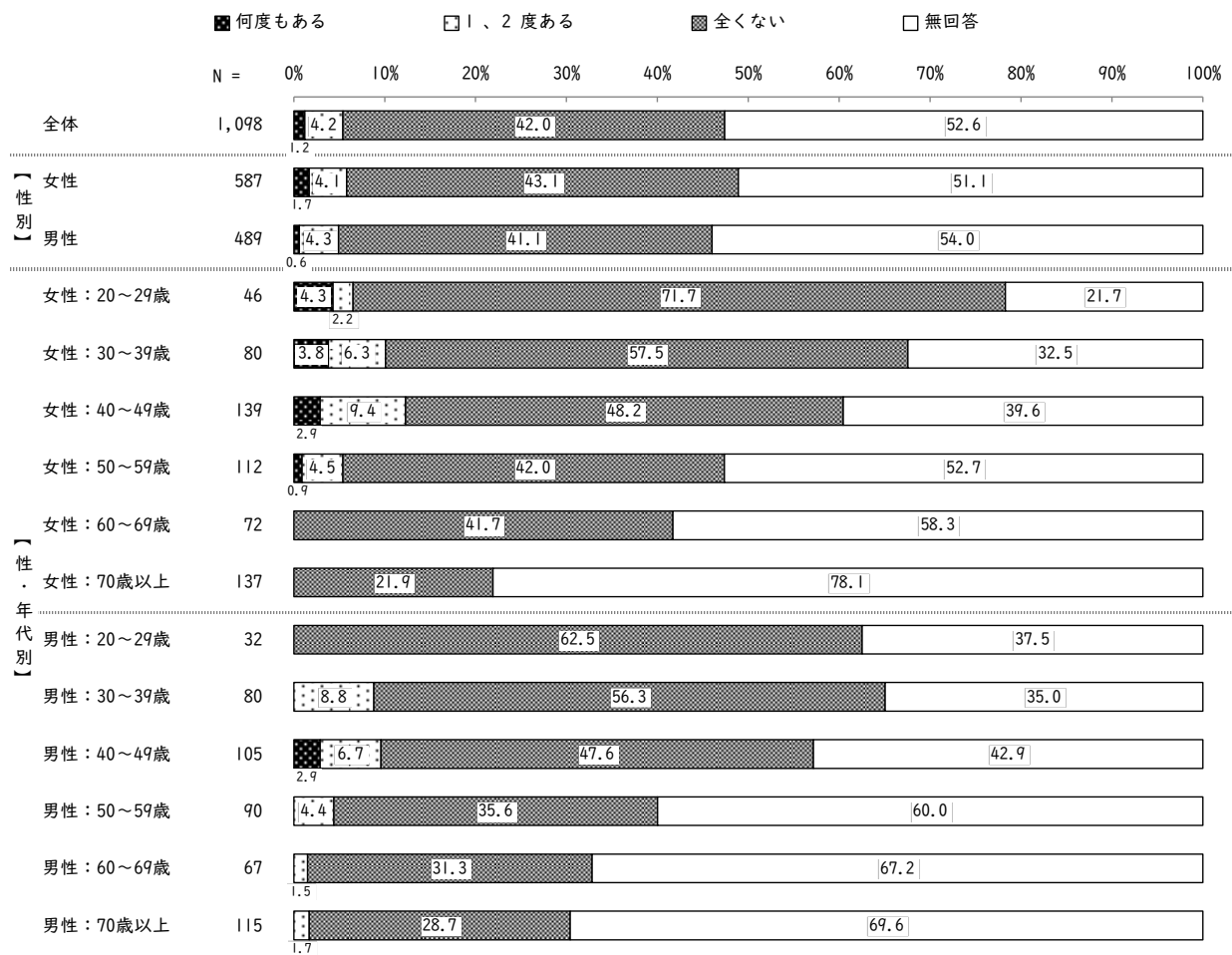
男性「1、2度ある」は4.3%、「何度もある」は0.6%

全体では、「全くない」が42.0%と最も高く、次いで「1、2度ある」(4.2%)、「何度もある」(1.2%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で5.8%、男性で4.9%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「40歳代」、男性も「40歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」40.0%、「無回答」60.0%となっています。

問 23 - F<恋人から> すぐ不機嫌になったり、無視されたりする

女性 「1、2 度ある」は 4.3%、「何度もある」は 1.2%

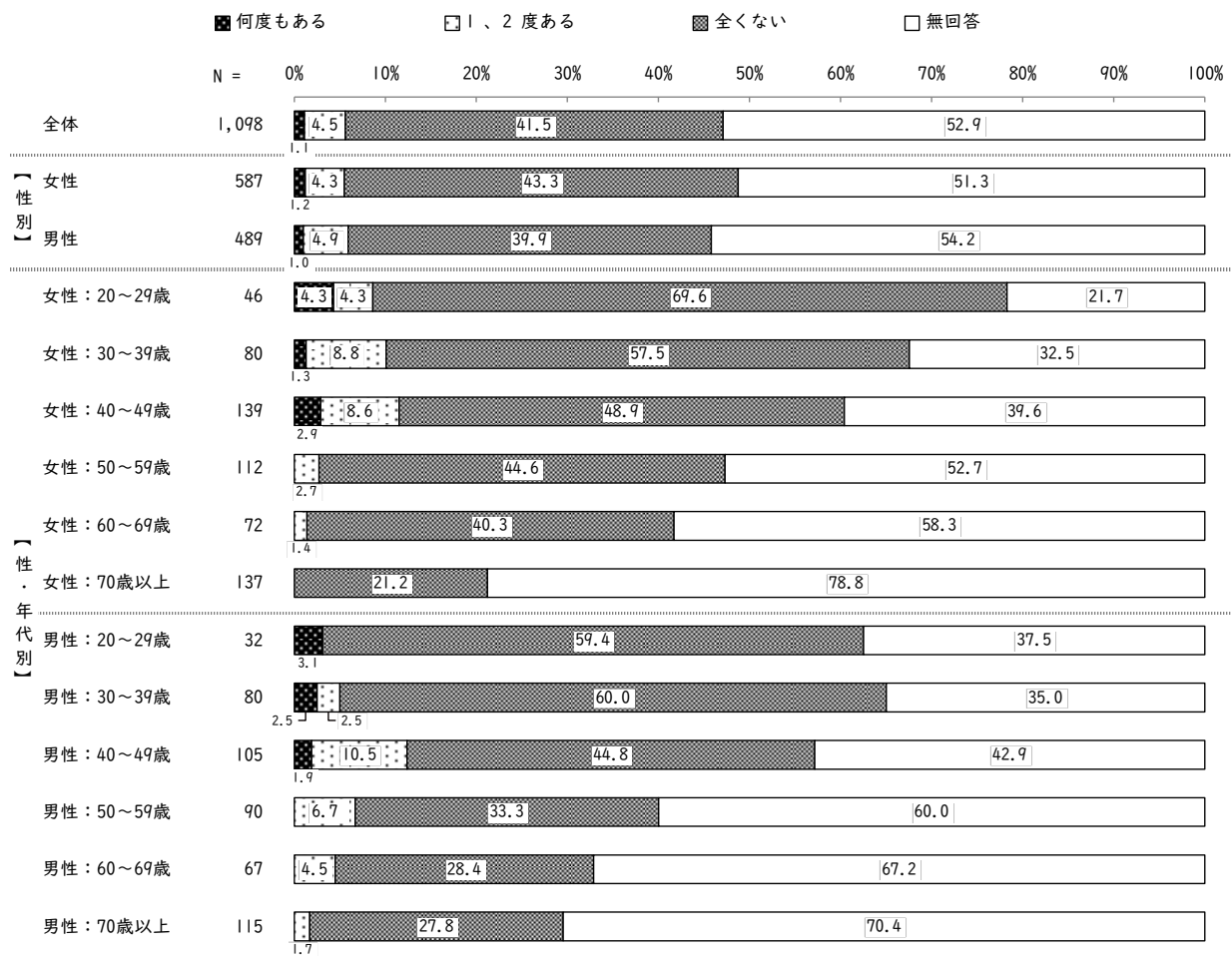
男性 「1、2 度ある」は 4.9%、「何度もある」は 1%

全体では、「全くない」が 41.5%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(4.5%)、「何度もある」(1.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 5.5%、男性で 5.9%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「40 歳代」、男性も「40 歳代」が最も高くなっている。

※ 『一度以上ある』: 「何度もある」・「1、2 度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」40.0%、「無回答」60.0%となっています。

問 23 - G<恋人から> お金を取り上げられたり、返してもらえなかったりする

女性「1、2度ある」は1%、「何度もある」は0.3%

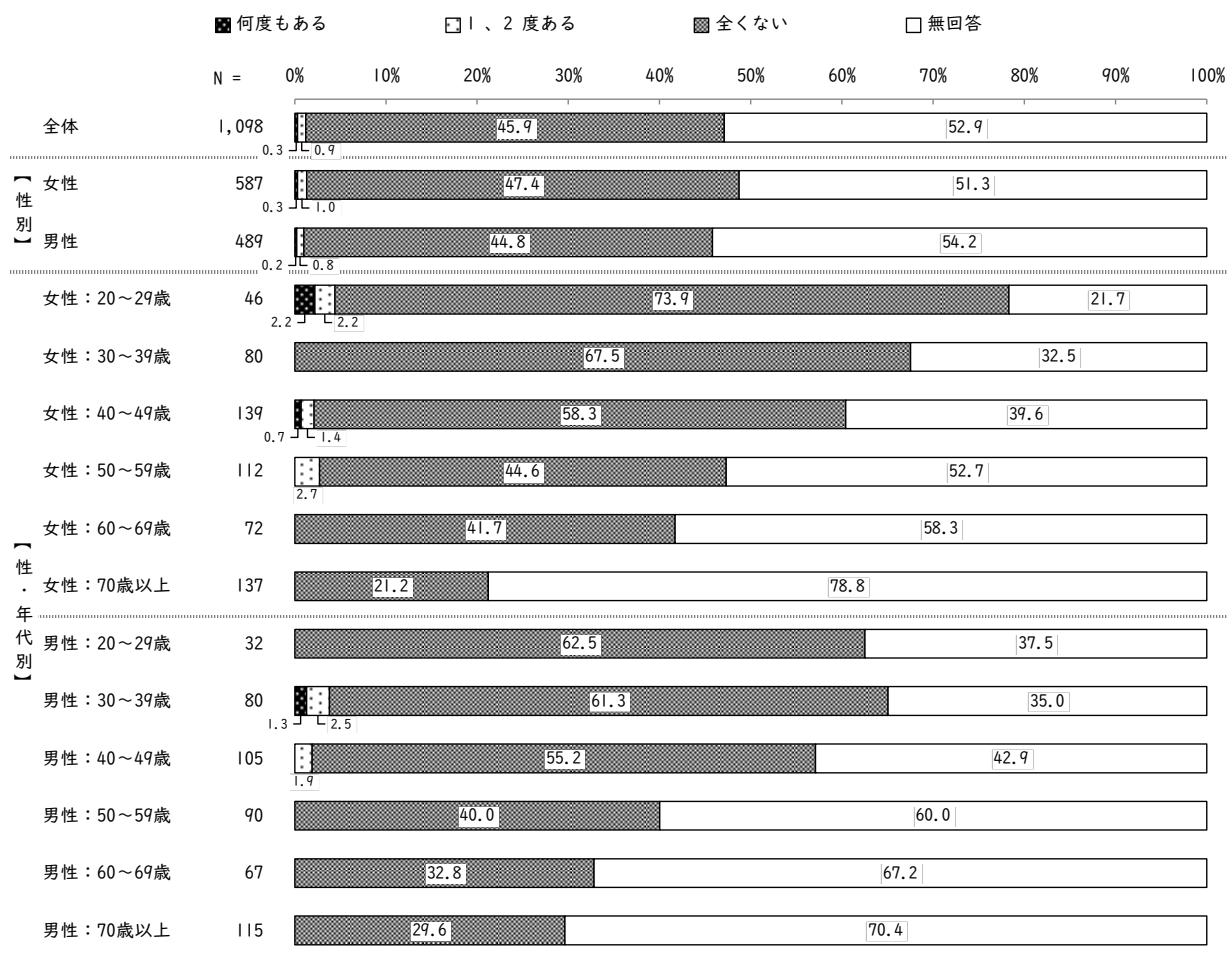
男性「1、2度ある」は0.8%、「何度もある」は0.2%

全体では、「全くない」が45.9%と最も高く、次いで「1、2度ある」(0.9%)、「何度もある」(0.3%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で1.3%、男性で1.0%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「20歳代」、男性では「30歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」40.0%、「無回答」60.0%となっています。

問 23 - H<恋人から> 嫌がっているのに、性的な行為を強要される

女性「1、2度ある」は3.2%、「何度もある」は0.5%

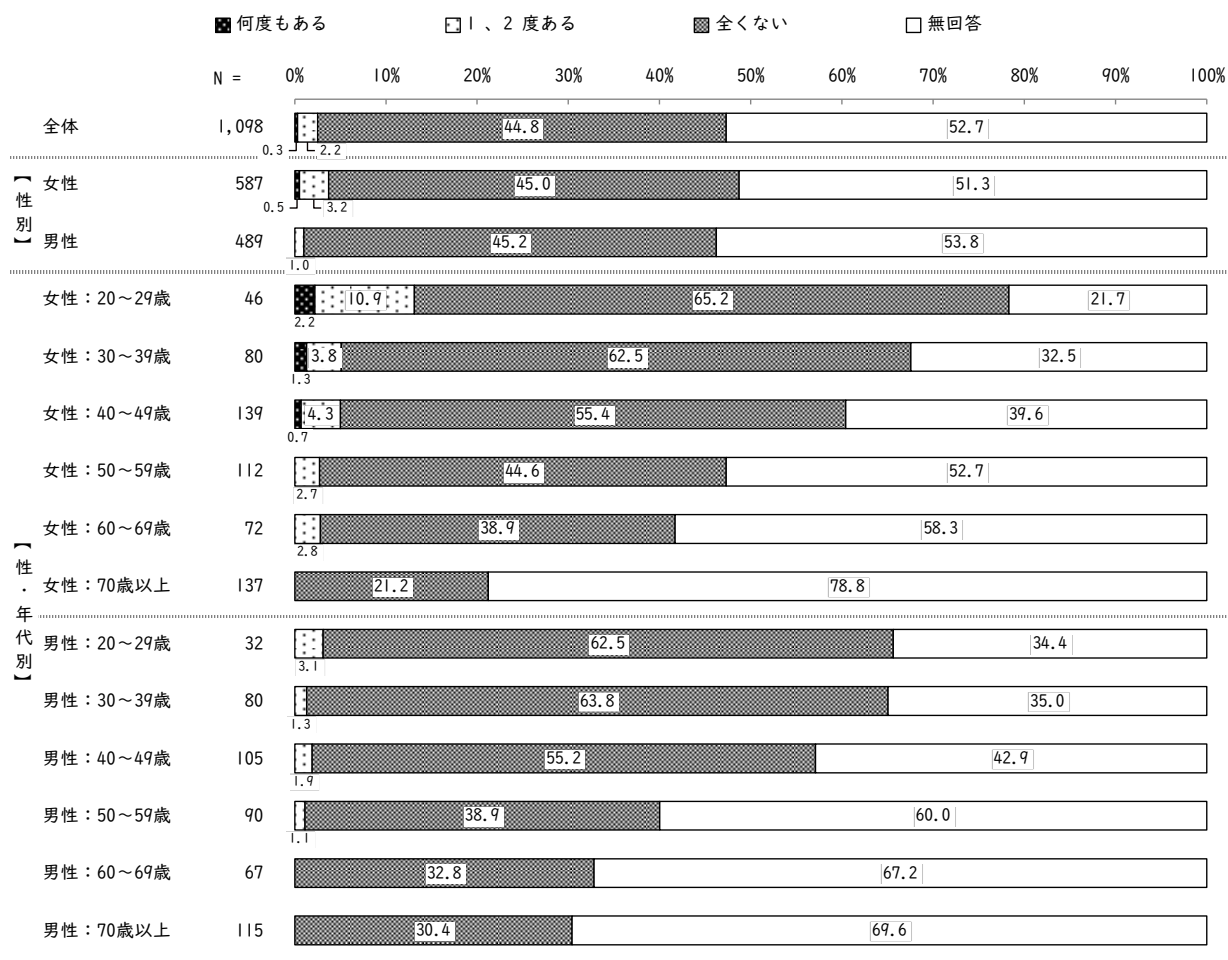
男性「1、2度ある」は1%

全体では、「全くない」が44.8%と最も高く、次いで「1、2度ある」(2.2%)、「何度もある」(0.3%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で3.7%、男性で1.0%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「20歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」40.0%、「無回答」60.0%となっています。

問 23 - I < 恋人から > 避妊に協力しない

女性「1、2度ある」は4.4%、「何度もある」は1.7%

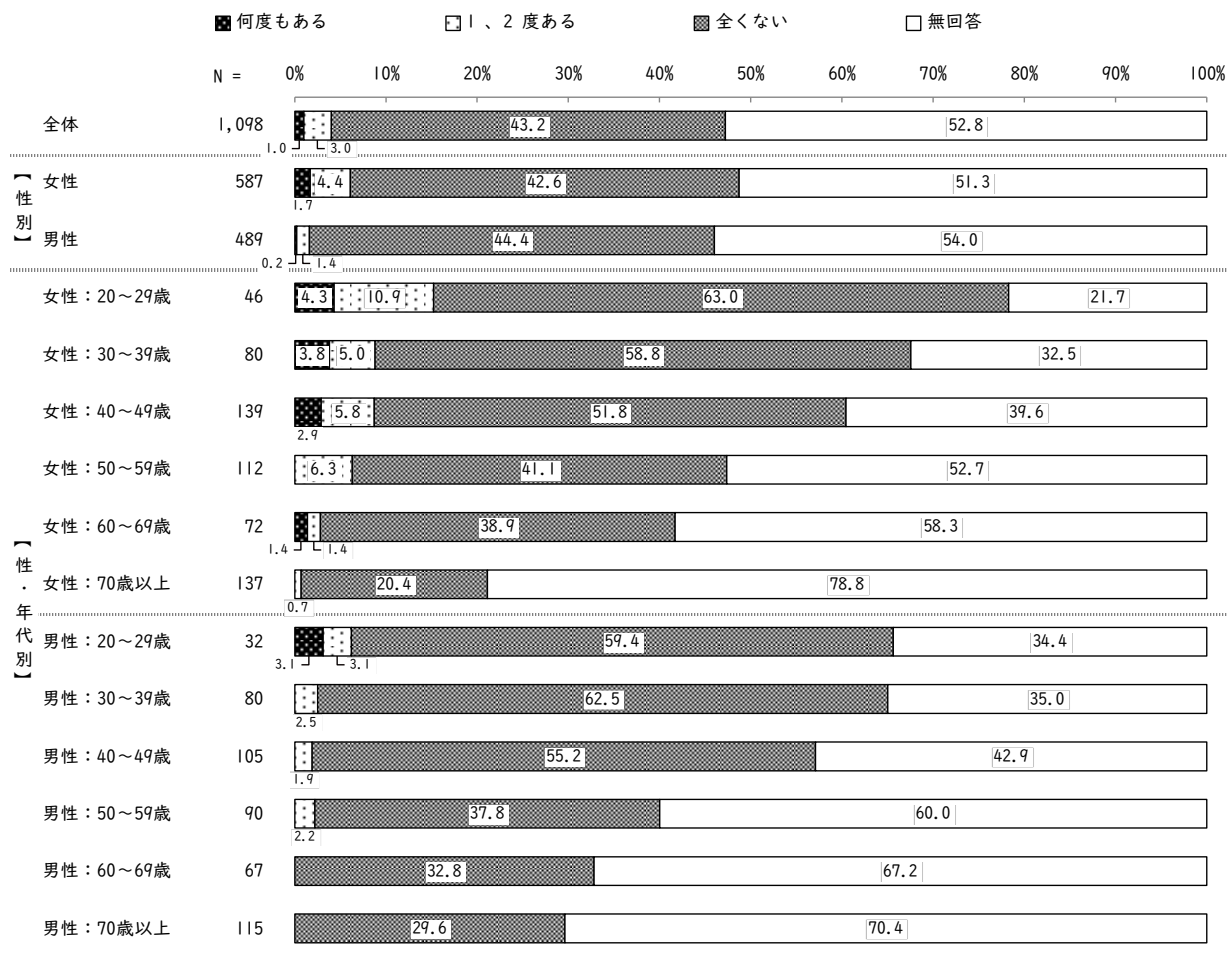
男性「1、2度ある」は1.4%、「何度もある」は0.2%

全体では、「全くない」が43.2%と最も高く、次いで「1、2度ある」(3.0%)、「何度もある」(1.0%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で6.1%、男性で1.6%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「20歳代」、男性も「20歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」40.0%、「無回答」60.0%となっています。

問 23-J<恋人から> 電話やメールを細かくチェックされる

女性「1、2度ある」は1.5%、「何度もある」は0.7%

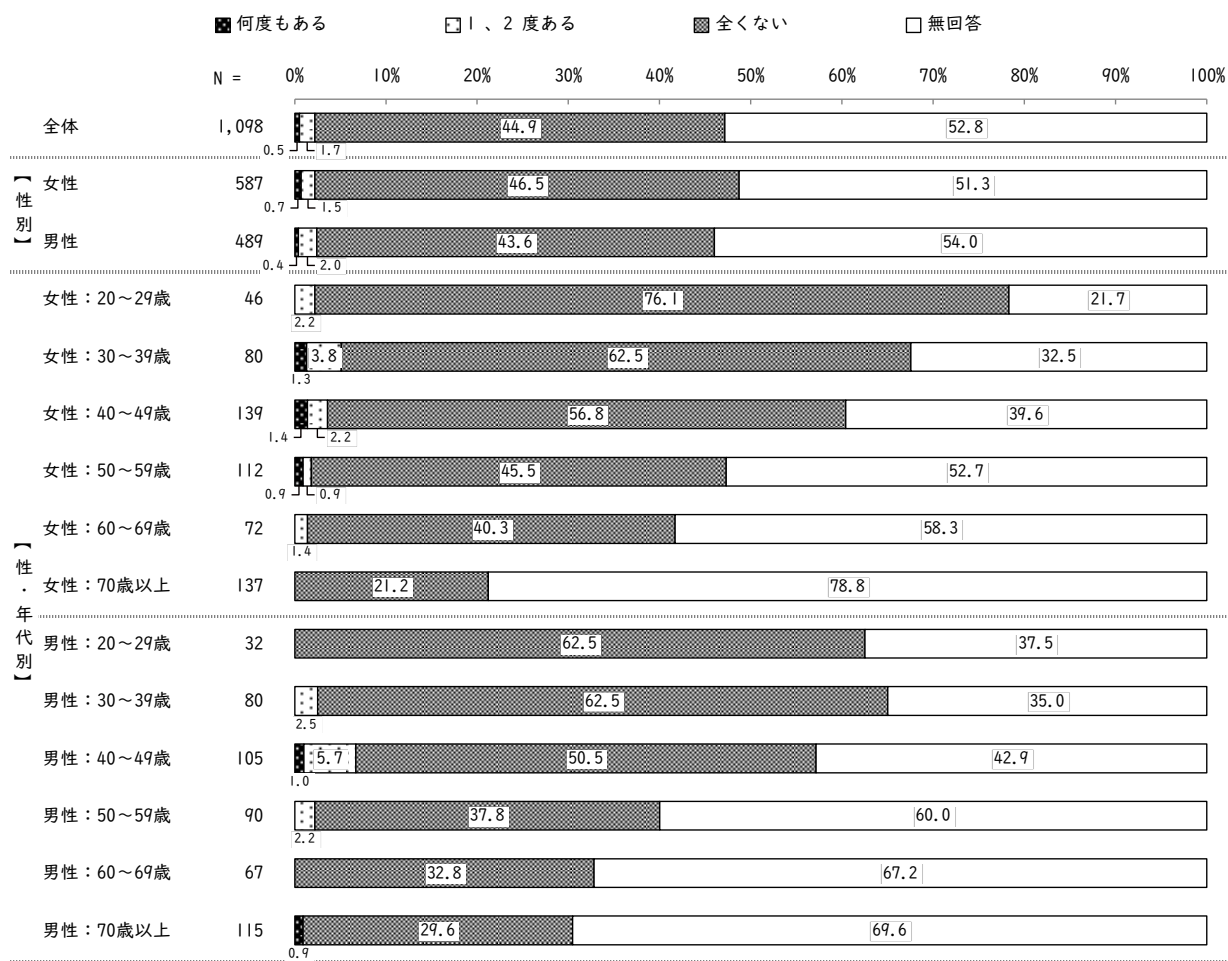
男性「1、2度ある」は2%、「何度もある」は0.4%

全体では、「全くない」が44.9%と最も高く、次いで「1、2度ある」(1.7%)、「何度もある」(0.5%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で2.2%、男性で2.4%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「30歳代」、男性では「40歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」40.0%、「無回答」60.0%となっています。

問 23 - K<恋人から> 友人との付き合いを禁止される

女性「1、2度ある」は2.4%、「何度もある」は0.5%

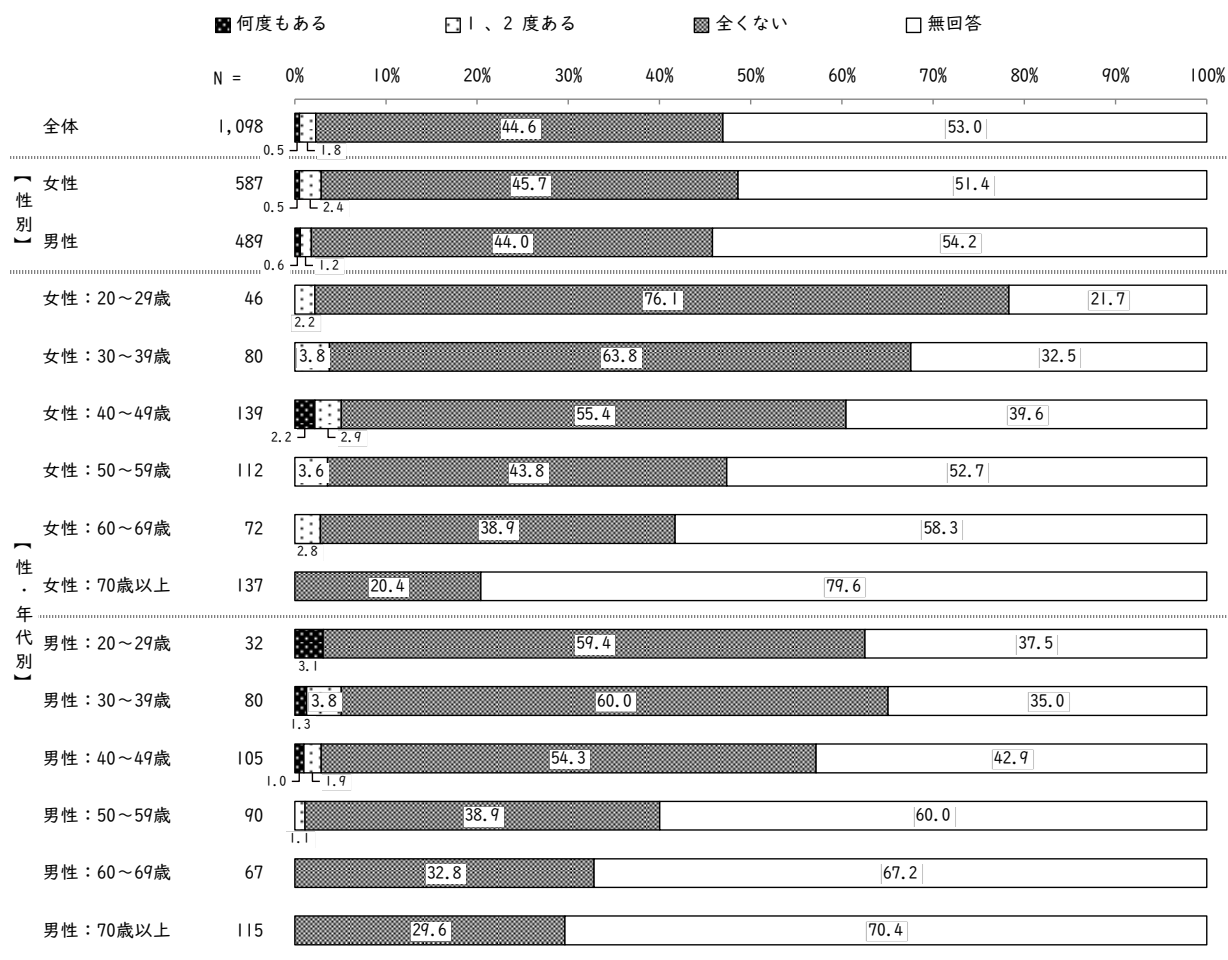
男性「1、2度ある」は1.2%、「何度もある」は0.6%

全体では、「全くない」が44.6%と最も高く、次いで「1、2度ある」(1.8%)、「何度もある」(0.5%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で2.9%、男性で1.8%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「40歳代」、男性では「30歳代」が最も高くなっている。

※『一度以上ある』:「何度もある」・「1、2度ある」と答えた人



【性別】その他の回答者数はN=5で、「全くない」40.0%、「無回答」60.0%となっています。

【問 24】ドメスティック・バイオレンス（DV）についての相談実態

配偶者や恋人からの行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

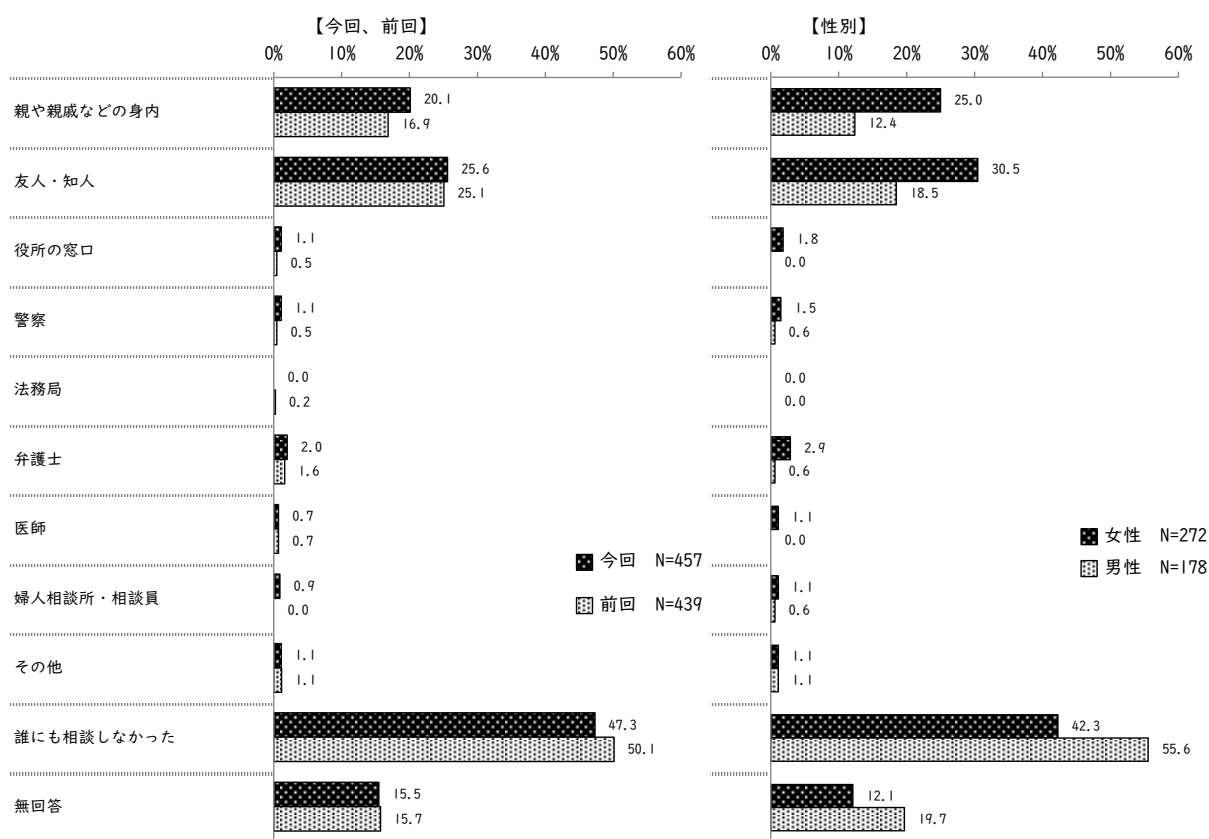
（あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

●項目比較（全体、前回調査比較、性別）

約半数が「誰にも相談しなかった」

【性別】で比較すると、「誰にも相談しなかった」と答えた人は、女性で42.3%、男性で55.6%となっている。また、「親や親戚などの身内」、「友人・知人」と回答した人は女性が多かった。

前回調査と比較すると、前回同様今回も、「誰にも相談しなかった」割合が最も高く、公的相談窓口や専門機関等に相談した人が少なかった。



【性別】その他の回答者数はN = 3で、「誰にも相談しなかった」66.7%、「無回答」33.3%となっています。

【問 25】誰にも相談しなかった理由

誰にも相談しなかったのは、なぜですか。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

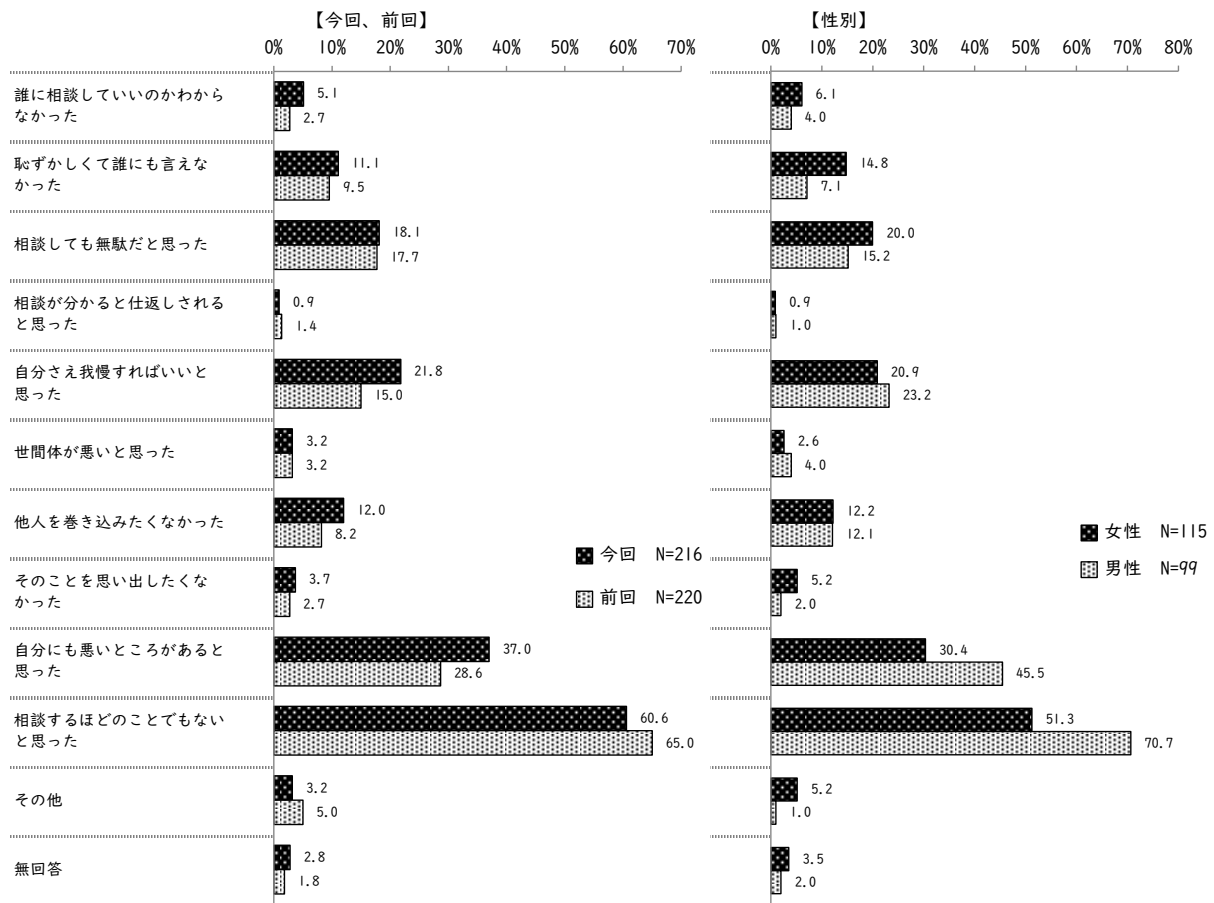
●項目比較（全体、前回調査比較、性別）

誰にも相談しなかった理由は「相談するほどのことでもないと思った」が最も高い

全体では、「相談するほどのことでもないと思った」が 60.6%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」（37.0%）、「自分さえ我慢すればいいと思った」（21.8%）の順となっている。

【性別】で比較すると、「相談するほどのことでもないと思った」と答えた人は、女性の 51.3%、男性の 70.7%となっている。また、女性では「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「相談しても無駄だと思った」、男性では「自分にも悪いところがあると思った」と回答した人が多かった。

前回調査と比較すると、「自分にも悪いところがあると思った」「自分さえ我慢すればいいと思った」「他人を巻き込みたくなかった」「誰に相談していいのかわからなかった」などの割合が増加している。



【性別】その他の回答者数は N = 2 で、「相談しても無駄だと思った」50.0%、「相談するほどのことでもないと思った」100.0%となっています。

【問 26】セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントの経験

あなたは、セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントについて、次のような経験はありますか。
(A～Eの項目ごとに、あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

●項目比較（セクシュアル・ハラスメント／全体、前回調査比較、性別、性・年代別）

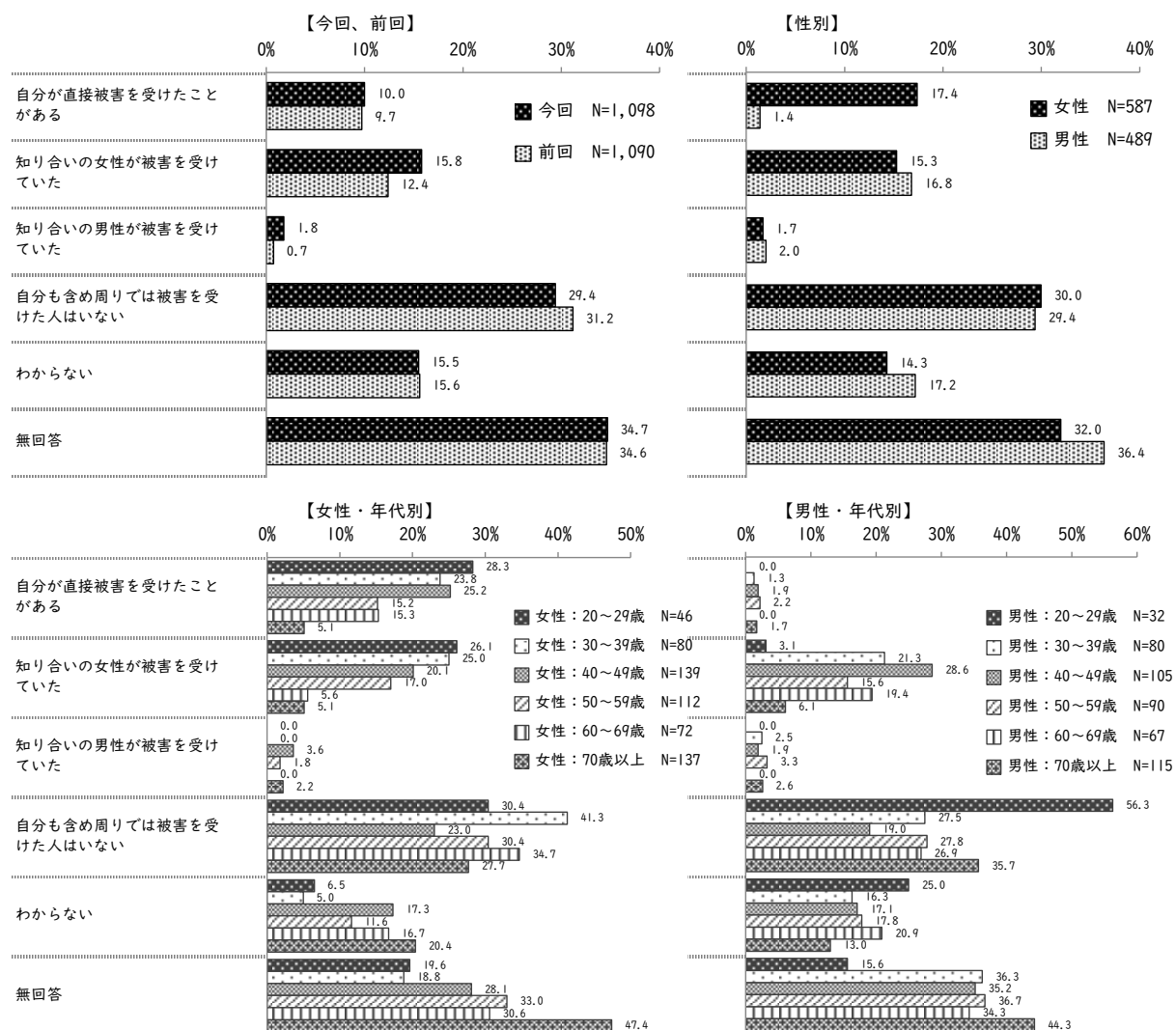
「自分が直接被害を受けたことがある」割合は、女性の約 2 割

全体では、「自分も含め周りでは被害を受けた人はいない」が 29.4%と最も高く、次いで「知り合いの女性が被害を受けていた」(15.8%)、「わからない」(15.5%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「自分が直接被害を受けたことがある」と答えた人は、その殆どが女性となっている。

【性・年代別】で比較すると、女性では「自分が直接被害を受けたことがある」「知り合いの女性が被害を受けていた」と答えた人が若い世代ほど高くなっている。

前回調査と比較すると、「知り合いの女性が被害を受けていた」が増加している。



【性別】その他の回答者数はN=5で、「自分が直接被害を受けたことがある」20.0%、「知り合いの女性が被害を受けていた」40.0%、「わからない」20.0%、「無回答」40.0%となっています。

●項目比較（パワー・ハラスメント／全体、前回調査比較、性別、性・年代別）

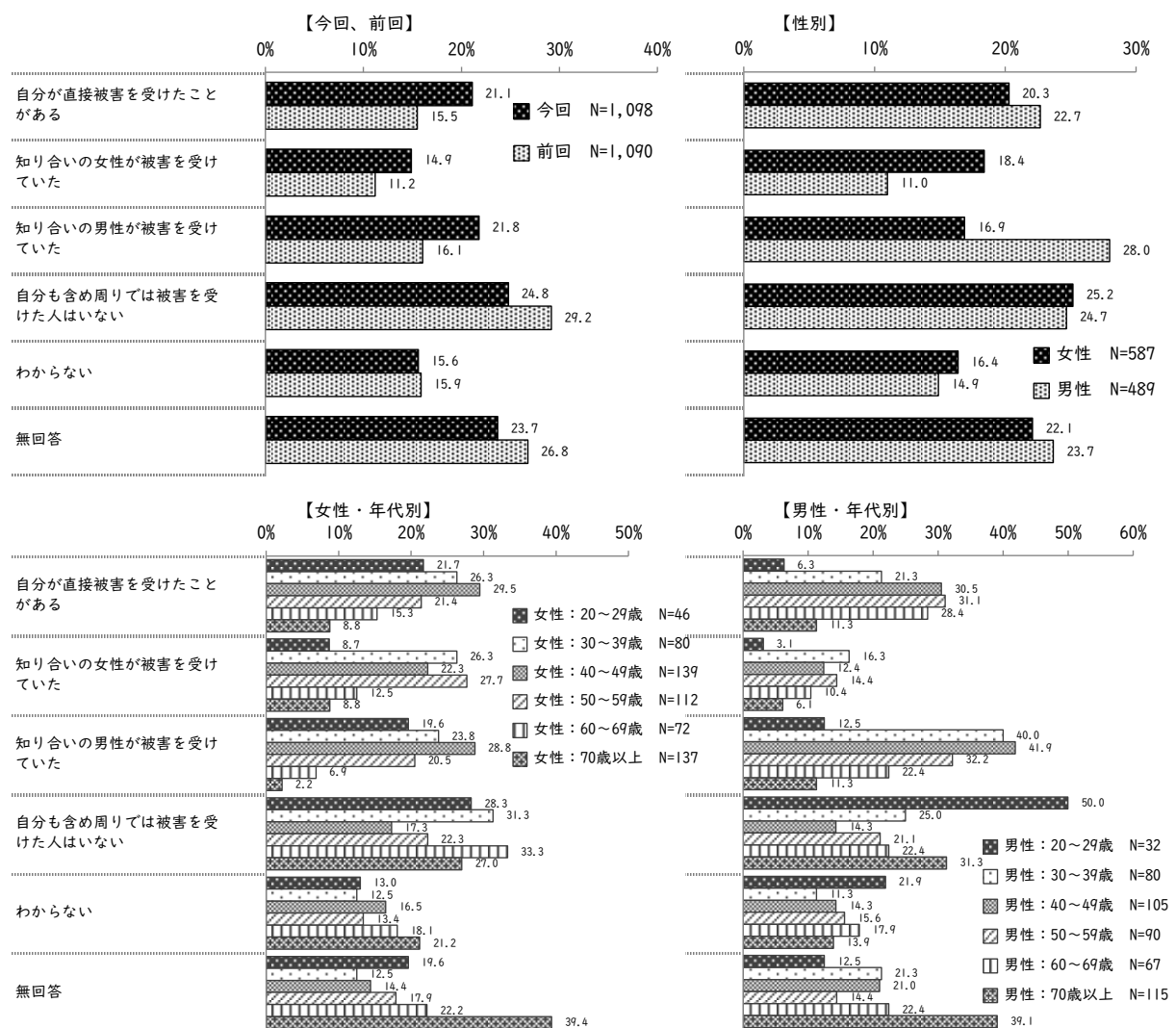
「自分が直接被害を受けたことがある」割合は、男女とも 2 割以上

全体では、「自分も含め周りでは被害を受けた人はいない」24.8%と最も高く、次いで「知り合いの男性が被害を受けていた」（21.8%）、「自分が直接被害を受けたことがある」（21.1%）の順となっている。

【性別】で比較すると、女性では「知り合いの女性が被害を受けていた」、男性では「知り合いの男性が被害を受けていた」が高くなっている。

【性・年代別】で比較すると、「女性の 40 歳代」「男性の 40～60 歳代」で約 30%の人が自分で直接被害を受けたことがあると答えている。

前回調査と比較すると、「自分が直接被害を受けたことがある」「知り合いの男性が被害を受けていた」「知り合いの女性が被害を受けていた」とともに、増加している。



【性別】その他の回答者数は N=5 で、「自分が直接被害を受けたことがある」20.0%、「知り合いの女性が被害を受けていた」20.0%、「知り合いの男性が被害を受けていた」40.0%「わからない」20.0%、「無回答」40.0%となっています。

【問 27】ドメスティック・バイオレンス (DV)、セクシュアル・ハラスメントなどを防止するために必要なこと

あなたは、配偶者間の暴力、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、買売春などを防止するために何が
必要だと思いますか。

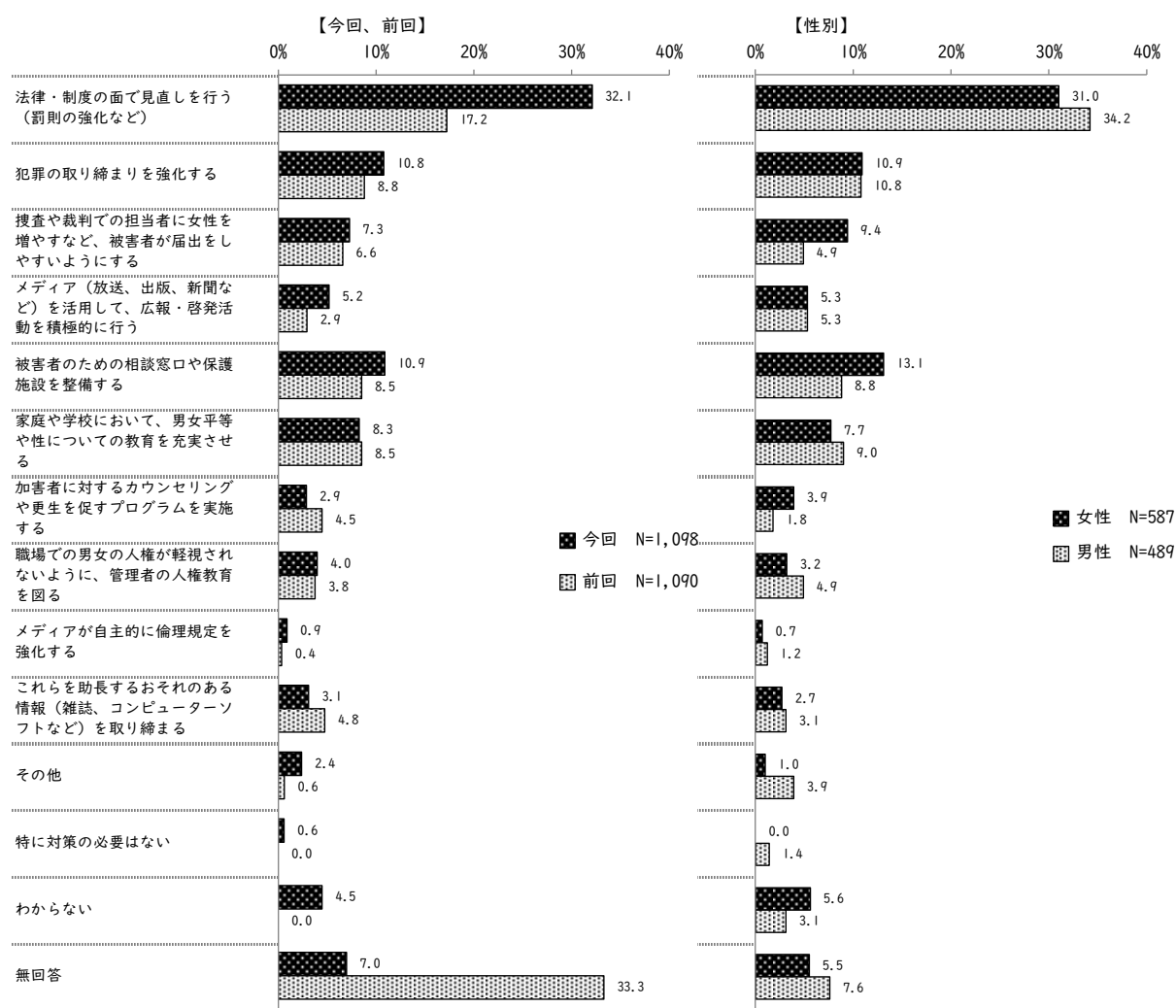
(特に重要と思うもの1つに◎、あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

●項目比較 (特に重要と思うもの／全体、前回調査比較、性別)

男女ともに「法律・制度の面で見直しを行う(罰則の強化など)」が最も高い

全体では、「法律・制度の面で見直しを行う(罰則の強化など)」が32.1%と最も高く、次いで「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」(10.9%)、「犯罪の取り締まりを強化する」(10.8%)の順となっている。

【性別】で比較すると、女性では「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届出をしやすようにする」「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が高くなっている。



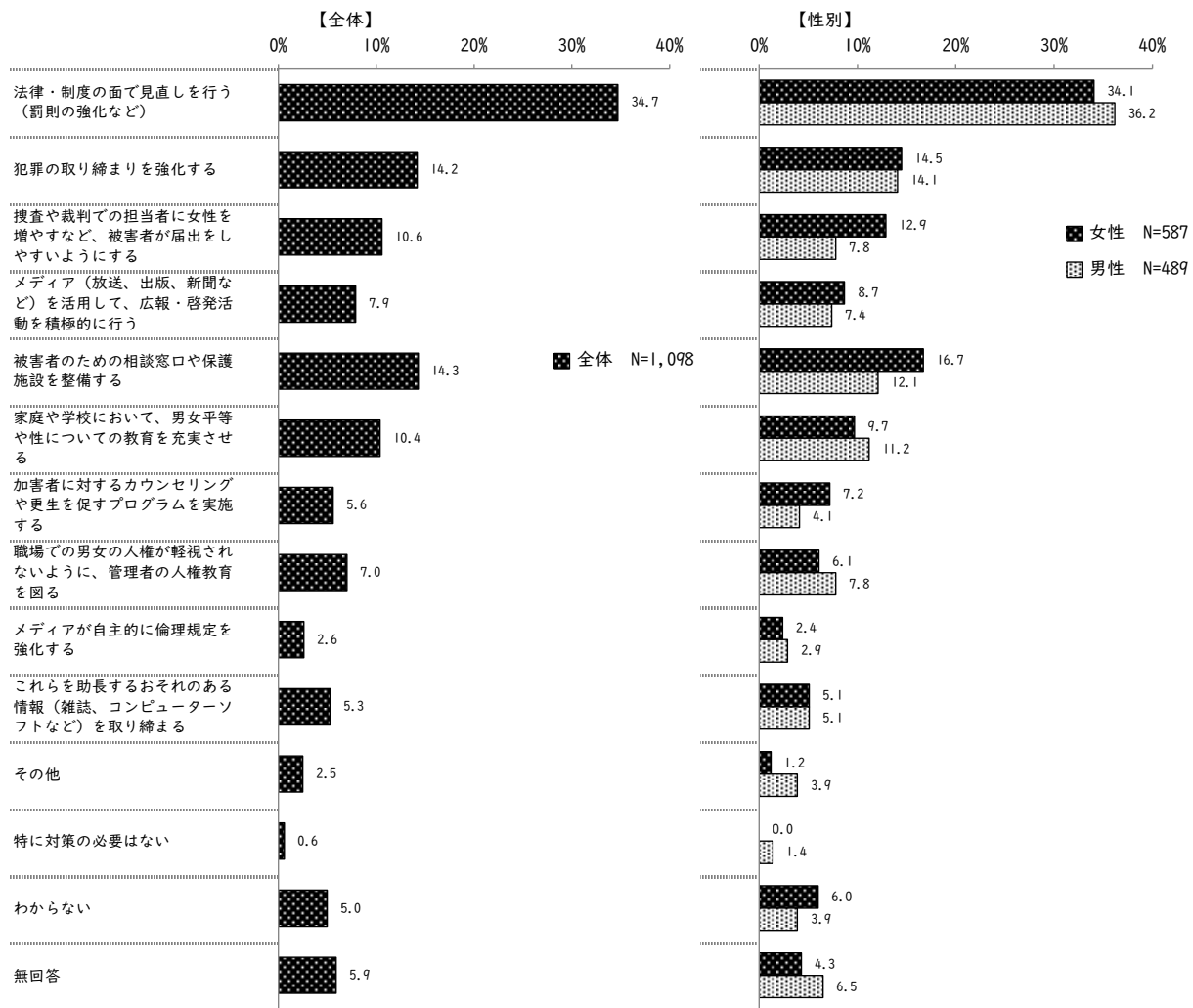
【性別】その他の回答者数はN=5で、「法律・制度の面で見直しを行う(罰則の強化など)」20.0%、「犯罪の取り締まりを強化する」20.0%、「職場での男女の人権が軽視されないように、管理者の人権教育を回す」20.0%、「その他」20.0%、「わからない」20.0%となっています。

※無回答数が前回より減少しているのは、調査票の回答記載方法を変更したため。

●項目比較（あてはまる番号すべて／全体、性別）

全体では、「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」が34.7%と最も高く、次いで「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」（14.3%）、「犯罪の取り締まりを強化する」（14.2%）の順となっている。

【性別】で比較すると、女性では「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届出をしやすようにする」「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が高くなっている。



【性別】その他の回答者数はN=5で、「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」40.0%、「犯罪の取り締まりを強化する」20.0%、「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届出をしやすようにする」20.0%、「職場での男女の人権が軽視されないように、管理者の人権教育を図る」40.0%、「その他」20.0%、「わからない」20.0%となっています。

5 行政の取り組みについて

【問 28】男女共同参画に関する言葉の認知度

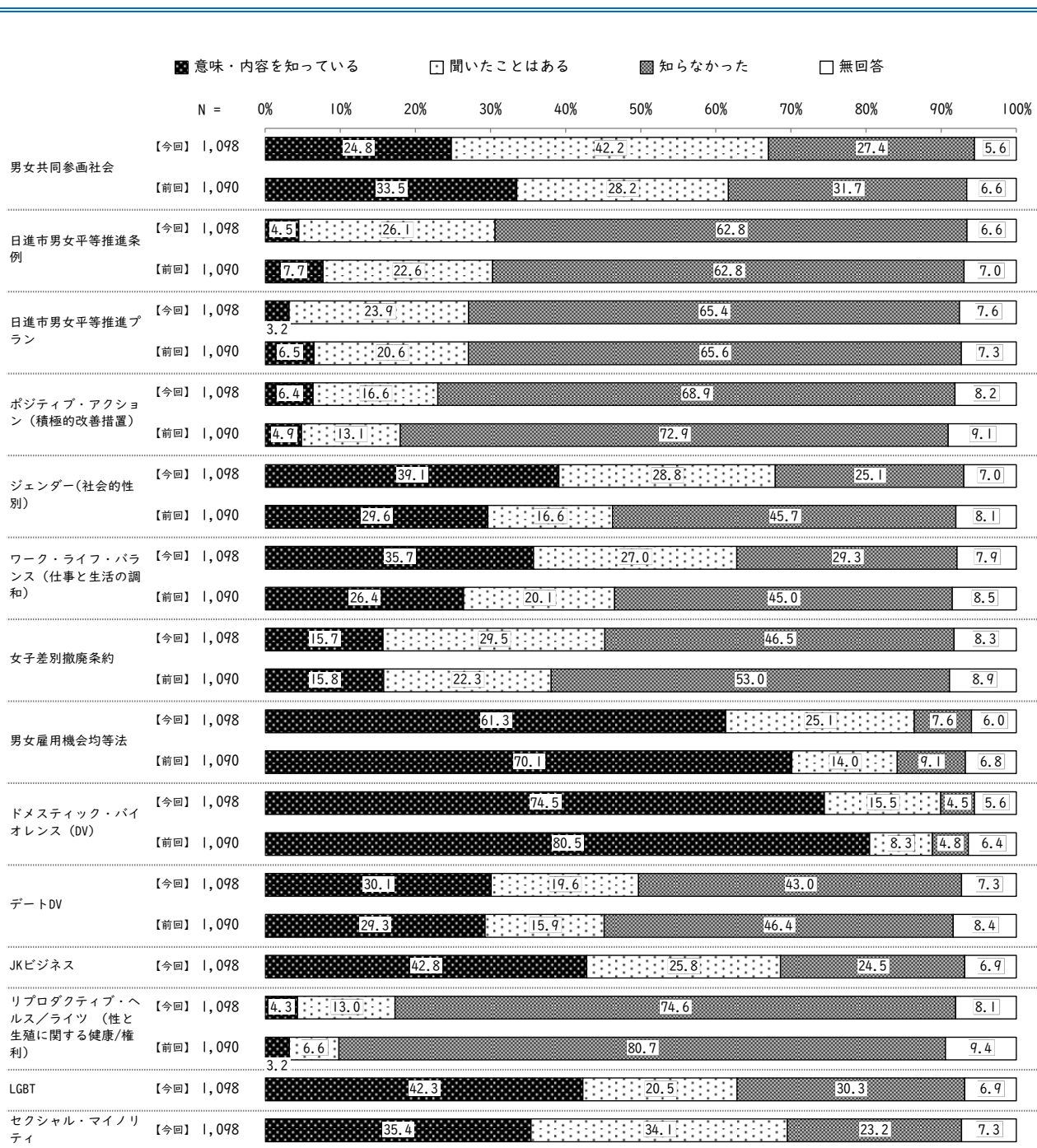
あなたは、次にあげる言葉を知っていますか。

(A～Nの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、前回調査比較）

前回調査と比較すると、「意味・内容を知っている」人の割合が、「ジェンダー(社会的性別)」「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」などで増加している。

「聞いたことはある」人の割合は全ての項目で増加している。

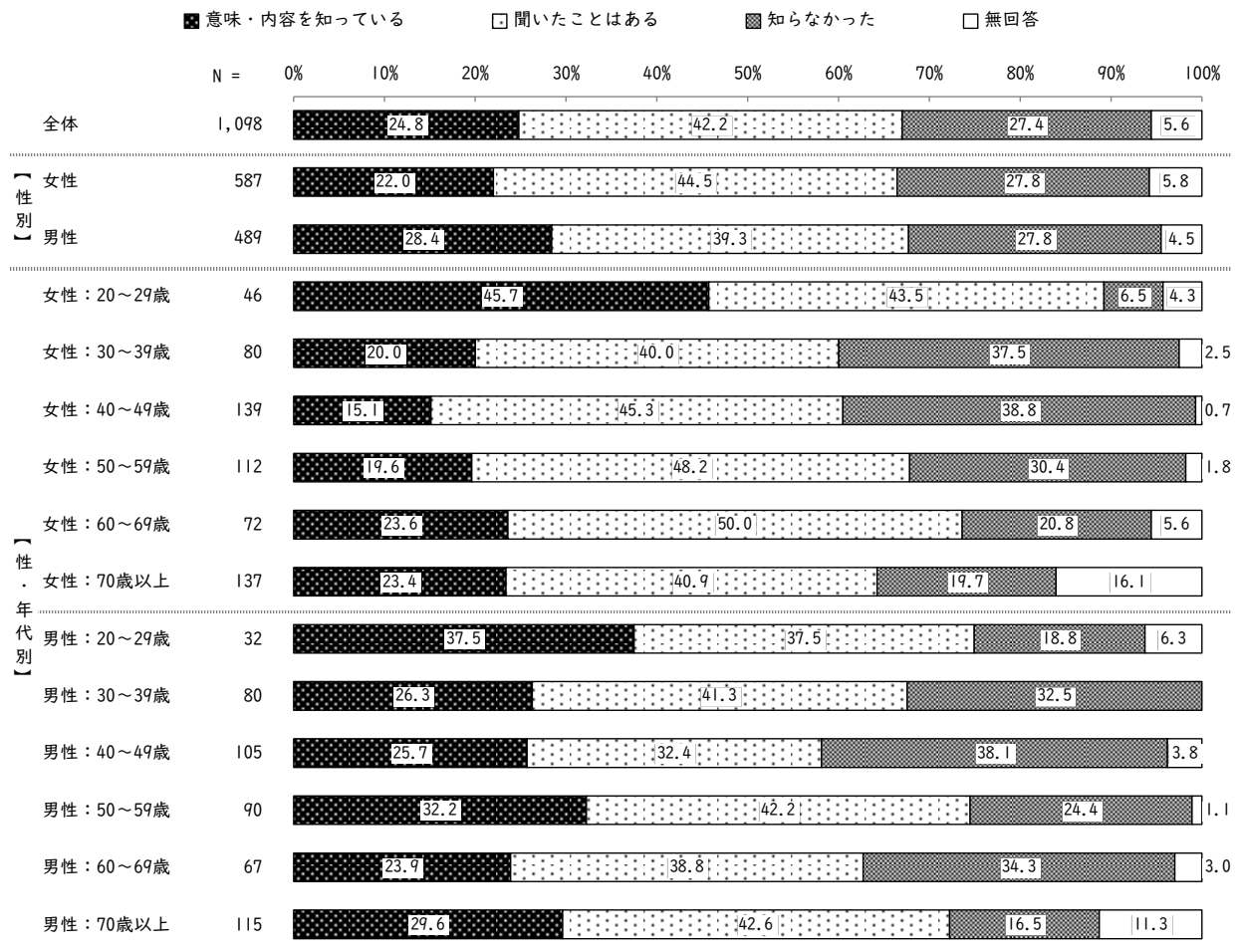


「意味・内容を知っている」割合が 24.8%

全体では、「聞いたことはある」が 42.2%と最も高く、次いで「知らなかった」(27.4%)、「意味・内容を知っている」(24.8%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で 22.0%、男性で 28.4%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性、男性ともに「20 歳代」が最も高くなっており、「女性の 40 歳代」で低くなっている。



【性別】その他の回答者数は N=5 で、「意味・内容を知っている」20.0%、「聞いたことはある」80.0%となっています。

「意味・内容を知っている」割合が 4.5%

全体では、「知らなかった」が 62.8%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(26.1%)、「意味・内容を知っている」(4.5%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で 4.9%、男性で 4.1%となっている。「聞いたことがある」と答えた人は、女性で 30.8%、男性で 20.7%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、男女とも「70 歳以上」が最も高くなっている。「聞いたことがある」と答えた人は、「女性の 40～60 歳代」で高く、男女とも「20 歳代」で低くなっている。



【性別】その他の回答者数は N=5 で、「聞いたことはある」20.0%、「知らなかった」60.0%、「無回答」20.0%となっています。

「意味・内容を知っている」割合が 3.2%

全体では、「知らなかった」が 65.4%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(23.9%)、「意味・内容を知っている」(3.2%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で 3.6%、男性で 2.9%となっている。「聞いたことがある」と答えた人は、女性で 28.3%、男性で 18.8%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、男女とも「50 歳代」「70 歳以上」が高くなっている。「聞いたことがある」と答えた人は、「女性の 40～60 歳代」が高くなっている。



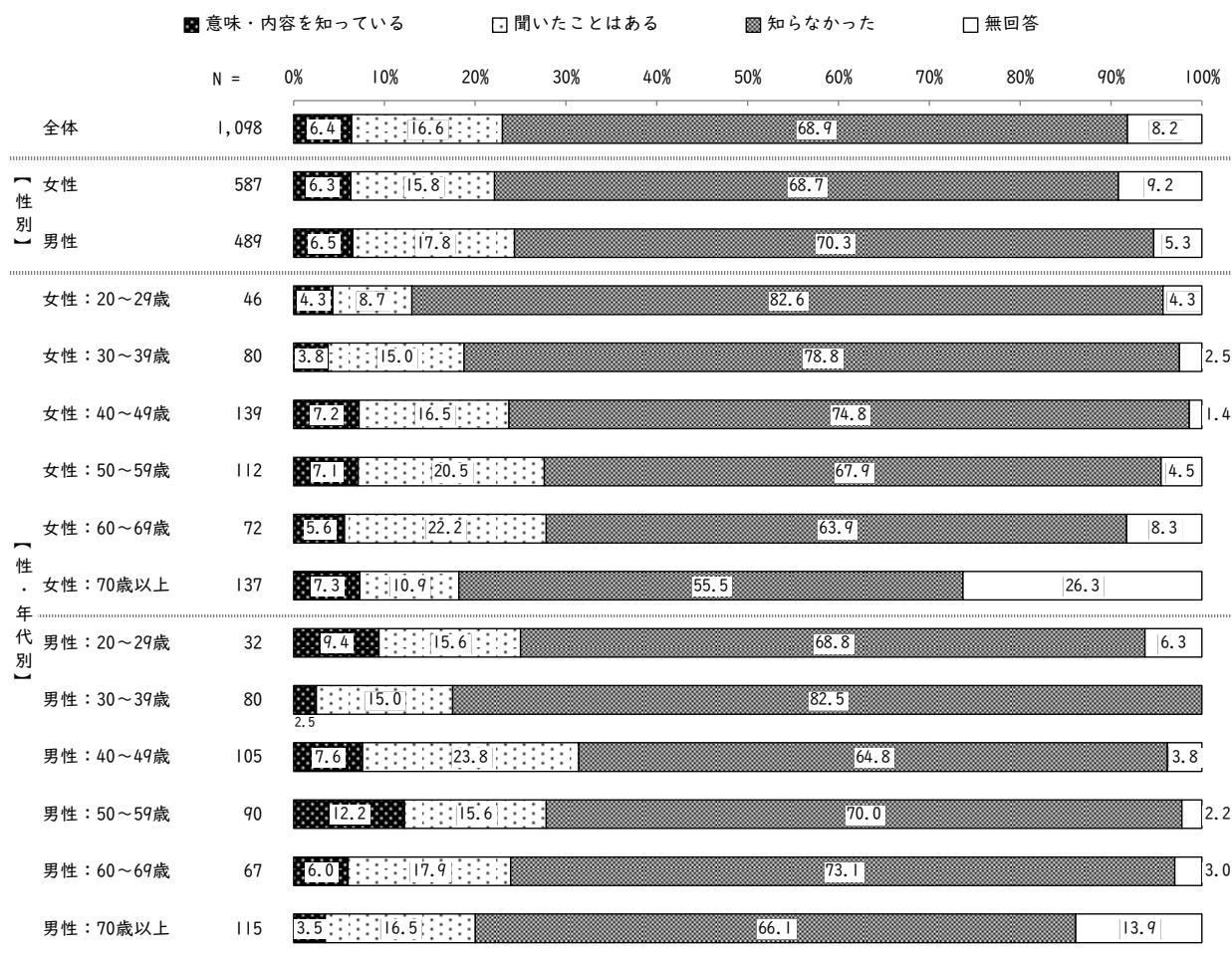
【性別】その他の回答者数は N=5 で、「聞いたことはある」20.0%、「知らなかった」60.0%、「無回答」20.0%となっています。

問 28-D ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

「意味・内容を知っている」割合が 6.4%

全体では、「知らなかった」が 68.9%と最も高く、次いで「聞いたことはある」（16.6%）、「意味・内容を知っている」（6.4%）の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、「男性の 50 歳代」で高くなっている。



【性別】その他の回答者数は N=5 で、「知らなかった」80.0%、「無回答」20.0%となっています。

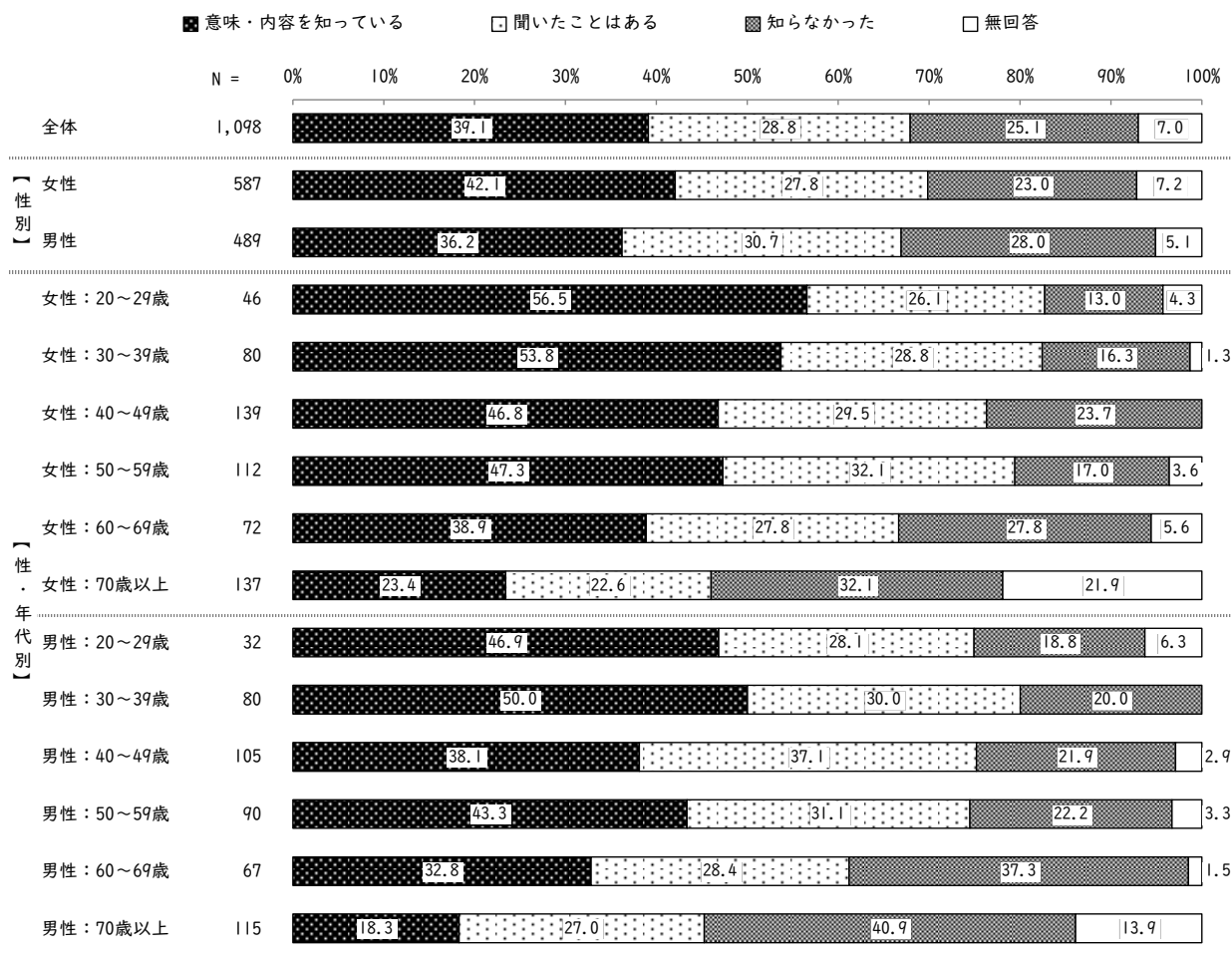
問 28 - E ジェンダー(社会的性別)

「意味・内容を知っている」割合が 39.1%

全体では、「意味・内容を知っている」が 39.1%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(28.8%)、「知らなかった」(25.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で 42.1%、男性で 36.2%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、「女性の 20～30 歳代」「男性の 30 歳代」では半数以上となり、高くなっている。



【性別】その他の回答者数はN=5で、「意味・内容を知っている」60.0%、「知らなかった」20.0%、「無回答」20.0%となっています。

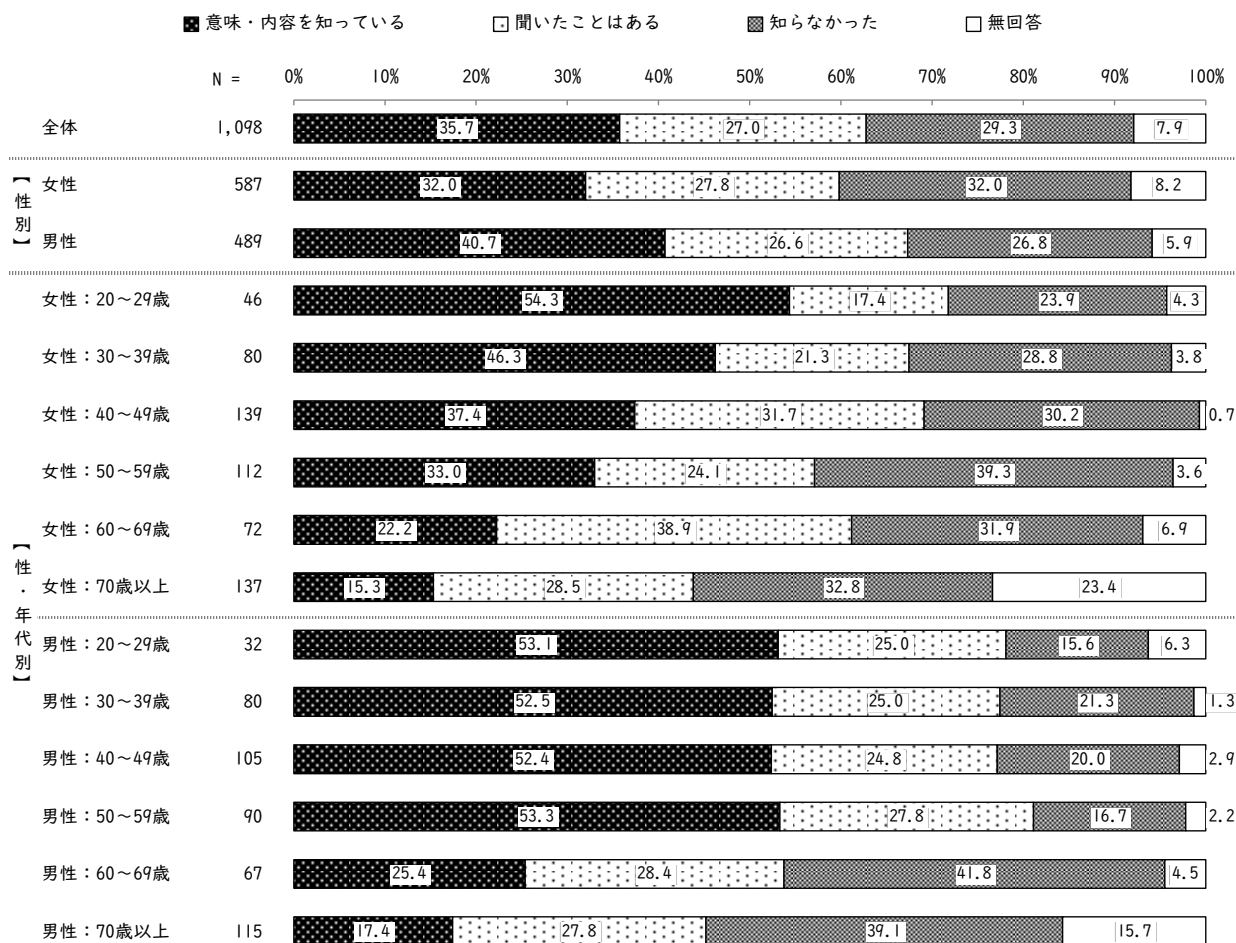
問 28 - F ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

「意味・内容を知っている」割合が 35.7%

全体では、「意味・内容を知っている」が 35.7%と最も高く、次いで「知らなかった」（29.3%）、
「聞いたことはある」（27.0%）の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で 32.0%、男性で 40.7%
となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性では「20 歳代」が
最も高く年齢が上がるほど低くなっている。男性では「20～50 歳代」が高くなっている。



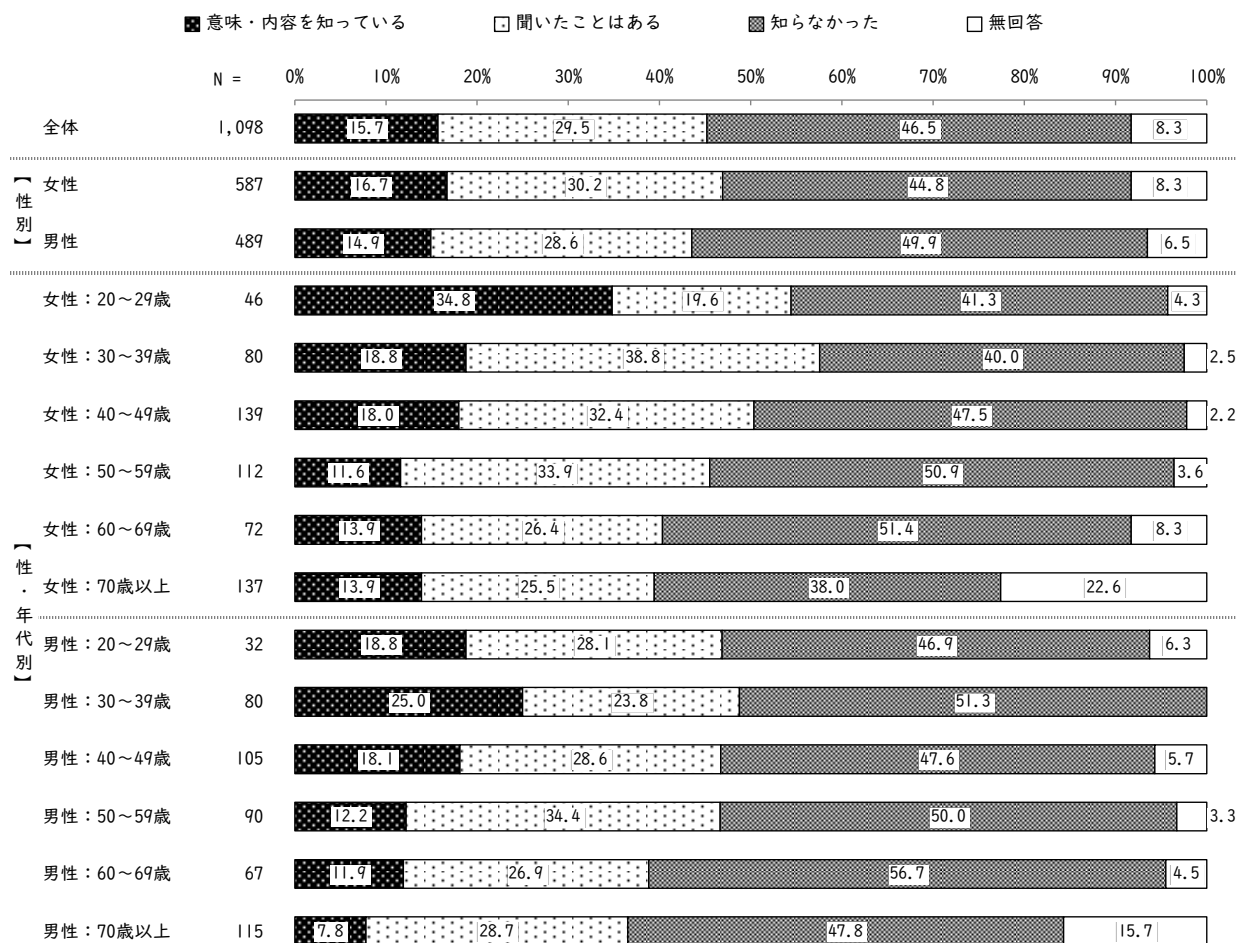
【性別】その他の回答者数は N=5 で、「意味・内容を知っている」40.0%、「聞いたことはある」20.0%、「知らなかった」20.0%、「無回答」20.0%となっています。

「意味・内容を知っている」割合が 15.7%

全体では、「知らなかった」が46.5%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(29.5%)、「意味・内容を知っている」(15.7%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で16.7%、男性で14.9%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、「女性の20歳代」「男性の30歳代」で高くなっている。



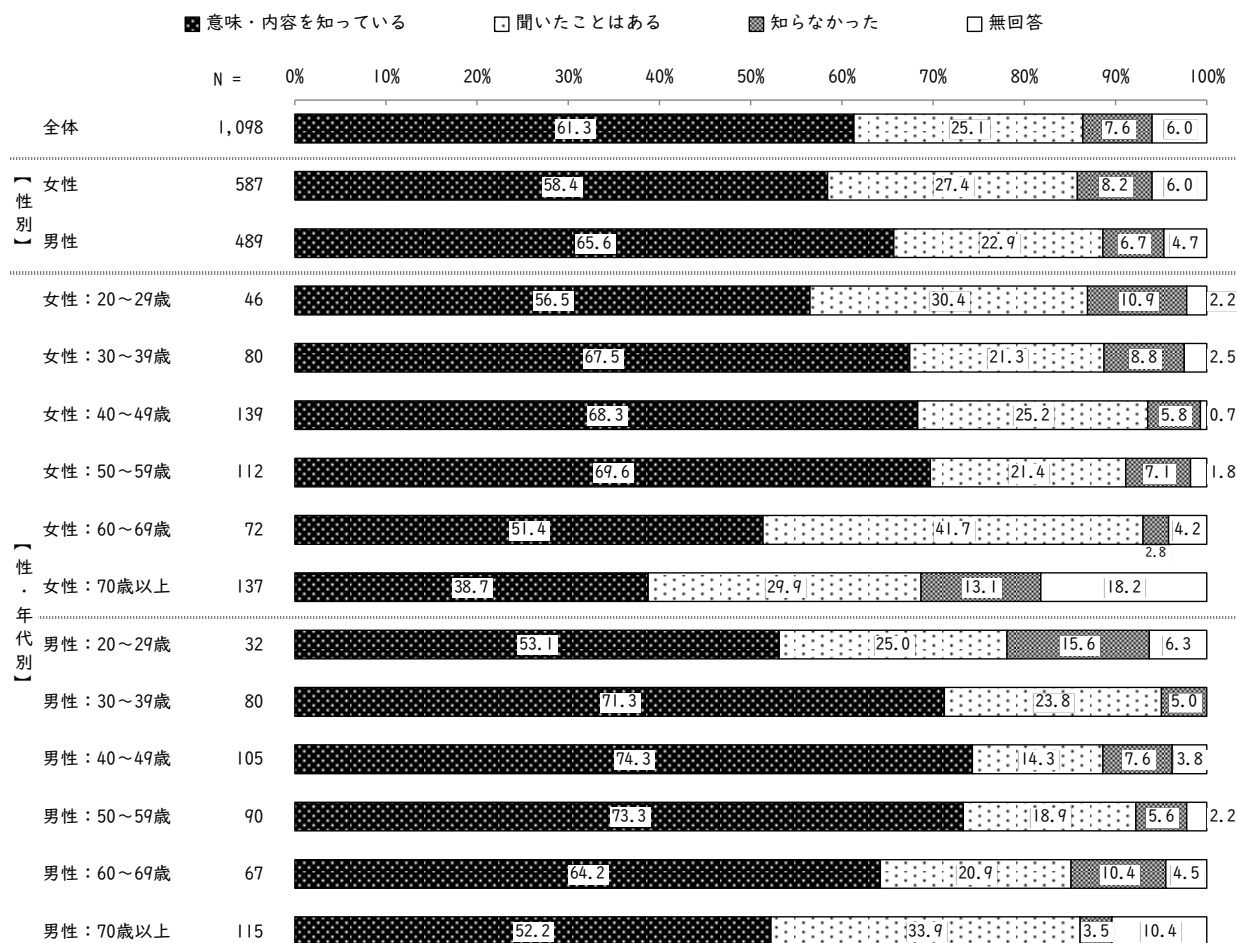
【性別】その他の回答者数はN=5で、「聞いたことはある」40.0%、「知らなかった」40.0%、「無回答」20.0%となっています。

「意味・内容を知っている」割合が 61.3%

全体では、「意味・内容を知っている」が 61.3%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(25.1%)、「知らなかった」(7.6%) の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で 58.4%、男性で 65.6% となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、男女とも「30～50 歳代」で高くなっている。



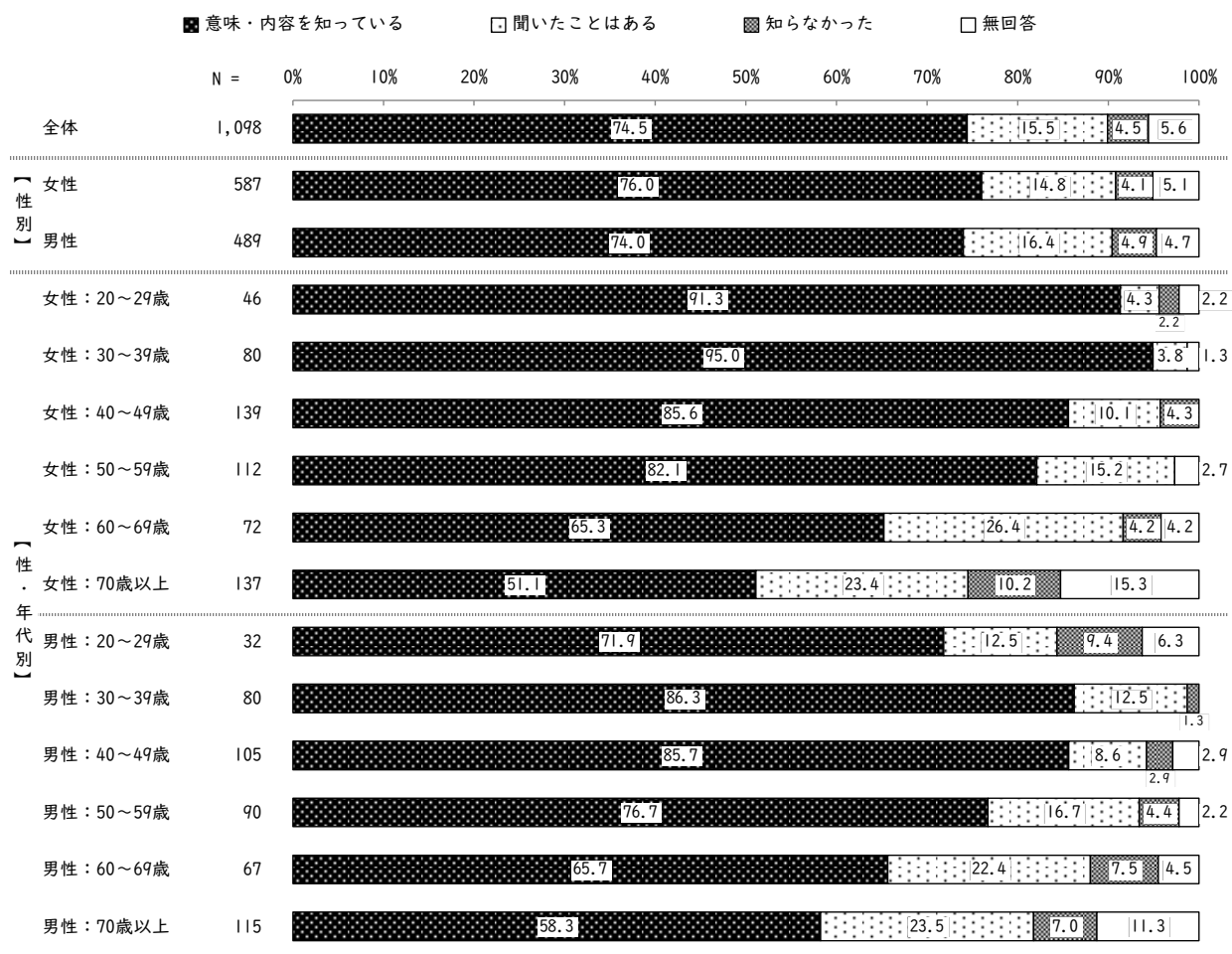
【性別】その他の回答者数は N=5 で、「意味・内容を知っている」40.0%、「聞いたことはある」20.0%、「知らなかった」20.0%、「無回答」20.0%となっています。

問 28-I ドメスティック・バイオレンス（DV）

「意味・内容を知っている」割合が 74.5%

全体では、「意味・内容を知っている」が 74.5%と最も高く、次いで「聞いたことはある」（15.5%）、「知らなかった」（4.5%）の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、「女性の 20～30 歳代」で 90%以上、「女性の 40～50 歳代」「男性の 30～40 歳代」で 80%以上と高くなっている。



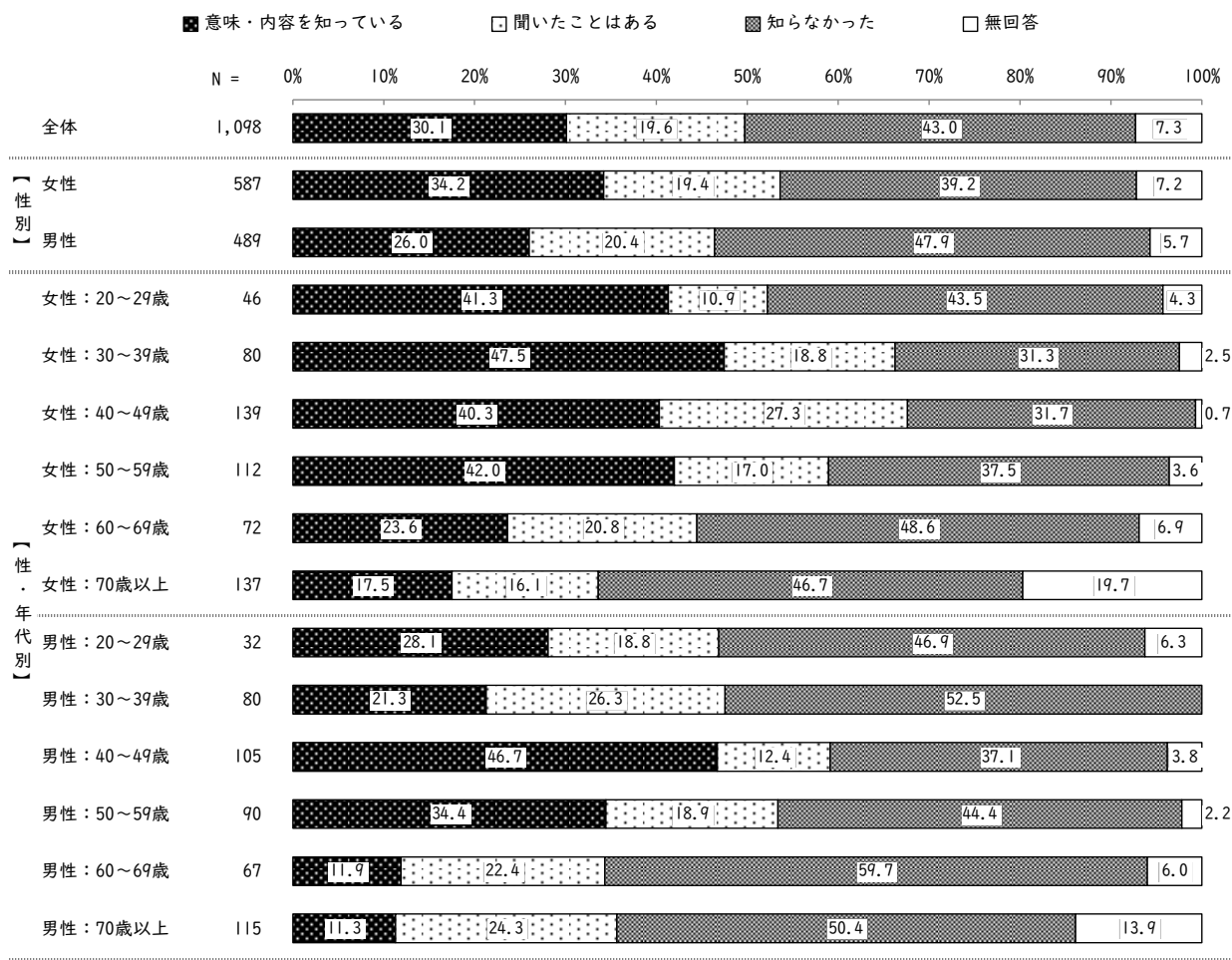
【性別】その他の回答者数は N=5 で、「意味・内容を知っている」60.0%、「聞いたことはある」20.0%、「無回答」20.0%となっています。

「意味・内容を知っている」割合が 30.1%

全体では、「知らなかった」が 43.0%と最も高く、次いで「意味・内容を知っている」(30.1%)、「聞いたことはある」(19.6%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で 34.2%、男性で 26.0%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性では「20～50 歳代」、男性では「40 歳代」が高くなっており、女性では幅広い年代で認知されている。



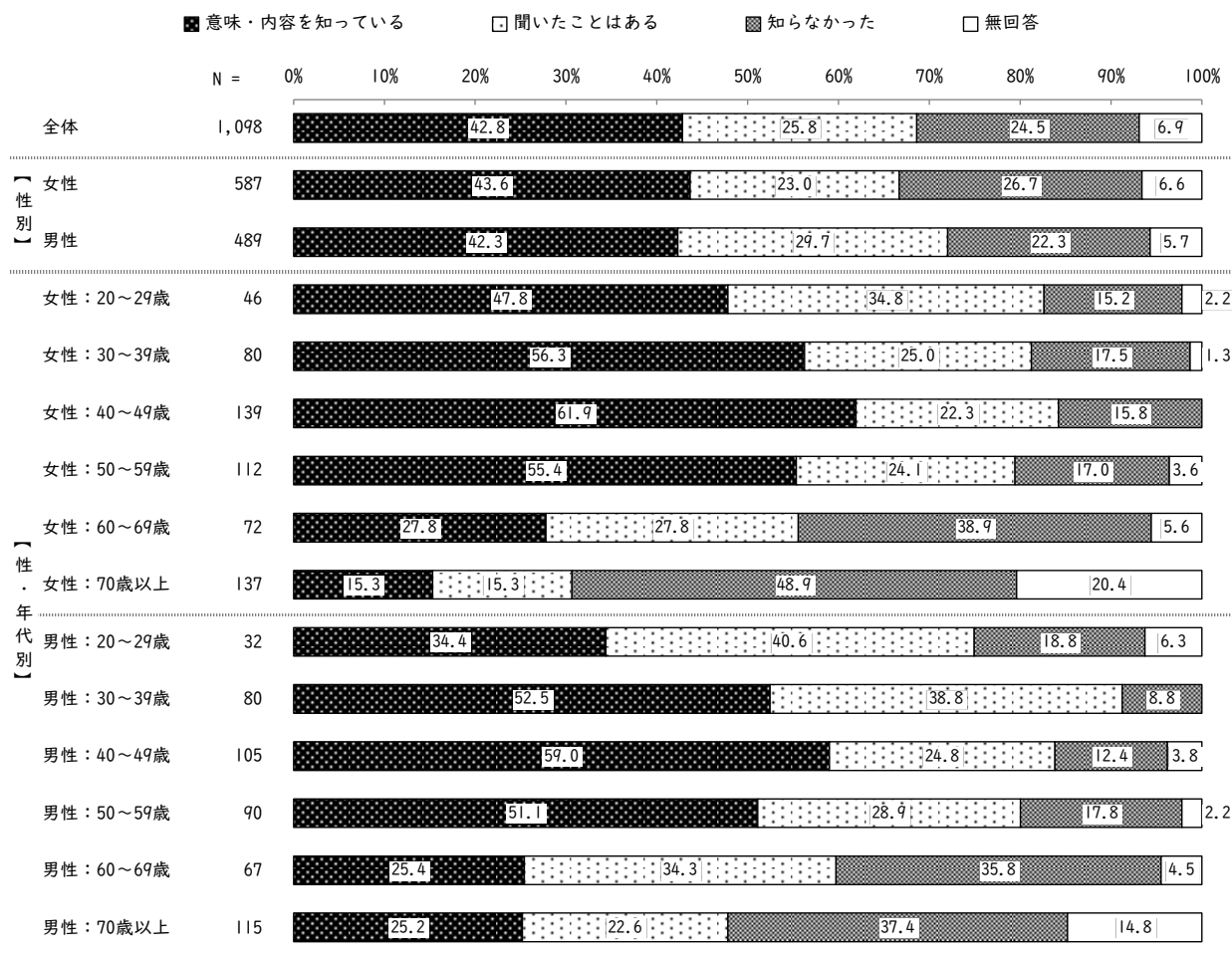
【性別】その他の回答者数はN=5で、「意味・内容を知っている」20.0%、「知らなかった」60.0%、「無回答」20.0%となっています。

「意味・内容を知っている」割合が 42.8%

全体では、「意味・内容を知っている」が 42.8%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(25.8%)、「知らなかった」(24.5%)の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性、男性ともに「30～50 歳代」で高く、いずれも「40 歳代」が最も高くなっている。

「女性の 20 歳代」の 47.8%が「意味・内容を知っている」のに対し、「男性の 20 歳代」は 34.4%となっている。

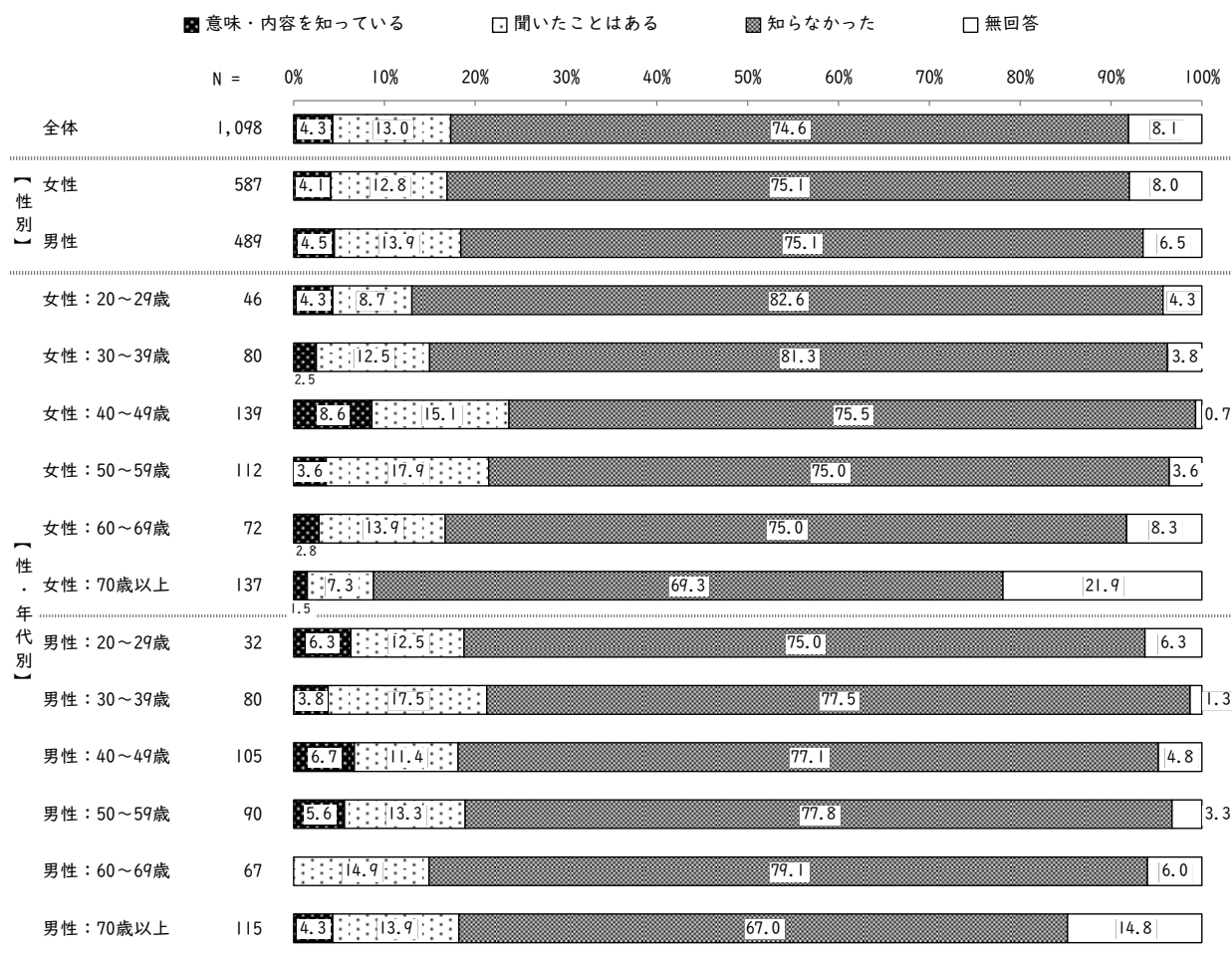


【性別】その他の回答者数は N=5 で、「意味・内容を知っている」40.0%、「聞いたことはある」20.0%、「知らなかった」20.0%、「無回答」20.0%となっています。

「意味・内容を知っている」割合が 4.3%

全体では、「知らなかった」が74.6%と最も高く、次いで「聞いたことはある」（13.0%）、「意味・内容を知っている」（4.3%）の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、男女とも「40 歳代」が最も高くなっている。

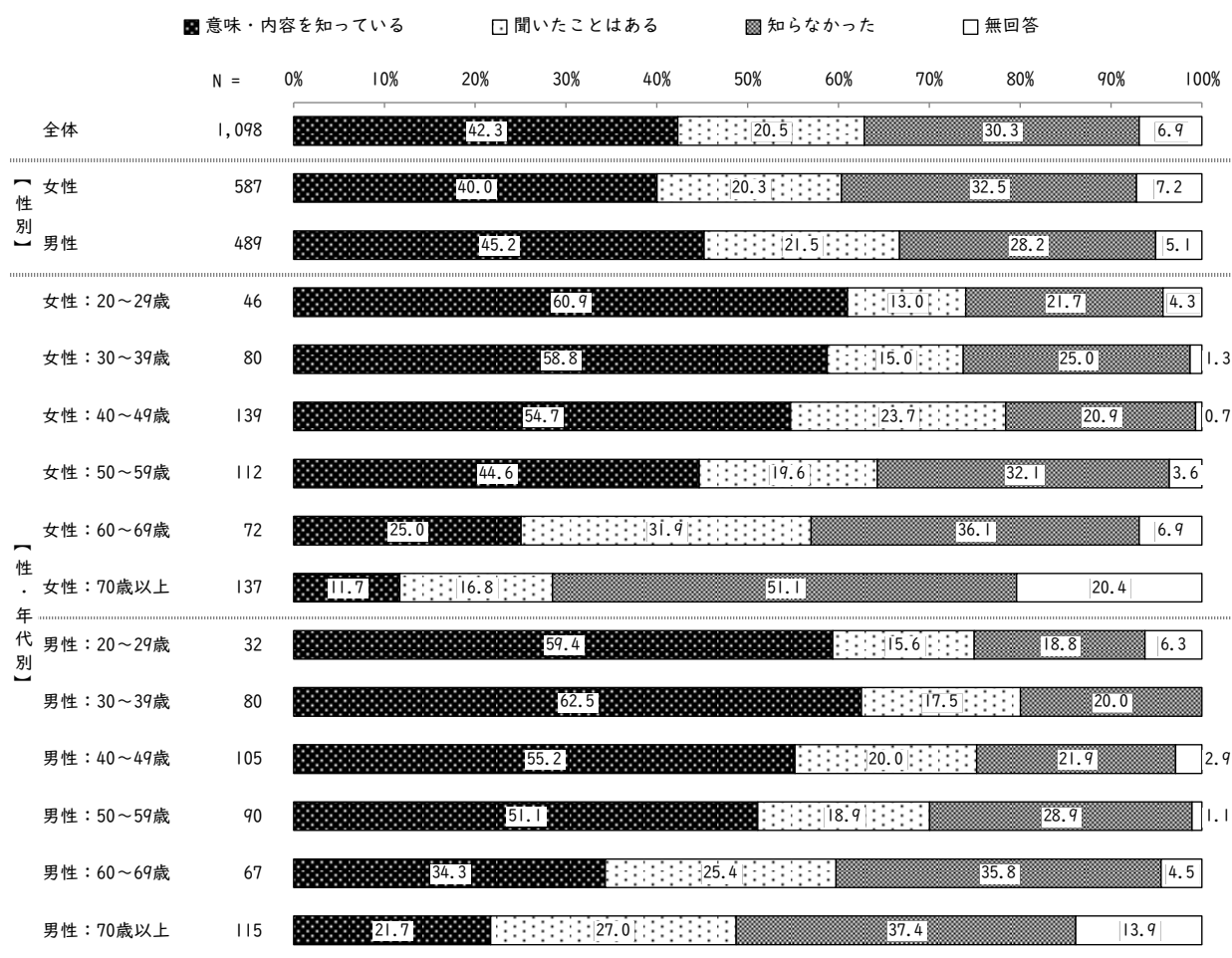


【性別】その他の回答者数はN=5で、「知らなかった」80.0%、「無回答」20.0%となっています。

「意味・内容を知っている」割合が 42.3%

全体では、「意味・内容を知っている」が 42.3%と最も高く、次いで「知らなかった」(30.3%)、「聞いたことはある」(20.5%)の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、男女とも「20～50 歳代」で高くなっている。

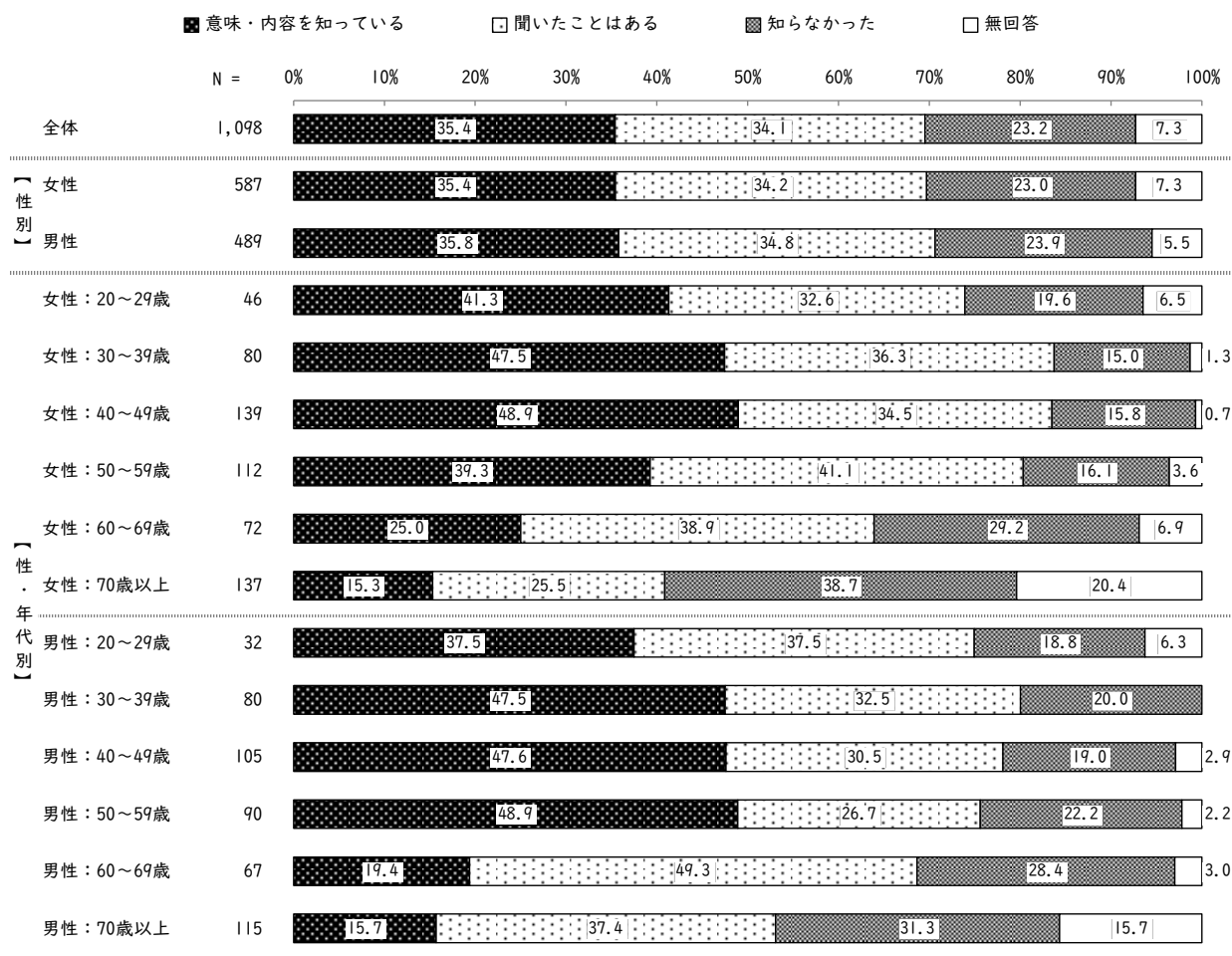


【性別】その他の回答者数はN=5で、「意味・内容を知っている」60.0%、「知らなかった」20.0%、「無回答」20.0%となっています。

「意味・内容を知っている」割合が 35.4%

全体では、「意味・内容を知っている」が 35.4%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(34.1%)、「知らなかった」(23.2%)の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「女性の 30～40 歳代」「男性の 30～50 歳代」で「意味・内容を知っている」と答えた人が約半数となっている。



【性別】その他の回答者数はN=5で、「意味・内容を知っている」60.0%、「知らなかった」20.0%、「無回答」20.0%となっています。

【問 29】女性の意見の市政反映について

あなたは、女性の意見が、市政に反映されていると思いますか。

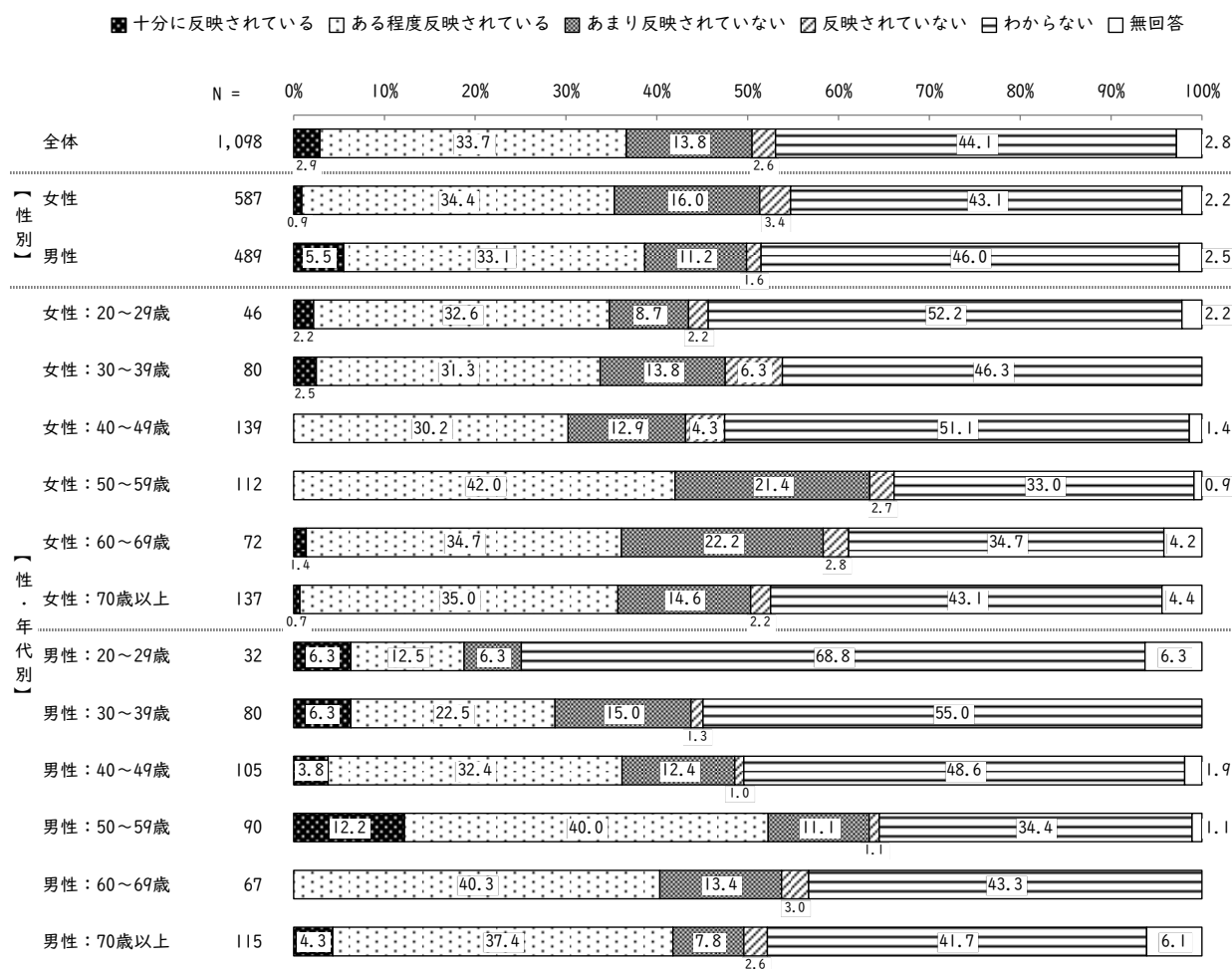
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、性別、性・年代別）

「わからない」が44.1%と最も高く、次いで「ある程度反映されている」(33.7%)、
「あまり反映されていない」(13.8%)の順となっている

【性別】で比較すると、女性では「あまり反映されていない」、男性では「十分に程度反映されている」が高くなっている。

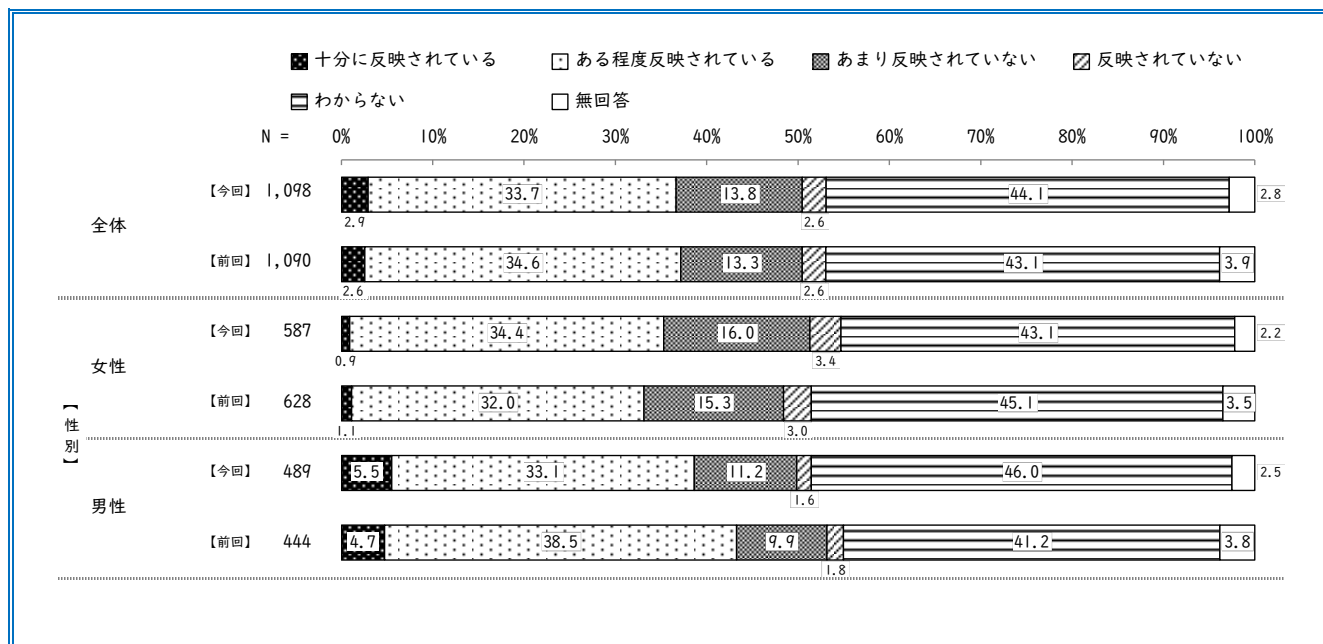
【性・年代別】で比較すると、「あまり反映されていない」と回答した人は、「女性の50～60歳代」で20%を超えている。「十分に反映されている」と回答した人は、「男性の50歳代」で最も高くなっている。



【性別】その他の回答者数はN＝5で、「ある程度反映されている」20.0%、「あまり反映されていない」20.0%、「反映されていない」20.0%、「わからない」40.0%となっています。

●項目比較（前回調査比較）

前回調査と比較すると、今回も前回同様「わからない」割合が、全体・女性・男性とも高くなっており、次いで「ある程度反映されている」、「あまり反映されていない」の順となっている。



※女性の意見が市政に反映されていないと回答した方

【問 30】意見が反映されていないと思う理由

反映されていないと思うのは、なぜですか。

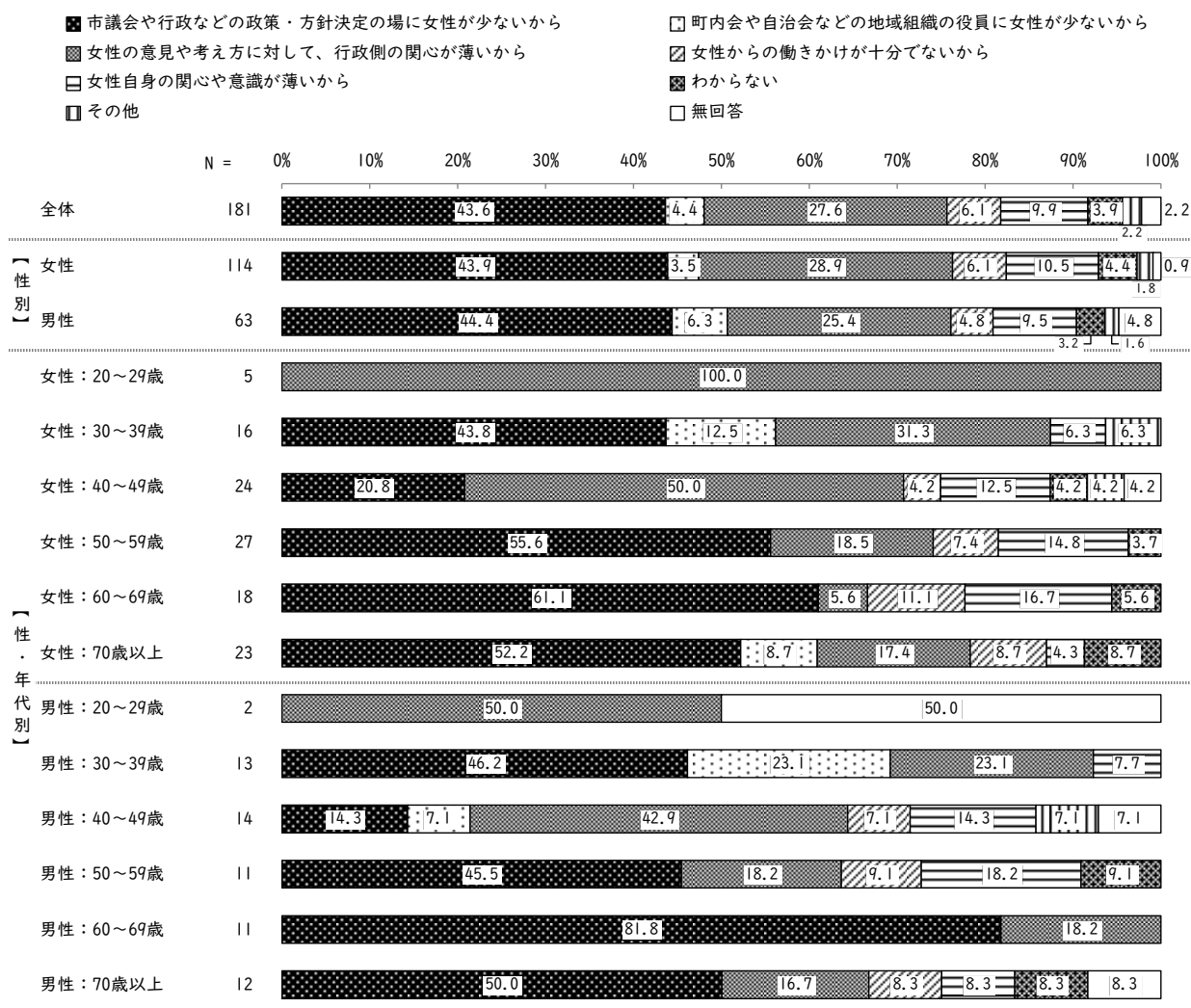
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較 (全体、性別、性・年代別)

男女ともに「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」が最も高い

全体では、「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」が43.6%と最も高く、次いで「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」(27.6%)の順となっている。

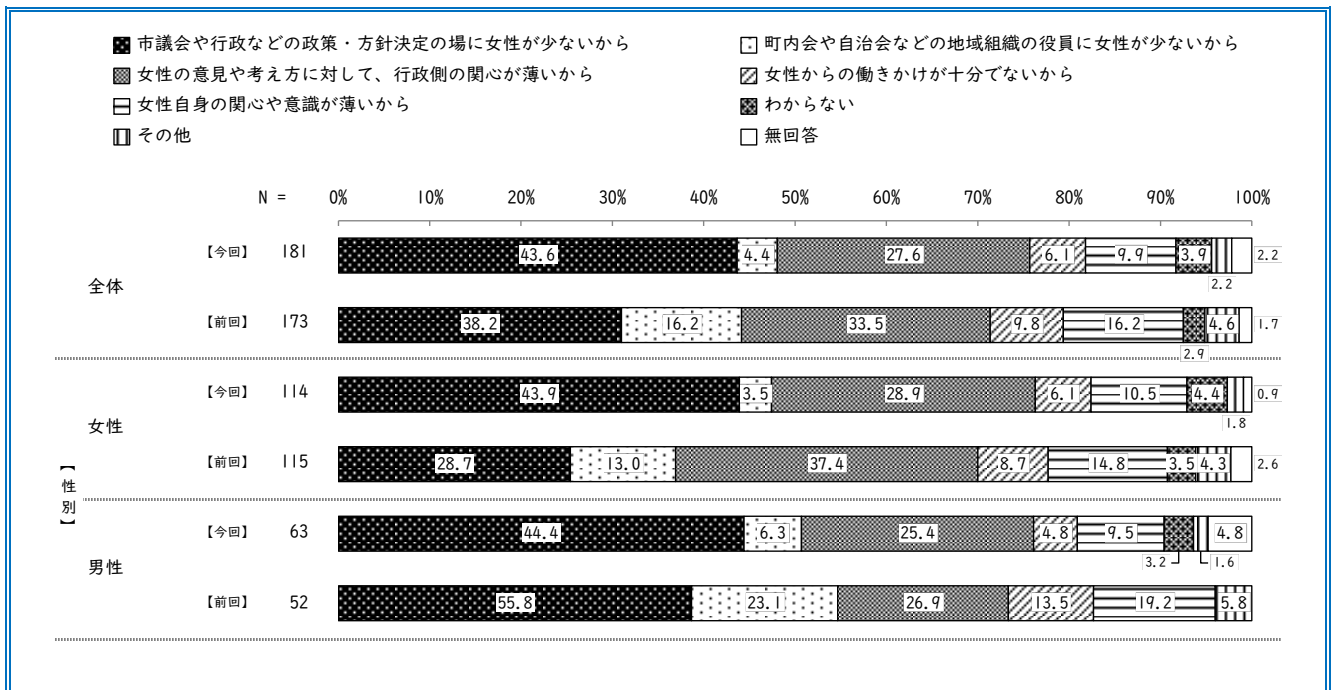
【性・年代別】に比較すると、男女とも「60歳代」で「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」の割合が高くなっており、また、男女とも「40歳代」で「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」の割合が高くなっている。



【性別】その他の回答者数はN＝2で、「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」50.0%、「その他」50.0%となっています。

●項目比較（前回調査比較）

前回調査と比較すると、全体的に「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」の割合が増加しており、「町内会や自治会などの地域組織の役員に女性が少ないから」「女性自身の関心や意識が薄いから」などが減少している。



【問 31】男女平等な社会を実現するために行政が力を入れるべきこと

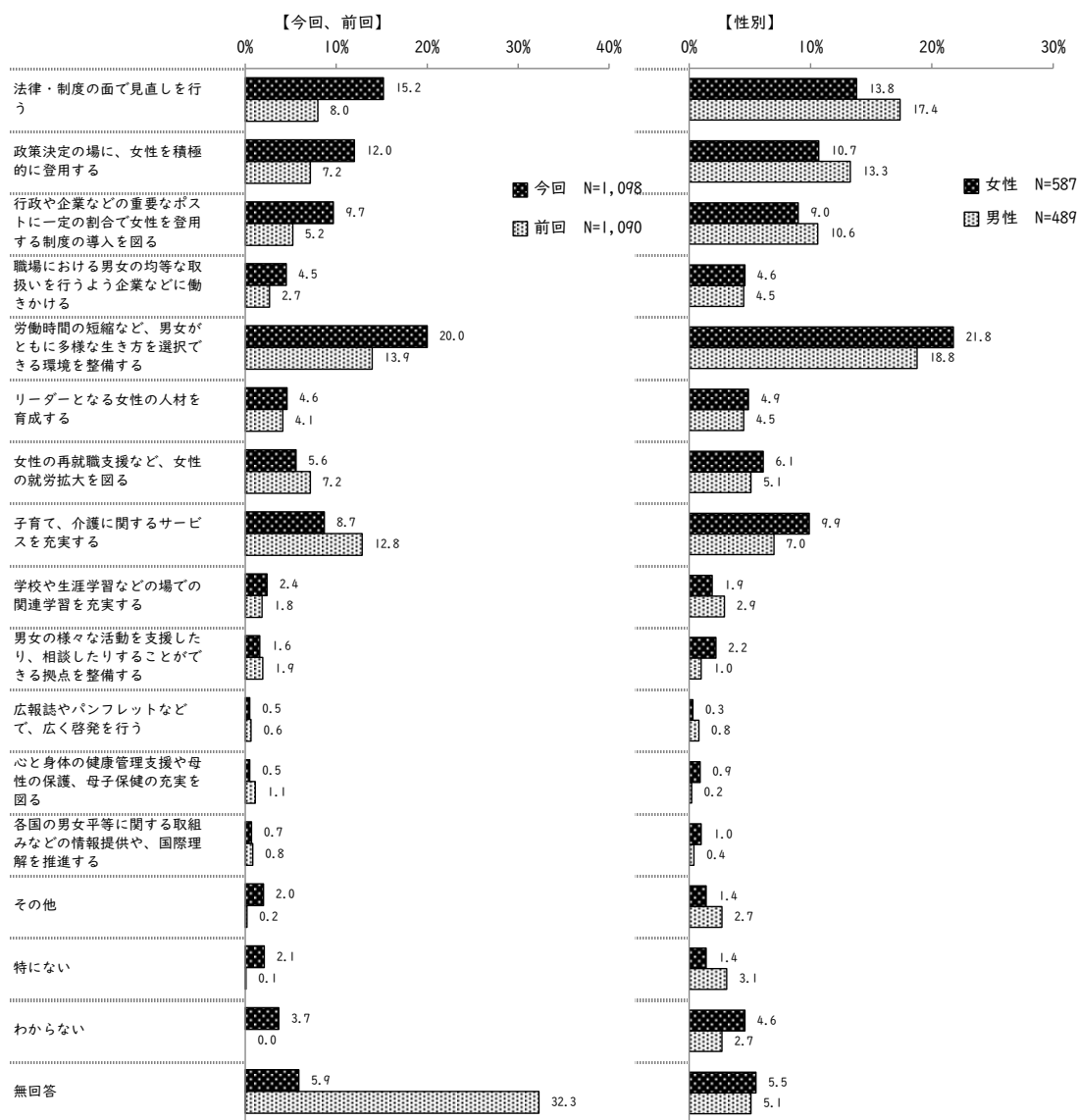
あなたは、男女平等な社会を推進していくために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（特に重要と思うもの1つに◎、あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

●項目比較（特に重要と思うもの／全体、前回調査比較、性別）

男女ともに「労働時間の短縮など、 男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」が最も高い

全体では、「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」が20.0%と最も高く、次いで「法律・制度の面で見直しを行う」（15.2%）、「政策決定の場に、女性を積極的に登用する」（12.0%）の順となっている。

前回と比較すると、「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」が最も高いことは変わらないが、「法律・制度面での見直しを行う」が次点に上がり、「子育て・介護に関するサービスを充実する」が順位を下げた。



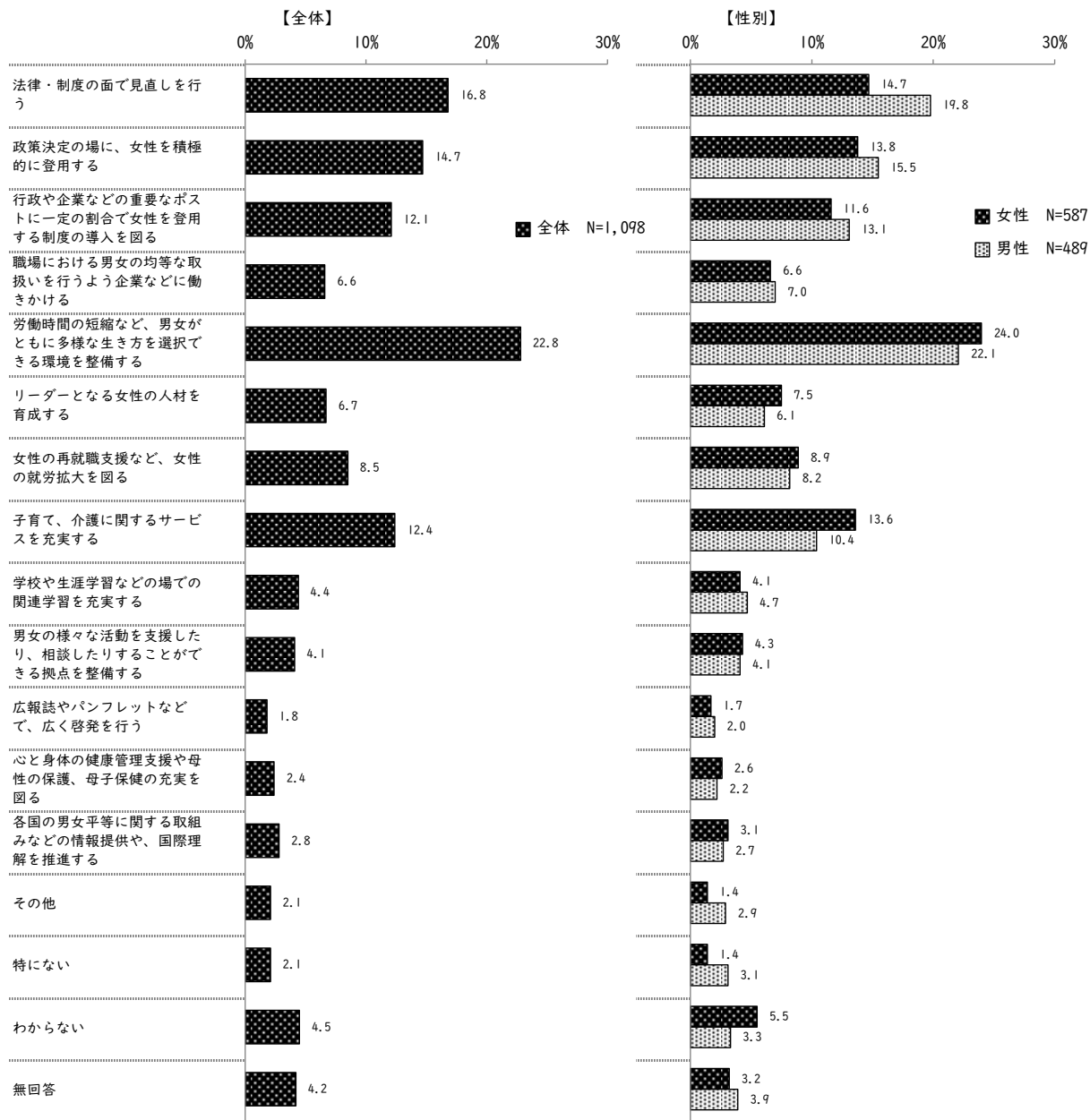
【性別】その他の回答者数はN=5で、「政策決定の場に、女性を積極的に登用する」20.0%、「子育て、介護に関するサービスを充実する」40.0%、「その他」20.0%、「わからない」20.0%となっています。

※無回答数が前回より減少しているのは、調査票の回答記載方法を変更したため。

●項目比較（あてはまる番号すべて／全体、性別）

全体では、「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」が22.8%と最も高く、次いで「法律・制度の面で見直しを行う」（16.8%）、「政策決定の場に、女性を積極的に登用する」（14.7%）の順となっている。

【性別】で比較すると、「法律・制度の面で見直しを行う」が男性で高くなっている。



【性別】その他の回答者数はN=5で、「政策決定の場に、女性を積極的に登用する」20.0%、「子育て、介護に関するサービスを充実する」40.0%、「その他」20.0%、「わからない」20.0%となっています。

Ⅲ 自由回答

【自由意見一覧(抜粋)】

＜以下は、自由回答欄への記載をいただいたご意見を抜粋し掲載したものです。＞

- 考える機会・時間もないままに生活をしている。(男性、50 歳代、専門技術職)
- 女性が働くには、男性の理解と助けがないとできません。家事、育児の分担がないと、とても働き続けることはできません。特に育児については、子どもが病気になったとき、どちらかが気兼ねなく休める社会環境も必要です。働いているお母さんは育児・成長に応じて悩みが多いと思います。理解ある社会が必要だと思います。(女性、70 歳以上、主婦(主夫))
- 大人になってからの教育や情報入手よりも、子どもの時から男女平等について知っていることが大事。若い子たちは男女平等に関して意識は高い印象。(男性、20 歳代、労務職、常勤(フルタイム))
- 共働きに関して、子どもの預かり先の整備を充実するのが必要。この時、女性が面倒を見るのが普通という傾向がある。(男性、40 歳代、専門技術職)
- 例えば子供が熱を出して受診しなければいけない時、フルタイムの共働きでも基本的には母親が仕事を休んだり遅刻・早退をするという風潮がある。(夫の職場・立場的に簡単に仕事を休んだりできない。周りも本人も母親が休むのが当たり前だと思っている。)(女性、30 歳代、専門技術職、常勤(フルタイム))
- 育児休業など子育てに関して社会の見解が変わらないと男女平等は難しい。(男性、40 歳代、事務職、常勤(フルタイム))
- ①男性に対する長時間労働が当たり前の社会が役割の固定になっている。②有休を 100%使わせる法的義務にするなど法の力が必要。③減私奉公が好きな日本人のメンタリティーが根強く、男女平等・共同参画を妨げている。(男性、50 歳代、管理職・会社役員)
- 社会における共同参画だけでなく、家庭内においても共同参画がなければ、女性の負担のほうがかつて大きい。男性の意識も改めていくようになってほしいと思う。特に年配の男性にそうやっていただきたい。(女性、60 歳代、主婦(主夫))
- 育児、介護を男女関係なく責任をもって担えることが理想です。男女の分担は 5:5 だけがベストではなく、各自が一番いいと思えるバランスを保てるパートナーと相談して、互いが納得して決められることを望める社会になってほしいです。保育士さん、介護士さんの待遇が良くなれば質が上がり、質の高いところに預けたいし、住みたいと思います。それらのサービスが充実することは、社会に参加するうえでとても大きな助けになると思います。(女性、30 歳代、主婦(主夫))
- 独身の頃は社会生活の中でそれほど男女の差があるとは思っていませんでしたが、結婚して家庭と仕事の両立をしていこうとなると、まだまだ社会的に男女平等とはいかないです。男性のほうが職場にいる時間が長く、どうしても女性が家庭のやりくりをしなくてはなりません。女性の職場も結婚後の家庭での時間をあまり考えてくれる状況ではないのが現実です。結婚後の女性のフルタイムは本当に難しいのです。(女性、40 歳代、非常勤(パート、アルバイトなど))
- 男女平等といわれても少なからず不平等な場面が出てしまう。なぜなら幼少から平等な環境で育っていないからだ。これから先はそうならないように、学校教育やテレビ等で平等だということを若い世代に強く根付かせるよう、場を与えたり環境を与えたりするべきだと思う。(男性、40 歳代、専門技術職)
- 生物は多様性によって生き延びている。人間も、男も女も、多様性が生かせる世の中にしたいものである。(男性、70 歳以上、その他)

- 女性が働くことは当たり前になりつつあるにもかかわらず、男性の家事育児、学校などへの参画はあまり進んでいない。背景には、長時間労働を良しとする慣習がある。男性の長時間労働が男性の参画を遅らせ、結果、女性のワークライフバランスは、ライフのほうに傾かざるを得ない。核家族のため、家事・育児は夫と妻で分担するため、夫が長く家庭外にいれば妻は長く家庭内にいることになる。外部戦力（ハウスキーピング・ベビーシッター）は高額で、一般家庭の所得では難しい。働き方を、子の年齢、親の年齢など、人生のポイントで選択できるようにし、かつリカバリーできる内容を整えるべき。モバイルワークや短時間勤務など多様な働き方を準備すべき。（女性、30歳代、事務職）
- 夫に育児休暇がとれるかどうか尋ねたことがあるのですが、取れないと言われました。理由を聞くと、会社としては制度があるが、実際取っているのはパートの女性だけで、正職や男性がとっていないから取りづらいとのことでした。男性が育休を取れない、取らないのは制度だけでなく、取りやすい雰囲気や個人の意識にもよると思いました。制度の整備はもちろんですが、環境や知識、意識も変わる必要を感じます。（女性、20歳代、主婦（主夫））
- 女性の政治家、管理職の数が少ない。女性の側で挑戦することが必要である。できる教育をすることも必要。（男性、60歳代、その他）
- 男性の同僚に「仕事に女は必要ない」と吐き捨てられたときに、世の中にはこういう古い考えをアップデートできていない男性がうじゃうじゃ存在していると思うと頭がクラクラしました。男女平等を謳う企業も形ばかりのところが多く、意識改革は追いついていないように思います。（女性、20歳代、その他）
- 制度的担保はもちろん重要だが、家庭生活、社会環境まで含めて意識を変えていく必要がある。男性はこう、女性はこうという画一的な生き方でなく、状況に応じて多様な選択ができるようにすることが大切。（男性、40歳代、管理職・会社役員）
- 子どものころから身につけた考え方や感じ方は、一朝一夕で変わるものではない。子どもには性差による差別を身につけさせない教育が大切であり、そのうえで性差は尊重する必要もあると思う。平等とは、女性だけを尊重することではない。大人は法整備などで対応する必要があるが、整備する側に偏見があっては元も子もないので、その辺りが難しいと思う。（女性、40歳代、事務職、非常勤（パート、アルバイトなど））
- 何年も前から言われているが一向に進んでいない。国、国民の未来のためにも必要なことであり、早く実現させてほしい。（男性、70歳以上、主婦（主夫））
- 法制度が整っても実際のところは男女平等になっていないと思えないことが多い。男性のほうが社会的に地位が高く見られており、特に高齢者が多い地域などでは女性より男性の意見のほうが重く優遇されるような気がします。（女性、50歳代、主婦（主夫））
- 制度を決める方々が男性が多めであったり、決定権が年長の男性であることから男女平等な制度は生まれにくいと思われます。制度を作る人が男女差別の考えを持っていたら何の意味もないです。（女性、40歳代、事務職、非常勤（パート、アルバイトなど））
- 制度を決めても、それが守られているかどうかまで十分チェックされていないように感じることもある。また、女性の再就職が非常に難しく、社会復帰と人材活用の機会をなくしているように思われる。（男性、40歳代、専門技術職、常勤（フルタイム））

その他にも、多くの自由意見をいただきました。ご回答いただきありがとうございました。

(資料) アンケート調査票

男女平等に関する市民意識調査（お願い）

日頃から、市民の皆様には市政の推進に対しご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この調査は、男女平等の推進に関して、市内にお住まいの皆様の意識や実態を把握し、令和２年度に策定する第３次日進市男女平等推進プランに反映させるための基礎資料とする目的で実施いたします。

調査対象者は本市在住の満２０歳以上の方の中から無作為に抽出した男女各１,２５０人とさせていただきます。

お忙しいところ大変恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和元年１０月
日進市長 近藤裕貴

【ご記入にあたって】

- あて名のご本人様をご記入ください。なお、ご本人様が記入できない場合は、ご相談のうえ、ご本人様の意志を別の方が記入しても構いません。
- 濃いえんぴつ、ボールペンなどでご記入ください。
- ご記入の際は、あてはまる答えの番号を○で囲んでください。
「その他（ ）」にあてはまる場合は、お手数ですが、（ ）内になるべく具体的に、その内容をご記入ください。
- 設問によっては、記入していただく方が限られる場合がありますので、矢印や説明をよくお読みください。
- ★この調査票は無記名でご記入ください。またご記入いただいた内容については、統計的集計・分析を行い、調査目的以外には一切使用しません。また、ご記入内容や個人情報を個別に公表するようなことは一切行いません。

ご記入いただいたこの調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、下記回答期限までに投函してください。

回答期限：１１月１８日（月）

本調査について、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

日進市 市民生活部 市民協働課 共生共同係

〒470-0192 日進市蟹甲町池下 268 番地

電 話 ： 0561-73-3194（ダイヤルイン）

F A X ： 0561-72-4603

Eメール：kyoudou@city.nisshin.lg.jp



結婚、家庭・地域生活に関する意識についておたずねします

問1 あなたの家庭では、次にあげる家事は主に女性、男性どちらが分担していますか。

(A～Gの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	1 いつも女性が担当	2 主に女性が担当し、 男性は手伝う程度	3 男女同じ程度に 担当し、協力しあう	4 主に男性が担当し、 女性は手伝う程度	5 いつも男性が担当	6 該当する人がいない
A 食事の支度	1	2	3	4	5	—
B 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	—
C 家計の管理	1	2	3	4	5	—
D 重要事項の方針決定	1	2	3	4	5	—
E 乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
F 子どもの教育	1	2	3	4	5	6
G 介護（介護の必要な親の世話、 病人の介護など）	1	2	3	4	5	6

問2 あなたは、次にあげる結婚、離婚などに関する考え方について、どう思いますか。

(A～Eの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	1 賛成	2 どちらか いえば賛成	3 どちらか いえば反対	4 反対	5 わからない
A 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
B 結婚は個人の自由であるから、結婚しても しなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
C 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
D 結婚しても相手に満足できないときは離婚 すればよい	1	2	3	4	5
E 夫婦別姓が選択できる方がよい	1	2	3	4	5

問3 あなたは、次のような地域活動に参加していますか、あるいは今後参加したいと思う地域活動はありますか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

1	自治会・町内会活動
2	P T A・子ども会活動
3	老人クラブや高齢者の会などの活動
4	環境保護、リサイクルなどの環境活動
5	防災、災害ボランティアなどの防災活動
6	子育て、介護など福祉に関する活動
7	まちづくりなどの地域活動
8	趣味のサークル活動
9	スポーツ・レクリエーション活動
10	その他（具体的に： _____）
11	今後いずれの活動にも参加する予定はない

→ 問4 へ

問3で「11 今後いずれの活動にも参加する予定はない」を選んだ方にお聞きます。
 その他の選択肢（1～10）を選んだ方は問5へ

問4 いずれの地域活動にも参加しないのは、なぜですか。

（特に主たる理由1つに◎、あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

	◎ (1つ)	○ (いくつでも)
1 仕事が忙しい	1	1
2 家事・育児・介護などで忙しい	2	2
3 自分の健康上の理由から	3	3
4 地域活動に興味がない	4	4
5 団体内の人間関係がわずらわしそう	5	5
6 家族の理解が得られない	6	6
7 どんな地域活動があるかわからない	7	7
8 参加したい地域活動がない	8	8
9 自分の性格に合わない	9	9
10 経済的に余裕がない	10	10
11 その他（具体的に： _____）	11	11

すべての方にお聞きます。

問5 あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先しますか。（＜①希望として＞＜②現実として＞について、それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。）

- ・仕事とは・・・・・・内職、雇用、自営業、農業などを示します。
- ・家庭生活とは・・・・・・家事、育児、介護などを示します。
- ・地域・個人の生活とは・・自治会、ボランティア活動、PTA、教養・趣味サークルなどを示します。

	1 「仕事」を優先	2 「家庭生活」を優先	3 「地域・個人の生活」を優先	4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先	5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	8 その他 ()	9 わからない
①希望として	1	2	3	4	5	6	7	8	9
②現実として	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問6 あなたは、男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を進めるためには、どのようにしていけばいいと思いますか。
(特に重要と思うもの1つに◎、それ以外にあてはまる番号2つまで○をつけてください。)

	◎ (1つ)	○ (2つ)
1 男性による家事、子育て、介護、地域活動に対する抵抗感をなくす	1	1
2 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る	2	2
3 夫婦の役割分担などについての当事者の考え方をまわりが尊重する	3	3
4 男性による家事、子育て、介護、地域活動への社会的評価を高める	4	4
5 働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする	5	5
6 男性の仕事中心の生き方、女性の男性に経済力や出世を求める考え方を改める	6	6
7 家事、子育て、介護講座や情報提供、ネットワークづくりなどの支援を行う	7	7
8 子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える	8	8
9 その他 (具体的に:)	9	9

問7 あなたが、平日に家事・育児・介護などにかかわる平均的な時間はどのくらいですか。
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

1 30分未満	2 30分～1時間未満
3 1時間～3時間未満	4 3時間～5時間未満
5 5時間以上	6 まったくかかわっていない

社会参加・参画についておたずねします

問8 女性が就業することについて、あなたの考え方は次のどれに近いですか。
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

- 1 結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい
- 2 結婚するまでは就業するのがよい
- 3 子どもができるまでは、就業するのがよい
- 4 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい
- 5 就業しない方がよい
- 6 その他(具体的に:)

現在、就業している方にお聞きします。 現在、就業していない方は問11へ

問9 あなたが就業するのは、なぜですか。

(主たる理由1つに◎、それ以外にあてはまる番号2つまで○をつけてください。)

	◎ (1つ)	○ (2つ)
1 生計の維持のため	1	1
2 経済的なゆとりを得るため	2	2
3 自分の能力を生かすため	3	3
4 社会に貢献するため	4	4
5 社会や人とのかかわりを持つため	5	5
6 働くことが生きがいであるため	6	6
7 自由時間の活用のため	7	7
8 家業のため	8	8
9 経済的な自立のため	9	9
10 その他(具体的に:)	10	10

現在、就業している方にお聞きします。

問 10 あなたの職場では、次のようなことはありますか。

(A～Lの項目ごとにあてはまる方に○をつけてください。)

A 賃金に男女差がある	1 はい	2 いいえ
B 昇給、昇格に男女差がある	1 はい	2 いいえ
C 男性の能力を正當に評価しない	1 はい	2 いいえ
D 女性の能力を正當に評価しない	1 はい	2 いいえ
E お茶汲みや雑用は女性がする慣例がある	1 はい	2 いいえ
F 育児休業を取得できない、または取得しにくい	1 はい	2 いいえ
G 結婚や出産すると勤め続けにくい雰囲気がある	1 はい	2 いいえ
H 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	1 はい	2 いいえ
I 希望職種につく機会に男女差がある	1 はい	2 いいえ
J 教育・研修を受ける機会に男女差がある	1 はい	2 いいえ
K 男性と女性で違いはない	1 はい	2 いいえ
L その他 (具体的に:)		

現在、就業していない方にお聞きします。 現在就業している方は問 13へ

問 11 今後、就業したいと思いますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

1 と思う	→ 問 12へ	2 そう思わない	→ 問 13へ
3 わからない	→ 問 13へ		

問 11で「1 と思う」と答えた方にお聞きします。

問 12 どのような形で働きたいと考えていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

1 常勤(フルタイム)	2 非常勤(パートタイム、アルバイトなど)
3 自分で事業をしたい	4 内職
5 自営業の手伝い	6 その他(具体的に:)

すべての方にお聞きします。

問 13 あなたは、これまで(現在を含む)働き続けたいけれど、働くことができなかったことがありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

1 はい	→ 問 14へ	2 いいえ	→ 問 15へ
------	---------	-------	---------

問 13 で「1 はい」を選んだ方にお聞きます。

問 14 働き続けたいけれど働くことができなかったのは、なぜですか。
(あてはまる番号 1 つに○をつけてください。)

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 | 就業や家事分担に対する配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった |
| 2 | 育児で預けられる施設（託児所や保育園）やサービスが不十分だった |
| 3 | 育児で配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった |
| 4 | 家族の介護や看護の必要があった |
| 5 | 結婚や育児に対する会社の理解や制度が不足していた |
| 6 | 健康上の問題 |
| 7 | リストラ・定年 |
| 8 | その他（具体的に： _____） |

現在、就業している方及び以前就業していた方にお聞きます。

(今まで就業経験のない方は問 17 へ)

問 15 あなたは、職場で以下のような制度を使って休業や休暇を取ったことがありますか。
(A～Dの項目ごとに、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。)

	1 取 っ た こ と が あ る	2 取 り た か っ た が 取 る こ と が で き な か っ た	3 取 る 希 望 は な く 取 ら な か っ た	4 取 る 必 要 が な か っ た	5 制 度 が あ る こ と を 知 ら な か っ た	6 法 制 度 が 整 備 さ れ て い な か っ た
A 育児休業制度 (育児のために一定期間休業できる制度)	1	2	3	4	5	6
B 子の看護休暇制度 (病気やけがをした子どもを看護するための年 5 日程度の休暇)	1	2	3	4	5	6
C 介護休業制度 (介護のために、一定期間休業できる制度)	1	2	3	4	5	6
D 介護休暇制度 (短期の介護のための年 5 日程度の休暇)	1	2	3	4	5	6

※ 育児・介護休業法（育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行なう労働者の福祉に関する法律）は、仕事と家庭の両立支援等を一層進め、男女ともに子育て等をしながら働き続けられる雇用環境を整備することを目的に、H21（2009）年に改正され、一部を除きH22（2010）年6月から施行。また、H29（2017）年10月には保育園に入れない場合等は、2歳まで育児休業が可能になるなど一部改正されました。

問15のA～Dのいずれかの項目で、「2 取りたかったが取ることができなかった」又は「3 取る希望はなく取らなかった」を選んだ方にお聞きます。

その他の選択肢（1、4、5、6）を選んだ方は問17へ

問16 あなたが、育児・介護休業などの制度を使って休業や休暇を取らなかったのは、なぜですか。

（特に主たる理由1つに◎、あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

	◎ (1つ)	○ (いくつでも)
1 仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける	1	1
2 これまでに同じ職場で取得した例がない	2	2
3 経済的に苦しくなる	3	3
4 家族の理解が得られない	4	4
5 女性（男性）が取得したほうが適任だと思う	5	5
6 昇進や昇給に影響がある	6	6
7 取得後の職場復帰への不安がある	7	7
8 気持ち的に（恥ずかしい、プライドが邪魔するなど）	8	8
9 その他（具体的に：)	9	9

すべての方にお聞きます。

問17 あなたは、「性」に関する以下の言葉の内容について知っていますか。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

1 正しい避妊の方法	2 出産適齢期と不妊
3 安全な妊娠・出産	4 妊娠中の体調不良
5 更年期特有の体調不良	6 産後うつ
7 世界のHIV（エイズ）感染に関すること	
8 世界の女性の低年齢出産に関すること	
9 どれもよく知らない	

子どもの教育についておたずねします

問18 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方について、あなたはどのように考えますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

- | |
|----------------------------|
| 1 男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい |
| 2 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい |
| 3 どちらともいえない |

問19 あなたは、これからの子どもに対し、どのようなことを身につけてほしいと思いますか。（＜女の子の場合＞＜男の子の場合＞について、それぞれあてはまる番号3つまで○をつけてください。男女同じ番号を選んでも構いません。）

＜女の子の場合＞

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1 社会性・積極性 | 2 決断力・行動力 | 3 教養・知性 |
| 4 優しさ・思いやり | 5 豊かな感性 | 6 礼儀・道徳心 |
| 7 自立心・独立心 | 8 経済力 | 9 明るさ・素直さ |
| 10 国際感覚 | 11 責任感 | 12 学歴 |

＜男の子の場合＞

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1 社会性・積極性 | 2 決断力・行動力 | 3 教養・知性 |
| 4 優しさ・思いやり | 5 豊かな感性 | 6 礼儀・道徳心 |
| 7 自立心・独立心 | 8 経済力 | 9 明るさ・素直さ |
| 10 国際感覚 | 11 責任感 | 12 学歴 |

問20 あなたは、男女に関わりなくお互いを尊重しあえる子どもを育てるために、学校教育の場で力を入れることは何だと思いますか。

（特に重要と思うもの1つに◎、それ以外にあてはまる番号2つまで○をつけてください。）

	◎ (1つ)	○ (2つ)
1 生活指導や進路指導で配慮する（男女の区別なく、個性や能力重視の指導）	1	1
2 関連授業を充実させる（人権尊重、自尊意識、男女のコミュニケーションなどの授業）	2	2
3 性別による固定的な習慣をなくす（出席簿の順番、持ち物の色、役職の長と副など）	3	3
4 男の子・女の子とも家庭学習の拡大を図る（家事、子育て、介護などの学習）	4	4
5 性について学び、尊重する意識を高める	5	5
6 教員や保護者の研修を進める（男女平等、人権などの研修）	6	6
7 家庭及び地域や社会との連携を密にとる	7	7
8 その他（具体的に：_____）	8	8

男女平等・人権意識についておたずねします

問 2 1 あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(A～Hの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	1 非常に 男性の方が 優遇されて いる	2 どちらか といえば男 性の方が 優遇され ている	3 平 等	4 どちらか といえば女 性の方が 優遇され ている	5 非常に 女性の方が 優遇され ている	6 わ か ら な い
A 社会全体として	1	2	3	4	5	6
B 家庭生活	1	2	3	4	5	6
C 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
D 職場	1	2	3	4	5	6
E 地域活動の場	1	2	3	4	5	6
F 法律や制度上	1	2	3	4	5	6
G 政治の場	1	2	3	4	5	6
H 社会慣習やしきたり	1	2	3	4	5	6

問 2 2 あなたは配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口としてどのようなもの
を知っていますか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

1 愛知県女性相談センター	
2 警察(生活安全課)	
3 市役所(市民協働課、家庭児童相談室)	
4 裁判所	
5 人権擁護委員(法務局)	
6 医療機関(医師、看護師)	
7 学校関係者(教員・養護教諭・スクールカウンセラー)	
8 民生委員・児童委員	
9 民間の機関(弁護士会、民間シェルター)	
10 その他(具体的に：)	)
11 相談できる窓口として知っているものはない	

(＜配偶者から＞＜恋人から＞について、それぞれA～Lの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●配偶者とは、結婚・事実婚・別居中の夫婦・同居の交際相手・元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手を含む）を示します。

＜恋人から＞

156

問23のA～Lのいずれかの項目で、「1 何度もある」又は「2 1、2度ある」を選んだ方にお聞きます。すべての選択肢について「3 全くない」を選んだ方は問26へ

問24 配偶者や恋人からの行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

1 親や親戚などの身内	2 友人・知人	3 役所の窓口
4 警察	5 法務局	6 弁護士
7 医師	8 婦人相談所・相談員	
9 その他(具体的に:		)
10 誰にも相談しなかった	→ 問25へ	

問24で「10 誰にも相談しなかった」を選んだ方にお聞きます。

その他の選択肢(1～9)を選んだ方は問26へ

問25 誰にも相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

1 誰に相談していいのかわからなかった	2 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3 相談しても無駄だと思った	4 相談が分かれると仕返しされと思った
5 自分さえ我慢すればいいと思った	6 世間体が悪いと思った
7 他人を巻き込みたくなかった	8 そのことを思い出したくなかった
9 自分にも悪いところがあると思った	10 相談するほどのことでもないと思った
11 その他(具体的に	)

すべての方にお聞きます。

問 2 6 あなたは、セクシュアル・ハラスメント^{*1}やパワー・ハラスメント^{*2}について、次のような経験はありますか。(A～Eの項目ごとに、あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

	1 セクシュアル・ ハラスメント	2 パワー・ ハラスメント
A 自分が直接被害を受けたことがある	1	2
B 知り合いの女性が被害を受けていた	1	2
C 知り合いの男性が被害を受けていた	1	2
D 自分も含め周りでは被害を受けた人はいない	1	2
E わからない	1	2

*1 セクシュアル・ハラスメントとは

意に反した性的言動（いやがらせ）を行い、相手を不快にすることをいいます。

*2 パワー・ハラスメントとは

上下関係や権利関係を不当に利用することによる人権侵害にあたるような執拗ないじめや嫌がらせをいいます。

※上記以外にも、モラル・ハラスメント（モラハラ：言葉や態度により精神的な攻撃を繰り返すこと）、マタニティ・ハラスメント（マタハラ：働く女性に対して妊娠・出産をきっかけに職場で精神的・肉体的な嫌がらせをしたり不利益を与えるなど不当な扱いを行うこと）など様々な「ハラスメント」があり問題となっています。

問 2 7 あなたは、配偶者間の暴力、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、買売春などを防止するために何が重要だと思えますか。(特に重要と思うもの1つに◎、あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

	◎(1つ)	○(いくつでも)
1 法律・制度の面で見直しを行う(罰則の強化など)	1	1
2 犯罪の取り締まりを強化する	2	2
3 捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届出をしやすいようにする	3	3
4 メディア(放送、出版、新聞など)を活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	4	4
5 被害者のための相談窓口や保護施設を整備する	5	5
6 家庭や学校において、男女平等や性についての教育を充実させる	6	6
7 加害者に対するカウンセリングや更正を促すプログラムを実施する	7	7
8 職場での男女の人権が軽視されないように、管理者の人権教育を図る	8	8
9 メディアが自主的に倫理規定を強化する	9	9
10 これらを助長するおそれのある情報(雑誌、コンピューターソフトなど)を取り締まる	10	10
11 その他(具体的に:)	11	11
12 特に対策の必要はない	12	12
13 わからない	13	13

行政の取り組みについておたずねします

問 2 8 あなたは、次にあげる言葉を知っていますか。

(A～Nの項目ごとに、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。)

	1 意味・内容を 知っている	2 聞いたこと はある	3 知らなかった
A 男女共同参画社会	1	2	3
B 日進市男女平等推進条例	1	2	3
C 日進市男女平等推進プラン	1	2	3
D ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
E ジェンダー（社会的性別）	1	2	3
F ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
G 女子差別撤廃条約	1	2	3
H 男女雇用機会均等法	1	2	3
I ドメスティック・バイオレンス（DV）	1	2	3
J デートDV	1	2	3
K JKビジネス	1	2	3
L リプロダクティブ・ヘルス/ライツ （性と生殖に関する健康/権利）	1	2	3
M L G B T	1	2	3
N セクシャル・マイノリティ	1	2	3

問 2 9 あなたは、女性の意見が、市政に反映されていると思いますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください。)

1 十分に反映されている	2 ある程度反映されている
3 あまり反映されていない	4 反映されていない
5 わからない	

→ 問 3 0 へ

問29で「3 あまり反映されていない」又は「4 反映されていない」を選んだ方にお聞きます。

その他の選択肢（1、2、5）を選んだ方は問31へ

問30 反映されていないと思うのは、なぜですか。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

- 1 市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから
- 2 町内会や自治会などの地域組織の役員に女性が少ないから
- 3 女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから
- 4 女性からの働きかけが十分でないから
- 5 女性自身の関心や意識が薄いから
- 6 わからない
- 7 その他（具体的に： ）

すべての方にお聞きます。

問31 あなたは、男女平等な社会を推進していくために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（特に重要と思うもの1つに◎、あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

	◎（1つ）	○（いくつでも）
1 法律・制度の面で見直しを行う	1	1
2 政策決定の場に、女性を積極的に登用する	2	2
3 行政や企業などの重要なポストに一定の割合で女性を登用する制度の導入を図る	3	3
4 職場における男女の均等な取扱いを行うよう企業などに働きかける	4	4
5 労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する	5	5
6 リーダーとなる女性の人材を育成する	6	6
7 女性の再就職支援など、女性の就労拡大を図る	7	7
8 子育て、介護に関するサービスを充実する	8	8
9 学校や生涯学習などの場での関連学習を充実する	9	9
10 男女の様々な活動を支援したり、相談したりすることができる拠点を整備する	10	10
11 広報誌やパンフレットなどで、広く啓発を行う	11	11
12 心と身体健康管理支援や母性の保護、母子保健の充実を図る	12	12
13 各国の男女平等に関する取組みなどの情報提供や、国際理解を推進する	13	13
14 その他（具体的に： ）	14	14
15 特になし	15	15
16 わからない	16	16

あなた自身のことについておたずねします

F 1 【性別】（あなたご自身の認識に最も近い番号 1 つに○をつけてください。）

1 女	2 男	3 その他
-----	-----	-------

※戸籍上区分とは別に、ご自身の主観でご記入ください。

F 2 【年齢】（平成31年4月1日現在）（あてはまる番号 1 つに○をつけてください。）

1 20～29歳	2 30～39歳	3 40～49歳	4 50～59歳
5 60～69歳	6 70歳以上		

F 3 【職業】（あてはまる番号 1 つに○をつけてください。）

（出産休暇・育児休業中の方も働いているものとみなしてください。）

（2つ以上仕事をお持ちの方は、主なものをご記入ください。）

自営業主	1 農林漁業 2 商工サービス業 3 自由業
自営業の 家族従業者	4 農林漁業 5 商工サービス業 6 自由業
雇用者	7 管理職・会社役員 8 専門技術職 9 事務職 10 労務職
無職	11 主婦（主夫） 12 学生 13 その他

※雇用者の方は、

雇用形態もご記入ください。

1 常勤（フルタイム）	2 非常勤（パート、アルバイトなど）
-------------	--------------------

F 4 あなたは、現在、配偶者（パートナー）がいますか。

（あてはまる番号 1 つに○をつけてください。）

1 いる → F 5へ	2 いたが、死別・離別した → F 6へ	3 いない → F 6へ
-------------	----------------------	--------------

F 4で「1 パートナーがいる」を選んだ方にお聞きます。

F 5 あなたの配偶者（パートナー）は、どのような働き方をしていますか。
（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

- 1 自営業主
- 2 自営業の家族従業者
- 3 雇用者
- 4 無職

- ※雇用者の方は、
雇用形態もご記入ください。
- 1 常勤（フルタイム）
 - 2 非常勤（パート、アルバイトなど）

すべての方にお聞きます。

F 6 あなたには、未婚のお子さんがいらっしゃいますか。
（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

1 いる → F 7へ 2 いない → F 8へ

F 6で「1 いる」を選んだ方にお聞きます。

F 7 お子さんは、次のどれにあたりますか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

- | | | |
|--------------|--------------|-----------|
| 1 就園前の乳幼児 | 2 保育園、幼稚園児 | 3 小学1～3年生 |
| 4 小学4～6年生 | 5 中学生 | 6 16～19歳 |
| 7 20歳以上（未就業） | 8 20歳以上（就業中） | |

すべての方にお聞きます。

F 8 あなたのご家庭は、次のどれにあたりますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

- | | | |
|------------------|---------------|----------------|
| 1 単身世帯（1人） | 2 一世代世帯（夫婦のみ） | 3 二世代世帯（親と子ども） |
| 4 三世代世帯（親と子どもと孫） | 5 その他（ | ） |

自由記載欄

男女平等・共同参画に関して、日頃感じていること、思っていることなど何でもご記入ください。

設問は以上です。よろしければ、用語解説もご一読ください。

お手数ですが、この調査票を返信用封筒にて、11月18日（月）までに投函してください。

ご協力いただき、ありがとうございました。

＜用 語 解 説＞

＜ジェンダー（gender）＞

「社会的・文化的に形成された性別」のことです。社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別のことをいいます。一方、生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）と区別されます。

＜女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条約）＞

社会だけではなく家庭においても女子の権利を保障し、男女の完全な平等の達成を目的として、各締約国に対し女子に対するあらゆる差別を撤廃するために必要な措置をとることを求める内容になっています。

＜男女共同参画社会＞

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会のことをいいます。

＜デートＤＶ＞

配偶者関係にないカップルの間に起こる暴力のことで、年齢を問わず婚姻関係のない交際中の男女間の支配と暴力です。その被害者の多くが、思春期や青年期の若者だということが、近年の調査や被害の実態から明らかになり問題となっています。

＜ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）＞

パートナーなどの親密な関係にある者の間で起こる暴力のことで、女性に対する暴力、または夫・恋人からの暴力と訳されます。結婚などで生活を共有し、制度上や社会的慣習でもカップルとみなされている関係のなかで起こる暴力といわれています。

＜日進市男女平等推進条例＞

男女平等の推進に関し、基本理念を定め、市、市民、事業者及び教育関係者の責務を明らかにするとともに、市の施策の基本となる事項を定め、その施策を総合的かつ計画的に推進することにより男女が共に参画しうる活力あるまち日進市をつくることを目的とし、平成１９年に公布、施行されました。

＜日進市男女平等推進プラン＞

日進市男女平等推進条例に基づく行動計画で、平成１９年度に策定しました。市が取り組むべき施策を総合的、計画的に実施するための指針となるもので、第２次計画は令和２年度までの期間を対象としており、平成２７年度には施策内容の中間見直しを行いました。

<ポジティブ・アクション（積極的改善措置）>

様々な分野において、活動に参画する機会の男女間の格差を改善するため、必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するものです。ただし実施するには個々の状況に応じて行なう必要があります。

<リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）>

1994年の「国際人口開発会議」で、「女性の健康」という視点から、月経、避妊、中絶、婦人科の疾患、出産など、女性の性と生殖にかかわるすべてをとらえ直す新しい概念として提唱されました。中心課題には、いつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由、安全で満足のいく性生活、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことなどが含まれており、また、思春期や更年期における健康上の問題など生涯を通じての性と生殖に関する課題が幅広く議論されています。

<ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）>

誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発等にかかる個人の時間を持てる健康で豊かな生活が送れる状態のことをいいます。

<JKビジネス>

女子高校生などの子どもの性を売り物とする形態の営業です。例えば、「リフレ」などと称してマッサージや添い寝をしたり、「散歩」などと称して客と2人きりで出かけるなど、様々な形態の営業が出現しています。児童買春などの温床になっているとの指摘もなされています。

<LGBT>

LGBTはレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字で、性の多様性を表す言葉のひとつです。セクシャル・マイノリティ（性的少数者）と同じような意味として使われることも多いです。

参考文献・資料

石川大我、2011年、『ゲイのボクから伝えたい「好き」のハテナがわかる本』、太郎次郎エディタス

育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（平成3年（1991年）5月15日法律第76号）

外務省国際社会協力部人権人道課、2006年、『国際社会と人権』

公益財団法人日本女性学習財団キーワード・用語解説
<https://www.jowe2011.jp/kaisetsu/index.html>（最終閲覧日：令和元年9月30日）

仕事と生活の調和（ワークライフ・バランス）憲章、2007年

女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）（1979年採択・1985年日本批准）

第2次日進市男女平等推進プラン、2016年改定

男女共同参画社会基本法（平成11年（1999年）6月23日法律第78号）

内閣府男女共同参画局 男女共同参画関連用語（平成24年8月更新）
http://www.gender.go.jp/about_danjo/glossary/index.html（最終閲覧日：令和元年9月30日）

内閣府・男女共同参画推進連携会議、『ひとりひとりが幸せな社会のために 男女共同参画社会の実現をめざして 平成29年版』、2017年

内閣府 男女共同参画に関する世論調査 調査票（平成28年9月）
https://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-danjo/3_chosahyo.html（最終閲覧日：令和元年9月30日）

日進市男女平等推進条例（平成19年（2007年）4月1日条例第23号）

日本DV防止・情報センター、2008年、『知っていますか？ドメスティック・バイオレンスー問一答 第4版』、解放出版社

堀口悦子、1998年、『女性問題キーワード111（第4刷）』、横浜市女性協会編、ドメス出版

柳沢正和、村木真紀、後藤純一、2017年、『職場のLGBT読本』、実務教育出版

養父知美、牟田和恵、2008年、『知っていますか？セクシュアル・ハラスメントー問一答 第3版』解放出版社

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

この調査票は、11月18日（月）までに、同封の返信用封筒にてご投函ください。

ご協力いただき、ありがとうございました。

男女平等に関する市民意識調査
結果報告書

令和2年(2020年)3月

日進市 市民協働課